(財)八尾市文化財調査研究会報告17

八尾市埋蔵文化財発掘調査報告

昭和63年度

I　東郷遺跡(第11次～第16次・第18次調査)

II　田井中遺跡(第1次～第2次調査)

1989年3月

財団法人　八尾市文化財調査研究会

財団法人八尾市文化財調査研究会

頁・行	誤	正
Ⅰ 東郷遺跡		
本文目次2頁10行	1 第1調査面（弥生時代中期）	1 第1調査面（弥生時代中期～古墳時代前期）
本文目次2頁 19行と20行	第7節 第18次調査 Ⅰ 基本層序 Ⅱ 検出遺構・出土遺物	第7節 第18次調査 Ⅰ 調査の概要 Ⅱ 基本層序 Ⅲ 検出遺構・出土遺物
挿図目次3頁28行	第82図 調査設定図及び地区割	第82図 調査設定図及び地区割図
図版目次2頁図版九	1 SI2 2 SK9 SD1 23・27・35	1 SI2 2 SK7 SD2 21・25・27・33
図版目次2頁図版一一	2 SD1（北から）	2 SD2（北から）
図版目次2頁図版一四	第13次調査地	第12次調査地
図版目次3頁図版二五	1 SE4（南から） 2 SE4完掘（南から）	1 SE3（南から） 2 SE3完掘（南から）
図版目次3頁図版二六	SI1 1	SI1 10
図版目次3頁図版三二	1 SK1 2 SK2	SK1 1 SK2 2
図版目次3頁図版三九	1 SK2・SD1（東から） 2 SD3（東から）	1 SP8・SD2（東から） 2 SD4（東から）
図版目次3頁図版三六	SK5 18～21	SK5 18～21・24
図版目次3頁図版四一	1 SK1（北から） 2 SK3（南から）	1 SE1（南から） 2 SK2（南から）
図版目次3頁図版四二	SK1	SE1
3頁1行	表1 東郷遺跡発掘調査一覧表	第1表 東郷遺跡発掘調査一覧表
20頁1行	第2表 小穴（SP）一覧表	第2表 小穴（SP）法量一覧表
46頁4行	第3表 小穴（SP）一覧表	第3表 小穴（SP）法量一覧表
44頁 第44図	SK10（54・56）・SK9（55）出土遺物実測図	SK9（55）・SK10（54・56）出土遺物実測図
61・62頁第52図	遺構全体図	遺構平面図
74頁1行	第4表 小穴（SP）一覧表	第4表 小穴（SP）法量一覧表
99頁6行	2 第2調査面（平安時代後期～鎌倉時代）	2 第2調査面（平安時代後期～鎌倉時代初頭）
141 頁第115 図	SD2出土遺物出測図3	SD1出土遺物実測図3
図版四	2 SI3 SP19（右）・SP21（左）柱根（南から）	2 SI3 SP19（右）・SP21（左）柱根検出状況（南から）
図版七	1 SK1（北から）	1 SK1土器出土状況（北から）
図版一〇	2 SK3（西から）	2 SK3土器出土状況（西から）
図版一二	2 SD5（西から）	2 SD5（東から）
図版二九	SE3 150・151・155～159 SP5 165・167	SE3 150・151・155～159 SP19 165～167
図版三七	SK 32	SK7 32
Ⅱ 旧日中遺跡		
図版目次1頁図版一	第1次調査全景 第2次調査全景	第1次調査全景（南から） 第2次調査全景（南から）
図版目次1頁図版二	第2次調査SK－4 同 SK－5	第2次調査SK 4遺物出土状況（南から） 同 SK 5遺物出土状況（北から）
161 頁2行	蓮月寺	蓮月寺山
190 頁遺物番号	12 三	12 なし
200 頁遺物番号	45	45 八
図版二	SK－4遺物出土状況 SK 5遺物出土状況	第2次調査SK 4遺物出土状況 第2次調査SK 5遺物出土状況

八尾市埋蔵文化財発掘調査報告

昭和63年度

I　東郷（とうごう）遺跡（第11次～第16次・第18次調査）

II　田井中（たいなか）遺跡（第1次～第2次調査）

1989年3月

財団法人　八尾市文化財調査研究会

はしがき

八尾市は大阪府の東部に位置し、近年の市街化による開発で宅地化が進み飛躍的に発展しつつある衛生都市であります。しかし、本市は古くから栄えていた地域で、現在でも市域内には先人が残した貴重な文化遺産が数多く遺存しており、これらの文化財を開発による破壊から守り、後世に永く伝承させることが我々の大きな責務と認識し、昭和39年に制定された市民憲章に「文化財を大切にしましょう」の条文を設けて保護保存の徹底をはかってきたところであります。

今回、昭和57年度～昭和59年度に実施しました東郷遺跡（第11次～第16次・第18次調査）と田井中遺跡（第１次・第２次調査）の調査が完了し、その成果は本市の政治、文化の歴史を研究する上で重要な資料になるものと確信して報告をまとめました。

本書が学問の発展と文化財保護への啓発に広く活用されることを願うものであります。

最後になりましたが、この発掘調査に対してご協力いただきました関係機関の皆様に対して心から厚くお礼申し上げます。

平成元年３月

財団法人　八尾市文化財調査研究会
理事長　福　島　　孝

序

1、本書は財団法人八尾市文化財調査研究会が昭和57年度～昭和59年度に実施した発掘調査の成果の報告を集録したもので、内業および本書作成業務は各現地調査終了後に着手し、昭和63年9月をもって終了した。

1、本書に集録した報告は、下記の通りである。

1、本書の構成・編集は高萩千秋・西村公助が行い、文責は各例言に明記した。

1、本書記載の地図は、大阪府八尾市市役所発行の2,500分の1（昭和57年11月1日発行）・八尾市教育委員会発行の『八尾市埋蔵文化財分布図』（昭和62年4月1日改訂）をもとに作成した。

1、本書で用いた高さの基準は東京湾の平均海水面である。

1、本書で用いた方位は磁北を示している。

1、遺構は下記の略号で表わした。

竪穴式住居＝SI　掘立柱建物＝SB　井戸＝SE　土坑＝SK　小穴＝SP　溝＝SD

1、実測図の縮尺は、遺構が20分の1・40分の1・50分の1・100分の1を基調とし、遺物は4分の1に統一した。

1、遺物実測図は、断面の表示によって以下のように分類した。

弥生式土器・土師器・瓦器・木製品―白　須恵器・磁器・陶器―黒　瓦・石製品―斜線

1、各調査に際しては、写真・実測図の他にカラースライドも多数作成している。市民の方々が広く利用されることを希望する。

目　　次

八尾市埋蔵文化財分布図

はしがき

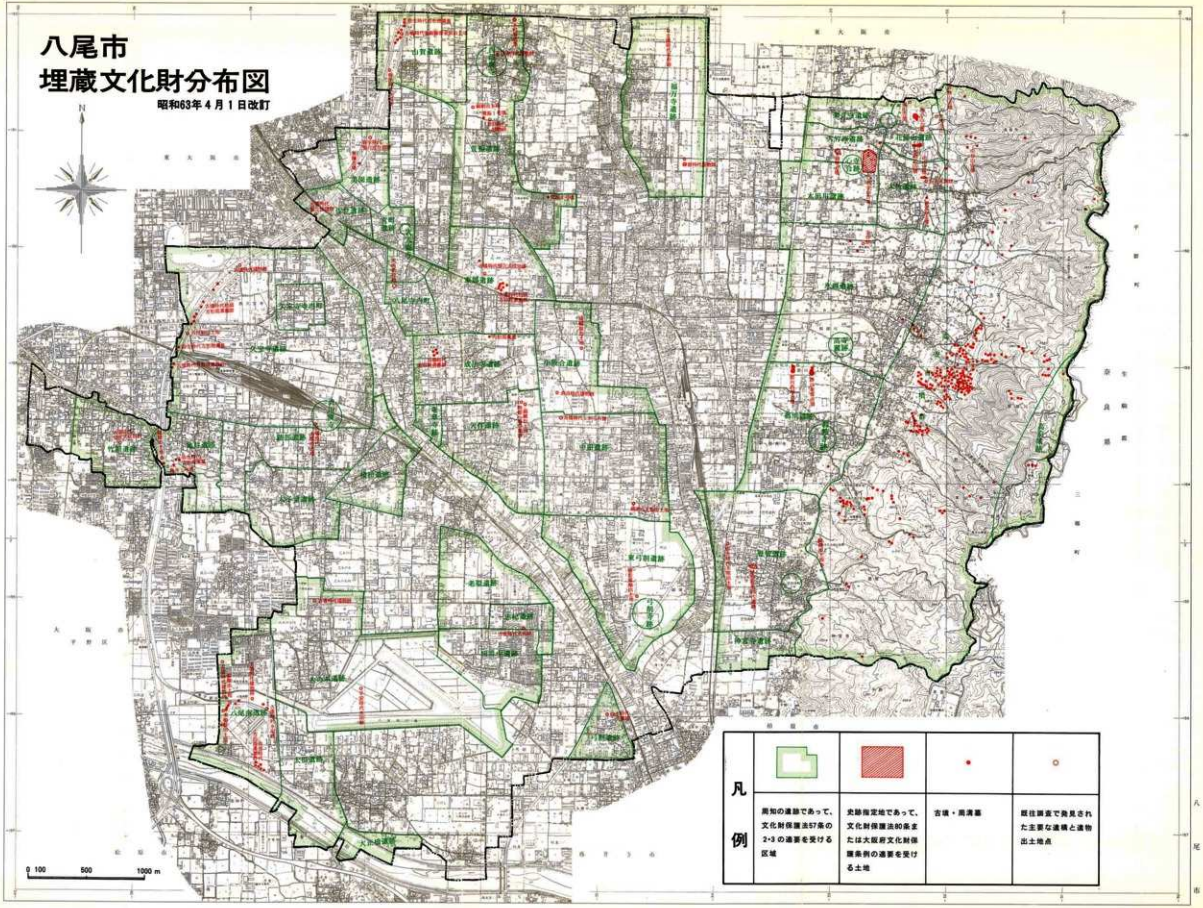
序

I　東郷遺跡（第11次～第16次・第18次調査）発掘調査報告…… 1

II　田井中遺跡（第1次・第2次調査）発掘調査報告…… 159

八尾市
埋蔵文化財分布図

昭和63年４月１日改訂



I　東郷（とうごう）遺跡発掘調査報告
（第11次～第16次・第18次調査）

例　　言

1、本書は、大阪府八尾市の東郷遺跡で昭和57年度～昭和60年度に実施した第11次～第18次調査（第17次調査は報告済である）をまとめたものである。

1、本書で報告する東郷遺跡の発掘調査調査業務は、財団法人八尾市文化財調査研究会（以下、当調査研究会と称略する）が各事業主からの委託を受けて実施したものである。なお、第11次調査は八尾市教育委員会によって実施したもので、整理業務については当調査研究会が引継いで実施した。

1、内業整理は発掘調査終了後、随時行った。

1、本書における現地発掘調査は、高萩千秋を担当者として実施した。なお、調査においては西村公助・駒沢敦・笹井伸彦・西辻正信・中野健太郎・山西嘉彦・香林浩道・清間一仁・津田孝一・須場一行・徳谷貢正・西森忠幸・小川克則・嶋村友子・木曾直美・柴田正明・野田雅彦の参加を得た。内業整理は上記に加えて、池田まゆみ・岩本多貴子・徳谷久美子・小倉弘恵・吉村恵子・杉本尚子・村田英子・村田圭子・中西由紀子・寺川恵子・中村百合・横山妙子・大黒静子・北村教江・横山真鶴・中西隆子・北尾耕三・岡田清一・八元聡志・森本啓二朗・中谷暁子の参加を得た。

1、本書作成に関わる業務は、遺物写真撮影及び本文執筆は高萩、トレースは北尾・小倉・吉村・杉本、遺物実測図は笹井・中野・嶋村・西森・木曾・徳谷、図面レイアウト等は岩本・村田である。

1、遺物については通し番号を与え、実測図・写真図版とも共通している。

1、遺構図面の方位は、全て磁北を示している。

1、本書で用いた水平の基準は海抜である。

1、本書掲載の地図は、国土地理院発行の1／25,000と八尾市発行の1／2,500を使用した。

1、遺物実測図は、断面の表示によって次のように分類した。弥生式土器・土師器・黒色土器・瓦器―白、須恵器―黒、石製品―斜線。

本 文 目 次

第1章　調査に至る経過…… 1

第2章　地理・歴史的環境…… 4

第3章　調査の結果…… 7
第1節　第11次調査…… 7
I　調査の概要…… 7
II　基本層序…… 8
III　検出遺構・出土遺物…… 8
1　古墳時代前期…… 9
2　平安時代後期…… 24
IV　出土遺物観察表…… 24
第2節　第12次調査…… 27
I　調査の概要…… 27
II　基本層序…… 28
III　検出遺構・出土遺物…… 28
1　第1調査面（古墳時代前期）…… 30
2　第2調査面（平安時代後期～鎌倉時代初頭）…… 32
IV　出土遺物観察表…… 35
第3節　第13次調査…… 37
I　調査の概要…… 37
II　基本層序…… 38
III　検出遺構・出土遺物…… 38
1　弥生時代後期～古墳時代前期…… 40
2　古墳時代中期～後期…… 43
3　平安時代後期～江戸時代…… 46
IV　出土遺物観察表…… 50
第4節　第14次調査…… 59
I　調査の概要…… 59

Ⅱ　基本層序…… 60
Ⅲ　検出遺構・出土遺物…… 60
1　古墳時代前期…… 63
2　平安時代後期～鎌倉時代初頭…… 79
Ⅳ　出土遺物観察表…… 82
第5節　第15次調査…… 95
Ⅰ　調査の概要…… 95
Ⅱ　基本層序…… 96
Ⅲ　検出遺構・出土遺物…… 96
1　第1調査面（弥生時代中期）…… 98
2　第2調査面（平安時代後期～鎌倉時代初頭）…… 99
Ⅳ　出土遺物観察表…… 102
第6節　第16次調査…… 103
Ⅰ　調査の概要…… 103
Ⅱ　基本層序…… 104
Ⅲ　検出遺構・出土遺物…… 107
1　古墳時代前期…… 107
Ⅳ　出土遺物観察表…… 118
第7節　第18次調査…… 130
Ⅰ　基本層序…… 131
Ⅱ　検出遺構・出土遺物…… 131
1　古墳時代前期…… 132
2　平安時代後期～鎌倉時代初頭…… 142
Ⅳ　出土遺物観察表…… 145
第4章　東郷遺跡の調査成果…… 155

挿 図 目 次

第 1 図　調査地概要図…… 2
第 2 図　地形分類図…… 5
<第11次調査>
第 3 図　調査区設定図及び地区割図…… 7
第 4 図　基本層序柱状図…… 8
第 5 図　遺構平面図……9・10
第 6 図　ＳＩ１平断面図…… 11
第 7 図　ＳＩ２平断面図…… 12
第 8 図　ＳＩ２出土遺物実測図…… 13
第 9 図　ＳＩ３平断面図…… 14
第 10 図　ＳＩ４平断面図…… 15
第 11 図　ＳＩ５平断面図…… 15
第 12 図　ＳＩ６平断面図…… 16
第 13 図　ＳＥ１平断面図…… 16
第 14 図　ＳＫ１平断面図…… 17
第 15 図　ＳＫ１出土遺物実測図…… 17
第 16 図　ＳＫ２出土遺物実測図…… 18
第 17 図　ＳＫ３平断面図…… 18
第 18 図　ＳＫ５平断面図…… 18
第 19 図　ＳＰ12出土遺物実測図…… 19
第 20 図　ＳＤ１平断面図…… 21
第 21 図　ＳＤ１出土遺物実測図…… 21
第 22 図　ＳＤ２平断面図…… 22
第 23 図　ＳＤ２出土遺物実測図…… 23
第 24 図　ＳＥ２平断面図…… 24
<第12次調査>
第 25 図　調査区設定図及び地区割図…… 27
第 26 図　基本層序柱状図…… 28
第 27 図　第１調査面遺構平面図…… 29

第 28 図　ＳＫ３平断面図…… 30
第 29 図　ＳＫ３出土遺物実測図…… 31
第 30 図　ＳＤ２平断面図…… 31
第 31 図　ＳＤ２出土遺物実測図…… 31
第 32 図　包含層出土遺物実測図…… 32
第 33 図　ＳＥ１平断面図…… 33
第 34 図　ＳＥ１出土遺物実測図…… 33
第 35 図　第２調査面遺構平面図…… 34
＜第13次調査＞
第 36 図　調査区設定図及び地区割図…… 37
第 37 図　基本層序柱状図…… 38
第 38 図　遺構平面図…… 39
第 39 図　ＳＫ１平断面図…… 40
第 40 図　ＳＫ１出土遺物実測図…… 41
第 41 図　ＳＫ２出土遺物実測図…… 42
第 42 図　ＳＫ３出土遺物実測図…… 43
第 43 図　ＳＫ４出土遺物実測図…… 44
第 44 図　ＳＫ５（51・52）・ＳＫ７（53）・ＳＫ９（55）・
ＳＫ10（54・56）出土遺物実測図…… 44
第 45 図　ＳＰ12出土遺物実測図…… 45
第 46 図　ＳＥ１平断面図…… 46
第 47 図　ＳＥ１出土遺物実測図…… 47
第 48 図　包含層出土遺物実測図１…… 48
第 49 図　包含層出土遺物実測図２…… 49
＜第14次調査＞
第 50 図　調査区設定図及び地区割図…… 59
第 51 図　基本層序柱状図…… 60
第 52 図　遺構平面図…… 61・62
第 53 図　ＳＩ１平断面図…… 63
第 54 図　ＳＩ１出土遺物実測図…… 64
第 55 図　ＳＩ２出土遺物実測図…… 65
第 56 図　ＳＩ２平断面図…… 65

第 57 図　ＳＥ１平断面図…… 66
第 58 図　ＳＥ１出土遺物実測図…… 66
第 59 図　ＳＥ２平断面図…… 66
第 60 図　ＳＫ５出土遺物実測図…… 67
第 61 図　ＳＫ６出土遺物実測図…… 67
第 62 図　ＳＫ８出土遺物実測図…… 68
第 63 図　ＳＫ９出土遺物実測図…… 68
第 64 図　ＳＫ11平断面図…… 68
第 65 図　ＳＫ11出土遺物実測図…… 69
第 66 図　ＳＫ13出土遺物実測図…… 69
第 67 図　ＳＫ15出土遺物実測図…… 70
第 68 図　ＳＫ16出土遺物実測図…… 70
第 69 図　ＳＫ17遺物平面図…… 71
第 70 図　ＳＫ17出土遺物実測図１…… 72
第 71 図　ＳＫ17出土遺物実測図２…… 73
第 72 図　ＳＤ12土器平面図…… 75
第 73 図　ＳＤ12出土遺物実測図…… 75
第 74 図　ＳＤ６（93）・ＳＤ16（94）・ＳＤ20（95・96）・ＳＤ23（97）
ＳＤ32（98～102）出土遺物実測図…… 76
第 75 図　包含層出土遺物実測図１…… 77
第 76 図　包含層出土遺物実測図２…… 78
第 77 図　ＳＥ３平断面図…… 79
第 78 図　ＳＥ３出土遺物実測図…… 79
第 79 図　ＳＥ６平断面図…… 80
第 80 図　ＳＥ６出土遺物実測図…… 80
第 81 図　ＳＰ19出土遺物実測図…… 81
＜第15次調査＞
第 82 図　調査区設定図及び地区割…… 95
第 83 図　基本層序柱状図…… 96
第 84 図　第１調査面遺構平面図…… 97
第 85 図　ＳＫ２平断面図…… 98
第 86 図　ＳＫ１(1)・ＳＫ２(2・3)出土遺物実測図…… 98

第 87 図　包含層出土遺物実測図…… 99
第 88 図　第 2 調査面遺構平面図…… 100
＜第16次調査＞
第 89 図　調査区設定図及び地区割図…… 103
第 90 図　基本層序柱状図…… 104
第 91 図　遺構平面図…… 105・106
第 92 図　ＳＫ１平断面図…… 107
第 93 図　ＳＫ１出土遺物実測図…… 107
第 94 図　ＳＫ４出土遺物実測図…… 108
第 95 図　ＳＫ５出土遺物実測図…… 109
第 96 図　ＳＫ５平断面図…… 110
第 97 図　ＳＫ６出土遺物実測図…… 110
第 98 図　ＳＫ７出土遺物実測図…… 111
第 99 図　ＳＤ１出土遺物実測図…… 112
第 100 図　第4e層出土遺物実測図１…… 114
第 101 図　第4e層出土遺物実測図２…… 115
第 102 図　第4c層出土遺物実測図３…… 116
第 103 図　第4e層出土遺物実測図４…… 117
＜第18次調査＞
第 104 図　調査区設定図及び地区割図…… 130
第 105 図　基本層序柱状図…… 131
第 106 図　ＳＥ１平断面図…… 132
第 107 図　ＳＥ１出土遺物実測図…… 132
第 108 図　遺構平面図…… 133・134
第 109 図　ＳＫ１出土遺物実測図…… 135
第 110 図　ＳＫ２土器集積部分検出平断面図…… 135
第 111 図　ＳＫ２出土遺物実測図１…… 136
第 112 図　ＳＫ２出土遺物実測図２…… 137
第 113 図　ＳＤ１土器平断面図…… 138
第 114 図　ＳＤ１出土遺物実測図１…… 139
第 115 図　ＳＤ１出土遺物実測図２…… 140
第 116 図　ＳＤ１出土遺物実測図３…… 141

第117図　ＳＤ２出土遺物実測図…… 141
第118図　包含層出土遺物実測図…… 144

表　目　次

第１表　東郷遺跡発掘調査一覧表…… 3
＜第11次調査＞
第２表　小穴（ＳＰ）法量一覧表…… 20
＜第13次調査＞
第３表　小穴（ＳＰ）法量一覧表…… 46
＜第14次調査＞
第４表　小穴（ＳＰ）法量一覧表…… 74
＜第15次調査＞
第５表　水田法量一覧表…… 101
第６表　畦畔法量一覧表…… 101
第７表　溝（ＳＤ）法量一覧表…… 101

図　版　目　次

図版　一　航空写真　東郷遺跡周辺（空から）
図版　二　第11次調査地　1　第１調査区全景（南から）
2　第２調査区全景（北から）
図版　三　第11次調査地　1　ＳＩ１（北から）
2　ＳＩ２（北から）
図版　四　第11次調査地　1　ＳＩ３（北から）
2　ＳＩ３　ＳＰ19（右）・ＳＰ21（左）柱痕検出状況（南から）
図版　五　第11次調査地　1　ＳＩ４（北西から）
2　ＳＩ５（南から）
図版　六　第11次調査地　1　ＳＩ６（南から）
2　ＳＥ１（東から）
図版　七　第11次調査地　1　ＳＫ１土器出土状況（北から）
2　ＳＫ１・ＳＫ２（東から）

図版　八	第11次調査地	1	ＳＤ１（南東から）
		2	ＳＤ２（南東から）
図版　九	第11次調査地	1	ＳＩ２　2　ＳＫ１　9　ＳＤ１　23・27・35
図版一〇	第12次調査地	1	第１調査面全景（南から）
		2	ＳＫ３土器出土状況（東から）
図版一一	第12次調査地	1	ＳＤ１（北から）
		2	ＳＫ４土器出土状況（西から）
図版一二	第12次調査地	1	第２調査面全景（南から）
		2	ＳＤ５（東から）
図版一三	第12次調査地	1	ＳＥ１（北から）
		2	ＳＥ１完掘（北から）
図版一四	第13次調査地		ＳＫ３　3・4　ＳＫ４　5・6　包含層　7・8
			ＳＥ１　13・16・17
図版一五	第13次調査地	1	第１調査区全景（北から）
		2	第２調査区全景（北から）
図版一六	第13次調査地	1	ＳＫ１（北から）
		2	ＳＫ１長頸壺（東から）
図版一七	第13次調査地	1	ＳＫ４（南から）
		2	ＳＫ９（南から）
図版一八	第13次調査地	1	ＳＰ３（北から）
		2	ＳＥ１（南から）
図版一九	第13次調査地		ＳＫ10　1～3・8・17　ＳＫ２　25・27
図版二〇	第13次調査地		ＳＫ４　34～38・41　ＳＫ10　53・56　ＳＥ１　58・61
			包含層　62・71・90
図版二一	第14次調査地	1	調査区全景（南から）
		2	ＳＩ１（北東から）
図版二二	第14次調査地	1	ＳＩ２（南から）
		2	ＳＫ８（南から）
図版二三	第14次調査地	1	ＳＫ９（西から）
		2	ＳＫ11（南から）
図版二四	第14次調査地	1	ＳＤ12西部（東から）
		2	ＳＤ12東部（北から）

図版二五　第14次調査地　1　ＳＥ４（南から）
2　ＳＥ４完掘（南から）
図版二六　第14次調査地　ＳＩ１　1　ＳＫ５　19～23　ＳＫ９　32　ＳＫ13　41
ＳＫ17　49～51・53
図版二七　第14次調査地　ＳＫ17
図版二八　第14次調査地　ＳＤ12　87・88・92　ＳＤ16　94
包含層　107・137・140・141
図版二九　第14次調査地　ＳＥ３　150・151・155～159　ＳＰ19　165～167
図版三〇　第15次調査地　1　第１調査区水田（南から）
2　第２調査区水田（北から）
図版三一　第15次調査地　1　ＳＫ１（南から）
2　ＳＫ２（南から）
図版三二　第15次調査地　1　ＳＫ１
2　ＳＫ２
図版三三　第16次調査地　1　調査区北部（南から）
2　調査区南部（西から）
図版三四　第16次調査地　1　ＳＫ１（東から）
2　ＳＫ５（東から）
図版三五　第16次調査地　1　ＳＫ２・ＳＤ１（東から）
ＳＤ３（東から）
図版三六　第16次調査地　ＳＫ５　18～21　ＳＫ６　25　ＳＫ７　30
図版三七　第16次調査地　ＳＫ７　32　ＳＤ１　56・57　第4e層　62・63・65・68
82・101
図版三八　第16次調査地　第4e層
図版三九　第16次調査地　第4e層
図版四〇　第18次調査地　1　第１調査区全景（南から）
2　第２調査区全景（南から）
図版四一　第18次調査地　1　ＳＫ１（北から）
2　ＳＫ３（南から）
図版四二　第18次調査地　1　ＳＤ１東部（西から）
2　ＳＤ１西部（北から）
図版四三　第18次調査地　ＳＫ１　1・2・5・7　ＳＫ１　8　ＳＫ２　9・13

図版四四　第18次調査地　ＳＫ２　25・30・41・47・48　ＳＤ１　50～52

図版四五　第18次調査地　ＳＤ１

図版四六　第18次調査地　ＳＤ１　70・77～79　ＳＤ２　87　包含層　102・110
111

第１章　調査に至る経過

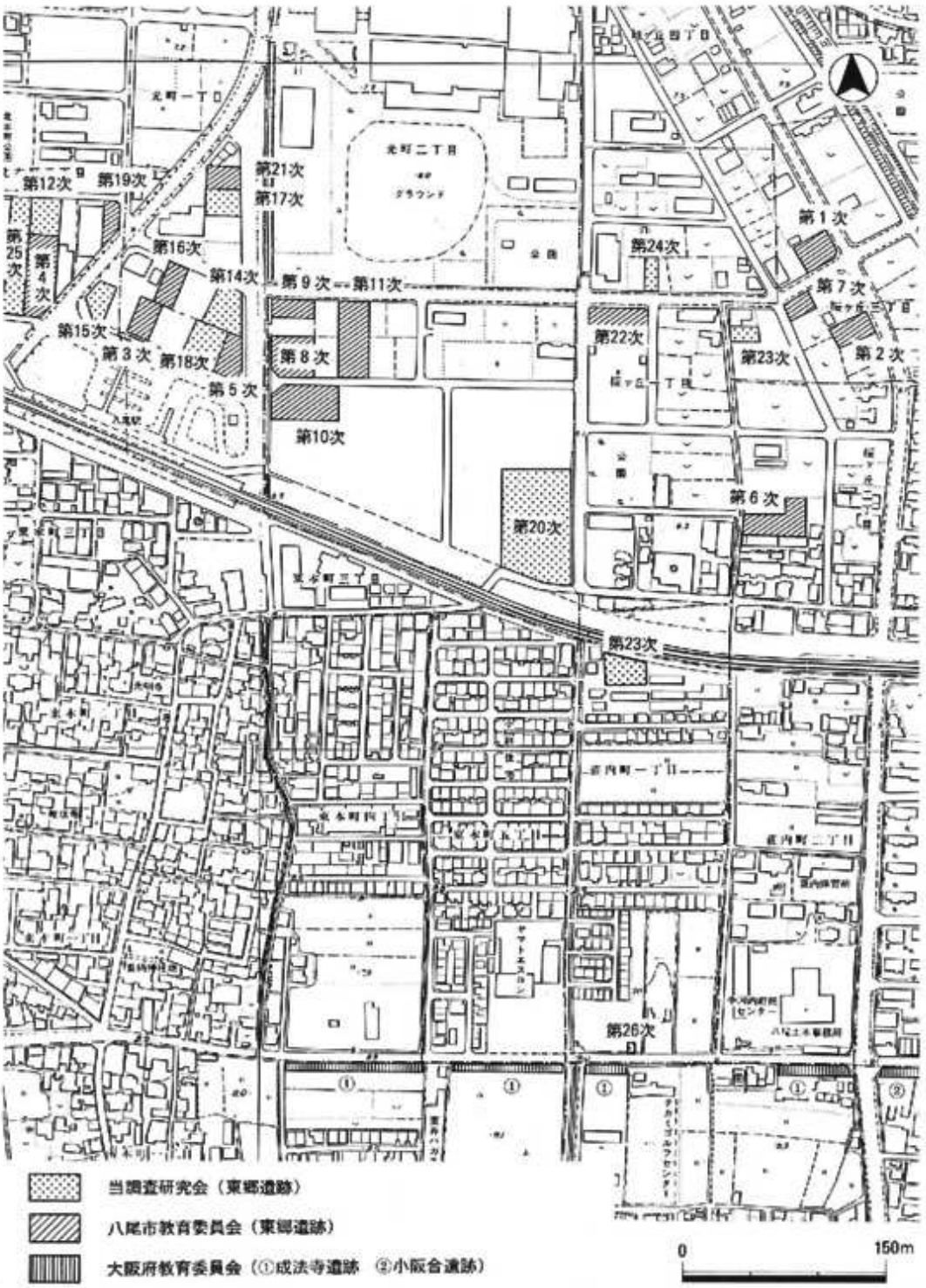
東郷遺跡は、大阪府八尾市の中心部よりやや北西にあたる東本町・北本町・光町・桜ケ丘・荘内町の一帯に所在する。当遺跡は、現在の近鉄大阪線八尾駅を中心として広がる弥生時代中期から中世にかけての複合遺跡である。

当遺跡の発見の契機は、昭和46年八尾市東本町２丁目（光明寺付近）の水道管埋設工事で現地表下約1.5ｍの地層内から奈良時代に比定される墨書人面土器が出土されたことによる。それ以後は近鉄大阪線高架化及び八尾駅移設・八尾都市計画事業近鉄八尾駅前土地区画整理事業[註1]などの工事で若干の遺物包含層が確認されている以外、当遺跡の実態が明確に把握されていなかった。

この様な中、昭和56年１月桜ケ丘２丁目で店舗付住宅の建設工事によって破壊される部分に対処すべく八尾市教育委員会は、試掘調査[註2]を実施した。その結果、古墳時代～鎌倉時代の遺物包含層が検出された。それにより建設工事で破壊される部分に対しての発掘調査が実施された。調査の結果、古墳時代前期に比定される庄内式甕の出土、古墳時代中期～後期の土坑、平安時代前期の柱穴・井戸などの遺構と、それに伴う遺物が多量に出土された。それ以降、八尾市教育委員会が昭和56年度までに実施した調査は計10件を数え、弥生時代中期から鎌倉時代にかけての遺構・遺物が多く検出されている。昭和62年度までに八尾市教育委員会及び当調査研究会が実施した発掘調査は26件を数える。調査の結果、主として古墳時代前期（庄内式古相～布留式古相）の集落遺構が当遺跡範囲に広く存在していることが明らかになった。集落は居住域を中心として墓域が南部と北部で検出された。第18次調査では方形周溝墓１基、第20次調査地では[註3]方形周溝墓７基・土坑墓１基が検出されている。[註4]居住域は今回報告する第11次～第16次調査・第18次調査で竪穴式住居８棟・井戸４基等が検出されている。

今回の調査報告は、昭和57年度第11次～第13次調査地の３件と昭和58年度第14次～第16次調査地の３件と昭和59年度第18次調査地の１件の計７件である。これらの調査は当調査研究会が実施したもので、それぞれの事業者と協議の上、当調査研究会の協定書を三者（事業者・八尾市教育委員会・当調査研究会）で契約を結締し、現地調査に着手した。なお、第11次調査は八尾市教育委員会が実施された発掘調査である。内業整理は当調査研究会分室に於いて、遺物の洗浄・マーキング・接合・遺物実測図・文章の作成等の作業を行い、今回の報告書を刊行する運びとなった。

なお、調査地の地番・申請者・面積・目的等について下記の第１表に詳しく明記した。


第12次
第19次
第21次
第17次
第25次
第4次
第16次
第14次
第9次
第11次
第15次
第3次
第18次
第5次
第8次
第10次
第20次
第24次
第1次
第7次
第22次
第23次
第2次
第6次
第23次
第26次
当調査研究会（東郷遺跡）
八尾市教育委員会（東郷遺跡）
大阪府教育委員会（①成法寺遺跡 ②小阪合遺跡）
0
150m

第1図　調査地概要図

表1　東郷遺跡発掘調査一覧表

付称	調査地	調査面積	申請者	調査期間	目的	備考
第11次	光町2丁目	500 ㎡	森田清次	昭和57年5月8日 ～同年6月10日	共同住宅	第1節
第12次	北本町2丁目 133-1・2 134-3	200 ㎡	木村商事	昭和57年8月5日 ～同年8月27日	貸ビル	第2節
第13次	桜ケ丘3丁目32-3	200 ㎡	ニュー国光	昭和57年9月16日 ～同年10月12日	共同住宅	第3節
第14次	光町1丁目72	480 ㎡	田中一任	昭和58年3月18日 ～同年4月21日	店舗	第4節
第15次	光町1丁目136-2	300 ㎡	太陽生命	昭和58年5月13日 ～同年5月25日	貸ビル	第5節
第16次	光町1丁目69-2 北本町2丁目145-12	200 ㎡	木村商事	昭和58年8月1日 ～同年8月13日	貸ビル	第6節
第18次	光町1丁目19－3	546 ㎡	森田清次	昭和59年3月1日 ～同年4月10日	店舗住宅	第7節

註

註1　八尾市役所「八尾市史」　1958

註2　八尾市教育委員会「八尾南遺跡範囲確認調査・東郷遺跡調査報告書」　1981

註3　（財）八尾市文化財調査研究会「Ⅰ東郷遺跡発掘調査概要報告」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要　昭和59年度』（財）八尾市文化財調査研究会報告6　1985

註4　（財）八尾市文化財調査研究会「Ⅲ東郷遺跡（第20次調査）」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要昭和61年度』（財）八尾市文化財調査研究報告13　1987

第2章　地理・歴史的環境

東郷遺跡は、現在の大阪府八尾市の中心部からやや北西寄りに位置する近鉄大阪線八尾駅前（東本町・北本町・光町・桜ケ丘・荘内町）一帯に所在する弥生時代中期～中世にかけての複合遺跡である。

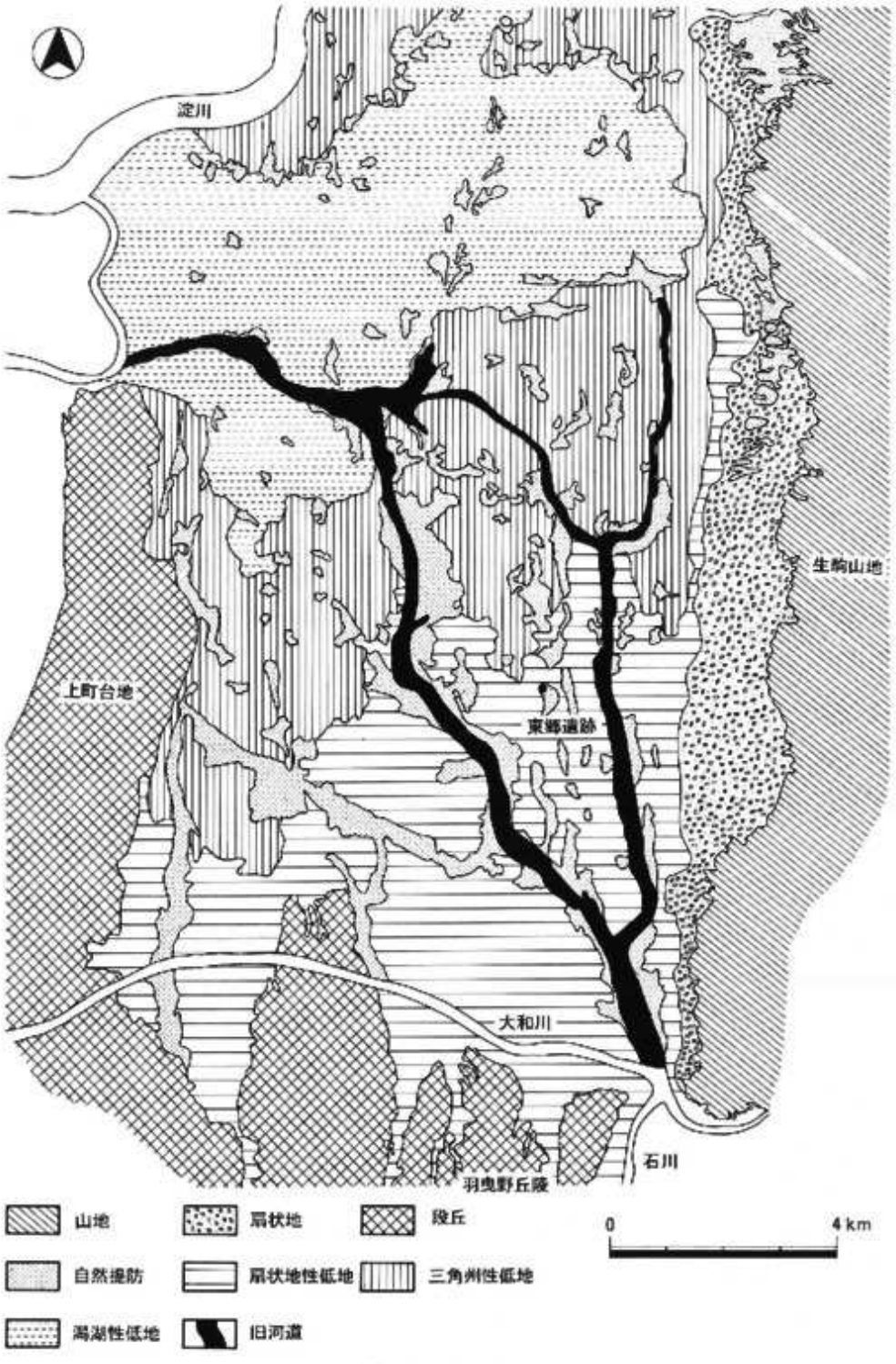
当遺跡は東を生駒山地、西を上町台地、南を羽曳野丘陵、北を淀川によって区画された沖積低平地にあたり、狭義でいう河内平野と呼ばれている。

この河内平野は旧大和川（長瀬川・玉串川・恩智川・平野川等の中小川）と淀川の幾多の氾濫を繰返した堆積作用と海水準の昇降による浸蝕基準線の移動等の相互作用によって形成され、縄文時代前期以降には河内湾－河内潟－河内湖—河内平野が変貌しつつ陸地化して行った。その後1704年（宝永元年）に大掛りな大和川付替工事が行われ、柏原市の大和川と石川の合流西以から羽曳野丘陵の先端部・上町台地を横断して大阪湾に注ぐ河川経路となり、河内平野に於ける幾多の氾濫が静穏化していった。

当遺跡は河内平野の中心部よりやや南寄りで、長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上に位置し、洪水等の気象条件により河川の氾濫が幾度となく繰り返された地であるが、逆に豊かな水量と肥沃な土壌を基盤として古くより人々が住み続けていた地である。

同一沖積地上には、多くの遺跡が分布しており、当遺跡の南方には東弓削遺跡・中田遺跡・小阪合遺跡・成法寺遺跡、北方には萱振A遺跡・萱振B遺跡・宮町遺跡・佐堂遺跡・美園遺跡・山賀遺跡・友井東遺跡・若江北遺跡・巨摩廃寺遺跡・西岩田遺跡・新家遺跡・瓜生堂遺跡などの数多くの遺跡が存在している。

当遺跡が位置する河内平野の歴史は、後期旧石器時代には既に人々が足を踏み入れた痕跡が河内平野の縁辺部周辺に見られる。例えば、当遺跡の南部にあたる大阪市長原遺跡・八尾南遺跡（羽曳野丘陵の縁辺部と沖積地の境に位置する）、東部にあたる東大阪市山畑遺跡・六万寺遺跡など（生駒山西麓の扇状地先端部に位置する）があげられる。縄文時代の遺跡としては、国府型ナイフ型石器の出土で標識遺跡とされている藤井寺市国府遺跡や中津式・滋賀里式に該当される土器が出土している八尾市恩智遺跡が前期から晩期に至るまで存続する他、大阪市森の宮遺跡、東大阪市縄手遺跡が中期から晩期に至る遺跡として知られている。また後期以降に出現する遺跡は、上記遺跡の他、東大阪市鬼塚遺跡・馬場川遺跡・八尾南遺跡・柏原市船橋遺跡・長原遺跡などがあげられる。最近の調査では近畿自動車道に伴う調査で縄文時代の土器を出土している。後期から晩期に至る土器を出土した八尾市山賀遺跡をはじめとして東大阪市新家遺跡・西岩田遺跡・巨摩廃寺遺跡・若江北遺跡・友井東遺跡・八尾市亀井遺跡などが中期か


淀川
生駒山地
上町台地
東郷遺跡
大和川
石川
羽曳野丘陵
山地
扇状地
段丘
自然堤防
扇状地性低地
三角州性低地
湿湖性低地
旧河道
0
4 km

第2図　地形分類図

ら晩期のいずれかの土器が流れ込みで出土されている。

しかし、人々が河内平野に定住するのは稲作文化が伝来してきたことによる弥生時代からだと言われており、河内平野の肥沃な土壌と豊かな水量を利用して発展して来たようである。当遺跡の周辺で検出されている弥生時代前期の遺跡としては、瓜生堂遺跡・山賀遺跡・美園遺跡・久宝寺遺跡・亀井遺跡・田井中遺跡・跡部遺跡・東弓削遺跡・萱振A遺跡などがあり、中期には瓜生堂遺跡・山賀遺跡などの大集落が存在するようになる。その後、八尾市域内では弥生時代後期から古墳時代前期の遺跡が最も多い。当遺跡では弥生時代中期の土器を散発的に出土しているのがみられるが、居住区域に於いては古墳時代前期の時期を中心として竪穴式住居・掘立柱建物・井戸等の集落遺構が検出されている。そして、これに附随するように墓域が存在することが判明し、集落構成が除々に明瞭になってきた。

古墳時代中期に入ると、大規模な古墳が築造されるようになり、現在でもその景観が生駒山西麓の尾根や扇状地にみられる。八尾市では最大規模の心合寺山古墳が存在している。後期には高安古墳群などが築造されている。近年の緊急発掘調査により沖積地上にも古墳が築造されていることが明らかになって来た。例えば、八尾市域では美園遺跡（前期後半の方墳）・萱振A遺跡（中期初頭の方墳）・萱振B遺跡（後期後半の方墳？）・山賀遺跡（後期の方墳）などがあげられる。当遺跡では第24次調査で円筒埴輪が出土しており、古墳の存在が指摘できる。

歴史時代に入ると、律令国家体制のもとで条里制による土地区画が成され、国郡郷（里）が置かれた。当遺跡は河内国若江郡（新治郷）に属す。また、仏教の伝来と共に寺院の創建が活発になる。当遺跡に於いても常光寺があり、また延喜式による八尾神社が鎮座している。

参考文献

1 浜田耕作 「河内国府石器時代遺跡発掘報告」『京都帝国大学考古学研究報告』 1 1918
2 瓜生堂調査会 『恩智遺跡Ⅰ・Ⅱ』 1980
3 東大阪市遺跡保護調査会 『馬場川遺跡発掘調査報告』 1977
4 八尾南遺跡調査会 『八尾南遺跡Ⅰ —大阪市高速電気軌道2号線建設に伴う発掘調査報告書— 1981
5 平安学園考古学クラブ 『船橋Ⅱ』 1962
6 （財）大阪文化財センター 『長原』 近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う発掘調査概要報告書 1979
7 （財）大阪文化財センター 『山賀その1』 近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う発掘調査概要報告書 1983
8 （財）大阪文化財センター 『新家』 近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う発掘調査概要報告書 1984
9 （財）大阪文化財センター 『西岩田』 近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う発掘調査概要報告書 1983
10 （財）大阪文化財センター 『巨摩廃寺』 近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う発掘調査概要報告書 1984
11 （財）大阪文化財センター 『若江北』 近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う発掘調査概要報告書 1984
12 （財）大阪文化財センター 『友井東』 近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う発掘調査概要報告書 1984
13 （財）大阪文化財センター 『亀井Ⅰ』 近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う発掘調査概要報告書 1983
14 （財）大阪文化財センター 『瓜生堂』 近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う発掘調査概要報告書 1981
15 （財）大阪文化財センター 『美園』 近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う発掘調査概要報告書 1985
16 （財）大阪文化財センター 『久宝寺』 近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う発掘調査概要報告書 1985

第3章　調査の結果

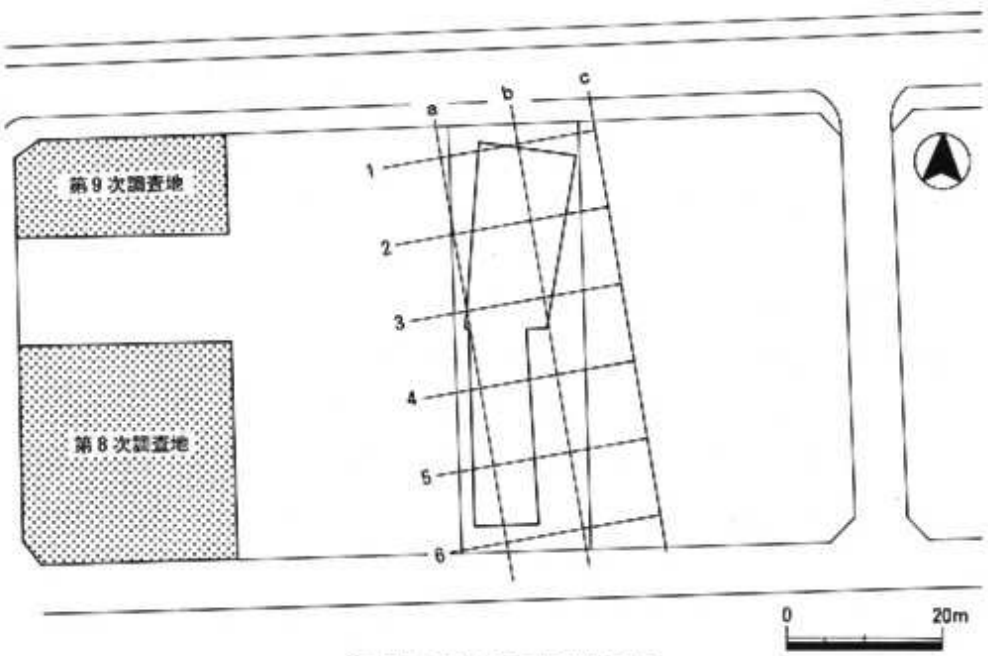
第1節　第11次調査

Ⅰ　調査の概要

今回の調査地は八尾市光町2丁目に所在する共同住宅建設工事に伴う発掘調査である。この調査は当遺跡内で実施した第11次調査にあたる。当調査地から西方約30mには第8次・第9次調査地がある。調査面積は約500㎡である。

調査地は南北方向に長い土地で、掘削排土の搬出や周囲の民有地への影響などを考慮して、調査では北側を第1調査区、南側を第2調査区と2分した。掘削は第8次・第9次調査地の調査の結果をもとに、現地表面から1.3m（盛土・旧耕土・床土）までを機械掘削し、これより以下30cmは、人力による掘削を実施した。

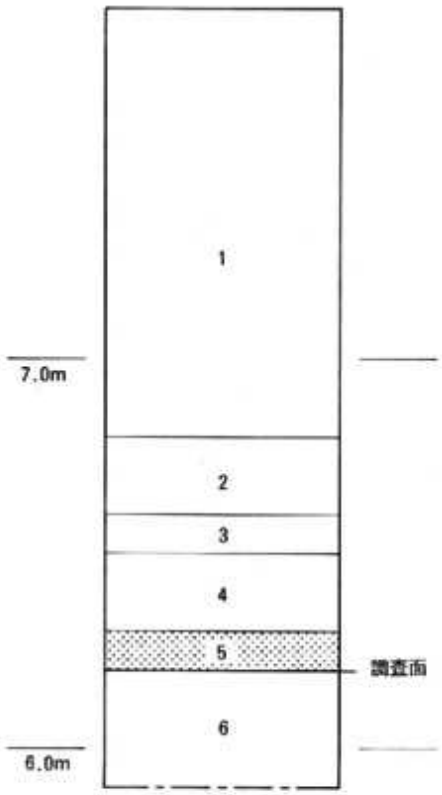
調査では、第1調査区の中央部に任意の基準点を設けて磁北方向に向け、東西20m、南北50mに渡って設定した。南北線・東西線は10m四方で割付けた。北西隅を基準とし、東西線は数字（北から1～6）、南北線はアルファベット（西からａ～ｃ）を付称した。なお、地区名の表示は一区画の北西隅に交差する東西線・南北線を用い、１ａ～６ｃと付称した（第3図）。



第3図　調査区設定図及び地区割図

Ⅱ　基本層序

調査において普遍的にみられる６層を基本層序とした。この基本層序は近接する第８次・第９次調査地においてもほぼ同じ堆積状況である。現地表面は標高7.9mを測る。以下、各層について記す（第４図）。



第４図　基本層序柱状図（S＝1／20）

第１層盛土：層厚110cm。昭和55年に八尾都市計画事業近鉄八尾駅前土地区画整理事業の施工によって埋立て、平坦に整地した土層である。

第２層旧耕土：層厚10～20cm。農地として利用されていた耕作土である。

第３層暗灰色砂粘土：層厚５～10cm。近世の陶磁器等の小片を少量含む土層で、床土である。

第４層淡灰褐色シルト混粘土：層厚10～20cm。この土層は、第３次・第４次調査地で確認されている平安時代後期～鎌倉時代の水田土層と考えられるが、第８次・第９次調査地で検出された土層の堆積状況と同様、後世によって上部が削平を受けて検出した。

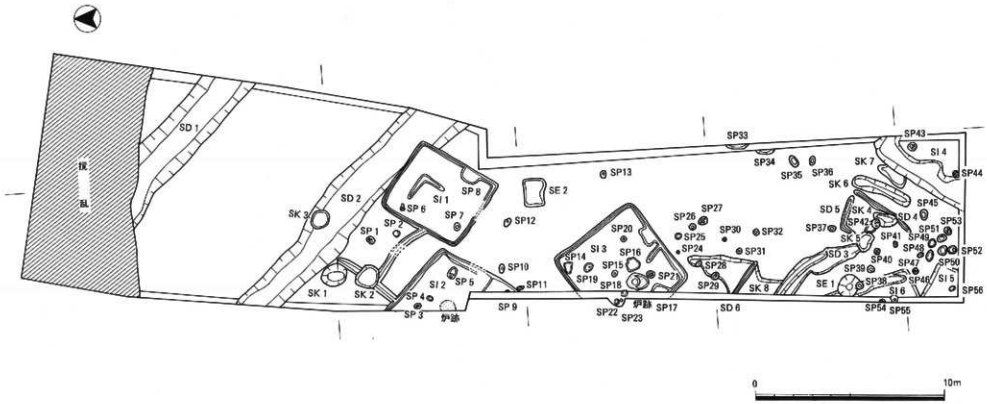
第５層暗茶灰色砂混粘土：層厚５～10cm。この土層は古墳時代前期の土器の小片を含む遺物包含層である。上面は標高6.2mを測る。

第６層淡灰茶色シルト：層厚15～30cm。この上面は標高6.1mを測り、古墳時代前期の遺構が検出された。

Ⅲ　検出遺構・出土遺物

第６層上面を調査面とした。その結果、第５層上面と第６層上面から切込まれている遺構を検出した。第６層上面では古墳時代前期に比定される竪穴式住居６棟・井戸１基・土坑８基・小穴56個・溝６条を検出した。第５層上面では平安時代後期に比定される井戸１基を検出した。遺物はこれらの遺構の堆積土内と第５層内から出土した。出土量はコンテナ箱にして約10箱分を数える。

以下、各時代の遺構とそれに伴う遺物について概説する。なお、個々の遺物の法量・技法・調整等については「Ⅳ　出土遺物観察表」として一括したので参照されたい。


SD 1
SD 2
SK 3
SK 1
SK 2
SP 1
SP 2
SP 3
SP 4
SP 5
SP 6
SP 7
SP 8
SP 9
SP 10
SP 11
SP 12
SP 13
SP 14
SP 15
SP 16
SP 17
SP 18
SP 19
SP 20
SP 21
SP 22
SP 23
SP 24
SP 25
SP 26
SP 27
SP 28
SP 29
SP 30
SP 31
SP 32
SP 33
SP 34
SP 35
SP 36
SP 37
SP 38
SP 39
SP 40
SP 41
SP 42
SP 43
SP 44
SP 45
SP 46
SP 47
SP 48
SP 49
SP 50
SP 51
SP 52
SP 53
SP 54
SP 55
SP 56
SI 1
SI 2
SI 3
SI 4
SI 5
SI 6
SE 1
SE 2
SK 4
SK 5
SK 6
SK 7
SK 8
SD 3
SD 4
SD 5
SD 6
炉跡
0
10m

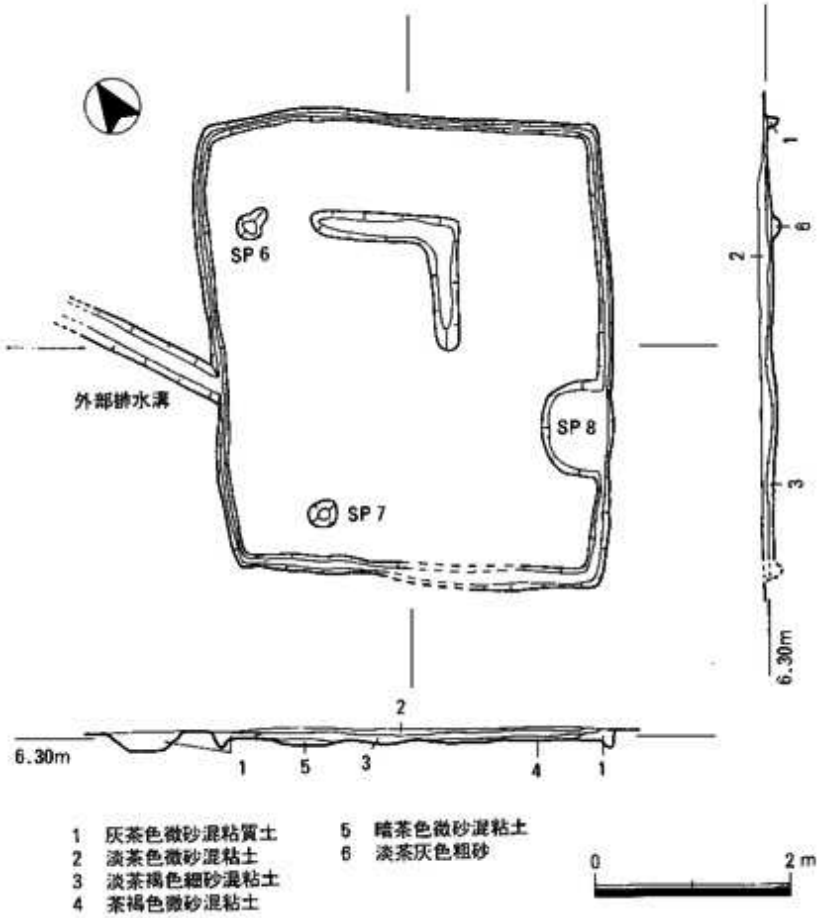
第5図　遺構平面図

1　古墳時代前期

竪穴式住居（ＳＩ）

ＳＩ１

調査区の中央部付近で検出した。平面は方形を呈する竪穴式住居である。規模は検出部で、1辺4.02m（東西）×4.52m（南北）を測る。床面面積は18.17㎡である。床面は検出面から床面まで約20cmを測り、周囲には幅10～25cm、深さ10～17cmを測る溝が巡っている。この東溝の内側には平面半円形の広がり（ＳＰ８）がある。規模は東西56cm、南北99cm、深さ15cmを測る。住居内の堆積土は、上方から淡茶色微砂混粘土・淡茶褐色細砂混粘土・茶褐色微砂混粘土・暗茶色微砂混粘土で構成し、周溝には灰茶色微砂混粘土が堆積している（第６図）。床面のほぼ中央部には、平面「へ」字形に屈折する溝状遺構（東西長1.2m、南北長１m、幅15～40cm、深さ20cm）がある。この溝状遺構内には淡茶色粗砂が堆積している。また、床面の西側近くには、小穴２個（ＳＰ６・ＳＰ７）があり、平面は楕円形を呈する。規模は検出部で、ＳＰ６が

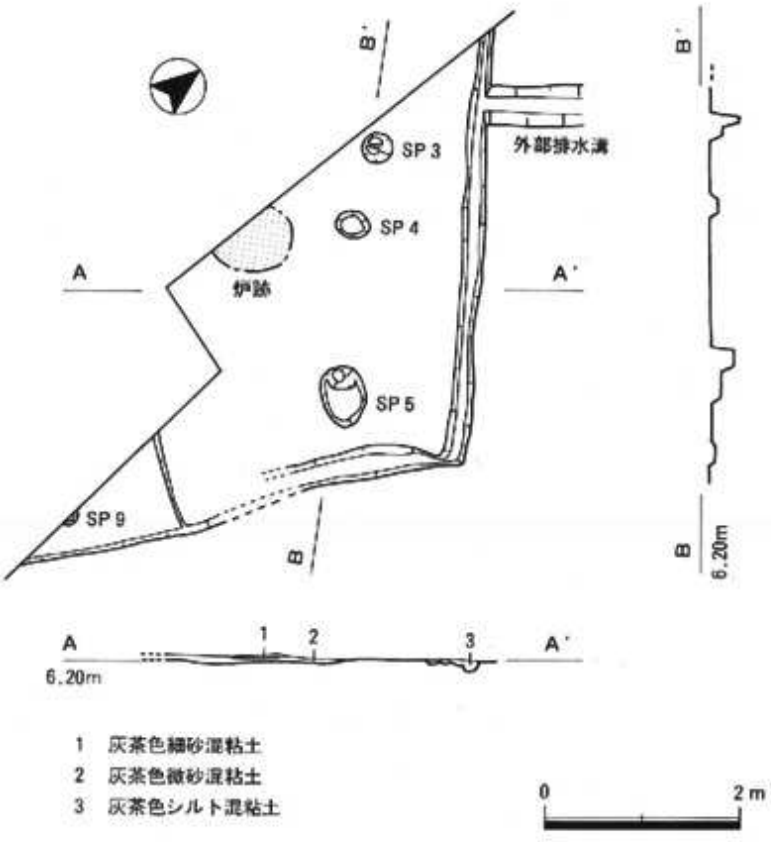


第６図　ＳＩ１平断面図

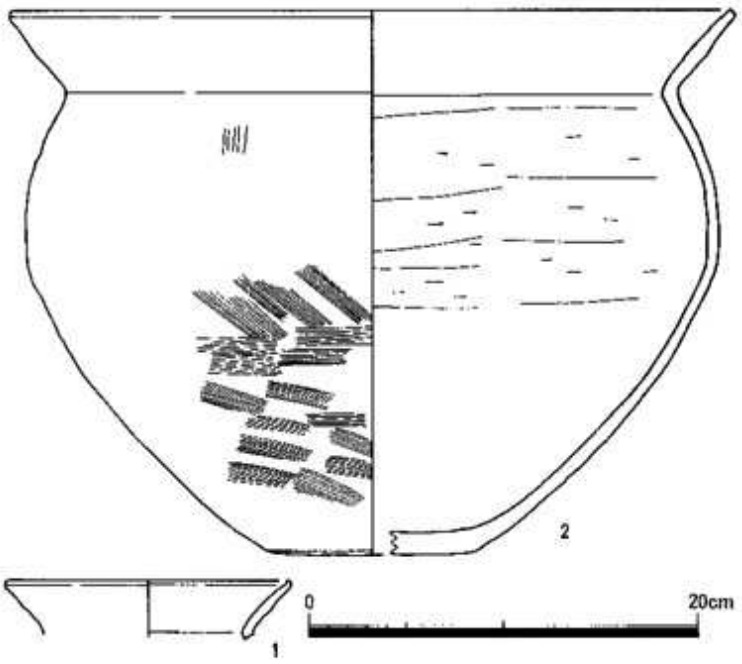
径27～36cm、深さ12.6cm、SP７が径27～32cm、深さ7.6cmをそれぞれ測る。西辺の外部には北西の方向に伸びる溝（幅30cm、深さ10cm）がある。この溝は住居の外部排水設備ではないかと思われる。この溝の西端はＳＫ２によって切られている。遺物は、堆積土内から古墳時代前期に比定される布留式甕の小片がごく少量出土している。

ＳＩ２

調査区中央部の西壁付近で検出した竪穴式住居である。西部は調査区外に至り、全体の形状は不明である。規模は検出部で、南東辺５ｍ、北東辺4.5ｍを測る。床面の周囲には幅約15cm、深さ5.5cmを測る溝が巡っている。また、床面には４箇所の小穴がある。平面はＳＰ３が円形で、他は楕円形を呈する。小穴の規模は、ＳＰ３が径32cm、深さ16cm、ＳＰ４が径29～36cm、深さ13cm、ＳＰ５が径45～63cm、深さ34cm、ＳＰ９が径13～21cm、深さ18cmをそれぞれ測る。断面は逆台形（ＳＰ３・ＳＰ４・ＳＰ９）・逆凸形（ＳＰ５）を呈する。ＳＰ５には下段に径20cmを測る柱痕が残存していた。炉跡は西壁付近で検出した。平面はほぼ円形を呈し、径約80cm、深さ５cmを測る。内部には炭及び灰が多量に堆積している。北東辺の外側には北東の方向



第７図　ＳＩ２平断面図

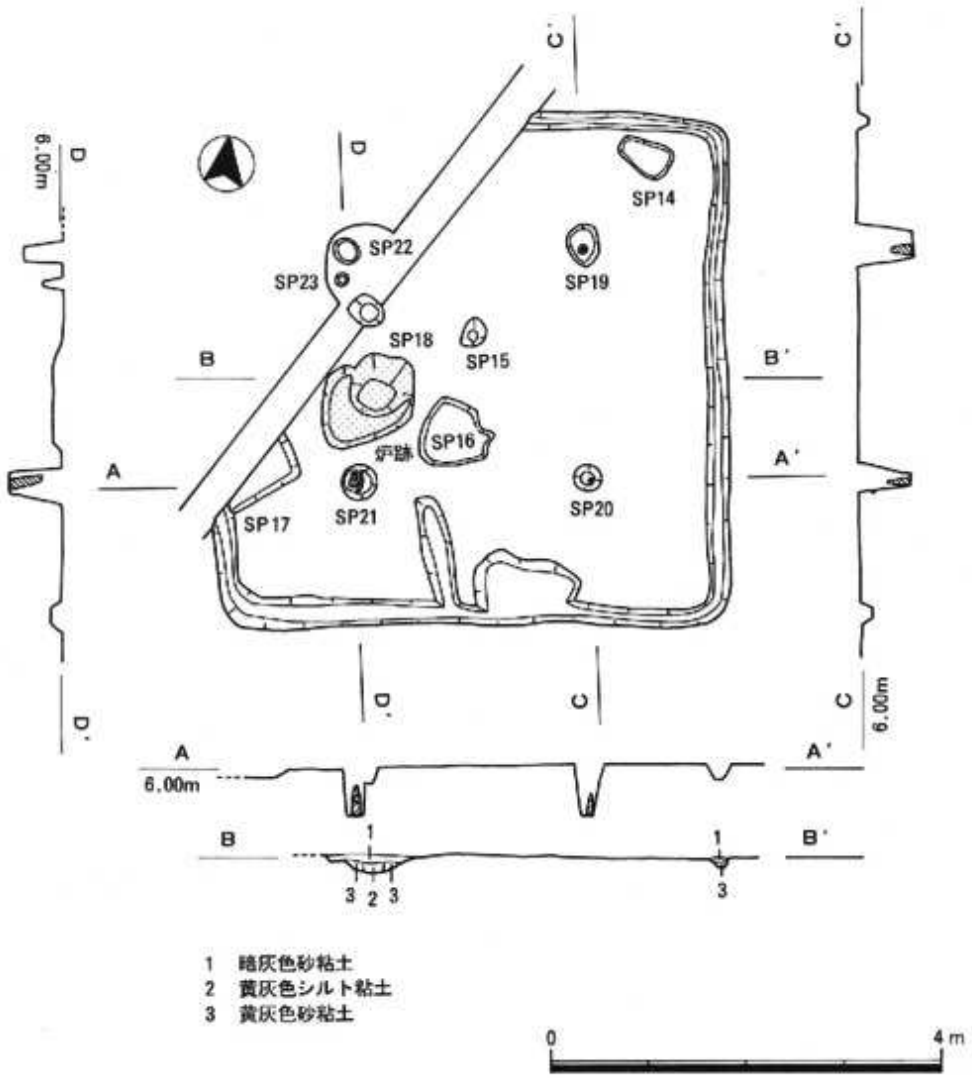


第8図　SI2出土遺物実測図

に伸びる溝（幅40～50cm、深さ10cm）があり、途中でSK2によって切られている。この溝はSI1と同様に外部排水設備ではないかと思われる。住居の堆積土は灰茶色細砂混粘土・灰茶色微砂混粘土に分かれ、溝には灰茶色シルト混粘土が堆積している（第7図）。遺物は、堆積土内から土師器の破片が少量出土している。器種には、床面上から出土した庄内式甕（1）と、炉跡の上部から出土した大型の鉢（2）等がある（第8図）。

SI3

SI2の南部で検出した。西部の一部は調査区外に至るが、平面は方形を呈する竪穴式住居と考えられる。規模は検出部で、一辺約5.3mを測る。床面は検出面から床面まで0～5cmを測る。床面の周囲には幅5～15cm、深さ5～10cmを測る溝が巡っている。この溝の東南側には平面方形を呈する土坑状（東西110cm、南北99cm、深さ18cm）の広がりがある。床面では小穴9個を検出した。小穴の平面には円形のもの4個（SP20～SP23）・楕円形のもの3個（SP15・SP18・SP19）・不定形3個（SP14・SP16・SP17）がある。規模は検出部で、SP14が径32～55cm、深さ7.5cm、SP15が径22～31cm、深さ11cm、SP16が径69～77cm、深さ19cm、SP18が径28～37cm、深さ46cm、SP19が径32～43cm、深さ48cm、SP20が径26～28cm、深さ42.5cm、SP21が径22～38cm、深さ48cm、SP22が径14～29cm、深さ38cmをそれぞれ測る。断面は逆台形・逆凸形を呈する。このうち建物の柱穴はSP19・SP20・SP21・SP

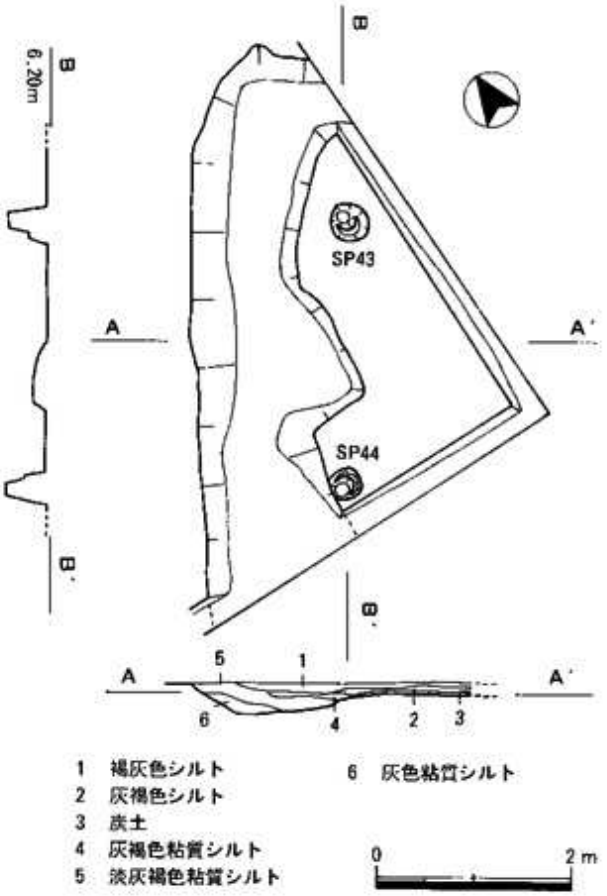


第9図　S I 3平断面図

22の4箇所と考えられ、東西・南北とも2.3mの等間隔である。また、これらの小穴のうち、SP19（径10cm、長さ19cm）・SP20（径5cm、長さ22cm）・SP21（径5cm、長さ29cm）は腐蝕した柱根が残存していた。炉跡は中央部よりやや南西部のSP21付近に設けられている。平面は楕円形を呈する。規模は径61～70cm、深さ19cmを測る。底面は焼土化し、その上面に炭及び灰を含む土層が残存していた。この住居の堆積土は暗茶灰色シルト粘土で、後世により著しく削平を受けていると考えられる。溝には暗灰色砂粘土・暗灰色シルト粘土・黄灰色砂粘土が堆積し、小穴には暗灰茶色シルト粘土が堆積している。遺物は、堆積土内から庄内式甕の破片がごく少量出土している（第9図）。

SI4

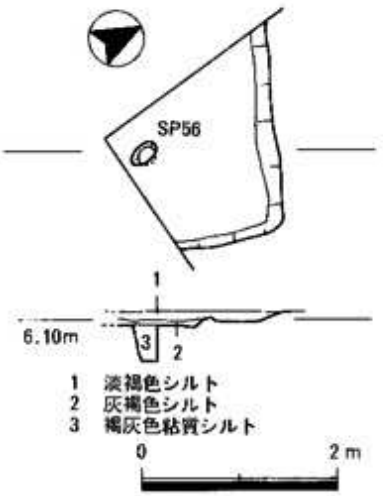
調査区の南東隅で検出した竪穴式住居跡と思われる。南東部は調査区外に至り、形状は不明である。規模は検出部で、北西辺約6mを測る。床面の周囲には幅80～160cm、深さ35cmを測る溝が巡っている。床面は検出面から床面まで深さ約20cmを測り、平坦である。床面には平面円形の柱穴2個がある。規模は、SP43が径39～43cm、深さ36.8cm、SP44が径33cm、深さ46cmを測る。断面は逆台形を呈する。この柱穴の間隔は約2.8mを測る。炉跡は東壁付近で若干確認されたのみで、形状や規模は不明である。堆積土は、上方から褐灰色シルト・灰褐色シルト・炭土で、溝は灰褐色粘質シルト・淡灰褐色粘質シルト・灰色粘質シルトが堆積している。この住居祉は、他の住居祉より溝の幅・深さの規模が非常に大きいのが特徴である（第10図）。遺物は、堆積土内から土師器の破片が少量出土している。器種には壺・庄内式甕・布留式甕・鉢・器台等がある。甕には、山陰地方の特徴をもつものが1点出土している。



第10図　SI4平断面図

SI5

調査区の南西隅で検出した竪穴式住居跡と思われる。南西部は調査区外に至り、形状は不明である。規模は検出部で、北東辺約2.2mを測る。床面は検出面から床面まで約10cmを測る。堆積土は淡褐色シルト・灰褐色シルトに分けられる。周溝・炉跡は検出していないが、柱穴1個（SP56）を検出した。平面は円形を呈する。規模は径18～28cm、

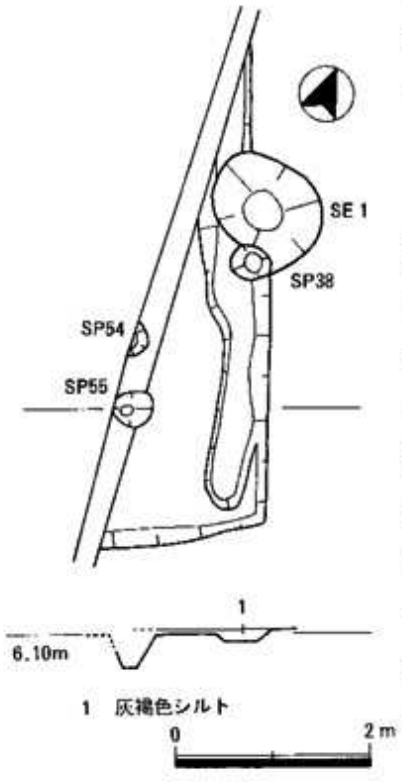


第11図　SI5平断面図

深さ34cmを測る。柱穴の内部堆積土は褐灰色粘質シルトである（第11図）。遺物は、堆積土内から庄内式甕の破片をごく少量出土している。

ＳＩ６

調査区ＳＩ５の北部で検出した竪穴式住居と思われる。西部は調査区外に至り、ＳＥ１とＳＰ38によって切られているため、形状は不明である。規模は検出部で、東辺4.5ｍ、南辺２ｍを測る。床面は検出面から床面まで深さ約６cmを測り、平坦である。東辺には幅40～60cm、深さ14cmを測る溝が掘られている。床面上には、ＳＰ54（径36cm、深さ12cm）とＳＰ55（径37～41cm、深さ35cm）の柱穴２個を検出した。平面はほぼ円形を呈する。堆積土は溝・柱穴ともに灰褐色シルトである（第12図）。遺物は、堆積土内から土器の小片がごく少量出土している。器種には、壺・庄内式甕がある。

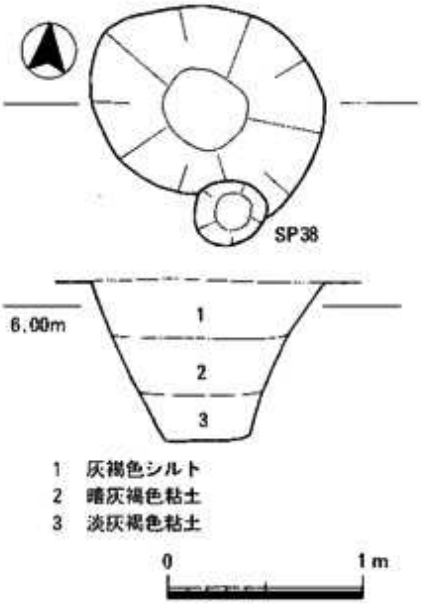


第12図　ＳＩ６平断面図

井戸（ＳＥ）

ＳＥ１

調査区の南部で検出した素掘り井戸である。平面はほぼ円形を呈し、ＳＩ６を切っている。規模は検出部で、径1.2m、深さ１ｍを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、上方から灰褐色シルト・暗灰褐色粘土・淡灰褐色粘土である。底面は平坦で湧水層まで達している。遺物は、堆積土内から土師器の小片がごく少量出土している。器種には古墳時代前期（庄内式新相）に比定される壺・鉢・甕がある。その他には砥石１点が出土している（第13図）。



第13図　ＳＥ１平断面図

土坑（ＳＫ）

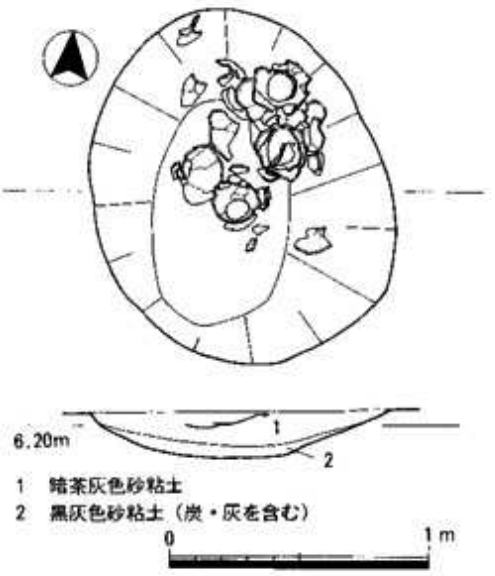
ＳＫ１

調査区の北部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈する。規模は検出部で、東西1.16m、南北1.38m、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗茶灰色砂粘土・黒灰色砂粘土（炭・灰を含む）である（第14

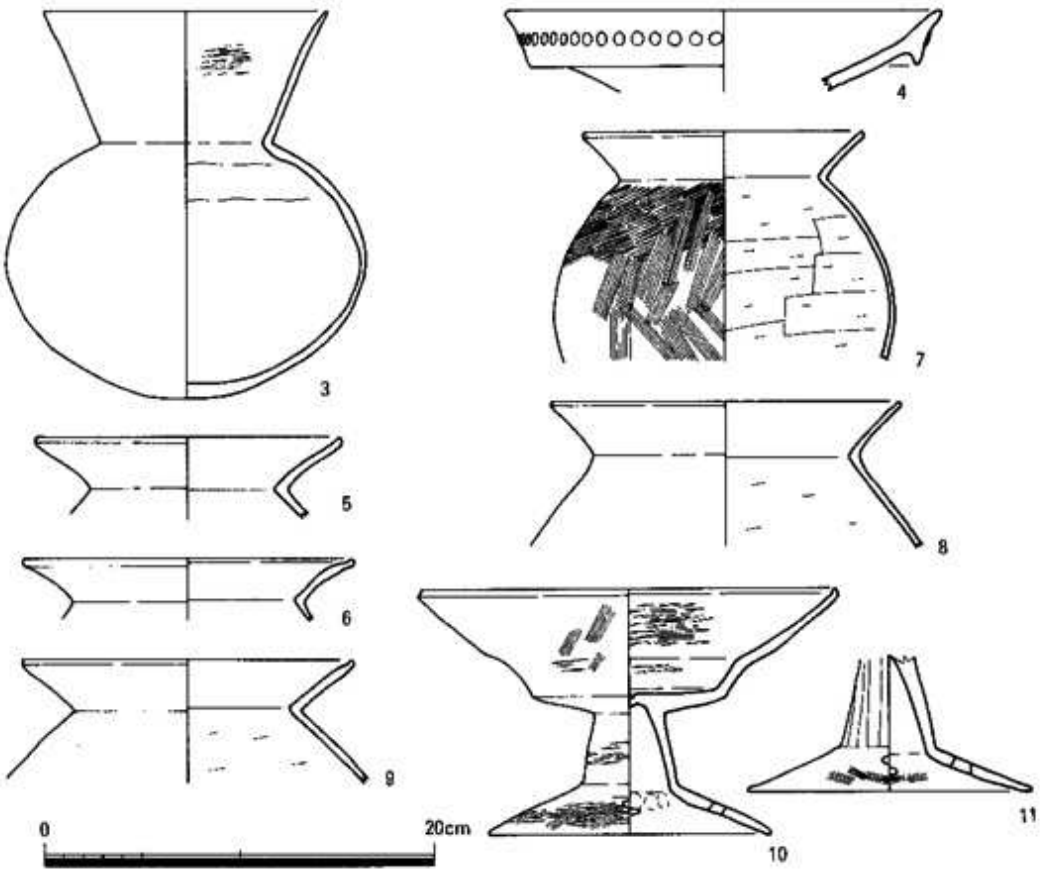
図)。遺物は、土坑内の北側から土師器の小片が集積した状態で出土している。器種には壺（3・4）・庄内式甕（5～9）・高杯（10・11）等がある（第15図)。

SK2

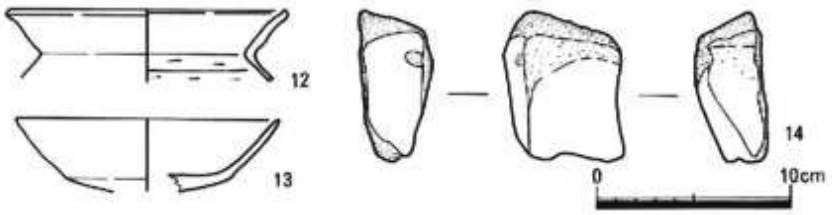
調査区の北部付近で検出した土坑である。北部にはSK1が隣接している。平面は楕円形を呈する。規模は検出部で、最大幅1.38m、最小幅1.16m、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈する。底面の南西では、平面円形を呈する小穴があり、規模は径20cm、深さ10cmを測る。堆積土は淡茶色細砂混粘土・暗茶色細砂混粘土（炭を含む）・茶灰色シルト粘土で、小穴は茶灰色シルト粘土であ



第14図　SK1平断面図



第15図　SK1出土遺物実測図

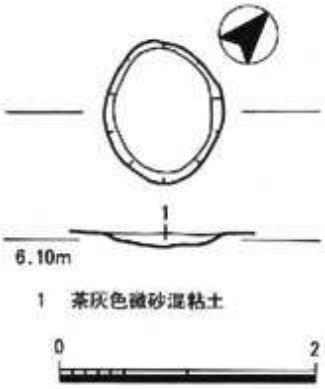


第16図　ＳＫ２出土遺物実測図

る。遺物は、堆積土内から土師器の小片が少量出土している。器種には庄内式甕（12）・布留式甕・鉢・高杯（13）などがある。その他には砥石（14）１点が出土している（第16図）。

ＳＫ３

調査区の北部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈する。規模は検出部で、最大幅1.11ｍ、最小幅91㎝、深さ10㎝を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は茶灰色微砂混粘土の単一層である。遺物は古墳時代前期に比定される庄内式甕などの小片が少量出土している（第17図）。



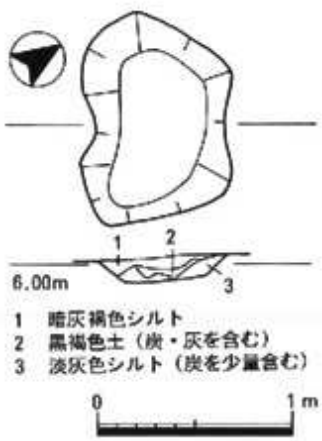
第17図　ＳＫ３平断面図

ＳＫ４

調査区の南部で検出した土坑である。北西部はＳＰ42で切られている。平面は楕円形を呈する。規模は検出部で、最大幅1.16ｍ、最小幅55㎝、深さ27㎝を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗褐色シルト・暗灰黒色粘質シルト（炭・灰を多量に含む）・乳灰褐色粘質シルトである。遺物は、堆積土内から古墳時代前期（庄内式新相）に比定される庄内式甕の小片がごく少量出土している。

ＳＫ５

調査区南部で検出した土坑である。北西部はＳＤ３を切っている。平面は楕円形を呈する。規模は検出部で、最大幅1.06ｍ、最小幅66㎝、深さ17㎝を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰褐色シルト・黒褐色土（炭・灰を含む）・淡灰色シルト（炭を少量含む）



第18図　ＳＫ５平断面図

である。この遺構は堆積土から焼土坑と考えられる（第18図）。遺物は、堆積土内から古墳時代前期に比定される壺・庄内式甕の小片が少量出土している。

SK6

調査区南部で検出した土坑で、SK7とSD4の間に位置する。平面は南北方向に長い溝状を呈する。南北部はともに調査区内で切られている。規模は検出部で、最大幅3.22m、最小幅54cm、深さ15cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は灰褐色シルトの単一層である。遺物は、古墳時代前期に比定される庄内式甕・高杯の小片が少量出土している。

SK7

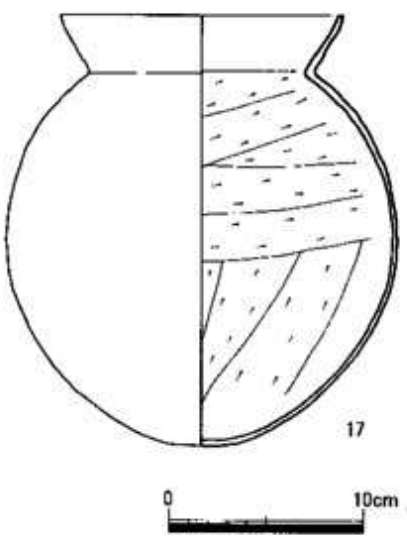
調査区の南部で検出した土坑である。南東部はSI4によって切られている。平面は不定形を呈する。規模は検出部で、最大幅1.67m、最小幅38cm、深さ15cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は灰褐色シルトの単一層である。遺物は出土していない。

SK8

調査区のSI3の南部で検出した土坑である。SD3・SD6・SP28・SP29に切られ、西部の調査区外に至る。平面は不定形を呈する。規模は検出部で、最大幅4.94m、最小幅1.95cm、深さ12cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰褐色シルト混粘土の単一層である。遺物は出土していない。

小穴（SP）

調査区で34個を検出した。平面の形状には円形のもの（7個）・楕円形のもの（26個）・隅丸方形のもの（1個）を呈する。小穴の規模は、径18～129cm、深さ8～47cmを測る。これらの小穴内には柱痕がみられるものが12個を確認した。これらの小穴は建物遺構に伴うものと考えられるが、調査区内では規則性のある配列をもつものは見出せなかった。遺物は、大半の小穴内から出土していないが、小穴7個（SP12・SP27・SP36・SP42・SP48・SP49・SP53）の堆積土内には庄内式新相～布留式古相に比定される庄内式甕・布留式甕の小片がごく少量出土している。このうち図示できたのは、SP12で出土した布留式甕（15）1点である（第19図）。なお、各小穴の形状・法量などについては第2表にまとめて掲載した。



第19図　SP12出土遺物実測図

第2表　小穴（SP）一覧表

※ 単位：cm

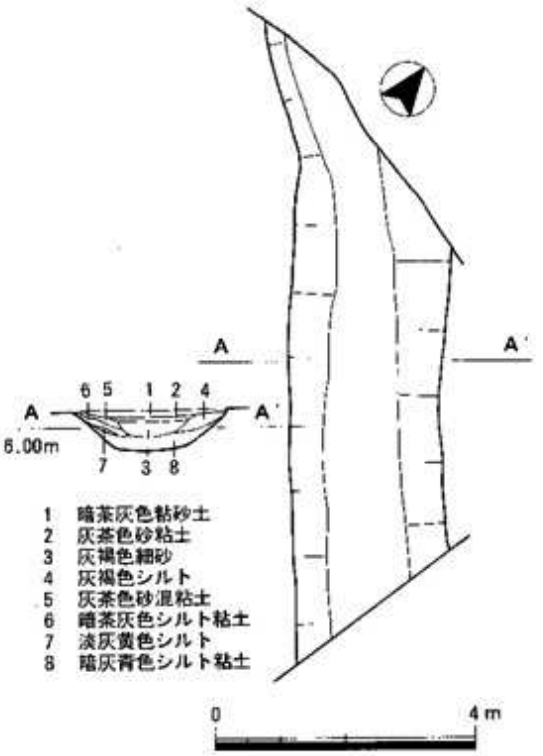
遺構番号	形状		規模		柱痕径	柱根残存	出土遺物
	平面形	断面形	長径～短径	深さ			
SP 1	楕円形	逆台形	40～34	30	16～14	―	
SP 2	円形	逆台形	34～26	23	13～9	―	
SP 10	円形	逆台形	34～31	14	―	―	
SP 11	楕円形	逆台形	34～24	16	―	―	
SP 12	楕円形	逆台形	43～33	12	―	―	庄内式甕
SP 13	円形	U台形	36～30	25	―	―	
SP 24	円形	逆台形	22～22	32	―	―	
SP 25	楕円形	逆台形	33～28	9	―	―	
SP 26	楕円形	逆台形	34～30	20	―	―	
SP 27	楕円形	逆台形	53～34	30	28～21	―	庄内式甕・布留式甕
SP 28	円形	逆台形	38～32	16	―	―	
SP 29	楕円形	逆台形	42～32	14	30～23	―	
SP 30	円形	逆台形	20～20	12	―	―	
SP 31	楕円形	逆台形	28～22	12	―	―	
SP 32	楕円形	逆台形	33～29	13	―	―	
SP 33	楕円形	逆台形	129～18	13	―	―	
SP 34	楕円形	逆台形	100～28	15	―	―	
SP 35	楕円形	逆台形	64～38	8	―	―	
SP 36	楕円形	逆台形	38～30	11	―	―	庄内式甕
SP 37	楕円形	逆台形	32～27	15	16～15	―	
SP 38	楕円形	逆台形	38～32	30	―	―	
SP 39	楕円形	逆台形	44～34	12	―	―	
SP 40	隅丸方形	逆台形	38～30	24	18	―	
SP 41	楕円形	逆台形	25～20	11	―	―	
SP 42	楕円形	逆台形	51～42	47	21～20	―	庄内式甕・布留式甕
SP 45	楕円形	逆台形	48～36	31	―	―	
SP 46	楕円形	逆台形	30～24	11	14～12	―	
SP 47	楕円形	逆台形	30～21	13	―	―	
SP 48	楕円形	逆台形	58～37	30	26～20	―	甕・庄内式甕
SP 49	楕円形	逆台形	44～36	13		―	布留式甕
SP 50	円形	逆台形	48～45	9	―	―	
SP 51	楕円形	逆台形	42～32	11	19～15	―	
SP 52	楕円形	逆台形	47～37	13	21～18	―	
SP 53	楕円形	逆台形	40～36	22	21～16	―	庄内式甕・布留式甕

註　竪穴式住居内の小穴は削除している。

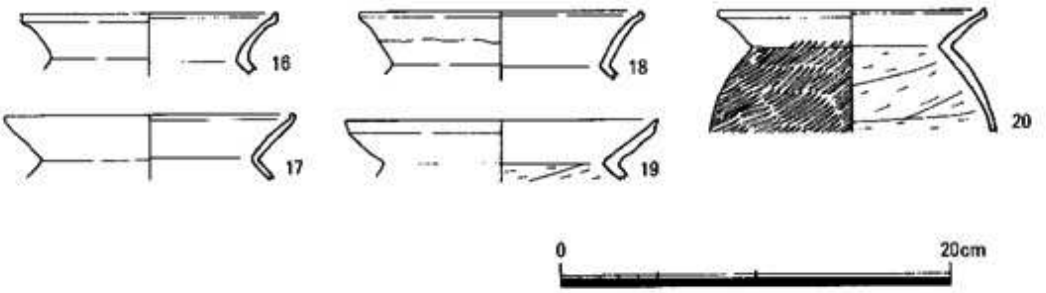
溝（SD）

SD1

調査区の北部で検出した溝である。方向は南東一北西方向を示す。南東部は調査区外に至り、北西部は攪乱されている。規模は検出部で幅2.3m、深さ50～60cmを測る。底面には約10cmを測る高低差があり、北西側に低くなっている。断面は逆台形を呈する。堆積土は、上方から暗茶灰色粘砂土・灰茶色砂粘土・灰褐色細砂・灰褐色シルト・灰茶色砂混粘土・暗茶灰色シルト粘土・淡灰黄色シルト・暗灰青色シルト粘土である。遺物は、暗灰青色シルト粘土内からの出土がほとんどである（第20図）。器種には壺・第Ⅴ様式系甕・庄内式甕（16～20）・布留式甕・小型丸底壺・高杯などがある（第21図）。



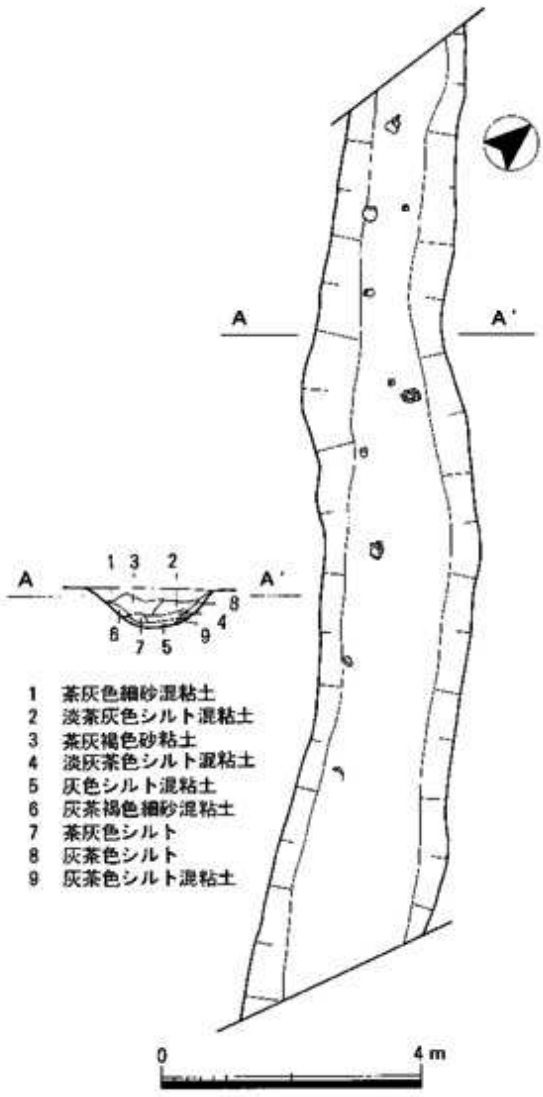
第20図　SD1平断面図



第21図　SD1出土遺物実測図

SD2

調査区のSD1南部で検出した溝である。方向は南東一北西方向を示し、SD1とほぼ平行する。規模は検出部で、幅1.8m～2.8m、深さ50～60cmを測る。断面は緩やかな逆台形を呈し、底面の高低差は東南部が高く、北西側へ低くなっている。堆積土は、上方から茶灰色細砂混粘土・淡茶灰色シルト混粘土・茶灰褐色砂粘土・淡灰茶色シルト粘土・灰色シルト混粘土・灰茶褐色細砂混粘土・茶灰色シルト・灰茶色シルト・灰茶色シルト混粘土である。SI1とS



第22図　SD2平断面図

K3は、この溝が埋没したのちに構築されている（第22図）。遺物は、上層から庄内式新相に比定される土師器の小片が少量出土している。器種には壺（21～25）・第V様式系甕・庄内式甕（26～32）・高杯（33～34）などがある（第23図）。

SD3

調査区南部の西壁付近で検出した溝で、SK8を切り、SK5に切られている。平面は緩やかな円弧を描きながら西壁に至る。規模は検出部で、幅40～100cm、深さ15cmを測る。断面は東側が深くなった逆台形である。堆積土は淡灰茶色シルト混粘土の単一層である。遺物は出土していない。

SD4

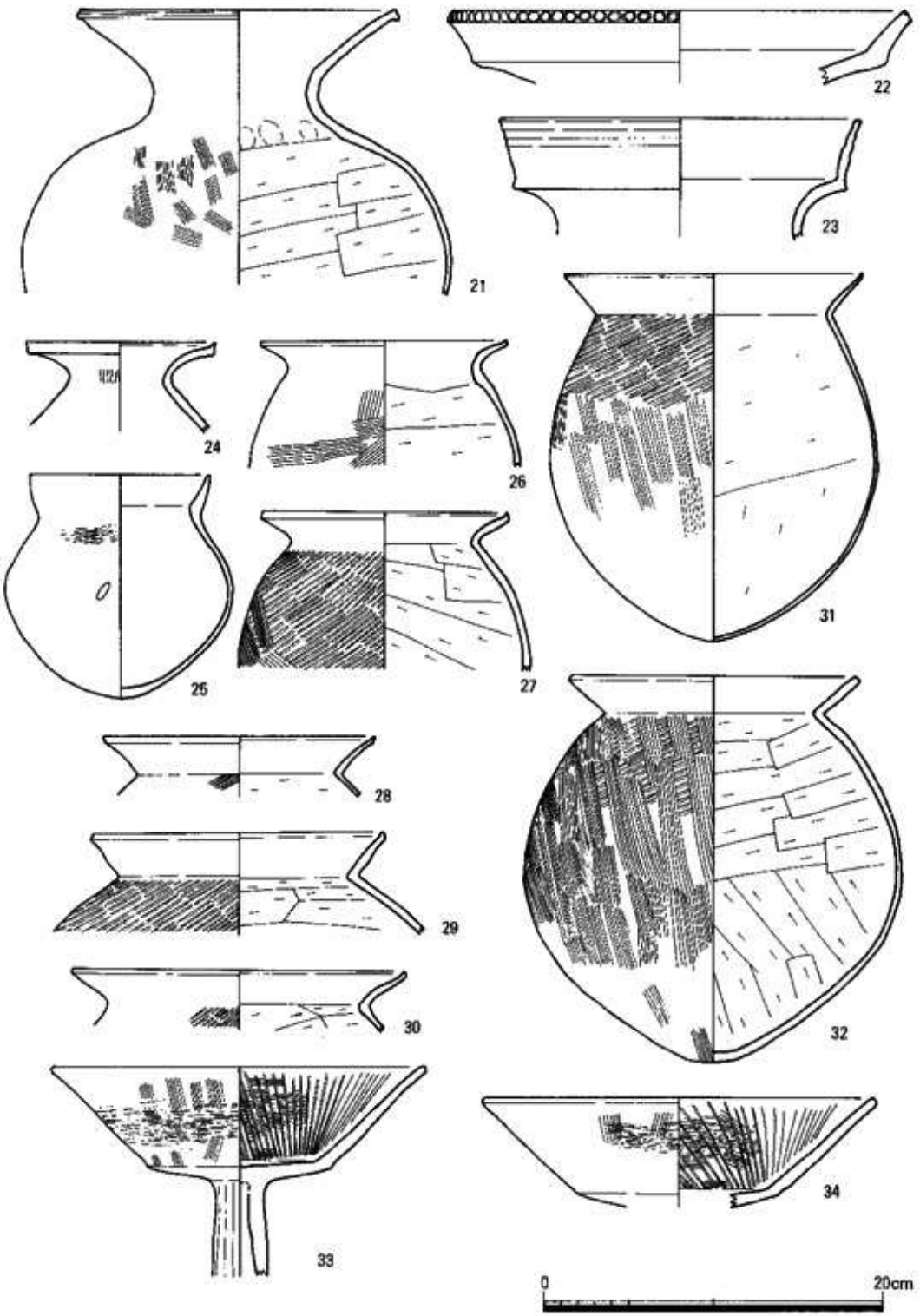
調査区の南部付近で検出した溝である。西肩の一部はSK4によって切られている。方向は南西一北東方向を示す。規模は検出部で、幅15～30cm、深さ10cmを測る。断面はU字形を呈する。堆積土は灰褐色シルト・灰色微砂混粘土である。遺物は出土していない。

SD5

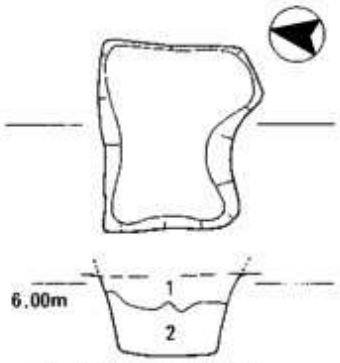
調査区の南部付近で検出した溝である。平面がL字形を呈している。規模は検出部で、幅20～30cm、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は茶灰色粘質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

SD6

調査区の南部で検出した溝である。SK8を切り、西部は調査区外に至る。方向は南東一北西方向を示す。北西部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅10～15cm、深さ5cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は灰茶色細砂混粘土の単一層である。遺物は出土していない。



第23図　ＳＤ２出土遺物実測図



第24図　ＳＥ２平断面図

2　平安時代後期

井戸（ＳＥ）

ＳＥ２

調査区中央部からやや東寄りで検出した素掘りの井戸である。この井戸は第５層（古墳時代前期の遺物包含層）の上面から切込んでいる。平面は隅丸方形を呈する。規模は検出部で、東西1.5m、南北1.1m、深さ80cm以上を測る。断面は逆台形を呈し、底面は平坦で湧水層まで達している。堆積土は暗茶灰色シルト混粘土・灰色粘土と青灰色シルトがブロック状に混在している。遺物は、内部から古墳時代前期に比定される土器が出土しているが、時期は層位的に平安時代後期に比定されるであろう（第24図）。

Ⅳ　出土遺物観察表

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 口径 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1	甕 （土師器） ＳＩ２	口 径14.4	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	暗灰茶色	角閃石・長石等の細砂粒を含む。	良好	
2 九	大形鉢 （土師器） ＳＩ２	口 径37.8 器 高27.8 底 径10.8 最大径35.5	中位よりやや上位に最大径をもつ体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。底部は突出しない平坦な平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（６本）、内面上位ヘラ削り、下位ナデ。	淡茶灰色	長石・雲母・角閃石・チャート・石英等の細砂粒を含む。	良好	煤付着。
3	壺 （土師器） ＳＫ１	口 径14.6 器 高19.8 最大径18.5	最大径を中位にもつ偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部内面上位に接合痕２本を有する。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヘラミガキ、体部内外面ナデ。	淡茶灰色	長石・石英雲母等の細砂粒を含む。	良好	
4	同上 ＳＫ１	口 径22.2	口縁部は外上方へ伸び、端部は垂下し、上方に粘土を補充して拡張して丸い。端部外面に円形浮文（径0.7cm）を飾る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 淡茶灰色 内 淡灰褐色	長石・チャート等の細砂粒を含む。	良好	
5	甕 （土師器） ＳＫ１	口 径15.2	口縁部は斜上方へ若干外反気味に伸び、端部は若干つまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡灰褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
6	同上 ＳＫ１	口 径16.9	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡灰褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
7 九	同上 ＳＫ１	口 径12.2	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、斜上方に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ（５本）、下位ハケナデ（６本）、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	長石・チャート・石英等の細砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm)	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
8	甕 (土師器) SK1	口径 17.8	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩滅の為不明、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	長石・チャート・石英等の細砂粒を含む。	良好	
9	同上 SK1	口径 15.8	上内方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部は剥離の為不明、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
10	高杯 (土師器) SK1	口径 21.2 器高 12.6 脚底径 14.4	平坦な杯底部から屈曲し、上外方へ短く伸びた後屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。脚部は下外方に伸びる中空の柱状部から屈曲し、外下方へ開く裾部に至る。端部は丸い。裾部に四方孔を有する。 杯部内外面ハケナデ後ヘラキガキ、杯底部外面ヨコナデ、脚部外面ハケナデ後ヘラミガキ、内面上位ヘラ削り後ナデ、下位ヨコナデ。	淡灰茶色	長石・チャート・石英等の微砂粒を少量含む。	良好	
11	同上 SK1	脚底径 14.5	下外方へ伸びる中空の柱状部から屈曲し、外下方へ大きく開く裾部に至る。端部は丸い。裾部に四方孔を有する。杯部は欠損。 柱状部外面ヘラ削り、内面ヘラ削り後ナデ、裾部内外面ハケナデ後ナデ。	淡灰茶色	長石・チャート・石英等の細砂粒を含む。	良好	
12	甕 (土師器) SK2	口径 14.1	口縁部は上外方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、内面ヘラ削り。	暗灰茶色	角閃石・長石・雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	
13	高杯 (土師器) SK2	口径 13.4	平坦な杯底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。脚部は欠損。 杯部内外面摩滅の為不明。	暗灰茶色	角閃石・雲母等の細砂粒を含む。	良好	
15	甕 (土師器) SP12	口径 14.4 器高 22.1 最大径 19.8	最大径を中位にもつ楕円形の体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は上に面をもつ。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩滅の為調整不明。内面ヘラ削り、底部ナデ。	淡灰茶色	長石・石英角閃石・雲母等の細砂粒を含む。	良好	
16	同上 SD1	口径 13.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	暗灰茶色	角閃石・雲母等の細砂粒を含む。	良好	煤付着。
17	同上 SD1	口径 14.6	口縁部は上外方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡灰茶色	長石・石英等の細砂粒を含む。	良好	煤付着。
18	同上 SD1	口径 14.4	口縁部は上外方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。口縁部外面に接合痕1本を有する。 口縁部内外面ヨコナデ。	暗灰茶色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を含む。	良好	
19	同上 SD1	口径 16.0	口縁部は斜上方へ内湾気味に伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	暗灰茶色	角閃石・雲母等の細砂粒を含む。	良好	
20	同上 SD1	口径 13.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）後ハケナデ（4本）、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	長石・チャート・石英等の細砂粒を含む。	良好	
21 九	壺 (土師器) SD2	口径 18.5	上内方へ内湾して伸びる体部から緩やかに屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は下方に肥厚し、外傾する凹面をもつ。体部は下位欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（10本）、内面指頭痕・ヘラ削り。	淡灰褐色	長石・チャート・石英等の細砂粒を含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量(cm) 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
22	壺 (土師器) SD2	口 径 26.6	口縁部は外上方へ伸びた後屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる。端部は外傾する面をもち、竹管押圧文を施す。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	暗灰茶色	角閃石・長石・雲母・石英等の細砂粒を含む。	良好	
23	同上 SD2	口 径 21.0	口縁部は外上方へ伸びた後屈曲し、直上へ伸び、端部は丸い。外面に凹線5条を有する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	内外 淡灰褐色 断面 黒褐色	長石・チャート・石英等の細砂粒を含む。	良好	
24 九	同上 SD2	口 径 11.1	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、内面ナデ。	淡灰褐色	長石・チャート・石英等の細砂粒を含む。	良好	
25 九	同上 SD2	口 径 14.6	最大径を中位よりやや上にもつ球形の体部から屈曲し、直上へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ヘラミガキ、下位及び内面は摩滅の為不明。	淡灰褐色	長石・チャート・石英等の細砂粒を含む。	良好	
26	壺 (土師器) SD2	口 径 14.6	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ緩やかに外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(6本)後ナデ、内面ヘラ削り。	外 淡灰褐色 内 黒灰色	長石・チャート・石英等の細砂粒を含む。	良好	
27 九	同上 SD2	口 径 14.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)・一部ハケナデ、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を含む。	良好	
28	同上 SD2	口 径 16.0	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は若干つまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を含む。	良好	
29	同上 SD2	口 径 17.2	口縁部は上外方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ヘラ削り。	暗灰茶色	角閃石・長石・石英・雲母等の細砂粒を含む。	良好	
30	同上 SD2	口 径 19.6	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を含む。	良好	
31	同上 SD2	口 径 17.6 器 高 21.7 最大径 19.4	最大径を中位にもつ楕円形の体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部は尖り気味の丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)後ハケナデ(10本)、内面ヘラ削り。	茶灰褐色	長石・チャート・石英等の細砂粒を含む。	良好	
32	同上 SD2	口 径 16.8 器 高 23.0 最大径 22.4	最大径を中位にもつ球形に近い体部から屈曲し、外上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は尖り底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)後ハケナデ(13本)、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	長石・チャート・石英等の細砂粒を含む。	良好	
33	高杯 (土師器) SD2	口 径 21.8	平坦な杯底部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。中空の柱状部は下方に伸びる。裾部は欠損。 杯部外面ハケナデ後ヘラミガキ、内面ハケナデ・ヘラミガキ後放射状暗文。	茶褐色	角閃石・長石・チャート・石英等の細砂粒を含む。	良好	
34 九	同上 SD2	口 径 23.0	平坦な杯底部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部外面ハケナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ・ハケナデ後放射暗文。	茶褐色	角閃石・長石・石英等の細砂粒を少量含む。	良好	

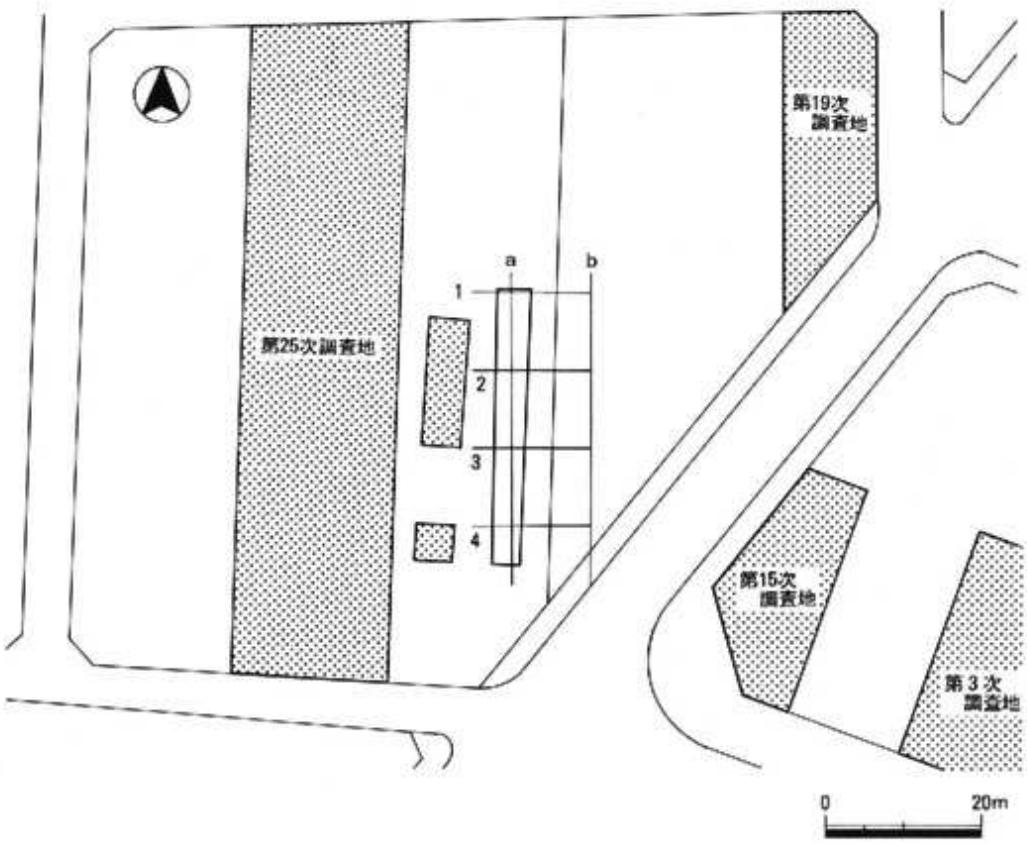
第2節　第12次調査

Ⅰ　調査の概要

今回の調査は八尾市北本町2丁目133－1・2、134－3番地に所在する貸ビル建設工事に伴う発掘調査である。この調査は八尾市教育委員会・当調査研究会が当遺跡内で実施した第12次調査にあたる。当調査地は第4次調査地の同一地内であり、この調査区の東側に接する所で南北に長いトレンチ（40×5m）を設定した。調査対象面積は約300㎡である。

掘削は、現地表から約1.5m（盛土・旧耕土・床土）までを機械掘削し、これより以下0.3mは人力による掘削・精査を実施した。

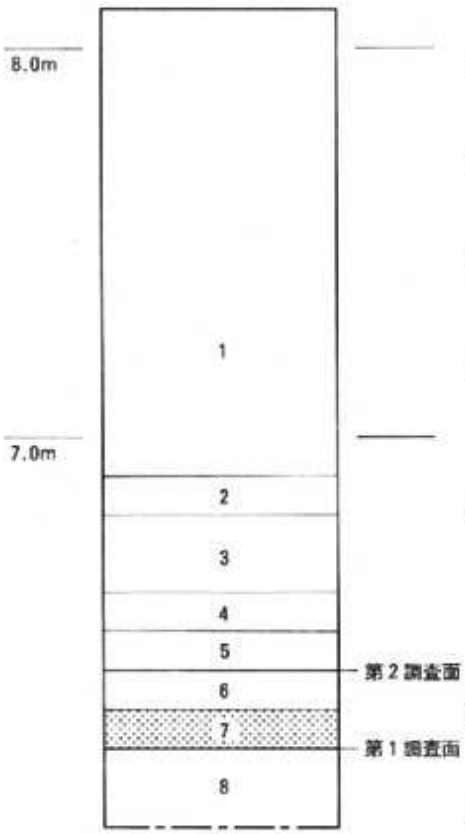
地区割は、機械掘削後、調査区の中央部に任意の基準点を設けて磁北方向に向け、東西10m・南北40mに渡って設定した。設定した一区画の単位は10m四方で、北西隅を基準とし、東西線は数字（1～4）、南北線はアルファベット（a～b）を付称した。なお、地区名の表示は一区画の北部に交差する東西線・南北線を用い、1a～4bと付称した（第25図）。



第25図　調査区設定図及び地区割図

Ⅱ　基本層序

当調査地において普遍的にみられる８層を基本層序とした。この基本層序は第４次調査地で検出された土層の堆積状況とほぼ同じ堆積である。現地表面は標高8.0ｍを測る。以下、各層について記す（第26図）。



第26図　基本層序柱状図（S＝1/20）

第１層盛土：層厚160㎝。区画整理事業によって埋立てた土層で、一時は耕作している。

第２層旧耕土：層厚10㎝。近年まで農地として利用されていた耕作土である。

第３層灰褐色砂粘土：層厚20㎝。近世陶磁器などの小片を少量含む土層で、耕土の床土である。

第４層茶灰色粘砂：層厚５～10㎝。薄くほぼ水平に堆積する土層で、近世の遺物を少量含む。

第５層淡灰黄褐色微砂：層厚５～10㎝。中世の時期の氾濫によって堆積した土層と考えられる土器の小片が少量出土している。

第６層茶灰褐色粘質土：層厚10～20㎝。この土層は、平安時代後期に比定される水田の耕作土である。上面は標高6.5ｍを測り、畦畔１条と多数の足跡状の窪みを検出した。

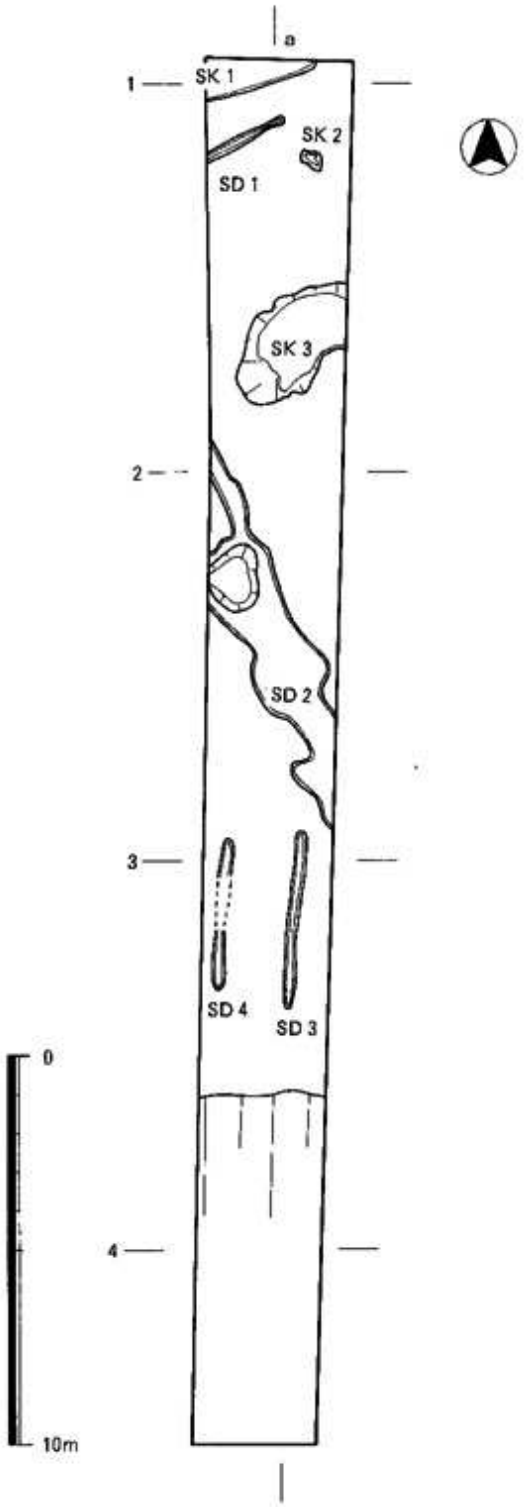
第７層暗灰色粘土：層厚10～20㎝。古墳時代前期の土器片を含む遺物包含層である。

第８層淡黄灰色粘土：層厚10～20㎝。南部へ緩やかに低くなる土層で、この上面から古墳時代前期の土坑・溝等の遺構が検出している。標高は6.0～6.2ｍを測る。

Ⅲ　検出遺構・出土遺物

第６層上面（第２調査面）と第８層上面（第１調査面）の２面を調査面とした。その結果、第１調査面では古墳時代前期に比定される土坑３基・溝４条・沼沢地を検出した。第２調査面では平安時代後期～鎌倉時代初頭に比定される水田と井戸１基を検出した。遺物はこれらの遺構内と第７層内から古墳時代前期に比定される土器の小片が少量出土している。出土量はコンテナ箱にして５箱分を数える。

以下、各遺構とそれに伴う遺物について概説する。なお、個々の遺物の法量・技法・調整などについては「Ⅳ　出土遺物観察表」として一括したので参照されたい。



第27図　第1調査面遺構平面図

1　第1調査面（古墳時代前期）

土坑（SK）

SK1

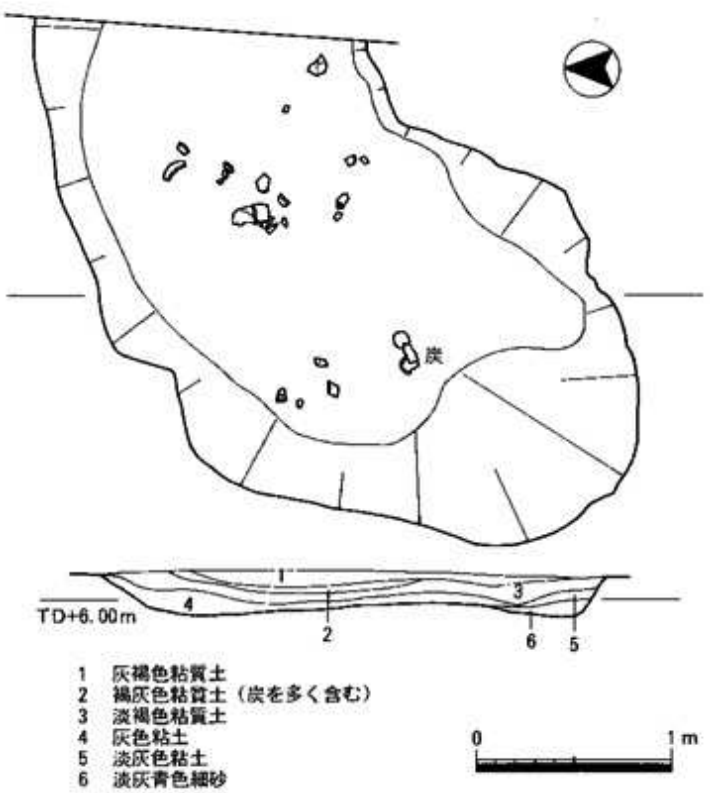
調査区北隅で検出した土坑で、北西部が調査区外に至る。平面の形状は不明である。規模は検出部で、東西3m、南北1.1m、深さ5cmを測る。断面は浅い逆台形を呈する。堆積土は淡灰色細砂の単一層である。遺物は、堆積土内から庄内式土器の小片がごく少量出土している。

SK2

調査区北部付近で検出した土坑である。平面は不定形を呈する。規模は最大幅1.3m、最小幅80cm、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰褐色粘土の単一層である。遺物は、堆積土内から庄内式土器の小片がごく少量出土している。

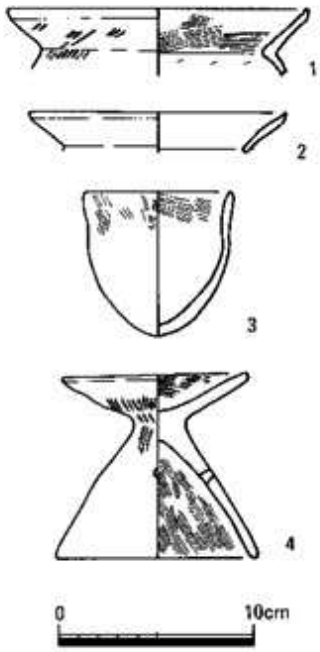
SK3

調査区北部の東壁付近で検出した土坑である。平面は不定形を呈する。東部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西2.6m、南北2.8m、深さ20cmを測る。断面は逆台形を呈する。底面には小穴がみられる。堆積土は、上方から灰褐色粘質土・褐灰色粘質土（炭を多く含む）・



1　灰褐色粘質土
2　褐灰色粘質土（炭を多く含む）
3　淡褐色粘質土
4　灰色粘土
5　淡灰色粘土
6　淡灰青色細砂

第28図　SK3平断面図



第29図　ＳＫ３出土遺物実測図

淡褐色粘質土・灰色粘土・淡灰色粘土・淡灰青色細砂である。遺物は、堆積土内から庄内式土器の小片が少量出土している。器種には壺・庄内式甕（１・２）・鉢（３）・器台（４）などがある（第28図・第29図）。

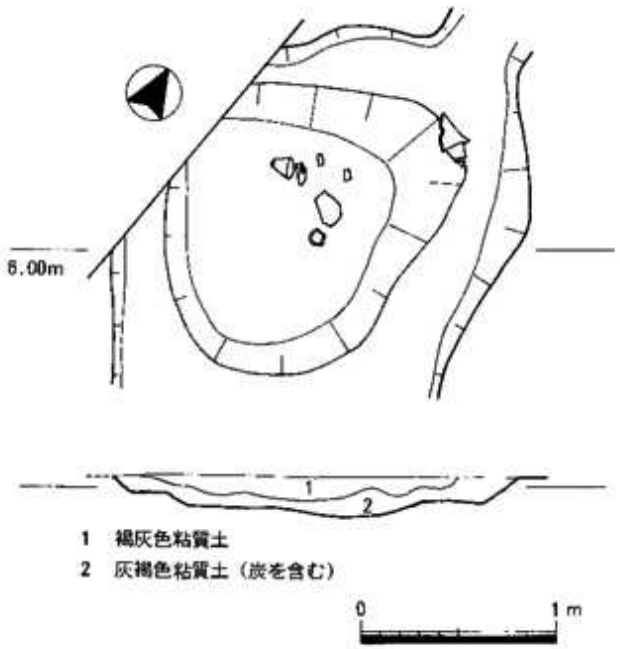
溝（ＳＤ）

ＳＤ１

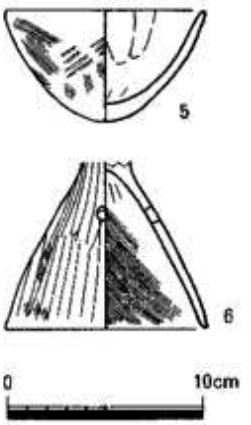
調査区北部で検出した溝である。方向は北東一南西方向を示す。規模は検出部で、幅10～30cm、深さ10cmを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は茶灰色粘質土の単一層である。遺物は出土していない。

ＳＤ２

調査区中央部付近で検出した溝である。方向は南東一北西方向を示す。規模は検出部で、幅１～２ｍ、深さ10cmを測る。断面は緩やかな逆台形を呈し、底面の北部には土坑状の窪みがみられる。堆積土は褐灰色粘質土・灰褐色粘質土（炭を含む）である。遺物は、土坑状の窪みの堆積土内から土師器の小片がごく少量出土している。器種には壺・庄内式甕・鉢（５）・器台（６）などがある（第30図・第31図）。



第30図　ＳＤ２平断面図



第31図　ＳＤ２出土遺物実測図

SD3

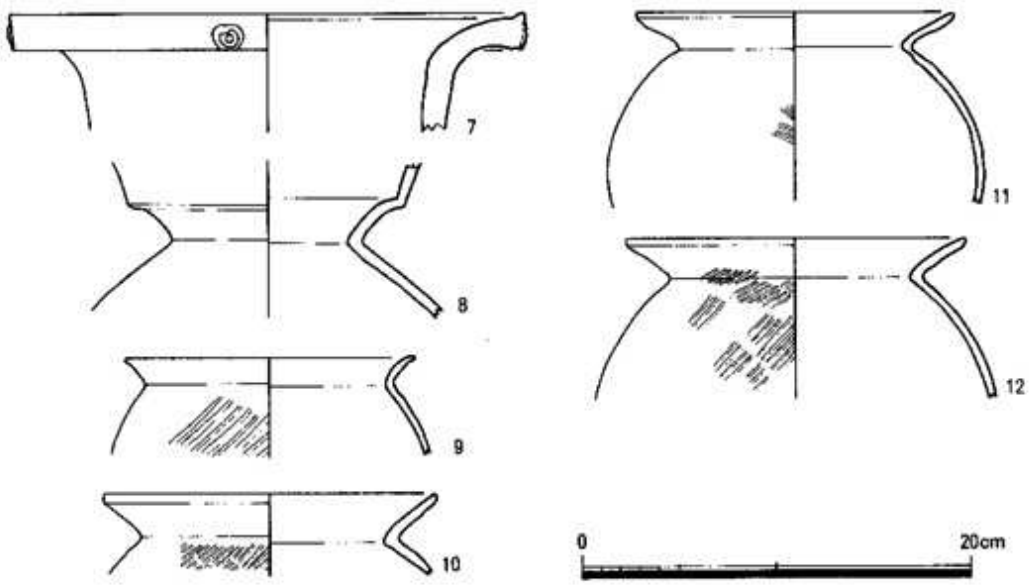
調査区南部付近で検出した溝である。方向は南北方向を示す。SD4と平行に並んでいる。規模は検出部で、幅10～20cm、深さ10cmを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は茶灰色粘土の単一層である。遺物は出土していない。

SD4

調査区南部で検出した溝である。方向は南北方向を示し、SD3と平行に走る。規模は検出部で、幅10～28cm、深さ10cmを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は茶灰色粘土の単一層である。遺物は出土していない。

遺構に伴わない出土遺物

包含層は、今回の調査地で検出した基本層序の第7層にあたる。この下の第8層上面からは古墳時代前期に比定される遺構が検出されている。包含層は層厚約10～20cmを測り、この層内からは庄内式～布留式古相に比定される遺物が含まれていた。出土した遺物はコンテナ箱にして約1箱分で、ほとんどの遺物は土器の小片である。この中で、図示できたものは6点である。器種には壺（7・8）・第V様式系甕（9）・庄内式甕（10～12）がある（第32図）。



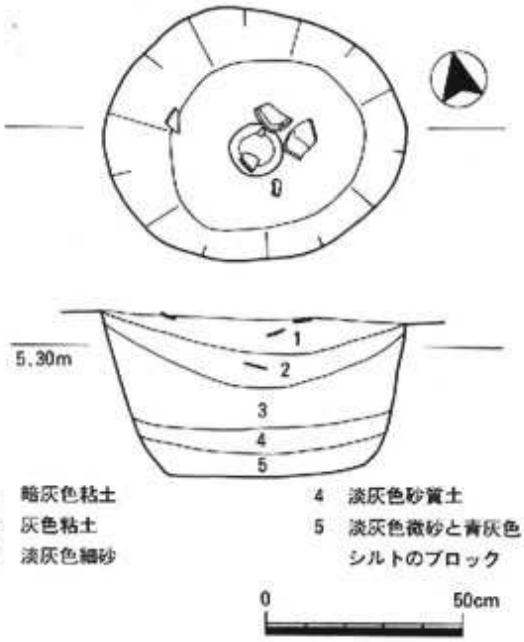
第32図　包含層出土遺物実測図

2　第2調査面（平安時代後期～鎌倉時代初頭）

井戸（SE）

SE1

調査区南部付近で検出した素掘り井戸である。平面はほぼ円形を呈する。規模は検出部で、径65～78cm、深さ40cmを測る。断面は緩やかな逆台形を呈する。井戸内には上方から第1層暗

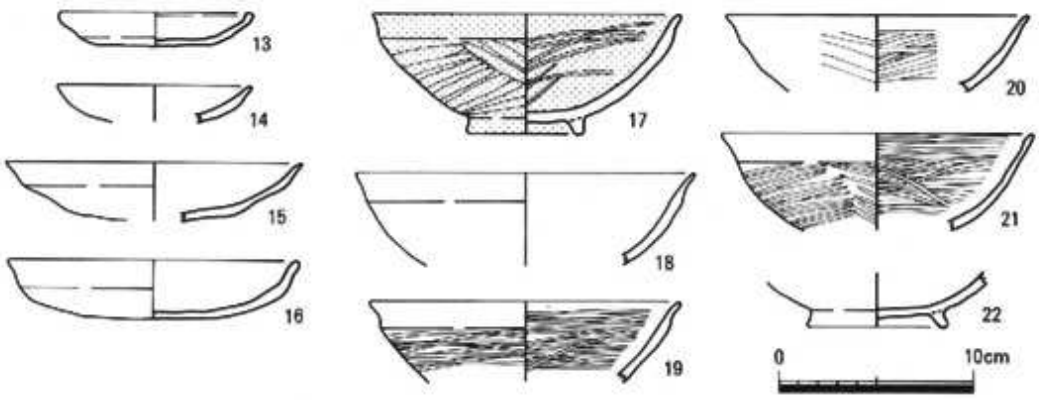


第33図　SE1平断面図

灰色粘土・第2層灰色粘土・第3層淡灰色細砂・第4層淡灰色砂質土・第5層淡灰色微砂と青灰色シルトのブロックが断面三日月状に堆積している（第33図）。遺物は、ほとんど第1層・第2層内に集中して出土している。器種には、第1層内から出土したほぼ完形の黒色土器の椀（17）と瓦器の椀（18～22）の小片、第2層内からは土師器の皿（13～16）などがある。時期は平安時代後期に比定されるであろう（第34図）。

水田

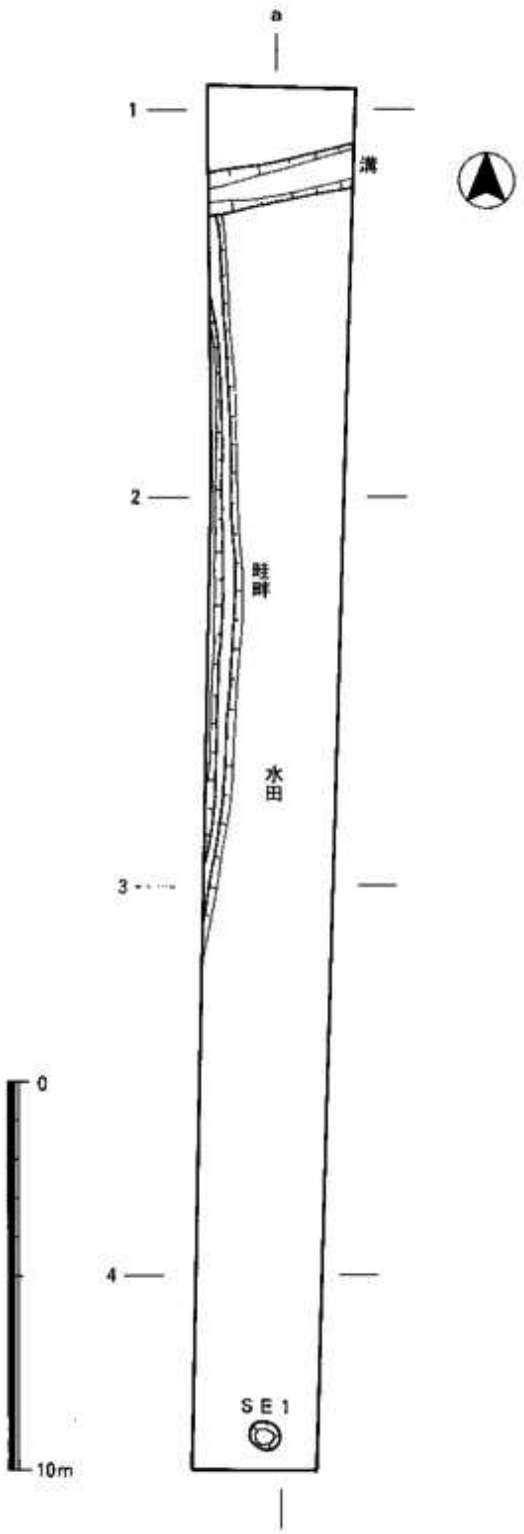
調査区全体で検出した。第6層上面で畦畔・足跡状の窪みがみられる水田である。この上面の一面には洪水などの氾濫によっ



第34図　SE1出土遺物実測図

て堆積したと考えられる微砂（第5層）が堆積している。水田の区画・田積等は不明である。

畦畔は、調査区の西壁に沿って緩やかな円弧を描きながら南北方向に伸び、西側の調査区外に至る。規模は上幅10～20cm、下幅40～70cm、高さ10～15cmを測る。断面は丸みのある台形を呈する。調査区北部には東西方向に至る溝がある。規模は検出部で、幅100m、深さ10cmを測る。この溝は畦畔と交差する関係にある。南部は、第4次調査の第1調査区で検出された東西方向の畦畔と交差すると考えられる。また、水田面には多数の足跡状の窪みがみられる。平面は主に円形及び楕円形を呈する。規模は径5～20cm、深さ3～10cmを測る。この足跡状の窪みは人及び鍬などの痕跡と考えられるが、全て丸みをおびており、はっきりとした形状はない。



第35図　第２調査面遺構平面図

Ⅳ　出土遺物観察表

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm) 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1	甕 (土師器) SK3	口 径 15.4	口縁部は外上方へ伸び、端部はやや上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面タタキ後ヨコナデ、内面ハケナデ（7本）後ヨコナデ、体部外面タタキ（5本）、内面ヘラ削り。	淡褐色	長石等の細砂粒を含む。	良好	
2	同上 (土師器) SK3	口 径 13.0	口縁部は外上方へ伸び、端部はやや上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡褐色	微砂粒を含む。	良	
3 一四	鉢 (土師器) SK3	口 径 7.4 器 高 7.4	半楕円形の体部から屈曲し、わずかに屈曲直立する口縁部に至る。端部は丸い。底部はやや尖り気味の丸底。 口縁部内外面ハケナデ（7本）、体部外面ナデ、内面ナデ（指頭痕）。	外 乳白色 内 赤褐色	細砂粒を含む。	良	煤付着。
4 一四	器台 (土師器) SK3	口 径 9.3 器 高 9.5 底 径 10.2	受部は外上方に伸び、端部は外傾する面をもつ。脚部は受部から下外方へ伸び、端部は丸い。脚部上位に三方の円孔を有す。 受部内外面ヘラミガキ、脚部外面摩滅の為不明、内面ハケナデ。	茶褐色	長石・角閃石・長石・雲母等の細砂粒を含む。	良	
5 一四	鉢 (土師器) SD2	口 径 10.0 器 高 5.7	半球形の体部から屈曲し、外上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 体部外面タタキ（3本）後ハケナデ（14本）、内面ヘラナデ。	淡茶褐色	長石等の細砂粒を含む。	良	
6 一四	器台 (土師器) SD2	口 径 10.4	脚部は下外方へ内湾気味に伸び、端部は丸い。脚部上位に二方の円孔を有す。受部は欠損。 脚部外面タタキ・ハケナデ後ヘラミガキ、内面ハケナデ（12本）。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
7 一四	壺 (土師器) 包含層	口 径 26.2	口縁部は直上した後水平方向に大きく外反して伸び、端部は上方に肥厚し、外に面をもち、円形浮文を施す。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 茶褐色 内 暗灰褐色	角閃石・長石・雲母等の粗砂粒を含む。	やや良	
8 一四	同上 包含層		内上方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は欠損。体部下位は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面剥離の為不明、体部内外面剥離の為不明。	外 淡赤灰色 内 暗灰色	長石等の細砂粒を含む。	やや良	
9	甕 (土師器) 包含層	口 径 14.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外へつまむ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（2本）、内面ナデ。	淡灰褐色	細砂粒を含む。	やや良	
10	同上 包含層	口 径 16.8	口縁部は外上方へ伸び、端部はやや上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）。	灰褐色	長石・チャート・雲母等の細砂粒を含む。	良	
11	同上 包含層	口 径 16.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部下位は欠損。 内外面摩滅の為不明。	暗茶褐色	長石・雲母等の細砂粒を含む。	やや良	

遺物番号 図版番号	種別 出土地点	法量（cm）口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
12	鉢 （土師器） 包含層	口 径 17.4	口縁部は上外方へ伸び、端部はわずかにつまみ上げる。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。	暗褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	やや良	
13 一四	小皿 （土師器） SE1	口 径 9.6 器 高 1.7	平坦な底体部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸く、内方に若干つまむ。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部外面指頭痕内面ナデ。	乳白色～赤褐色	精良。	良好	
14	同上 SE1	口 径 9.9	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ナデ、体部外面指頭痕、内面ナデ。	乳白色	精良。	良好	
15	中皿 （土師器） SE1	口 径 15.2	皿形の体部から外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は一部欠損。 内外面ナデ。	外 淡灰白色 内 乳白色	精良。	良好	
16 一四	同上 SE1	口 径 14.8	皿形の体部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ、底体部外面指頭痕、内面ナデ。	外 淡灰白色 内 乳白色	精良。	良好	
17 一四	椀 （黒色土器） SE1	口 径 15.8 底 径 5.8 器 高 6.1	半球形の体部から若干器肉を減じて上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。高台は断面台形である。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ヘラミガキ、高台ヨコナデ。	黒灰色	精良。	良好	
18	椀 （瓦器） SE1	口 径 17.4	浅い半球形と思われる体部から器肉を減じて上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヨコナデ。	外 乳白色 内 灰白色	精良。	良好	
19	同上 SE1	口 径 15.8	浅い半球形と思われる体部から器肉を減じて上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ヘラミガキ。	黒灰色	精良。	良好	
20	同上 SE1	口 径 15.4	浅い半球形と思われる体部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ヘラミガキ。	外 白灰色 内 灰黒色	精良。	良好	
21	同上 SE1	口 径 15.8	浅い半球形と思われる体部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、他はヘラミガキ。	黒灰色	精良。	良好	
22	同上 SE1	口 径 6.8	底体部は丸みをもつ。高台は断面方形で、端部は丸みがある。口縁部は欠損。 底体部外面ヨコナデ、内面ヘラミガキ。	暗灰色	微砂粒を少量含む。	良好	

第３節　第13次調査

Ⅰ　調査の概要

今回の調査地は八尾市桜ケ丘３丁目32－３に所在し、共同住宅建設工事に伴う発掘調査である。この調査は大阪府教育委員会及び当調査研究会が当遺跡内で実施した第13次調査にあたる。調査地は当遺跡内の北東部に位置し、東側（40～80ｍ）には第１次・第２次・第７次調査地が近接している。

調査は、排土の搬出・周囲の他の土地などの諸条件を考慮して、調査地を２分した。東部は第１調査区（８×８ｍ）、西部は第２調査区（８×８ｍ）と付称し、順次行った。調査面積は128㎡を測る。掘削は、第７次調査の調査データをもとに、現地表から盛土・旧耕土を機械掘削し、これより以下は人力による掘削・精査を実施した。

地区割は、第１調査区の中央部に任意の基準点を設け、磁北方向に合せ、東西20ｍ、南北10ｍに渡って設定した。設定した一区画は５ｍ四方で、北西隅を基準とし、東西線は数字（北から１～３）、南北線はアルファベット（西からａ～ｄ）を付称した。なお、地区名の表示は、一区画の北西隅に交差する東西線・南北線を用い、１ａ～３ｄを付称した（第36図）。

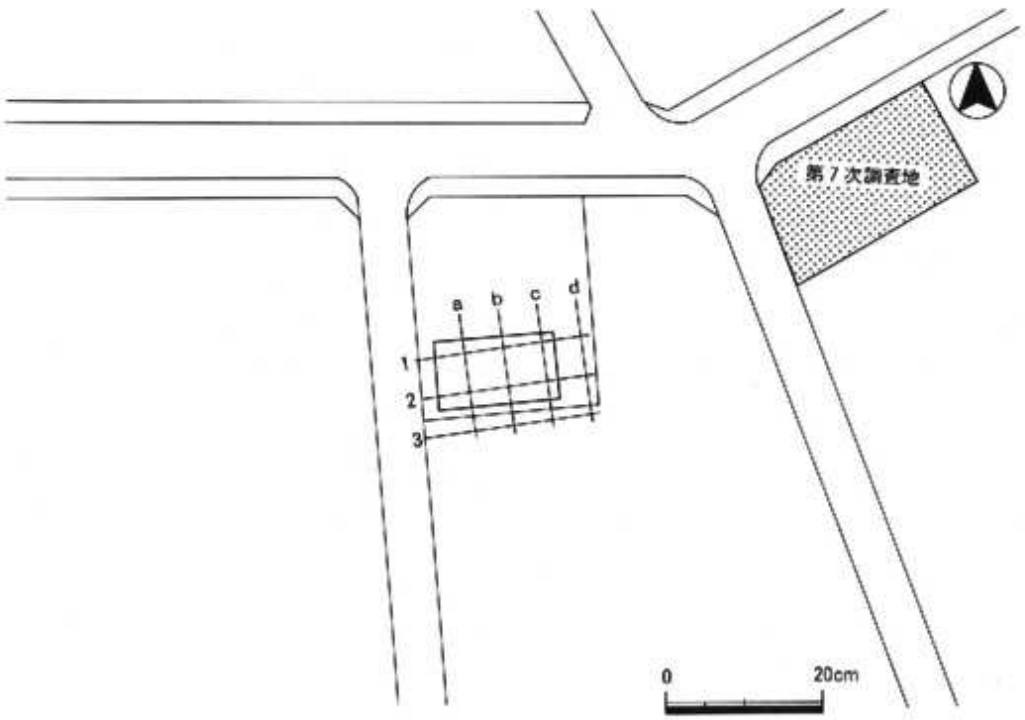
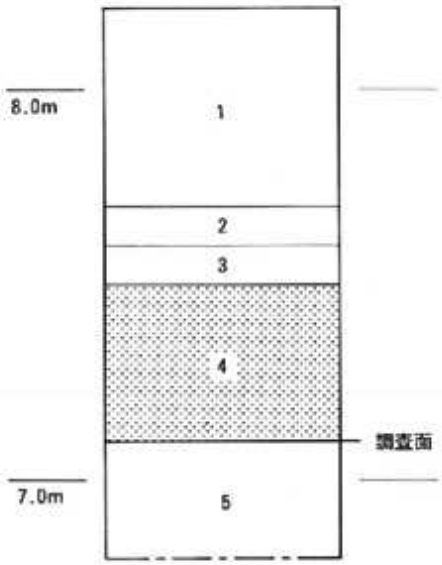


図36図　調査区設定図及び地区割図

Ⅱ　基本層序

当調査地において普遍的にみられる５層を基本層序とした。現地表面は標高8.4ｍを測る。以下、検出した各土層について記す（第37図）。



第37図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／20）

第１層盛土：層厚40～60㎝。この土層は、区画整理事業によって埋立てたものである。

第２層旧耕土：層厚10～20㎝。この土層は、昭和55年まで土地利用された耕作土である。

第３層茶灰色粘質シルト：層厚20～40㎝。この土層内からは、古墳時代から近世にかけての土師器・須恵器・瓦などの小片をわずかに含む。この土層は耕作土の床土である。

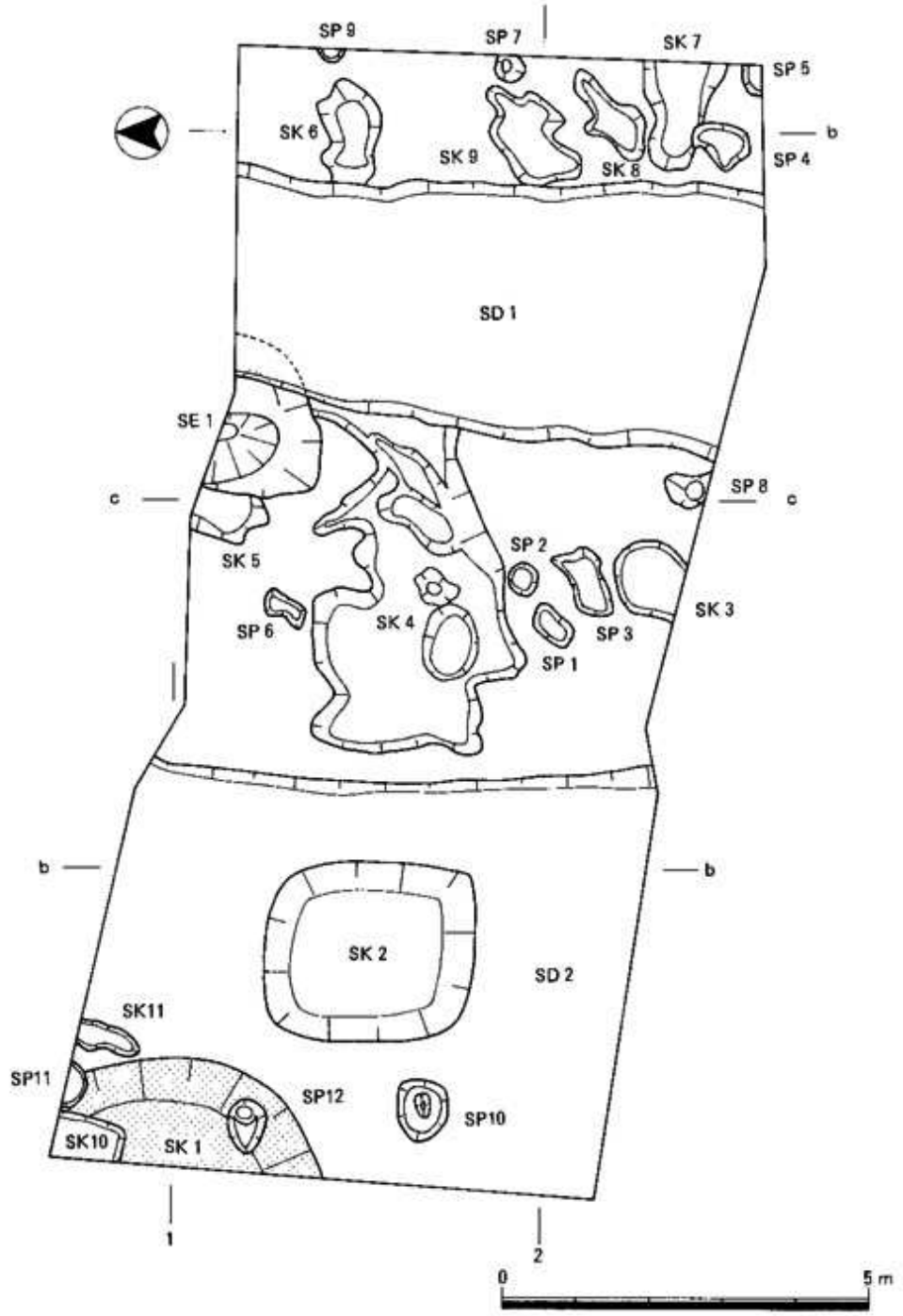
第４層暗茶灰色粘質シルト：層厚30～50㎝。この土層内には古墳時代～鎌倉時代にかけての土師器・須恵器・製塩土器・瓦器・青磁器などの遺物が多量に包含している。この層は鎌倉時代に整地された整地層と考えられる。

第５層黄灰色シルト：層厚30～40㎝。この土層の上面では弥生時代後期～古墳時代前期の遺構と、古墳時代中期～鎌倉時代にかけての遺構を検出している。上面は標高7.0ｍを測る。

Ⅲ　検出遺構・出土遺物

第５層上面を調査面とした。その結果、第５層上面から切込む弥生時代後期～古墳時代前期の土坑２基、古墳時代中期～後期の土坑９基・小穴13個、鎌倉時代の井戸１基・溝状遺構１基と、第３層上面（標高7.5ｍ）から切込む江戸時代の溝状遺構１条を検出した。遺物はこれらの遺構内と第４層内で出土した。第４層内からは古墳時代～鎌倉時代にかけての土器が多量に出土している。当調査区で出土した遺物はコンテナ箱にして約10箱分を数えるが、大半は土器の小片であった。

以下、各時代の遺構とそれに伴う遺物について概説する。なお、調査区は２分して調査を実施しているが、本文では１つの調査区として報告した。また、個々の遺物の法量・技法・調整などについては「Ⅳ　出土遺物観察表」として一括したので参照されたい。


SP 9
SP 7
SK 7
SP 5
SK 6
SK 9
SK 8
SP 4
b
SD 1
SE 1
c
SP 8
c
SK 5
SP 2
SK 3
SP 6
SK 4
SP 3
SP 1
b
b
SK 2
SD 2
SK11
SP11
SP12
SP10
SK10
SK 1
1
2
0
5 m

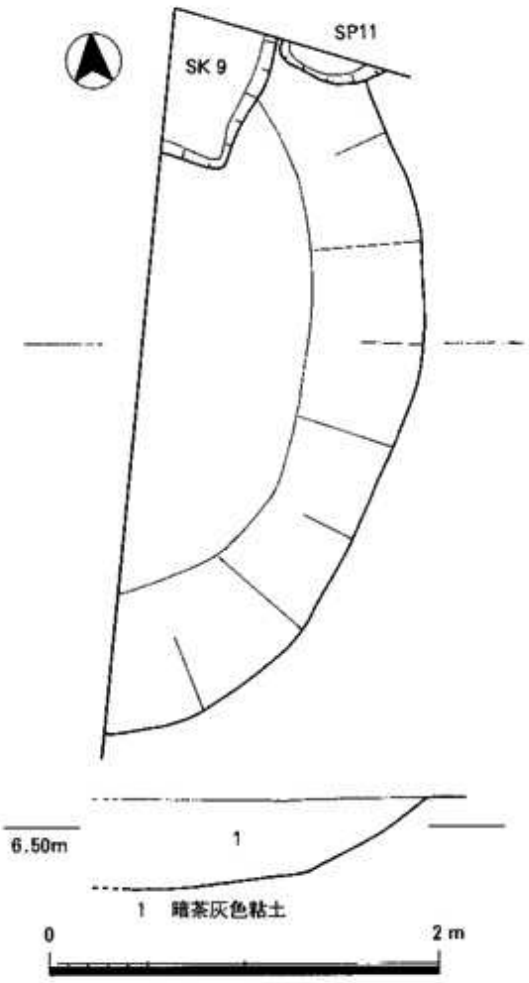
第38図　遺構平面図

1　弥生時代後期～古墳時代前期

土坑（SK）

SK1

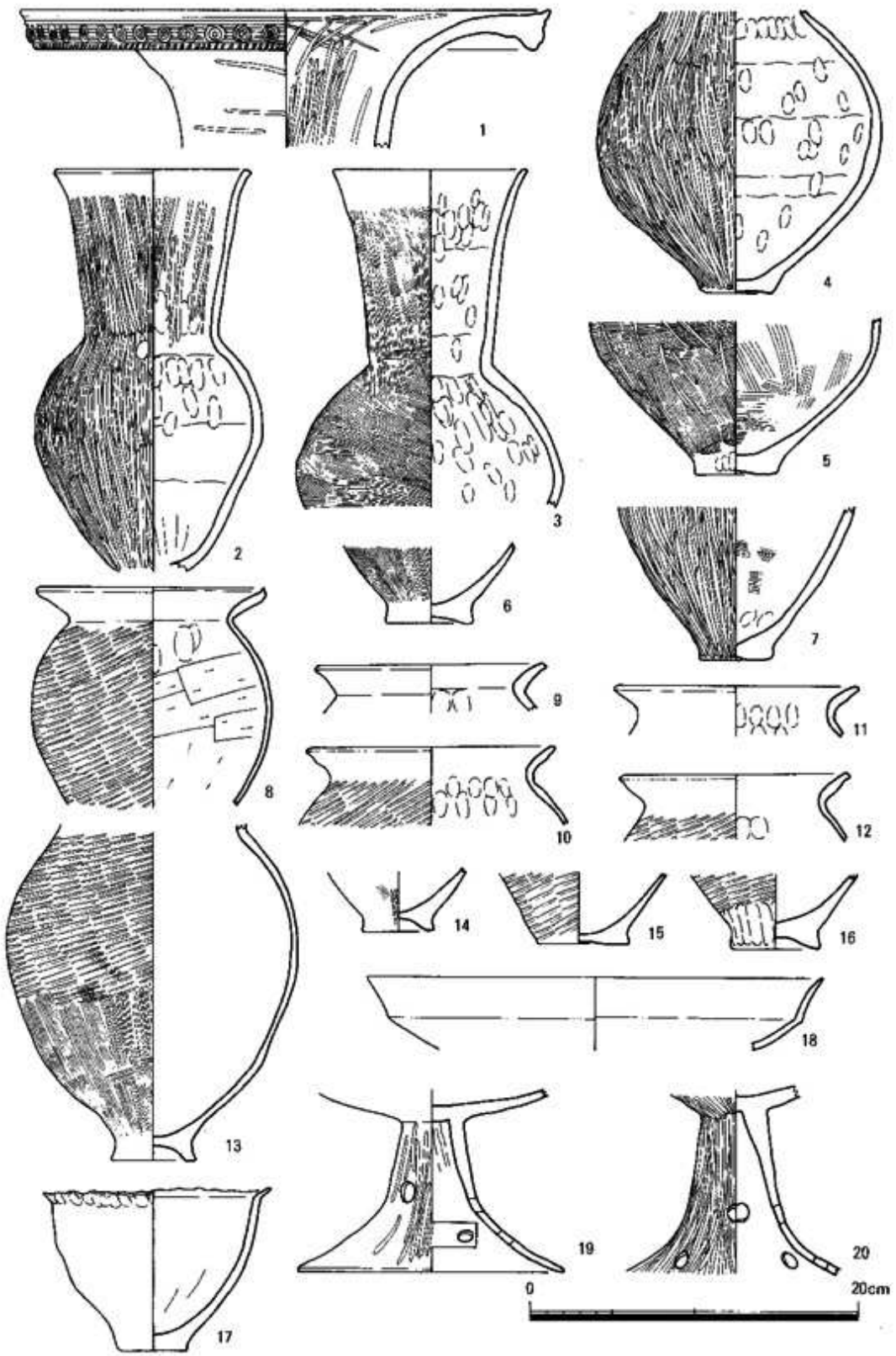
調査区の北西隅で検出した土坑である。上部は古墳時代中期の遺構（SK10・SP11・SP12）に切られ、江戸時代以降の遺構（SD2）で削平されている。西部は調査区外に至る。平面は半円形を呈する。規模は検出部で、東西1.5m、南北4m、深さ40cmを測る。断面はほぼ半円形を呈し、底面には緩やかな起伏がみられる。堆積土は暗茶灰色粘土の単一層である（第39図）。遺物は、堆積土内から畿内第Ⅴ様式に比定される土器がコンテナ箱にして2箱分出土している。器種には、口縁部が大きく外反する壺（1）、最大径を上位にもつ体部で外面にヘラミガキを施すもの（2・4・7）と、最大径を中位にもつ体部で外面にハケナデを施すもの（3・5・6）に大きく二分類できる長頸壺、Ⅴ様式系甕（8～12）突出する上げ底の底部をもつ甕（13～16）、完形で出土した突出する平底の底部をもつ鉢（17）・口縁部のみの高杯（18）と、上下二段の円孔をもつ脚部のみの高杯（19・20）などがある。これらの土器は弥生時代後期の畿内第Ⅴ様式に比定される（第40図）。



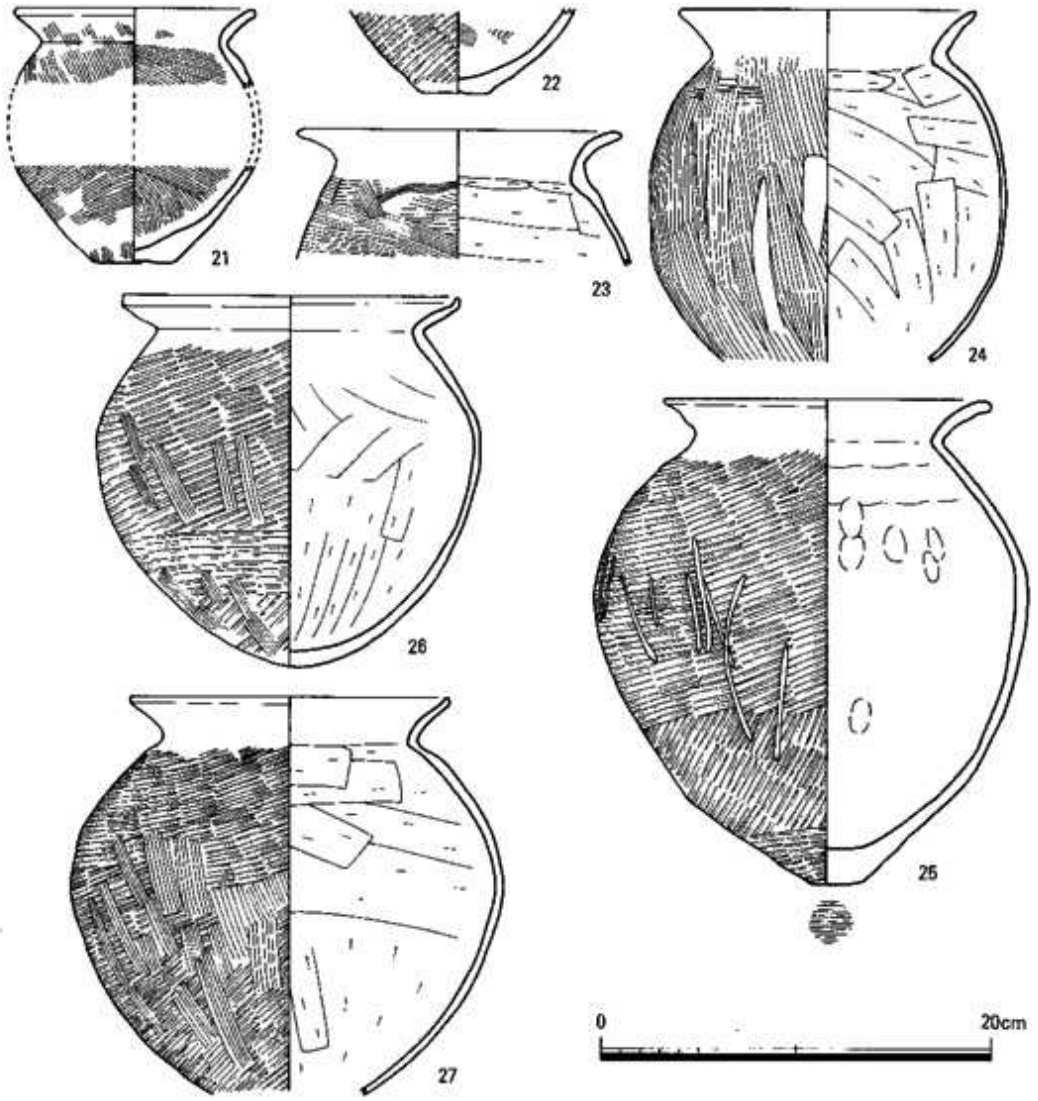
第39図　SK1平断面図

SK2

調査区の西部付近で検出した土坑である。平面は方形を呈すると考えられる。規模は検出部で、最大幅4m、最小幅3m、深さ40cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は調査面である第5層黄灰色シルトとほぼ同じ土層で、平面的には遺構の輪郭を検出するのが困難であったが、試掘溝を掘ることによってこの土坑が検出された。底面には炭化物層が薄く堆積している。遺物は底面上に横たわった形で完形又は完形に近い土器が出土された。器種は甕（21～27）だ



第40図　ＳＫ１出土遺物実測図



第41図　ＳＫ２出土遺物実測図

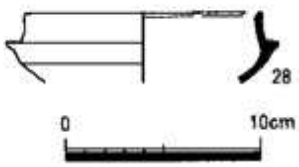
けである。甕には突出しない平底で、体部内面がハケナデ又は指ナデ調整のもの（21・22・25）と、丸みをもつ底で、体部内面がヘラ削りを施すもの（26・27）がある。こられの甕は古墳時代前期の庄内式古相に比定されよう（第41図）。

2　古墳時代中期～後期

土坑（SK）

SK3

調査区南部の中央寄りで検出した土坑である。平面はほぼ円形を呈する。規模は検出部で、径1m、深さ21cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は茶灰色粘質シルトである。遺物は、堆積土内から土師器・須恵器の杯身（28）などが少量出土している（第42図）。



第42図　SK3出土遺物実測図

SK4

調査区中央部付近で検出した土坑である。東部はSD1に切られている。平面は不定形を呈する。規模は検出部で、東西3m、南北1.2m、深さ10～20cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面には凹凸がみられる。堆積土は暗灰茶色シルト粘土の単一層で、焼土・炭などが混入している。遺物は、堆積土内から土器の小片が少量出土した。器種には土師器の甕（29～32）・小形鉢（33）と、須恵器の杯蓋（39～43）・杯身（44～47）・甕（48・49）がある。須恵器には陶邑編年によるⅠ型式5段階～Ⅱ型式3段階に相当するものがある。その他には、製塩土器（34～38）の小片、6面の使用痕がみられる砥石（50）1点が出土している（第43図）。

SK5

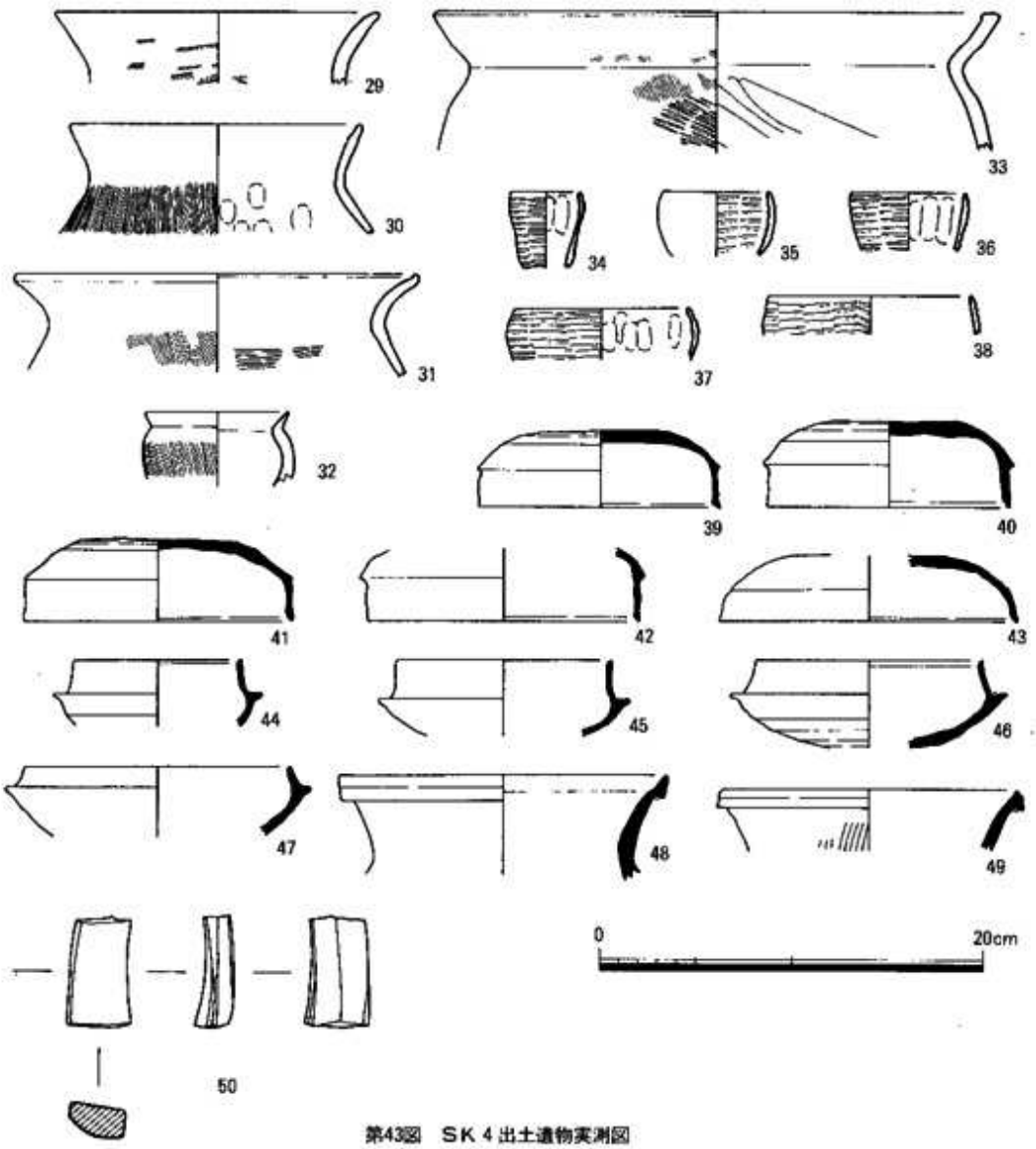
調査区の北壁付近で検出した土坑である。SE1によって切られ、北部は調査区外に至る。平面の形状は不明である。規模は検出部で、東西75cm、南北1m、深さ30cmを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は灰黒褐色シルトの単一層で、炭や灰等が多量に含まれている。遺物は、堆積土内から土師器の壺・鉢（51）、須恵器の杯蓋（52）・杯身がある。須恵器には陶邑編年によるⅠ型式5段階～Ⅱ型式2段階に相当するものがある（第44図）。

SK6

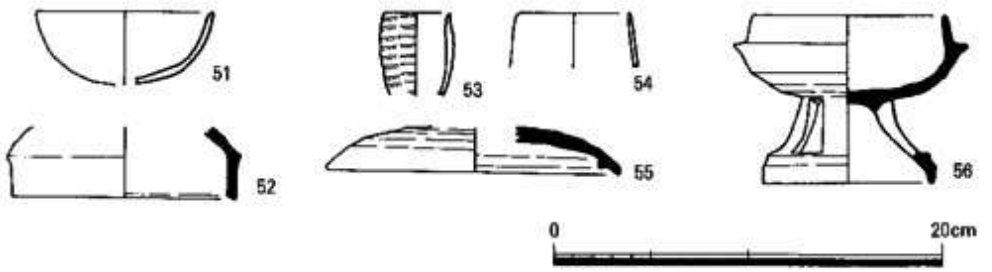
調査区北東部で検出した土坑である。西部の一部はSD1によって切られている。平面はやや楕円形を呈する。規模は検出部で、東西1.3m、南北80cm、深さ10～20cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面は北東方向へやや深くなっている。堆積土は灰茶色粘質シルトの単一層である。遺物は、堆積土内から須恵器の小片がごく少量出土している。

SK7

調査区南東の東壁付近で検出した土坑である。南西部はSP4によって切られ、東部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西1.6m、南北1.1m、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈する。土坑内は灰褐色粘土と黄灰色シルトがブロック状に堆積している。遺物は、堆積土内から土師器の甕、製塩土器（53）、須恵器の壺・杯身の小片が少量出土している（第44図）。



第43図　ＳＫ４出土遺物実測図



第44図　ＳＫ５(51・52)・ＳＫ７(53)・ＳＫ10(54・56)・ＳＫ９(55)出土遺物実測図

SK8

調査区の東部で検出した土坑である。平面は不定形を呈する。規模は検出部で、最大幅1.0m、最小幅50cm、深さ35cmを測る。断面は逆台形を呈し、底部には凹みがみられる。堆積土はSK6と同一土層である。遺物は、堆積土内から製塩土器、須恵器の杯身などの小片が出土している。

SK9

調査区北部で検出した。西部はSD1に切られている。平面は不定形を呈する。規模は検出部で、最大幅1.6m、最小幅50cm、深さ12cmを測る。断面は緩やかな逆台形を呈し、底面は平坦である。堆積土はSK6と同一土層である。遺物は、堆積土内から須恵器の小片が少量出土している。器種は杯蓋（55）で、陶邑編年によるとⅢ型式3段階に相当する（第44図）。

SK10

調査区北西隅のSD2の底面で検出した土坑である。上部はSD2で切られ、SK1を切っている。北西部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西50cm、南北70cm、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面には緩やかな起伏がみられる。堆積土は暗灰褐色シルト混粘土である。遺物は、堆積土内から土師器の壺、製塩土器（54）、須恵器の高杯（56）などの小片が少量出土している（第44図）。

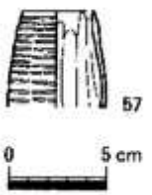
SK11

調査区の北西部で検出した土坑である。平面は不定形を呈する。上部は近世の遺構（SD1）によって削平され、北部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西40cm、南北1m、深さ10cmを測る。断面は緩やかな逆台形を呈する。堆積土は灰褐色粘質シルトの単一層である。遺物は、堆積土内から土師器の高杯、製塩土器、須恵器の杯蓋・杯身が少量出土している。

小穴（SP）

SP1～SP12

調査区内で12個を検出した。平面の形状には円形のもの2個（SP2・SP7）、楕円形のもの4個（SP4・SP8・SP10・SP12）、方形のもの3個（SP1・SP3・SP6）、不明のもの3個（SP5・SP9・SP11）がある。規模は径40～80cm、深さ10～40cmを測る。断面には浅いものが逆台形、深いものが「U」字形と二段逆台形を呈する。これらの小穴には柱穴と考えられるものが2個（SP10・SP12）あり、平面円形で、径10～20cmを測る柱痕がみられる。しかし、限定された調査区内では規則性をもつ配列がみられない。また、溝状遺構（近世）・溝状遺構（中世）の遺構によって削平されている可能性が強いものと考えられる。堆積土は暗灰褐色粘質シルトで、内部から古墳時代中期～後期に比定



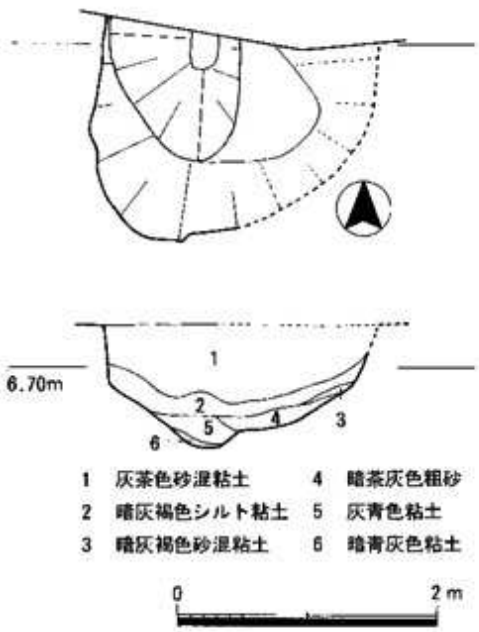
第45図　SP12
出土遺物実測図

される土器の小片がごく少量出土している。器種には土師器の壺・杯、須恵器の杯身・杯蓋、製塩土器（57）などがある（第45図）。

なお、小穴の個々の法量・形状などについては第３表にまとめた。

第３表　小穴（SP）一覧表

遺構番号	地区	形状 平面形	形状 断面形	規模（cm）長径×短径	深さ（cm）	柱痕径（cm）	堆積土	出土遺物
SP 1	3c	方形	逆台形	65×36	18		暗灰褐色粘質シルト	土師器の小片
SP 2	2c	円形	逆台形	38	15	—	暗灰褐色粘質シルト	須恵器の小片
SP 3	3c	方形	逆台形	82×40	15	—	暗灰褐色粘質シルト	———
SP 4	3d	楕円形	逆台形	60×54	25	—	暗灰褐色粘質シルト	———
SP 5	3e	不明	逆台形	36×28以上	12	—	暗灰褐色粘質シルト	———
SP 6	2c	方形	逆台形	58×28	14		暗灰褐色粘質シルト	———
SP 7	2e	円形	逆台形	40×38	23	—	暗灰褐色粘質シルト	— ———
SP 8	2c	楕円形	逆台形	46×40	32	—	暗灰褐色粘質シルト	須恵器の小片
SP 9	2c	不明	逆台形	75×52以上	18		暗灰褐色粘質シルト	———
SP 10	2d	楕円形	逆凸形	86×76	35	10～20	暗灰褐色粘質シルト	———
SP 11	1d	不明	逆台形	52×16以上	15	—	暗灰褐色粘質シルト	— ——— —
SP 12	2d	楕円形	逆凸形	45×38	26	20	暗灰褐色粘質シルト	製塩土器の小片



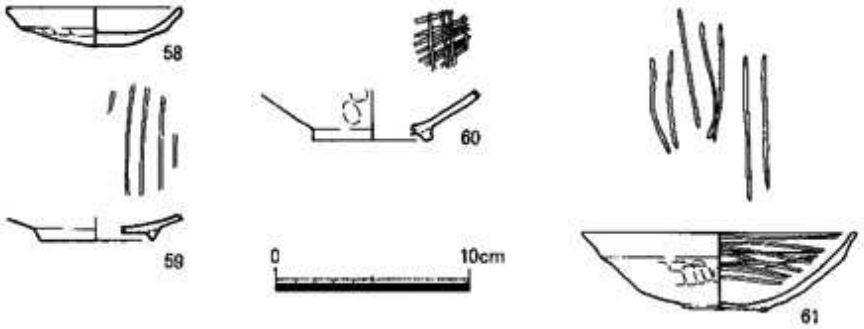
第46図　SE１平断面図

３　平安時代後期～江戸時代

井戸（SE）

SE１

調査区北壁付近で検出した井戸状遺構である。平面はほぼ半円形を呈する。西部はSK５を切り、東部はSD１に切られる。北部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西径2.1m、南北径1.6m、深さ１mを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は、上方から灰茶色砂混粘土・暗灰褐色シルト粘土・暗灰褐色砂混粘土・暗茶灰色粗砂・灰青色粘土・暗青灰色粘土である。遺物は、堆積土内から鎌倉時代後期に比定される土器の小片が少量出土している。器種には瓦器の小皿（58）・椀（59～61）などがある。瓦器は挾山編年によるとV～VI期にあたる（第46図・第47図）。



第47図　ＳＥ１出土遺物実測図

溝（ＳＤ）

ＳＤ１

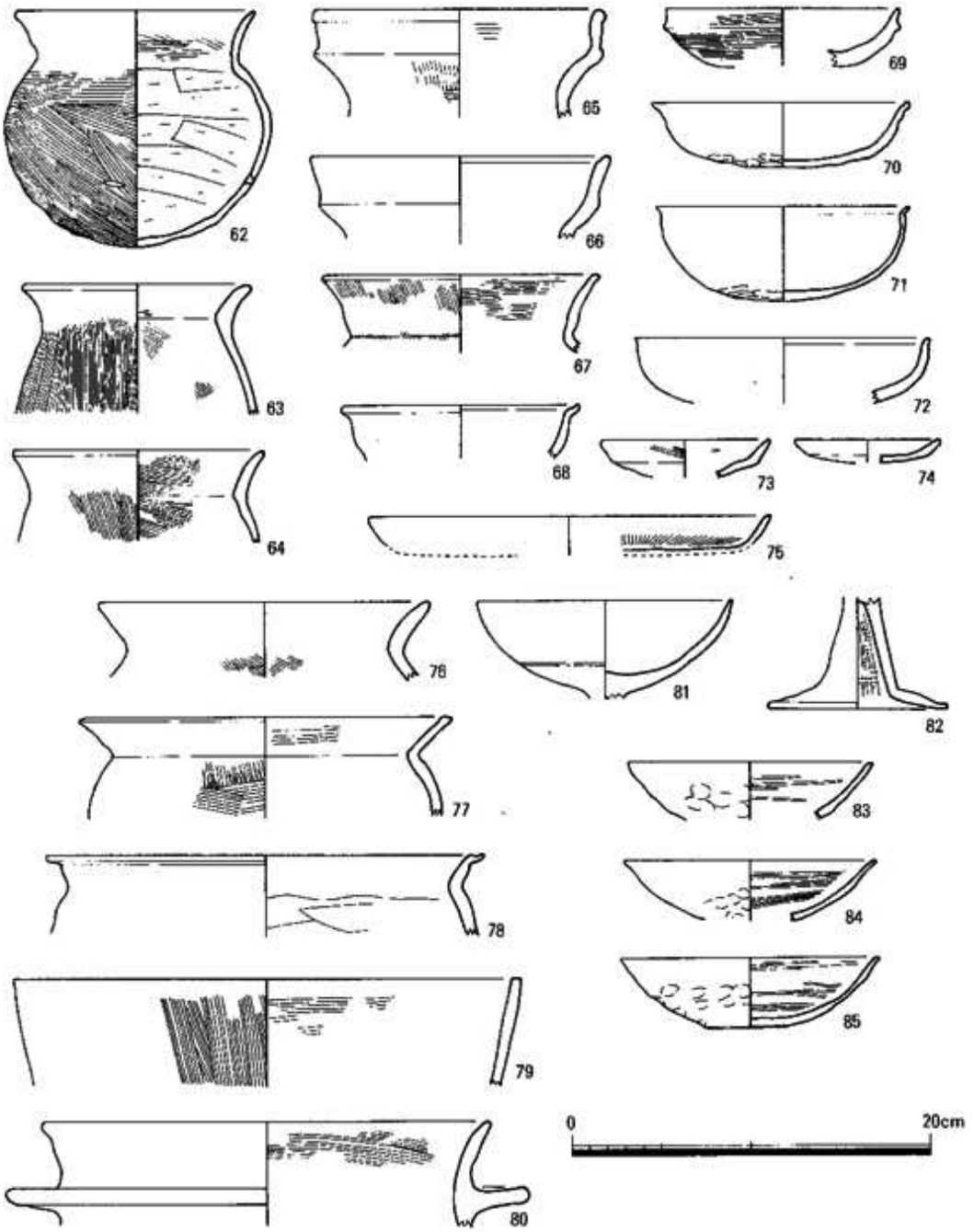
調査区東部で検出した溝状遺構である。方向は南北方向を示し、調査区外に至る。規模は検出部で、幅３～3.7m、深さ30～40cmを測る。断面は緩やかな逆台形を呈し、底面には起伏がみられる。堆積土は第４層暗茶灰色粘質シルトの整地層で埋っている。この遺構はＳＥ１やＳＫ４・ＳＫ６・ＳＫ９を切っている。遺物は整地層と同一土層であるため、遺物包含層として取扱った。

ＳＤ２

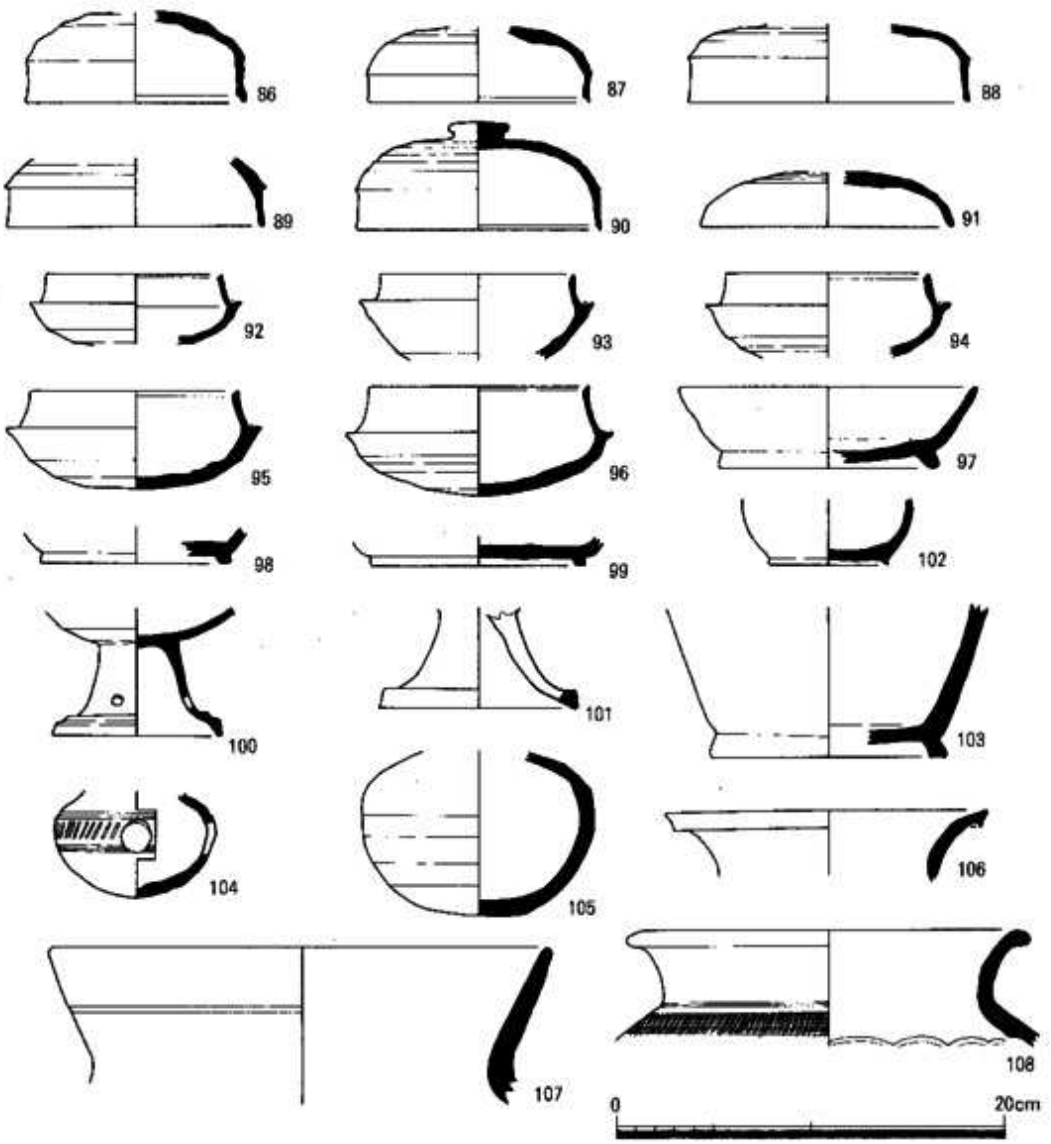
調査区西部で検出した溝状遺構で、第３層の上面から切込む。西部・南部・北部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西幅5.5m、深さ80cmを測る。第５層上面を切込んでいる。遺物は出土していない。時期は江戸時代以降に比定されよう。

遺構に伴わない遺物

遺物は、第３層と第４層内から出土した。出土量はコンテナ箱にして約６箱分を数え、大半が第４層（鎌倉時代の整地層としている）から出土している。これらの遺物は古墳時代前期・古墳時代中期後半～後期・奈良時代・平安時代・鎌倉時代・近世の概ね６時期に区分できる。各時期の器種には、古墳時代前期に比定される庄内式甕の小片、古墳時代中期後半～後期に比定される土師器の杯（68～72）・甕（63～67・76～78）・高杯（81・82）・甑（79）・羽釜（80）と、須恵器の杯蓋（86～91）・杯身（92～96）・高台を有する杯身（97～99）・高台を有する鉢（102）・高杯（100～101）・高台を有する壺（103）・腺（104～105）・甕（106～108）と、奈良時代に比定される土師器の皿（75）・甕（62）などの小片、平安時代に比定される遺物は土師器の皿（73・74）の小片、鎌倉時代に比定される瓦器椀（83～85）・白磁器椀等の小片がある（第48図・第49図）。



第48図　包含層出土遺物実測図1



第49図　包含層出土遺物実測図2

Ⅳ　出土遺物観察表

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量（cm）	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 一九	壺 （弥生式土器） SK1	口径	32.4	口縁部は外上方へ大きく外反して伸び、端部は下方に粘土を補充して拡張させて、外に面をもたす。端面には4条の凹線を廻らし、二重の円形浮文・ヘラキザミを施す。体部は欠損。 内外面ヘラミガキ、端部下部ナデによる接合。	淡褐灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を多量含む。	良好	
2 一九	長頸壺 （弥生式土器） SK1	口径	11.5	最大径を七位にもつ楕円形の体部から屈曲し、ほぼ直上へ長く伸びた後上外方へ外反気味に短く伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は欠損頸部付近に1個の円形浮文を施す。体部内面に接合痕3本を有す。 口縁部内外面ヨコナデ後ヘラミガキ、体部外面ヘラミガキ、内面ナデ・指頭痕。	茶灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
3 一九	同上 SK1	口径	11.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、ほぼ直上へ長く伸びた後上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。口縁部内面に3本の接合痕を有す。 口縁端部外面ヨコナデ、口縁部外面ハケナデ（11本）、内面ナデ後指頭痕、体部外面ハケナデ（9本）、内面ナデ後指頭痕。	淡灰茶色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を含む。	良好	黒斑有。
4	同上 SK1	底径	4.6	口縁部は欠損。体部は最大径を中位にもつ球形。底部は突出する半底。体部内面に4本の接合痕を有す。 体部外面ヘラミガキ、内面ナデ・指頭痕。	外　灰茶色 内　暗茶灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
5	同上 SK1	底径	5.2	口縁部・体部上位は欠損。体部下位は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出する半底。 体部外面ハケナデ（9本）後ヘラミガキ、内面ハケナデ（5本）後ナデ。底部内外面ナデ。	外　茶灰色 内　灰茶色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
6	同上 SK1	底径	5.2	口縁部・体部上位は欠損。体部下位は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出する上げ底。 体部外面ハケナデ（12本）、内面・底面ナデ。	淡茶灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
7	同上 SK1	底径	4.4	口縁部・体部上位は欠損。体部下位は上外方へ内湾気味に伸びる。底部は突出する平底。 体部外面ヘラミガキ、内面ハケナデ（9本）後ナデ・指頭痕、底面ナデ。	茶灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
8 一九	甕 （弥生式土器） SK1	口径	13.4	最大径を中位にもつ球形と思われる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもち、内方につまみ上げる。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ヘラ削り、上位に指頭痕。	暗茶灰色	角閃石・長石・雲母・赤褐色酸化粒等の細砂粒を含む。	良好	煤付着。
9	同上 SK1	口径	13.8	口縁部は斜外方へ外反気味に伸び、端部は外方に若干肥厚し、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、内面ナデ・指頭痕。	淡茶灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を含む。	良好	口縁部変色。
10	同上 SK1	口径	13.6	口縁部は上内方へ伸びる体部から屈曲し、斜外方へ伸び、端部は外方に肥厚し、外傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ・指頭痕。	暗灰褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
11	同上 SK1	口径	14.6	口縁部は斜外方へ外反気味に伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面調整の為不明、内面ナデ・指頭痕。	暗灰褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量（cm） 口径 器高 底径	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
12	甕 （土師器） SK1	口径 15.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部下位は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ、指頭痕。	淡茶灰色	角閃石・長石・雲母・石英等の細砂粒を少量含む。	良好	
13	同上 SK1	底径 5.2	口縁部は欠損。体部は中位から上に最大径をもつ楕円形。底部は突出する上げ底。 体部外面上位タタキ（3本）、下位タタキ後ハケナデ（11本）、内面・底部ナデ。	淡茶灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
14	同上 SK1	底径 4.2	口縁部・体部上位は欠損。体部は上外方へ内湾気味に伸びる。底部は突出する上げ底。 体部外面ハケナデ（10本）、内面ナデ、底面ナデ。	暗灰褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
15	同上 SK1	底径 5.6	口縁部・体部上位は欠損。体部は上外方へ内湾気味に伸びる。底部は突出気味の平底。 体部外面タタキ（3本）、内面・底面ナデ。	淡茶灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
16	同上 SK1	底径 5.2	口縁部・体部上位は欠損。体部は内湾気味に上外方へ伸びる。底部は突出する上げ底。 体部外面タタキ（4本）、内面ナデ、底部指ナデ、底面ナデ。	暗灰黄色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
17 一九	鉢 （弥生式土器）	口径 13.7 器高 10.0 底径 4.0	上外方へ内湾気味に伸びる半球形の体部から屈曲し、斜上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。底部は突出する平底。 口縁部内外面ナデ・指頭痕、体部外面ナデ、内面ハケナデ後ナデ。	淡茶灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	完形。 煤付着。
18	高杯 （弥生式土器） SK1	口径 27.8	浅い皿形と思われる杯部から外上方へ伸びた後屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は尖る。杯底部・脚部は欠損。 杯部内外面摩滅の為不明。	茶褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を多量含む。	良	
19	同上 SK1	脚底径 16.2	杯部は欠損。杯底部は上外方へ内湾気味に伸びる。脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ開く裾部に至る。端部は丸い。脚部屈曲部に二段（上・三方孔、下・不明）の円孔を有す。 杯底部内外面摩滅の為不明、内面ヘラミガキ、脚部外面ヘラミガキ、内面しぼり目・ナデ。	茶灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
20	同上 SK1		杯部・脚部は欠損。杯底部は外上方へ伸びる。脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲した後外下方へ開く裾部に至る。柱状部下位と裾部に四方孔を有する。 脚部外面ヘラミガキ、内面しぼり目・ナデ。	暗茶灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
21	壺 （土師器） SK2	口径 10.4 底径 4.0	球形と思われる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部中位は欠損。底部は突出しない平底。 口縁部内外面ハケナデ後ヨコナデ、体部外面ハケナデ（7本）後ナデ、内面ハケナデ、底面ナデ。	暗灰茶色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。 変色。
22	同上 SK2	底径 3.2	口縁部・体部上位は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出しない平底。 体部外面タタキ（3本）、内面ハケナデ（9本）後ナデ、底面ナデ。	淡茶灰色	長石・雲母・赤褐色酸化粒等の細砂粒を含む。	良好	煤付着。 変色。
23	同上 SK2	口径 16.6	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）後ハケナデ（6本）、内面ヘラ削り。	外　暗灰茶色 内　淡灰茶色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm)	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
24	甕 (土師器) SK2	口径 15.2	球形と思われる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）後ハケナデ（5本）・一部ヘラナデ、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
25 一九	同上 SK2	口径 16.8 器高 24.8 底径 2.6	最大径を中位よりやや上にもつ精円形の体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出しない平底。体部内面上位に2本の接合痕を有す。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）後ヘラナデ、内面ナデ後一部指頭痕、底部外面・底面タタキ。	淡黄褐色	長石・赤褐色酸化粒・雲母等の細砂粒を少量含む。	良	完形。 煤付着。
26	同上 SK2	口径 17.0 器高 17.0	最大径を中位よりやや上にもつ体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外に面をもつ。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）後一部ハケナデ（5本）、内面上位ヘラナデ、下位ヘラ削り。	淡灰茶色	長石等の細砂粒を多量含む。	良好	煤付着。
27 一九	同上 SK2	口径 16.2	最大径を中位よりやや上にもつ体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）後ハケナデ（5本）、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	角閃石・長石・雲母・石英等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
28	杯身 (須恵器) SK3	口径 12.2 立上がり高 1.5 受部径 14.0	立上がりは直上へ内傾して伸び、端部は段をもつ。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。 体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
29	甕 (土師器) SK4	口径 16.8	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ハケナデ（11本）後ナデ、内面ナデ・一部ハケナデ。	暗茶褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
30	同上 SK4	口径 15.2	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（14本）、内面ハケナデ後指ナデ。	茶褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
31	同上 SK4	口径 21.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は若干つまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（10本）、内面ハケナデ後ナデ。	茶褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
32	鉢 (土師器) SK4	口径 29.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、上に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ハケナデ（8本）後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面タタキ（5本）、内面ヘラナデ。	淡茶灰色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
33	同上 SK4	口径 7.4	上内方へ内約して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は尖る。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、内面ヨコナデ。	淡茶灰色	長石・雲母石英等の細砂粒を少量含む。	良好	
34 二〇	製塩土器 SK4	口径 3.8	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 体部外面タタキ（4本）、内面指頭痕。	淡黄灰色	雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
35 二〇	同上 SK4	口径 5.4	口縁部は直上へ内湾して伸び、端部は鈍く尖る。底部は欠損。 外面ナデ、内面タタキ（5本）。	淡黄灰色	赤褐色酸化粒・長石・等の細砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	種別 出土地点	法量（cm）口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
36 二〇	製塩土器 SK4	口径 6.0	口縁部は直上へ内湾気味に伸び、端部は丸い。底部は欠損。 外面タタキ（3本）、内面ナデ・指頭痕。	淡黄褐色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	二次焼成。
37 二〇	同上 SK4	口径 9.0	口縁部は直上へ内湾して伸び、端部は丸い。底部は欠損。 外面タタキ（4本）、内面ナデ・指頭痕。	淡黄褐色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	二次焼成。
38 二〇	同上 SK4	口径 10.6	口縁部は上内方へ伸び、端部は丸い。底部は欠損。 外面タタキ（3本）、内面ナデ・指頭痕。	淡茶灰色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 自然釉。
39	杯蓋 （須恵器） SK4	口径 12.6 器高 4.0 稜径 12.8 天井部高2.0	上面が平らで低い天井部から斜下方へ伸び稜に至る。稜は鈍い。口縁部は直下へ伸び、端部は明瞭な段をもつ。 天井部外面1／4強回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 自然釉。
40	同上 SK4	口径 12.6 器高 4.45 稜径 13.0 天井部高2.2	上面が平らで低い天井部から下外方へ伸び稜に至る。稜は鈍い尖る。口縁部は直下へ伸び、端部は明瞭な段をもつ。 天井部外面約1／4回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 自然釉。
41 二〇	同上 SK4	口径 14.0 器高 4.2 稜径 13.8 天井部高2.1	上面が平らな天井部から外上方に伸び、稜に至る。稜は鈍く、痕跡がみられる程度である。口縁部は直下へ伸び、端部は段をもつ。 天井部外面1／8弱回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
42	同上 SK4	口径 14.2 稜径 15.0	天井部は欠損。稜は鈍い。口縁部は直下へ伸び、端部は内傾する面をもつ。 内外面回転ナデ。	灰青色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
43	同上 SK4	口径 15.6 稜径 14.2	上面が平らと思われる天井部から稜に至る。稜は若干の痕跡を有する。口縁部は上下方へ伸び、端部は平らで内傾する。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	1㎜以下の砂粒を多量含む。	良好	ロクロ方向不明。
44	杯身 （須恵器） SK4	口径 8.8 立上がり高 1.7 受部径 10.8	立上がりは直上へ内傾して伸び、端部は段をもつ。受部は外上方に伸び、端部は丸い。 底部は欠損。底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
45	同上 SK4	口径 11.2 立上がり高 2.0 受部径 13.0	立上がりは直上へ内傾して伸び、端部は段をもつ。受部は水平に伸び、端部は丸い。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
46	同上 SK4	口径 11.8 立上がり高 1.7 受部径 14.4	立上がりは直上へ内傾して伸び、端部は段をもつ。受部はやや外上方へ伸び、端部は丸い。底体部は丸みをもつ。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	3㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。
47	同上 SK4	口径 13.8 立上がり高 1.1 受部径 15.8	立上がりは直上へ内傾して伸び、端部は丸い。受部はやや外上方へ伸び、端部は丸い。底体部は欠損。 内外面回転ナデ。	灰青色	3㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。
48	甕 （須恵器） SK4	口径 17.4	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は垂下し、外に面をもつ。体部は欠損。 内外面回転ナデ。	灰青色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
49	同上 SK4	口径 15.4	口縁部は上外方へ伸び、端部は外下方へ垂下し、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面タタキ後回転ナデ、内面回転ナデ。	灰青色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 口径(cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
51	椀 (土師器) SK5	口径 9.0	半球形の体部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は丸底。 外面ナデ、内面剥離の為不明。	淡黄褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良	ロクロ方向不明。
52 二〇	杯蓋 (須恵器) SK5	口径 11.6 稜径 12.0	天井部は欠損。天井部から斜下方へ伸び、稜に至る。稜は鈍い。口縁部は直下へ伸び、端部は内傾して段をもつ。 内外面回転ナデ。	乳灰色	3㎜以下の赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良	ロクロ方向不明。
53	製塩土器 SK7	口径 3.4	口縁部は直上へ内湾気味に伸び、端部は尖る。底部は欠損。 外面タタキ（3本）、内面ナデ。	淡灰褐色	0.3㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
54	同上 SK10	口径 5.7	口縁部は上内方へ伸び、端部は丸い。底部は欠損。 外面剥離の為不明。内面ヘラナデ。	淡灰褐色	0.3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
55	杯蓋 (須恵器) SK9	口径 15.2	天井部は低く丸みをもつ。一部欠損。口縁部は外下方へ伸び、端部は丸く内傾するかえりをもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
56 二〇	高杯 (須恵器) SK10	口径 10.0 器高 8.3 立上がり高 1.5 脚部径 8.8 脚高 4.7	やや丸みをもつ杯体部で、受部は水平に伸びる。立上がりは上内方へまっすぐ伸び、端部は内傾する平面をもつ。脚部は外下方へ伸びた後屈曲して、沈線・凸帯各1条を廻らし、下方に伸びる。端部は丸い。脚部に三方向の長方形スカシを有する。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
57	製塩土器 SP12	口径 3.6	口縁部は上内方へ内湾気味に伸び、端部は尖る。底部は欠損。 外面タタキ（3本）、内面ヘラナデ。	外 淡黄灰色 内 茶褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	二次焼成。
58 二〇	小皿 (瓦器) SE1	口径 8.8 ～ 9.2	浅い半球形の体部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面指頭痕・ナデ、内面摩滅の為不明。	外 灰黒色 内 黒灰色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。 煤付着。
59	鉢 (瓦器) SE1	高台径 6.2	口縁部・体部は欠損。底部は平らに近く、高台は断面三角形である。 底部外面ナデ、内面ナデ・平行暗文。	外 乳灰色 内 黒灰色	0.5㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
60 二〇	同上 SE1	高台径 6.2	口縁部・体部上位は欠損。底部は丸みをもち、外上方へ内湾して伸びる。高台は断面方形である。 体部外面ナデ・指頭痕。内面格子暗文。	外 乳茶色 内 黒灰色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
61 二〇	同上 SE1	口径 13.8	浅い半球形の体部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は退化した張付け高台をもつ。 外面ヨコナデ・指頭痕、内面螺旋のヘラミガキ・平行暗文。	黒灰色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。
62 二〇	甕 (土師器) 包含層	口径 13.2 器高 13.3	最大径を中位よりやや上にもつ偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。体部下位に0.5㎜の穿孔を1つ有す。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部外面ハケナデ（6本）、内面ヘラ削り。	褐灰色	長石・雲母赤褐色酸化粒の細砂粒少量含む。	良好	煤付着。 黒斑有。
63	同上 包含層	口径 12.4	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（11本）、内面ハケナデ（11本）後ナデ。	淡黄灰色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量(cm) 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
64	甕 (土師器) 包含層	口 径13.8	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部外面摩滅の為不明、内面・体部内面ハケナデ（9本）。	暗茶褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
65	同上 包含層	口 径15.8	口縁部は上外方へ外反して伸びた後屈曲して直上へ伸びる。端部は外方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、一部ハケナデ（5本）。	淡褐灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
66	同上 包含層	口 径16.5	口縁部は斜上方へ伸びた後屈曲して上外方へ伸びる。端部は内傾する浅い凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	暗茶褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
67	同上 包含層	口 径15.0	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は若干外方に肥厚し、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ハケナデ（7本）後ヨコナデ	暗褐灰色	角閃石・長石・雲母・石英等の細砂粒を少量含む。	良好	黒斑有。
68	鉢 (土師器) 包含層	口 径13.0	上外方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は若干つまみ上げる。体部は欠損。 内外面ナデ。	淡褐灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
69	杯 (土師器) 包含層	口 径12.9	浅い半球形の体部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至り、外面に稜がみられる。端部は鋭く尖る。底部は欠損。 体部外面ハケナデ（10本）、内面ナデ。	淡灰褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	黒斑有。
70	同上 包含層	口 径14.2 器 高 3.6	浅く平らな底体部から上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外方へ若干つまみだす。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、底部外面指ナデ。	褐灰色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
71 二〇	同上 包含層	口 径14.0 器 高 5.4	半球形の体部から屈曲し、斜上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ヨコナデ、底部外面指ナデ、内面ナデ。	褐灰色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
72	同上 包含層	口 径16.2	外上方へ内湾して伸びる体部から直上へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 外面摩滅の為不明、口縁部内面ヨコナデ、体部内面ナデ。	外 褐灰色 内 暗茶褐色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
73	小皿 (土師器) 包含層	口 径 5.4	外上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ハケナデ後ナデ。	淡黄灰色	雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
74	同上 包含層	口 径 8.2	浅く半球形の底体部から上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面ナデ。	淡灰褐色	長石・チャート・石英等の細砂粒を少量含む。	良好	
75	皿 (土師器) 包含層	口 径22.2	平らで広い底体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面摩滅の為不明、内面ナデ・放射状暗文。	灰褐色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
76	甕 (土師器) 包含層	口 径18.3	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（7本）、内面ハケナデ後ナデ。	外 淡灰褐色 内 茶褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量（cm）口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
77	甕 （土師器） 包含層	口径 20.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上に浅い凹面をもつ。体部下位は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部外面ハケナデ（6本）、内面ナデ。	淡灰褐色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
78	同上 包含層	口径 24.3	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外方へ短く伸び、上方に浅い凹面をもつ。体部下位は欠損。頸部内面に接合痕1本有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラナデ。	淡灰褐色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
79	甕 （土師器） 包含層	口径 28.4	口縁部は上外方へ伸び、端部は上に面をもつ。体部は欠損。 内外面ハケナデ（7本）後ナデ。	淡灰褐色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
80	羽釜 （土師器） 包含層	口径 24.8	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。鍔は水平に巡らす。端部は丸い。底部は欠損。 外面ヨコナデ、内面ハケナデ（8本）後ナデ。	暗茶褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
81	高杯 （土師器） 包含層	口径 14.2	平坦な杯底部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。脚部は欠損。杯部外面下位に凹線を有する。 杯部内外面ナデ。	暗褐灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	黒斑有。
82	同上 包含層	脚底径 10.0	下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ開く裾部に至る。端部は外に面をもつ。杯部は欠損。 脚部外面ハケナデ後ナデ、内面しぼり目・ナデ。	灰黒色	0.5㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
83	椀 （瓦器） 包含層	口径 13.6	口縁部は斜上方へ内湾気味に伸び、端部は丸い。脚部は欠損。 外面指頭圧形成、口縁部内外面ヨコナデ、内面ヘラミガキ。	灰黒色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
84	同上 包含層	口径 14.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。底部は欠損。 外面指頭痕・ヨコナデ、内面ヘラミガキ。	灰黒色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。
85	同上 包含層	口径 14.4 器高 4.0	浅い半球形の体部から屈曲し、器肉を減じて斜上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は退化した張付け高台である。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面指頭痕・ナデ、体部内面ナデ。乱雑な連続輪状のヘラミガキ、底部内面6条の平行暗文。	外 黒灰色～淡灰色 内 灰黒色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。
86	杯蓋 （須恵器） 包含層	口径 11.2 器高 4.7 稜径 11.2 天井部高 2.4	丸みを持つ高い天井部から外下方へ伸び、稜に至る。稜は退縁有り。口縁部は直上へ伸び、端部は明瞭な段をもつ。 天井部1／3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
87	同上 包含層	口径 11.3 稜径 11.4	平らに近い天井部から稜に至る。稜は退縁有り。口縁部は直上へ伸び、端部は内傾する段を有する。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	2㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ左方向。
88	同上 包含層	口径 14.6 稜径 14.4	平らと思われる天井部から斜下方へ伸び、稜に至る。稜は鈍く、口縁部は直下へ伸び、端部は平坦で浅い凹面をもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。自然釉。
89	同上 包含層	口径 13.1 稜径 13.4	天井部は欠損。天井部から下外方へ伸び、稜に至る。稜は鋭い。口縁部は下方へ伸び、端部は丸い。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量（cm） 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
90 二〇	杯蓋 （須恵器） 包含層	口径 12.4 器高 5.5 稜径 12.7 天井部高2.6 つまみ径3.1	偏平なつまみが付く丸みのある天井部から下外方へ伸び、稜に至る。稜は鈍い。口縁部は直上へ伸び、端部は内傾する面をもつ。 天井部外面1／2回転ヘラ削り、内面の一部にタタキ、他は回転ナデ。	灰青色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
91	同上 包含層	口径 13.0 器高 2.8	低く平らに近い天井部から外下方へ内湾して伸びる、稜はなくそのまま口縁部に至る。端部は丸い。天井部の一部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 自然釉。
92	杯身 （須恵器） 包含層	口径 9.2 立上がり高 1.4 受部径 10.8	浅い底体部から上外方へ伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立上がりは直線的に上内方し、端部は浅い凹面をもつ 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 自然釉。
93	同上 包含層	口径 10.0 立上がり高 1.3 受部径 12.6	底体部は内湾して伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸びる、立上がりは内傾して直上へ伸びる。端部は丸い。底部は欠損。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 自然釉。
94	同上 包含層	口径 10.4 立上がり高 1.6 受部径 12.6	底体部は上外方へ内湾して伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立上がりは上内方へ伸び、端部は内傾する段を有する。底部は欠損。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
95	同上 包含層	口径 10.8 器高 5.1 立上がり高 1.9 受部径 13.0 底体部径3.1	やや深く平らに近い底体部から斜上方へ内湾して伸び、受部に至る。受部はほぼ水平に伸びる。立上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は内傾する面をもつ。 底体部外面約1／3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
96	同上 包含層	口径 11.3 器高 5.7 立上がり高 2.4 受部径 13.6 底体部径3.2	深く丸い底体部から上外方へ内湾して伸び受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立上がりは上内方へ外反して伸び、端部は内傾する凹面をもつ。 底体部外面3／5弱回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰青色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
97	同上 包含層	口径 15.4 器高 4.2 高台径 11.3	平らな底体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面に高台が付く。高台は外へ開き断面U形を呈する。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
98	同上 包含層	高台径 9.7	口縁部は欠損。底体部は平らで、外面に高台が付く、高台は断面台形を呈する。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰青色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
99	同上 包含層）	高台径 11.0	口縁部は欠損、底体部は平らで、外面に高台が付く。高台は断面台形を呈する。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 淡青灰色 内 暗青灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
100	高杯 （須恵器） 包含層）	脚部径 8.8 脚部高 4.7	杯底部は外上方へ内湾して伸びる。脚部は下外方へ伸びた後屈曲し、外下方へ短く伸びる。端部は下方へ肥厚し、外に面をもつ。屈曲部の外面付近には凸線1条が巡る。杯部は欠損。脚部凸線部上に三方の円形スカシ（5～6㎜）を有する。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰色～乳灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 自然釉。
101	同上 包含層	脚部径 10.2	脚部は下外方へ外反して伸びた後屈曲し、外下方へ伸びる。端部は外方へ肥厚し、外に面をもつ。脚部に長方形のスカシを有する。 脚部内外面回転ナデ。	灰青色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量（cm） 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
102	壺 （須恵器） 包含層	高台径 6.1	口縁部は欠損。平らな底部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる体部に至る底部外面に高台を有する。高台は断面三角形を呈する。 内外面回転ナデ。	灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
103	同上 包含層	高台径 12.0	口縁部は欠損。平らな底部から屈曲し、上外方へ直線的に伸びる体部に至る。底部外面に高台を有する。高台は断面台形を呈する。 内外面回転ナデ。	青灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。 自然釉。
104	壺 （須恵器） 包含層		口縁部は欠損。体部は最大径を上位にもつ球形で、中位に径1.7㎝の円孔1つを有する。円孔の上下に各2条の沈線が巡り、その間に櫛描列点文を施す。底部は丸底。 内外面回転ナデ。	灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	底体付近。
105	同上 包含層	底体径 12.0	口縁部は欠損。最大径に上位にもつ球形の体部で、底部はやや平らである。 体部中位外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 自然釉。
106	壺 （須恵器）	口径 16.2	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外に凹面をもつ。体部は欠損。 内外面回転ナデ。	暗灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 自然釉。
107	同上 包含層	口径 25.4	口縁部は上外方へ伸び、中位に一条の沈線を創らす。端部は丸い。体部は欠損。 内外回転ナデ。	灰色（内面一部点状に白色）	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。 自然釉。
108	同上 包含層	口径 19.2	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。体部外面タタキ後カキ目、内面同心円タタキ。	灰青色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。

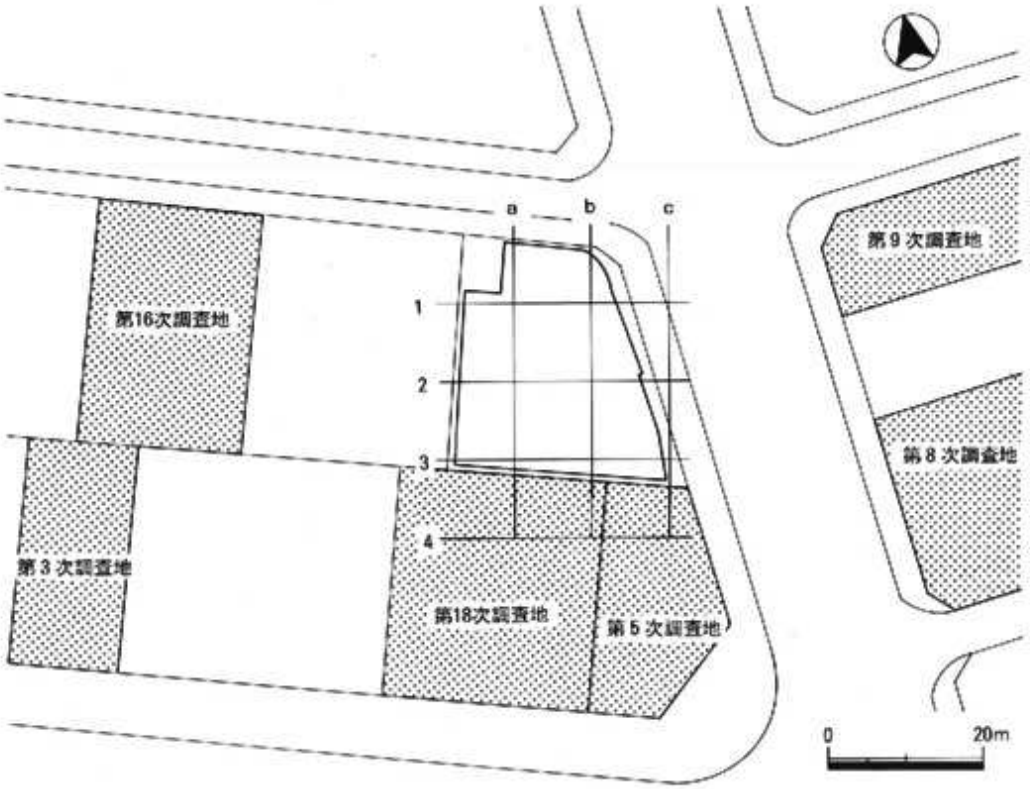
第4節　第14次調査

Ⅰ　調査の概要

今回の調査地は八尾市光町1丁目72に所在し、店舗建設に伴う発掘調査である。この調査は八尾市教育委員会及び当調査研究会が当遺跡内で実施した第14次調査にあたり、第5次調査地の北部に近接している。調査面積は約480㎡を測る。

調査では、周辺の土地や地下構造などの諸問題を考慮に入れ、調査区範囲の周囲に鋼矢板を打ち込む工法で実施した。掘削については第5次調査の調査結果をもとに、現地表から1.4mまでを機械掘削し、これより以下0.3mは人力による掘削・精査を実施した。

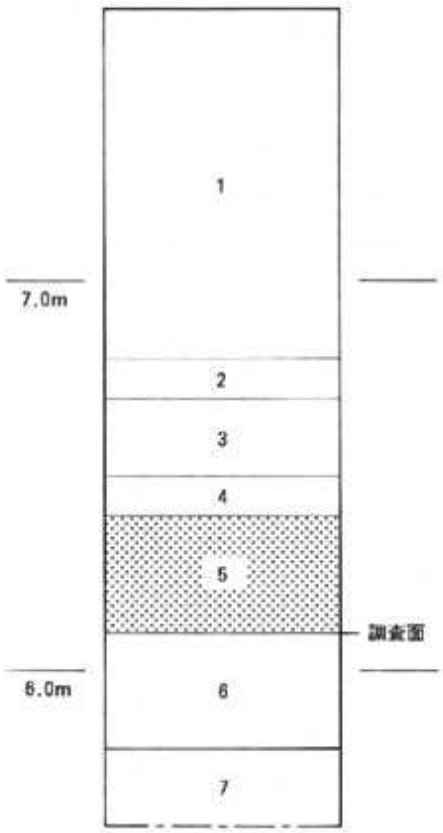
地区割については、調査区の中央部に任意の基準点を設け、南北線を調査区の方向に合せた。調査区に東西40m、南北40mに渡って設定した。設定した一区画の単位は10m四方で、北西隅を基準とし、東西線は数字（北から1～4）、南北線はアルファベット（西からa～c）を付称した。なお地区名の表示は一区画の北西隅に交差する東西線・南北線を用い、1a～4cと付称した（第50図）。



第50図　調査区設定図及び地区割図

Ⅱ　基本層序

当調査地において普遍的にみられる7層を基本層序とした。また、当調査区の南側に接する第5次調査地とほぼ同じ堆積状況であった。現地表面は標高7.7mを測る。以下、各層について記す。



第51図　基本層序柱状図（S＝1／20）

第1層盛土：層厚90cm。区画整理事業で埋立てた土層で、上部（20cmまで）は調査前までの耕作土である。

第2層旧耕土：層厚10cm。この土層は、近年まで農地として土地利用された耕作土である。

第3層灰褐色砂粘土：層厚20cm。近世の陶磁器などの小片を少量含む土層で、耕土の床土である。

第4層灰色粘土：層厚10cm。平安時代後期～鎌倉時代の水田土層で、北側では認められなかった。この上面は標高6.4mを測る。

第5層暗茶灰色粘土：層厚10～30cm。この土層は、古墳時代前期に比定される土器の小片が含む遺物包含層である。この上面で平安時代後期の遺構が検出している。

第6層淡灰褐色～青灰色シルト：層厚20～30cm。この上面で、古墳時代前期に比定される住居・井戸・溝等の集落遺構を検出した。上面は標高6.2mを測る。

第7層灰褐色粘土：層厚20cm。この土層内には、自然木・小枝が少量含まれている。

Ⅲ　検出遺構・出土遺物

第6層上面を調査面とした。その結果、第6層上面から古墳時代前期に比定される竪穴式住居2棟・土坑21基・小穴10個・溝25条と、第5層上面から切込む平安時代後期～鎌倉時代に比定される井戸3基・土坑2基・小穴2個を検出した。出土遺物は、コンテナ箱にして約15箱分を数える。このうち、大半の遺物は古墳時代前期（庄内式古相～布留式古相）に比定される土器である。

以下、各時代の各遺構について概説する。なお、個々の遺物の法量・技法・調整などについては、「Ⅳ　出土遺物観察表」として一括したので参照されたい。

SP 7
SK11
SK10
SE 4
SD36
SD35
SD37
SP 6
SK 8
SP 5
SK 9
SK18
SE 2
SK 19
SD33
SD19
SD34
SK16
SP 6
SE 5
SK15
SD30
SK13
SK 7
SP 6
SD18
SK15
SE 3
SK 4
SK12
SD28
SD29
SD23
SD27
SP21
SK 6
SD31
SD15
SP19
SP 7
SD26
SD20
SD17
SK14
SP30
SD24
SD25
SP16
SP15
SI 2
SD18
SD22
SD32
SP20
SP17
SD16
SP12
SD 8
SD13
SD14
SI 1
SP14
SE 1
SD 3
SD 6
SD 7
SD21
SP11
SK 5
SP 4
SP 7
SP13
SD14
SD 5
SK17
SE 6
SD11
SD10
SK 1
SD 4
SP 1
SD12
SP 2
SP 4
SD 4
SD 9
SD 1
SK 2
SD 3
SD 2
SK 3
0
5m

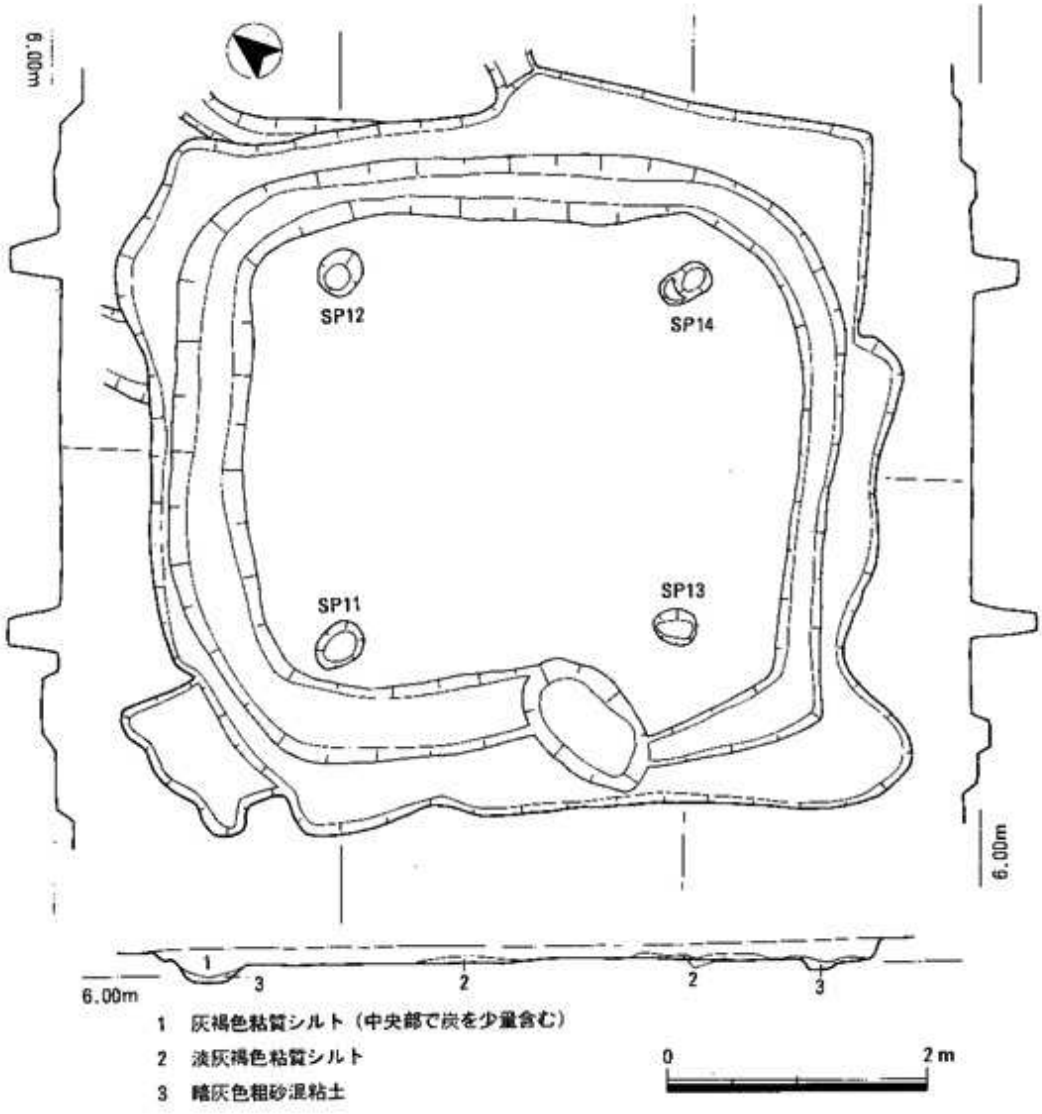
第52図　遺構全体図

1　古墳時代前期

竪穴式住居（ＳＩ）

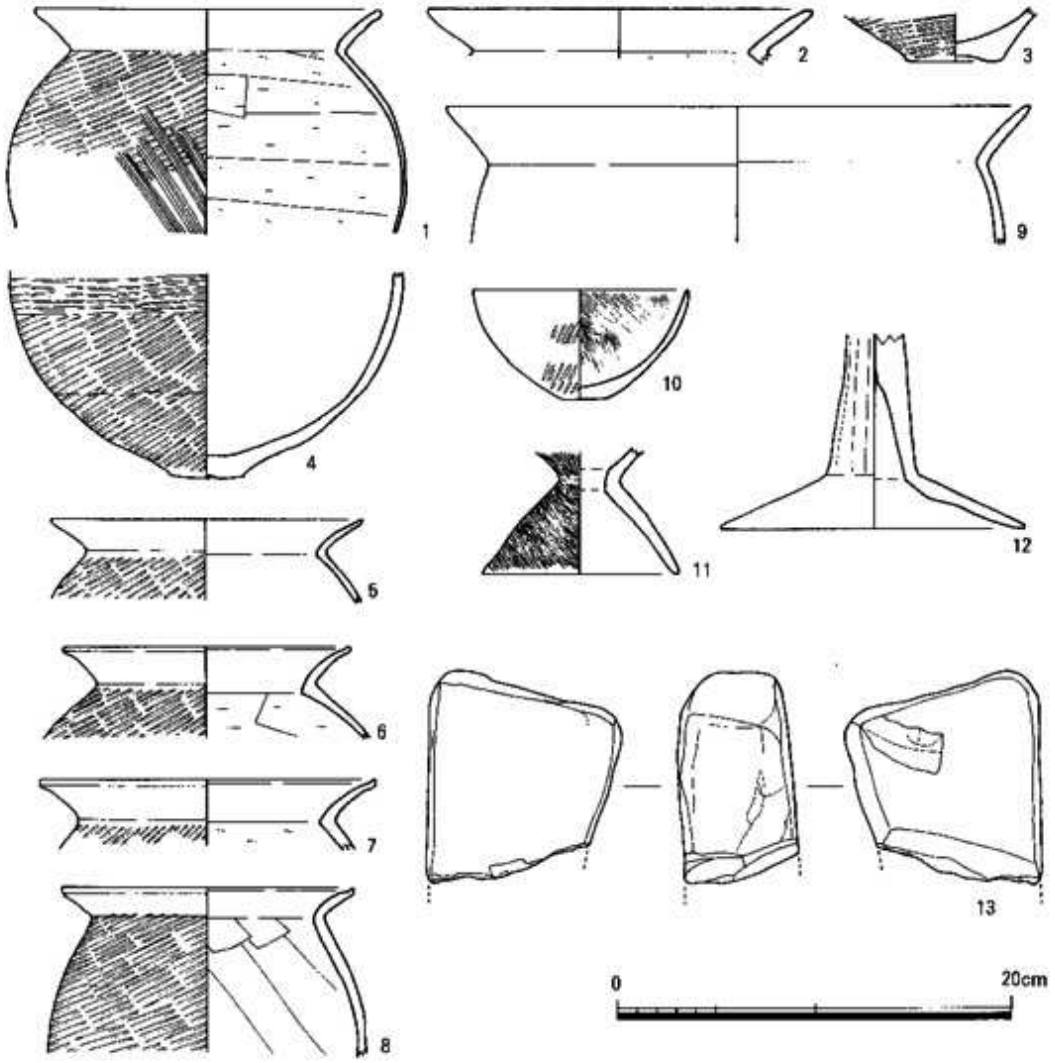
ＳＩ１

調査区南西部付近で検出した竪穴式住居である。平面はほぼ隅丸方形を呈る。規模は検出部で、東西辺約5.6m、南北辺約5.5mを測る。復元床面積は30.8㎡を測る。床面は平坦で、検出面から床面まで約20cmを測る。その周囲には溝（幅20～60cm、深さ10cmを測る）がやや側壁より内側を巡らしている。そして、その南部には平面楕円形の土坑（最大幅120cm、最小幅70cm、深さ30cmを測る）が溝によって切られている。住居内及び周溝の堆積土は灰褐色粘質シルトの単一層で、床面上の中央部付近には炭土層が薄く堆積している。土坑内は暗茶灰色粘土で



第53図　ＳＩ１平断面図

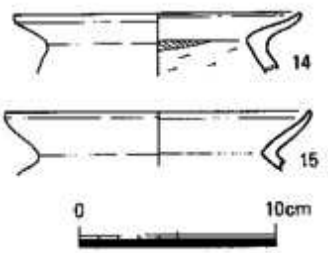
ある。柱穴は床面から４個を検出した。これらの柱穴の間隔は東西・南北ともに約2.75ｍを測る等間隔である。柱穴の平面は円形（ＳＰ12）及び楕円形（ＳＰ11・ＳＰ13・ＳＰ14）を呈する。規模は検出部で、ＳＰ11が径30～41㎝、深さ36㎝、ＳＰ12が径32～36㎝、深さ38㎝、ＳＰ13が径32㎝、深さ43㎝、ＳＰ14が径26～42㎝、深さ28㎝をそれぞれ測る。炉跡は検出しなかった。なお、この住居は、北東部がＳＤ20と合流し、ＳＤ24・ＳＤ25に切られる関係にあり、ＳＤ20が外部排水溝の機能を果たしていたものと考えられる。遺物は、堆積土内から土器の小片が少量出土している。器種には第Ｖ様式系甕（２～４・８）・庄内式甕（１・５～７）・鉢（９・10）・器台（11）と高杯（12）がある。土坑内からは庄内式甕（７）、ＳＰ11からは第Ｖ様式系甕（８）が出土した。その他には砥石片（13）が出土している（第53図・第54図）。



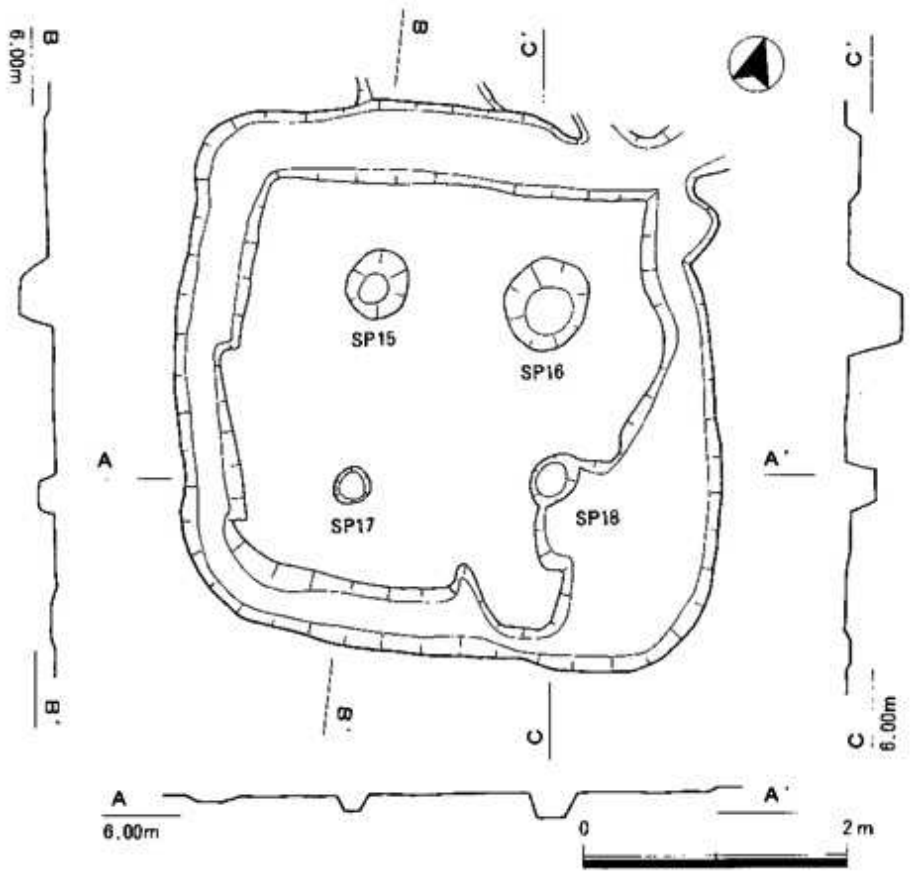
第54図　Ｓ１１出土遺物実測図

SI2

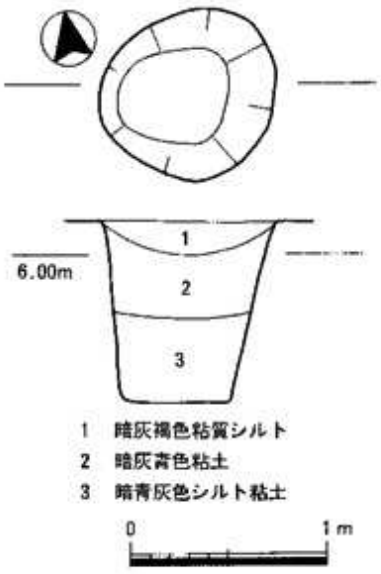
調査区東部付近で検出した竪穴式住居である。平面は隅丸方形を呈する。規模は検出部で、東西辺4.2m、南北辺4.3mを測り、SI1よりやや小形である。復元床面積は18.06㎡を測る。床面は検出面から床面まで、ほとんど高低差がなく、後世に削平されている。床面の周囲には溝（幅35～60cm、深さ5cm）が巡らしている部分が残存していた。この溝は南東部コーナーで大きく広がっている。柱穴は床面で4箇所を検出した。これらの柱穴の間隔は東西・南北ともに約1.5mの等間隔である。平面は円形及び楕円形を呈する。規模は、SP15が径46～56cm、深さ25cm、SP16が径61～72cm、深さ34cm、SP17が径26～30cm、深さ12cm、SP18が径34～38cm、深さ24cmをそれぞれ測る。溝及び柱穴内には暗茶灰色粘質シルトが堆積している。なお、この住居はSD19・SD31と交わる関係にある。遺物は、堆積土内から古墳時代前期に比定される庄内式甕（14・15）などの小片がごく少量出土している（第55図・第56図）。



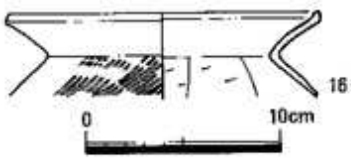
第55図　SI2出土遺物実測図



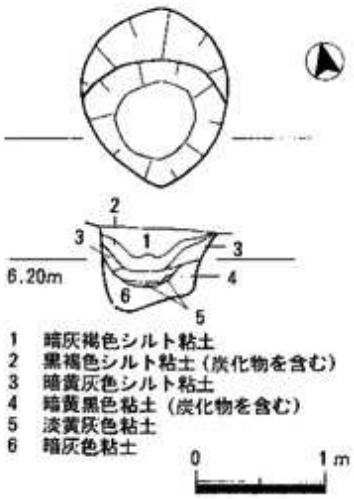
第56図　SI2平断面図



第57図　ＳＥ１平断面図



第58図　ＳＥ１出土遺物実測図



第59図　ＳＥ２平断面図

井戸（ＳＥ）

ＳＥ１

調査区南部付近で検出した素掘りの井戸である。平面はほぼ円形を呈する。ＳＩ１とＳＩ２の住居の間に位置している。規模は検出部で、径90cm、深さ94cmを測る。断面は逆台形を呈する。断面実測はできなかったが、堆積土は、上方から暗灰褐色粘質シルト・暗灰青色粘土・暗青灰色シルト粘土を確認している。遺物は、堆積土内から古墳時代前期に比定される土師器の小片がごく少量出土している。器種には庄内式甕（16）がある（第57図・第58図）。

ＳＥ２

調査区北東部で検出した素掘りの井戸である。平面はほぼ楕円形を呈する。規模は検出部で、東西径1.1m、南北径1.4m、深さ70cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面の西側がやや深くなっている。堆積土は、上方から暗灰褐色シルト粘土・黒褐色シルト粘土（炭化物を含む）・暗黄灰色シルト粘土・暗黄黒色粘土（炭化物を含む）・淡黄灰色粘土・暗灰色粘土である。遺物は、堆積土内から古墳時代前期に比定される土師器の小片がごく少量出土している。器種には高杯・甕などがある（第59図）。

土坑（ＳＫ）

ＳＫ１

調査区南東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈する。規模は検出部で、東西1.1m、南北1.66m、深さ23cmを測る。断面は浅い逆台形を呈する。堆積土は暗灰青色粘質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

ＳＫ２

調査区南東部の東壁付近で検出した土坑である。平面は半円形を呈する。東部は調査区外に至る。規模は

検出部で、東西56cm、南北174cm、深さ20cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰青褐色粘質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

SK3

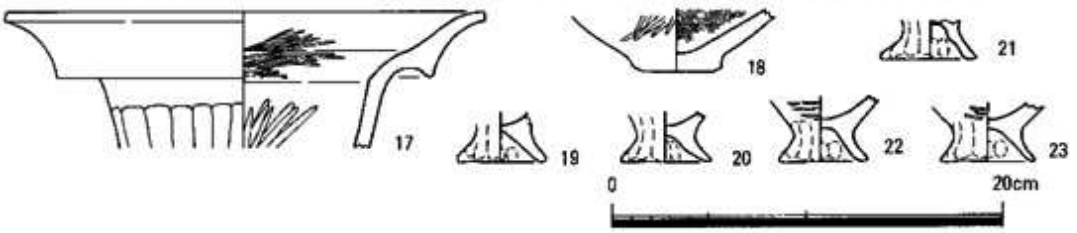
調査区の南壁付近で検出した土坑である。平面は半円形を呈する。南部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西2.8m、南北36cm、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰青色シルト粘土の単一層である。遺物は出土していない。

SK4

調査区の東壁付近で検出した土坑である。平面は「く」の字形で東に広がり、SD7が交わる関係にある。西部はSE3によって切られ、東部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西1.9m、南北4.5m、深さ30cmを測る。断面は緩やかな逆台形を呈する。堆積土は暗灰青色シルト粘土の単一層である。遺物は出土していない。

SK5

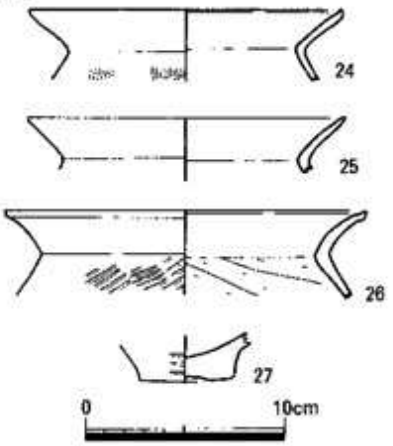
調査区南部で検出した土坑である。平面は不定形を呈し、SD16・SD17・SD29が交わる関係にある。規模は検出部で、最大幅6.6m、最小幅1.7m、深さ10cmを測る。断面は浅い逆台形を呈する。堆積土は暗茶灰色シルト粘土で、中央部付近の底面には炭・灰が薄く堆積している。遺物は、堆積土内から古墳時代前期に比定される土師器の小片が少量出土している。器種には壺（17・18）・庄内式甕・鉢・高杯・製塩土器（19～23）などがある（第60図）。



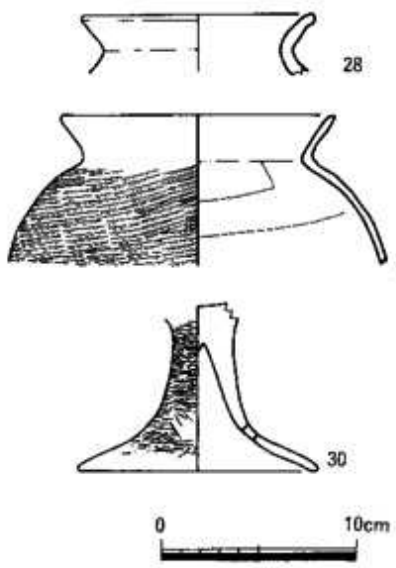
第60図　SK5出土遺物実測図

SK6

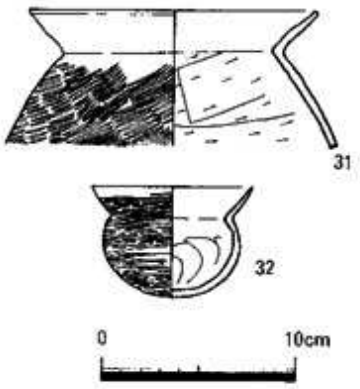
調査区中央部付近で検出した土坑である。平面は不定形を呈し、SD3・SD17が交わる関係にある。規模は検出部で、最大幅6.5m、最小幅1.9m、深さ約10cmを測る。断面は浅い逆台形を呈する。堆積土は暗灰茶色シルト粘土で、底面には炭・灰が薄く堆積している。遺物は、堆積土内から土師器の小片を少量出土している。器種には庄内式甕（24～26）・第Ⅴ様式甕系（27）・高杯などがある（第61図）。



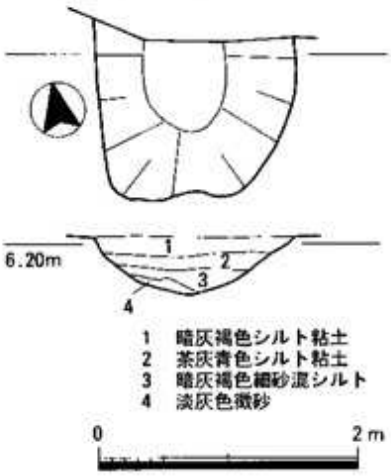
第61図　SK6出土遺物実測図



第62図　ＳＫ８出土遺物実測図



第63図　ＳＫ９出土遺物実測図



第64図　ＳＫ11平断面図

ＳＫ７

調査区中央部付近で検出した土坑である。平面は東西に長い楕円形を呈し、ＳＤ３・ＳＤ19と切合う関係にある。規模は検出部で、東西1.6m、南北１ｍ、深さ15cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰茶色シルト粘土の単一層である。遺物は、堆積土内から庄内式古相に比定される壺・甕などの小片がごく少量出土している。

ＳＫ８

調査区北東部で検出した土坑である。平面は不定形を呈し、ＳＤ33～ＳＤ36と切合い、ＳＥ４・ＳＫ18によって切られている。規模は検出部で、東西・南北ともに約４ｍ、深さ10cmを測る。断面は浅い逆台形を呈し、底面には緩やかな起伏がみられる。堆積土は暗灰茶色シルト粘土の単一層である。なお、西部の底面では土坑（ＳＫ９）を検出した。遺物は土師器の小片が北側の底面近くに散乱した状態で出土した。器種には壺・第Ⅴ様式系（28・29）・庄内式甕・高杯（30）などがある（第62図）。

ＳＫ９

調査区北東部のＳＫ８の底面で検出した土坑である。平面は楕円形を呈する。規模は検出部で、東西1.15m、南北70cm、深さ30cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗茶色シルト粘土である。遺物は、堆積土内から土師器の小片と自然木が出土している。土器の器種には庄内式甕（31）・小型丸底壺（32）がある（第63図）。

ＳＫ10

調査区の北部で検出した土坑である。平面は円形を呈する。規模は検出部で、東西1.1ｍ、南北1.7ｍ、深さ27cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰褐色粘質シルトである。遺物は出土していない。

SK11

調査区の北壁付近で検出した土坑である。北部は調査区外に至る。平面は検出部で半円形を呈する。規模は東西1.56m、南北1.2m、深さ40cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、上方から暗灰褐色シルト粘土・茶灰青色シルト粘土・暗灰褐色細砂混シルト・淡灰色微砂で構成している。遺物は、堆積土内から土器の小片が少量出土している。器種には壺・庄内式甕（33～37）がある（第64図・第65図）。

SK12

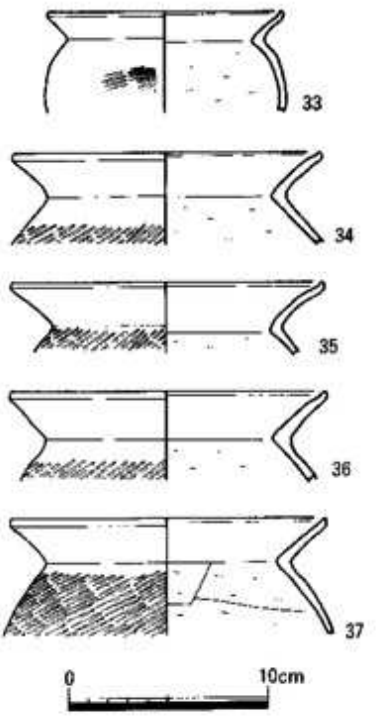
調査区西部で検出した土坑である。平面は不定形を呈する。南部はSD25と切合う。規模は検出部で、東西幅2.26m、南北幅76cm、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗茶灰色シルト粘土である。遺物は、堆積土内から土器の小片が少量出土している。

SK13

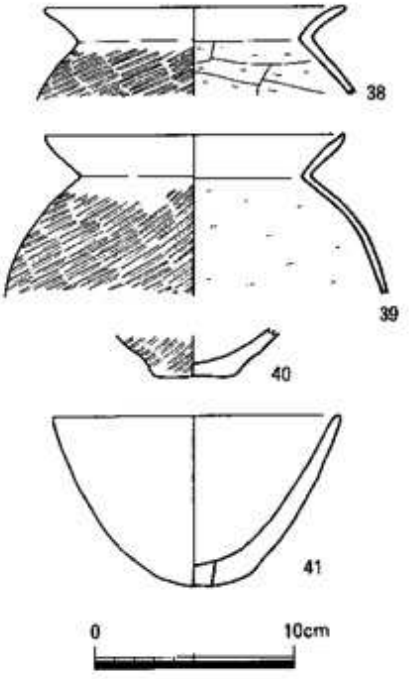
調査区西部で検出した土坑である。平面は不定形を呈する。北東部はSD33と、西部はSD30と切合う。規模は検出部で、最大幅4m、最小幅1.7m、深さ20cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗茶灰色シルト粘土の単一層である。遺物は、堆積土内から土師器の小片がごく少量出土している。器種には第V様式系甕（40）・庄内式甕（38・39）・鉢・有孔鉢（41）などがある（第66図）。

SK14

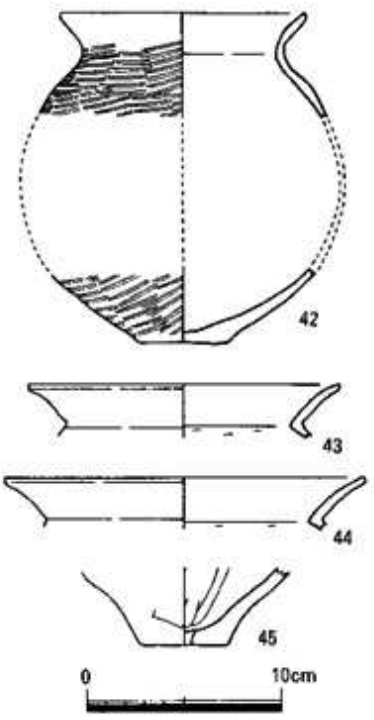
調査区の西壁付近で検出した土坑である。平面は検出部で不定形を呈する。西部は調査区外に至り、SD22・SD23と切合う。規模は検出部で、東西45cm以上、南北2.8m、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗茶灰色シルト粘土である。遺物は、堆積土内から土師器の小片がごく少量出土している。器種には壺・庄内式甕・鉢などがある。



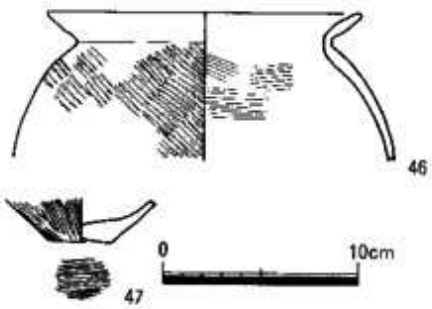
第65図　SK11出土遺物実測図



第66図　SK13出土遺物実測図



第67図　ＳＫ15出土遺物実測図



第68図　ＳＫ16出土遺物実測図

ＳＫ15

調査区の西壁付近で検出した土坑である。平面は検出部で半楕円形を呈する。西部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西1.2ｍ、南北2.5ｍ、深さ20㎝を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗茶灰色シルト粘土である。遺物は、堆積土内から土器の小片が少量出土している。器種には第Ｖ様式系甕（42）・庄内式甕（43・44）・有孔鉢（45）などがある（第67図）。

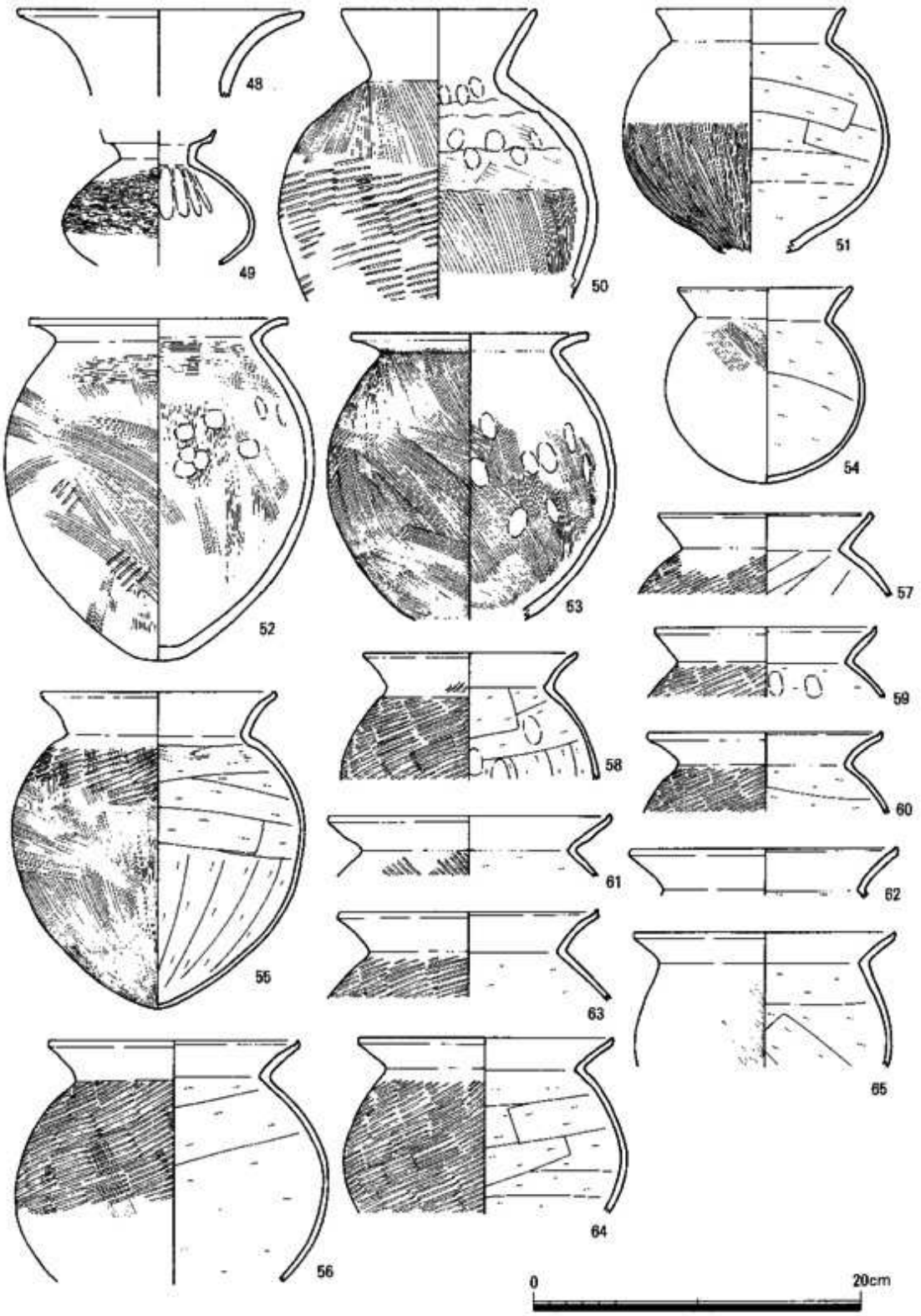
ＳＫ16

調査区中央部のやや北部で検出した土坑である。平面は不定形を呈する。規模は検出部で最大幅2.7ｍ、最小幅１ｍ、深さ10㎝を測る。断面は逆台形を呈し、底面は西部で一段深くなり、平面円形を呈する小穴（径30㎝、深さ20㎝）がある。堆積土は暗茶灰色シルト粘土である。遺物は、堆積土内から土師器の小片が少量出土している。器種には第Ｖ様式系甕（46）・庄内式甕（47）などがある（第68図）。

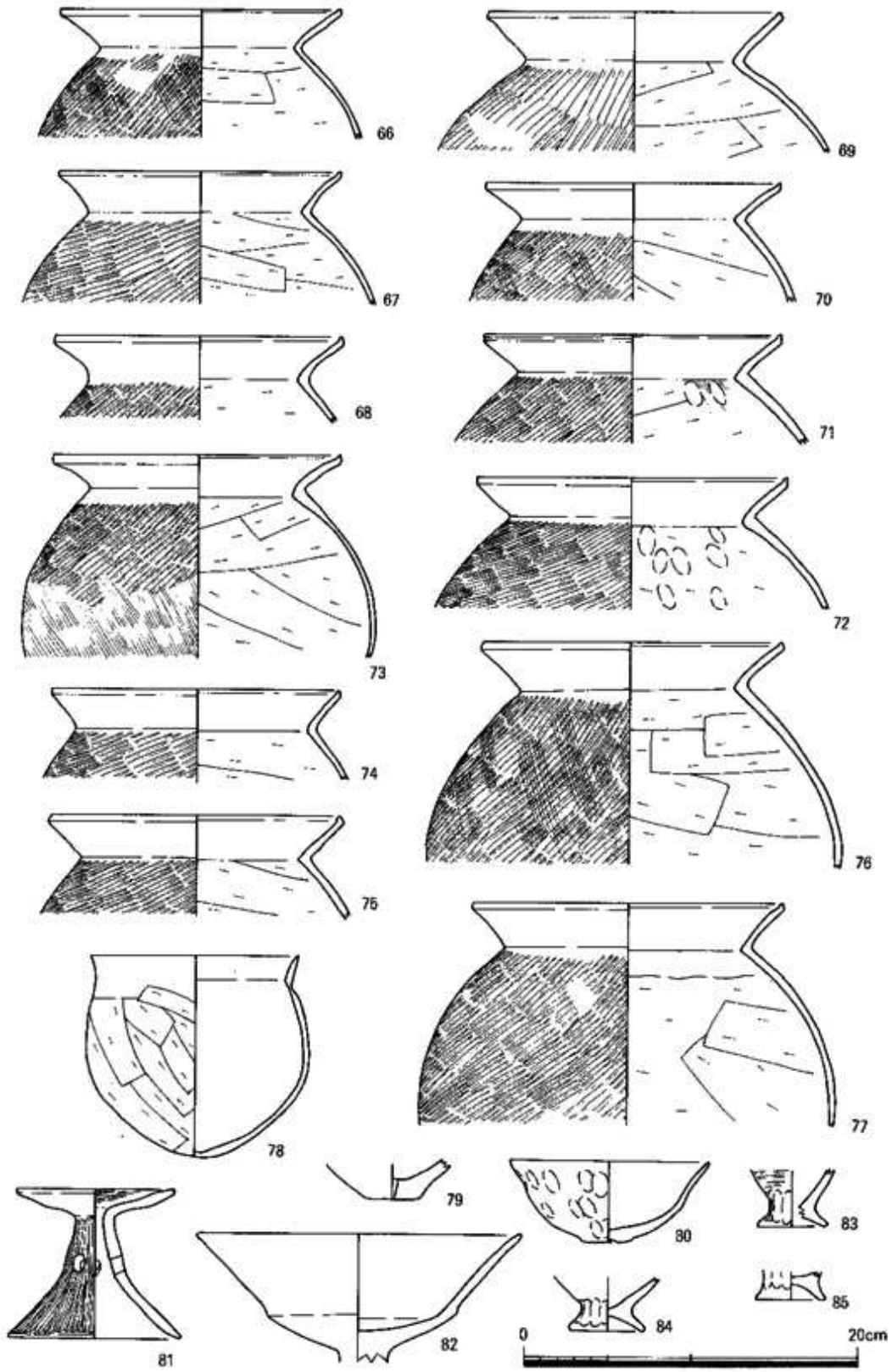
ＳＫ17

調査区の南西隅で検出した土坑である。南西部は調査区外に至る。平面は検出部で扇形を呈する。規模は検出部で、東西2.9ｍ、南北3.9ｍ、深さ15㎝を測る。底面はやや起伏がみられ、南西側へ深くなる。堆積土は粘性の強い暗灰褐色粘土である。遺物は、堆積土内から古墳時代前期（庄内式古相～布留式古相）に比定される土器の小片がコンテナ箱にして２箱分出土している。出土した土器は廃棄されたものと考えられ、ほとんどの土器は細かく砕け小片化していた。器種には壺（48～53）・庄内式甕（54～77）・甕（78）・有孔鉢（79）・鉢（80）・器台（81）・高杯（82）・製塩土器（83～85）などがある。このうち甕が大半を占め、その中では庄内式甕が圧倒的に多かった（第69図～第71図）。

第69図　ＳＫ17出土遺物実測図



第70図　SK17出土遺物実測図1



第71図　SK17出土遺物実測図2

第4表　小穴（SP）一覧表

遺構番号	形状		規模（cm）横		出土遺物
	平面形	断面形	長径×短径	深さ	
SP 1	円形	逆台形	18	20	遺物なし
SP 2	楕円形	逆台形	42～34	9	遺物なし
SP 3	楕円形	逆台形	35～30	8	遺物なし
SP 4	楕円形	逆台形	20～18	25	遺物なし
SP 5	楕円形	逆台形	37～30	18	遺物なし
SP 6	円形	逆台形	46～42	24	遺物なし
SP 7	円形	逆台形	32	10	遺物なし
SP 8	楕円形	逆台形	38～32	25	遺物なし
SP 9	円形	逆台形	43	22	遺物なし
SP 10	円形	逆台形	30	10	遺物なし

小穴（SP）

SP1～SP10

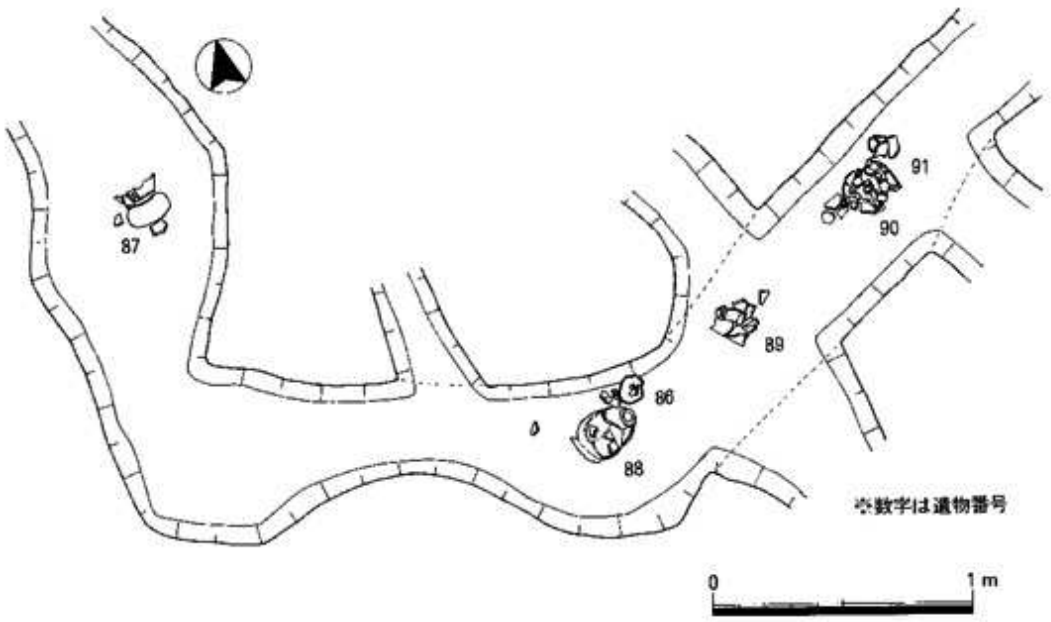
調査区内で検出した小穴は10個を数える。平面の形状には円形のもの（5個）と楕円形のもの（5個）を呈するものがある。規模は径15～30cm、深さ20～40cmを測る。堆積土は暗茶灰色シルト粘土である。これらの小穴は建物に伴う柱穴と思われるものもみられるが、調査区内では規則性のある配列をもつものが認められなかった。遺物は、堆積土内から土師器の小片がごく少量出土している。器種には第V様式系甕と庄内式甕がある。

なお、個々の小穴の規模・形状・出土遺物等については第4表にまとめた。

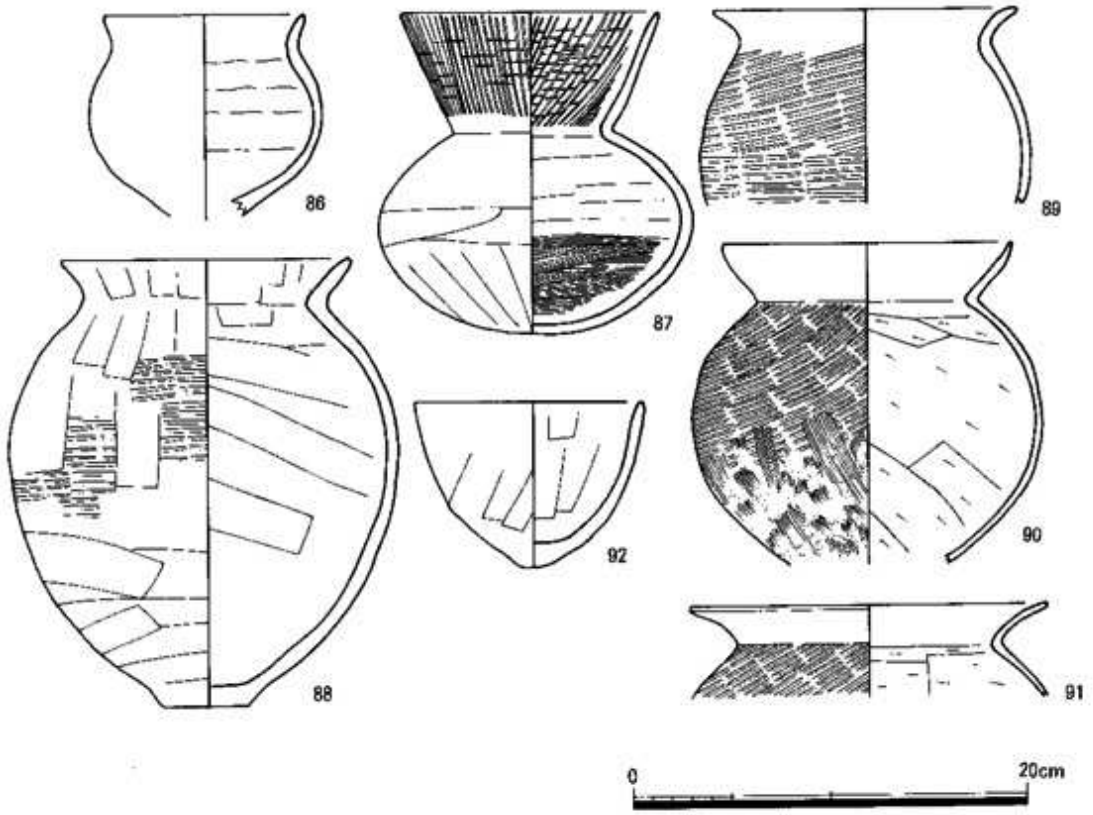
溝（SD）

SD1～SD37

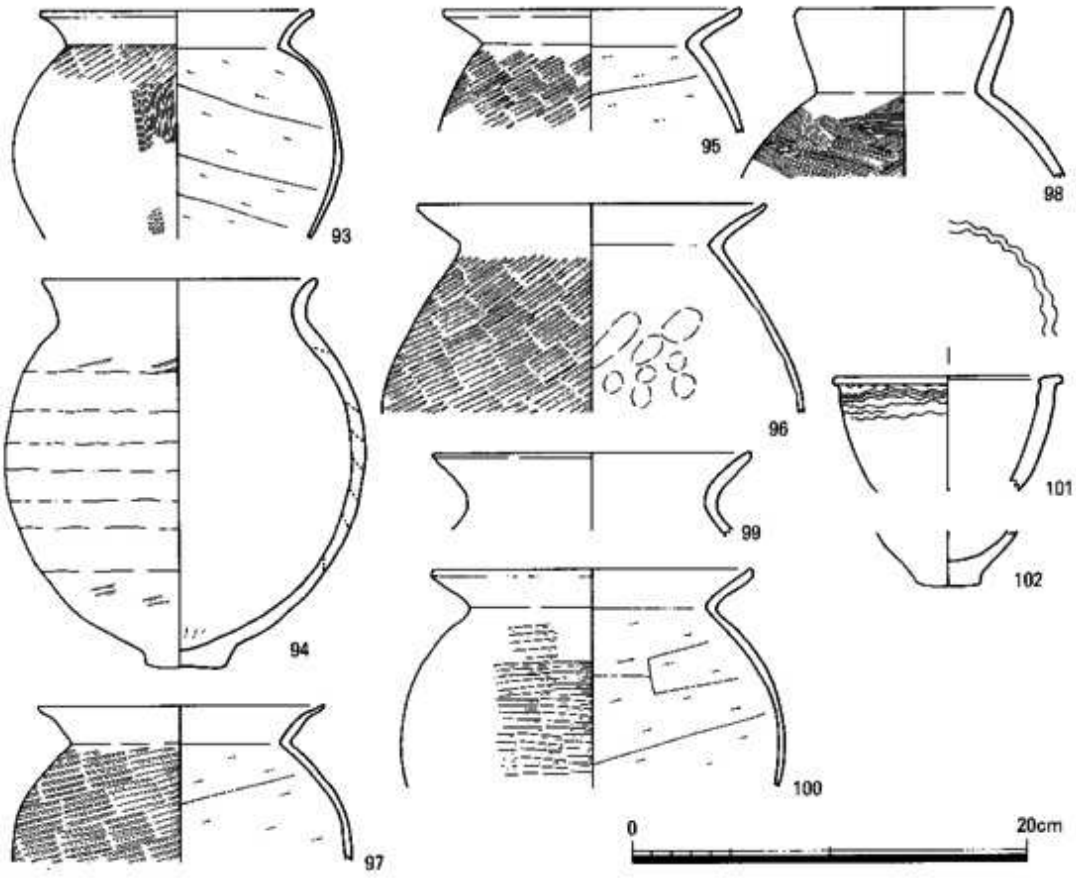
調査区内で検出した溝は37条を数える。これらの溝の方向には東西方向のもの（4条）・南北方向のもの（9条）・南東—北西方向のもの（2条）・南西—北東方向のもの（6条）を示すものと、方向の定まらないもの（16条）がみられる。これらの溝はそれぞれ合流する関係にある。南北方向を示す溝には平行に走るもの（SD17・SD22・SD24・SD25・SD26・SD29）がみられる。堆積土は暗茶灰色シルト粘土である。また、これらの溝は住居（SI1・SI2）や土坑などの遺構とも合流する関係にあるものもある。これらの溝の性格は住居の外部排水施設として設けられた溝、雨水などによってできた小溝などが考えられる。時期は古墳時代前期に比定されるが、個々の溝はそれぞれ若干の時期差がみられる。遺物は、堆積土内から土師器の小片がごく少量出土している。SD12とSD16は溝の底面から土器が出土している。また、これらの土器は、完形又は完形に近い形で復元することができた。遺物は大半が古墳時代前期に比定される土器であった。このうち図示できた土器は18点を数える。器種には庄内式古相～布留式古相に比定される壺・甕・鉢・高杯などがある。SD12では壺（86・87）・第V様式系甕（88・89）・庄内式甕（90・91）・鉢（92）などがある。SD6では庄内式甕（93）、SD16では第V様式系甕（94）、SD20では庄内式甕（95・96）、SD23では庄内式甕（97）、SD32では壺（98）・第V様式系甕（99）・庄内式甕（100）・鉢（101・102）がある（第72図～第74図）。



第72図　SD12土器平面図



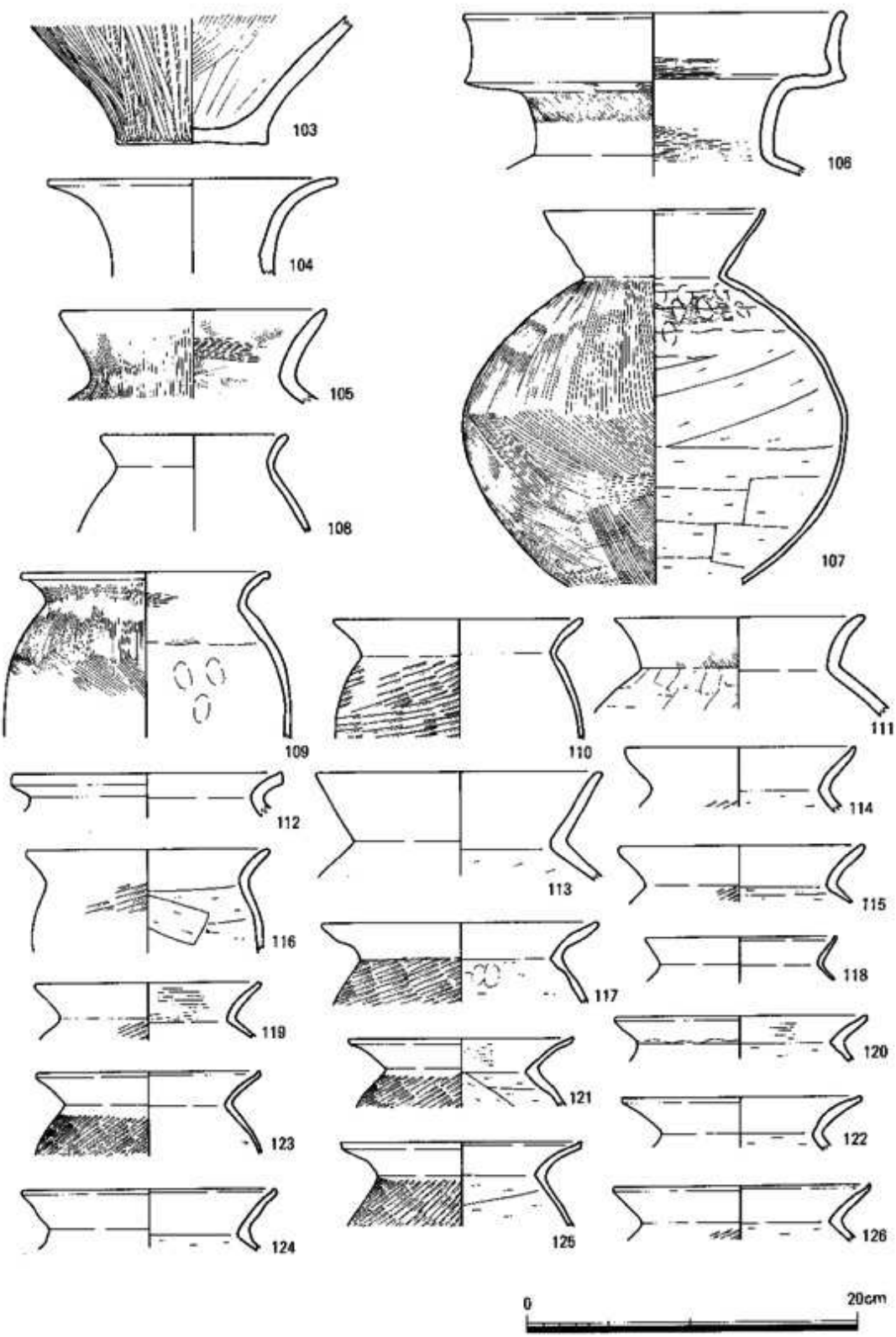
第73図　SD12出土遺物実測図



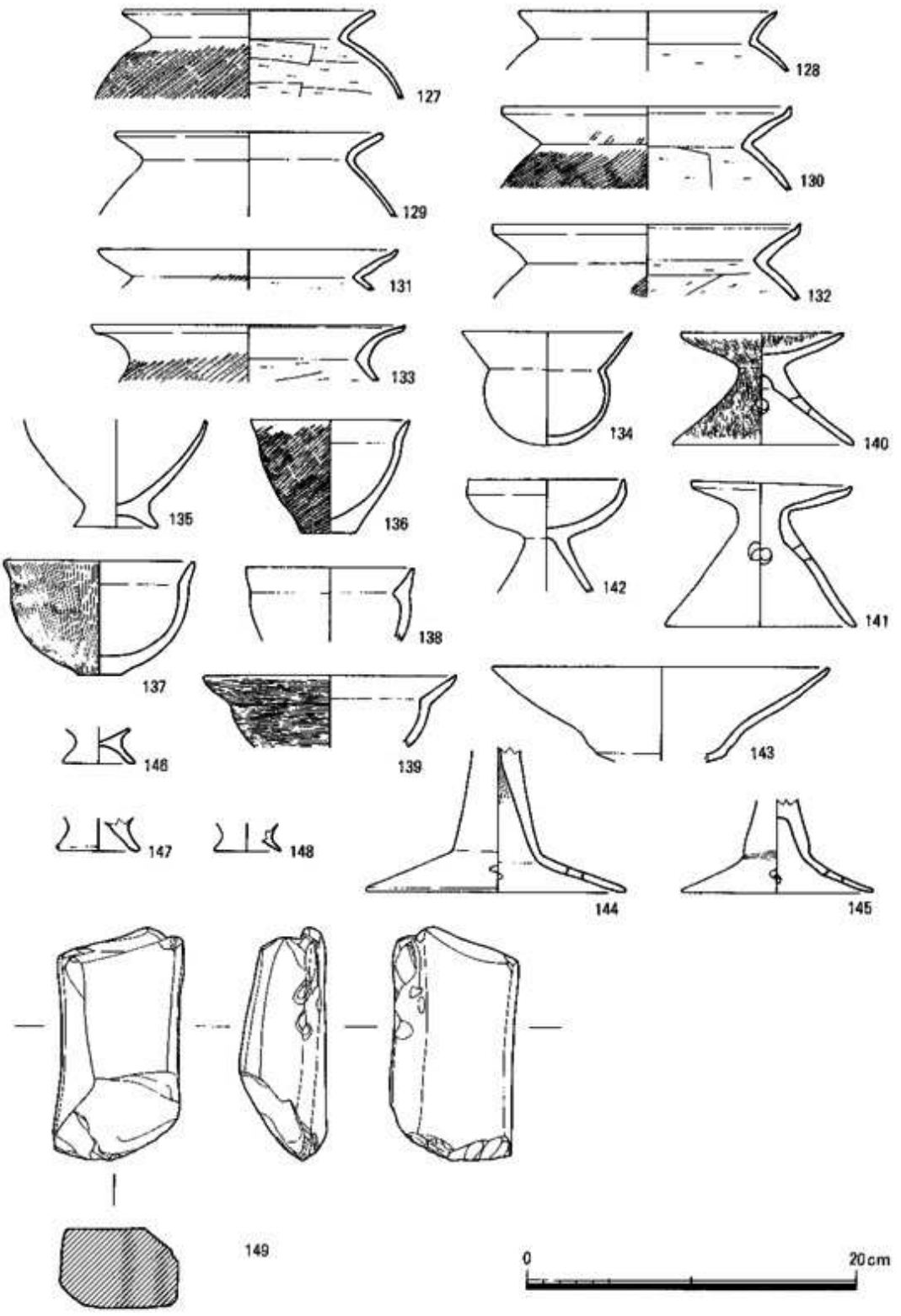
第74図　ＳＤ６(93)・ＳＤ16(94)・ＳＤ20(95・96)・ＳＤ23(97)・ＳＤ32(98～102) 出土遺物実測図

遺構に伴わない遺物

第６層（包含層）で古墳時代前期に比定される土器が出土している。出土した遺物はコンテナ箱にして約５箱分を数え、ほとんどの遺物は土師器の小片である。土器の器種には壺・甕・小形丸底壺・鉢・器台・高杯・製塩土器などがある。その他にサヌカイト剥片・砥石が各１点ずつ出土している。このうち、図示できたものは47点である。壺（103～107）は４点で、103は畿内第Ⅳ様式に比定される底部片である。107は布留式古相の形態をもつ土器である。甕には第Ⅴ様式系甕（110・111）・庄内式甕（114～133）・甕（108・109・112・113）がある。134は庄内式新相に比定される小形丸底壺である。鉢（135～139）は５点で、畿内第Ⅴ様式～庄内式の時期に比定されるもの２点（135・136）と、布留式古相の時期に比定される３点（137～139）である。器台には浅い受部をもち、受部と脚部が貫通しないもの（140）、貫通するもの（141）と、深い受部をもち、受部と脚部が貫通しないもの（142）がある。高杯には二段に屈曲する杯部（143）と、下方に下ったのち屈曲して外方する脚部のみ（144・145）がある。146～148は製塩土器である。149は砥石（13.5cm×７cm×５cm）の破片である（第75図・第76図）。



第75図　旬含層出土遺物実測図1



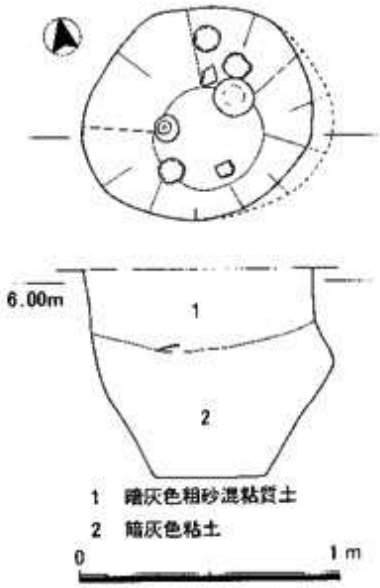
第76図　包含層出土遺物実測図2

2　平安時代後期～鎌倉時代

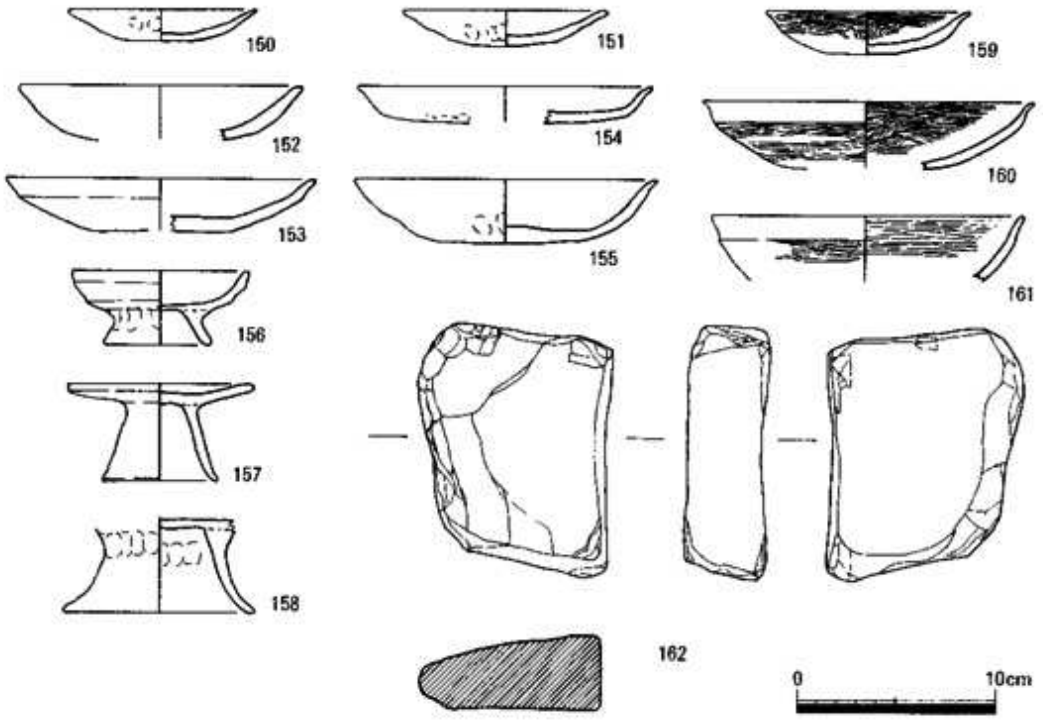
井戸（SE）

SE3

調査区東部で検出した素掘りの井戸である。平面はほぼ円形を呈する。上部では後世によって削平を受けている。規模は検出部で、径78～92cm、深さ90cmを測る。断面はU字形を呈し、中位の一部にはえぐれている箇所がみられる。堆積土は暗灰色粗砂混粘質土・暗灰色粘土の2層に分れる（第77図）。遺物は、検出面から約30cmを測る第2層の下面付近から完形の土師器の小皿



第77図　SE3平断面図

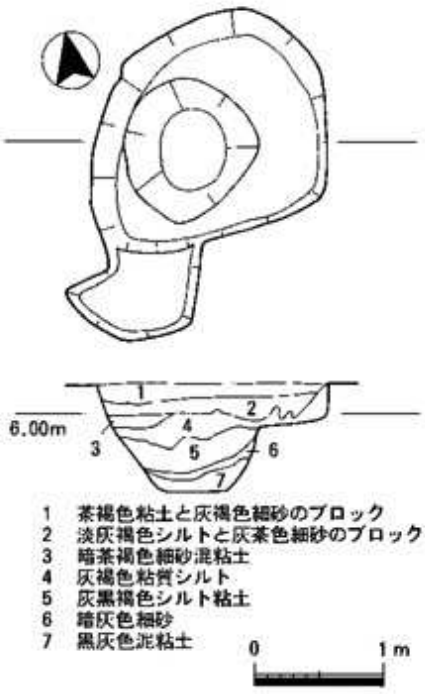


第78図　SE3出土遺物実測図

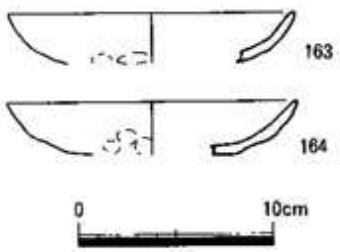
（150・151）・中皿（155）と、その他には土師器の中皿（152～154）・台付皿（156～158）、瓦器の小皿（159）・　椀（160・161）、砥石（162）などがある（第78図）。

SE4

調査区北東部で検出した素掘りの井戸である。平面はやや楕円形を呈する。上部は削平を受けている。規模は検出部で、径2.4～2.7m、深さ1mを測る。断面は逆凸形を呈し、検出面から下段上面までの深さ約40cmを測る。下段の平面は円形を呈し、上面径1.2mを測る。堆積土は暗茶灰色粘土と淡灰褐色シルトのブロック・灰褐色粘土と茶灰色シルトのブロックに分かれる。遺物は、堆積土内から土師器小皿・瓦器椀の小片が少量出土している。



第79図　SE6平断面図



第80図　SE6出土遺物実測図

SE5

調査区東部で検出した素掘りの井戸である。平面はほぼ楕円形を呈する。規模は検出部で、長径2.6m、短径2.1m、深さ86cmを測る。断面は逆凸形を呈し、検出面から下段までは約50cmを測る。下段の平面はほぼ円形を呈し、上面径1.2mを測る。堆積土は暗茶褐色粘土と淡灰褐色シルトのブロックである。遺物は、堆積土内から土師器の小片がごく少量出土している。

SE6

調査区の南部付近で検出した素掘りの井戸である。平面はほぼ楕円形を呈する。規模は検出部で、長径2m、短径1.7m、深さ83cmを測る。井戸は2段の掘形である。上部の一部（東西90cm、南北80cm、深さ20cmを測る）が広がる。井戸掘形の断面は逆凸形を呈する。堆積土は、上方から茶褐色粘土と灰褐色細砂のブロック・淡灰褐色シルトと灰茶色細砂のブロック・暗茶褐色細砂混粘土・灰褐色粘質シルト・灰黒褐色シルト粘土・暗灰色細砂・黒灰色泥粘土で構成されている（第79図）。遺物は、井戸内の底付近から土器の小片が少量出土している。器種には土師器中皿（163・164）がある（第80図）。

土坑（SK）

SK18

調査区北東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈する。規模は検出部で、東西1.65m、南北2m、深さ30cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗茶褐色粘土と淡灰褐色シルトのブロックである。遺物は、堆積土内から土師器の小皿・甕などの小片が少量出土している。

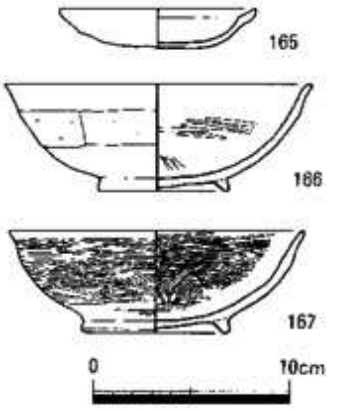
SK19

調査区北西部で検出した土坑である。平面は隅丸長方形を呈する。規模は検出部で、東西1.4m、南北1.7m、深さ30cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面は平坦である。堆積土はSK1と同じ堆積である。遺物は出土していない。

小穴（SP）

SP19～SP21

調査区内で3個を検出した。平面の形状には円形のもの2個（SP19・SP21）・隅丸方形のもの1個（SP20）がある。規模はSP19が径30cm、深さ30cm、SP20が長径70cm、短径30cm、深さ60cm、SP21が径35cm、深さ25cmをそれぞれ測る。断面はすべてU字形を呈する。堆積土は灰褐色細砂混粘土である。遺物は、SP19の内部から土師器の小皿（165）・瓦器椀（166・167）が出土している（第81図）。



第81図　SP19出土遺物実測図

Ⅳ　出土遺物観察表

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量（cm）口径 底径	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1	甕 （土師器） SI1	口　径 17.4	球形と思われる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）後ハケナデ、内面ヘラ削り。	暗褐色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良	
2	同上 SI1	口　径 19.4	口縁部は上外方へ伸び、端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ，体部内面ヘラ削り。	暗褐色	細砂粒を少量含む。	良	
3	同上 SI1	底　径 4.8	底部は突出気味の上げ底。体部上位は欠損。 体部外面タタキ（4本）、内面ナデ、底部内外面ナデ。	外　赤褐色 内　暗褐色	細砂粒を少量含む。	良好	
4	同上 SI1	底　径 3.6	体部は底部から上内方へ内湾して伸びる。体部上位は欠損。底部は突出気味で、小さな窪みをもつ。底体部外面下位に2本の接合痕。 体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。底部内外面ナデ。	外　茶褐色 内　淡褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
5	同上 SI1	口　径 15.8	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。	灰色	微砂粒を少量含む。	良	煤付着。
6	同上 SI1	口　径 14.4	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ヘラ削り。	暗褐色	細砂粒を少量含む。	良	
7	同上 SI1	口　径 17.0	口縁部は上外方へ外反気味伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）後ハケナデ(11本)、内面ヘラ削り。	暗褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
8	同上 SI1	口　径 14.8	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ヘラナデ。	淡褐色	石英・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
9	鉢 （土師器） SI1	口　径 29.6	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 内外面摩滅の為不明。	淡赤褐色	細砂粒を少量含む。	良	
10 二六	同上 SI1	口　径 11.0 底　径 2.2	半球形の体部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は尖る。底部は突出しない平底。 体部外面タタキ（4本）後ナデ、底体部外面ナデ、内面ハケナデ（14本）。	乳褐色	2.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	完形。 煤付着。
11	器台 （土師器） SI1	底　径 9.9	受部は欠損。受部と脚部の間に貫通孔を有する。脚部は下外方へ伸び、端部は丸い。 受部・脚部外面ヘラミガキ、内面ヨコナデ。	乳褐色	2.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
12	高杯 （土師器） SI1	底　径 15.4	杯部は欠損。脚部は下外方へ直線的に伸びる柱状部から屈曲し、下外方へ大きく開く裾部に至る。端部は丸い。 柱状部外面ヘラナデ、内面しぼり目・ナデ、裾部外面ナデ、内面指頭痕・ナデ。	乳褐色	精良。	良	
14	甕 （土師器） SI2	口　径 14.4	口縁部は外上方へ内湾気味に伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ハケナデ（10本）後ヘラ削り。	暗灰褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
15	同上 SI2	口　径 15.4	口縁部は斜上方へ内湾気味に伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	暗褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量（cm）口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
16	甕 （土師器） SE1	口　径15.8	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	外　黒褐色 内　暗褐色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
17	甕 （土師器） SK5	口　径24.4	口縁部は上外方へ伸びた後屈曲し、斜上方へ外反して伸びる。屈曲部は垂下する。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部・頸部・体部外面上面ヨコナデ、下位ヘラナデ、内面ヘラミガキ。	乳褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
18	同上 SK5	底　径 3.4	体部は欠損。底部は突出気味の平底。 体部外面ヘラミガキ、内面ハケナデ(10本)、底部外面ヘラミガキ。	外　乳灰褐色 内　黒灰色	雲母等の細砂粒を少量含む。	良	
19 二六	製塩土器 SK5	脚台径 4.2	口縁部・体部は欠損。脚部は下外方へ短く開き、端部は丸い。 底部内面ナデ、脚部外面指ナデ、内面指頭。	乳赤褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
20 二六	同上 SK5	脚台径 4.6	口縁部・体部は欠損。脚部は下外方へ外反して短く開き、端部は丸い。 底部内面ナデ、脚部内外面指ナデ。	乳褐色	3.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
21 二六	同上 SK5	脚台径 4.9	口縁部・体部は欠損。脚部は下外方へ外反して短く開き、端部は下に面をもつ。 体部外面タタキ（4本）、内面ナデ。脚部内外面指ナデ。	乳赤褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
22 二六	同上 SK5	脚台径 4.4	口縁部・体部は欠損。脚部は下外方へ短く開き、端部は下に面をもつ。 体部外面タタキ（6本）、内面ナデ、脚部外面指ナデ、内面指頭痕。	暗灰褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
23 二六	同上 SK5	脚台径 4.6	口縁部・体部は欠損。脚部は下外方へ外反して短く開き、端部は丸い。 体部外面タタキ（6本）、内面ナデ。脚部指ナデ、内面指頭痕。	赤褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
24	壺 （土師器） SK6	口　径15.8	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（6本）、内面ヘラナデ。	暗褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
25	同上 SK6	口　径16.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
26	同上 SK6	口　径18.4	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	暗褐色	雲母等の細砂粒を少量含む。	良	
27	同上 SK6	底　径 4.2	口縁部・体部は欠損。底部は突出する上げ底。 外面タタキ（3本）、内面ヘラナデ、底面ナデ。	外　暗褐色 内　乳褐色	6.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
28	同上 SK8	口　径11.8	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は若干外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	乳赤褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
29	同上 SK8	口　径13.9	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至り、端部付近で若干張らむ。端部は鈍く尖る。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラナデ。	外　茶褐色 内　灰茶色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm)	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
30	高杯 (土師器) SK8	脚部径 12.8	杯部は欠損。脚部は柱状部から下外方へ外反して裾部に伸びる。端部は丸い。裾部に三方の円孔を有する。 脚部外面ヘラナデ後ヘラミガキ、内面ナデ、杯部内面ヘラミガキ。	外 乳赤褐色 内 乳灰赤褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
31	甕 (土師器) SK9	口 径 14.7	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（6本）後ハケナデ（9本）、内面ヘラ削り。	暗褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
32 二六	小型丸底壺 (土師器) SK9	口 径 8.2 器 高 5.7	偏平な半球形の体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は尖る。 口縁部内面ナデ、体部外面ヘラナデ、他はハケナデ後ヘラミガキ。	乳赤褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良	完形。
33	甕 (土師器) SK11	口 径 11.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（5本）後ハケナデ、内面ヘラ削り。	茶褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
34	同上 SK11	口 径 15.6	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は若干上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	茶褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
35	同上 SK11	口 径 15.8	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	茶褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
36	同上 SK11	口 径 16.0	口縁部は斜上方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ヘラ削り。	茶褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
37	同上 SK11	口 径 16.0	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（5本）、内面ヘラ削り。	茶褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
38	同上 SK13	口 径 15.2	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	灰褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
39	同上 SK13	口 径 15.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸び、端部は鈍く尖る。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ヘラ削り。	暗灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
40	同上 SK13	底 径 3.7	口縁部・体部は欠損。底部は突出気味の平底。 底体部外面タタキ（4本）、内面ナデ、底部内外面ナデ。	外 乳褐色 内 灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	変色。
41 二六	有孔鉢 (土師器) SK13	口 径 14.6 底 径 8.9	半楕円形の体部からそのまま上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部には円形の穿孔（径9㎜）を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ、底部外面ナデ。	乳赤褐色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
42	甕 (土師器) SK15	口 径 12.4 底 径 4.6	球形と思われる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位は欠損。底部は突出気味の平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ、底部外面ナデ。	淡灰褐色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm) 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
43	甕 (土師器) SK15	口径 15.9	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は若干つまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	外 暗褐色 内 褐色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良	
44	同上 SK15	口径 18.3	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は若干上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	灰褐色	石英・長石雲母等の細砂粒を少量含む。	良	
45	有孔鉢 (土師器) SK15	底径 16.0	体部は欠損。底部は突出気味の平底で、円形の穿孔を有する。 底体部内外面ヘラナデ、底部外面ナデ。	褐灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
46	甕 (土師器) SK16	口径 16.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ハケナデ（6本）後ナデ。	淡褐灰色	石英・長石・雲母・チャート等の細砂粒を少量含む。	良	
47	同上 SK16	底径 2.7	体部上位は欠損。底部は突出しない平底。 体部・底部外面タタキ（8本）、内面ヘラナデ。	暗褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
48	盌 (土師器) SK17	口径 17.4	口縁部は上外方へ大きく外反して伸び、端部は若干つまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	乳赤褐色	微砂粒を少量含む。	良	
49 二六	同上 SK17	最大径 11.3	偏平な球形の体部から屈曲し、直上へ短く伸びる頸部から屈曲し、外上方へ短く伸びた後屈曲し、上外方へ伸びる。端部は欠損。底部は欠損。 口縁部内外面不明、体部外面ヘラミガキ、内面上位指ナデ、下位ナデ。	内外 赤褐色 断面 暗灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
50 二六	同上 SK17	口径 11.8	球形と思われる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。体部内面上位に接合痕4本を有する。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ。体部外面上位ハケナデ、中位タタキ後ヘラナデ、内面上位ナデ後指頭痕・ハケナデ、中位ハケナデ。	褐灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
51 二六	甕 (土師器) SK17	口径 11.4	中位に張りのある球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出気味の平底と思われるが、一部欠損する。 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上位剥離の為不明。下位ヘラミガキ、内面ヘラ削り。	淡褐灰色	石英・長石雲母の細砂粒を少量含む。	良好	
52 二七	同上 SK17	口径 15.7 器高 21.0	最大径を中位よりやや上にもつ体部から屈曲し、外上方へ外反して短く伸びる口縁部に至る。端部は外に面をもつ。底部は突出しない小さな平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）後ハケナデ（8本）、内面ハケナデ（7本）・指頭痕、底部外面ハケナデ、内面指頭痕。	茶褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
53 二六	同上 SK17	口径 14.2	球形に近い体部から屈曲し、外上方へ外反気味に短く伸びる口縁部に至る。端部は外に面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（9本）、内面ハケナデ（9本）。指頭痕。	褐灰色	石英・長石・雲母・赤褐色酸化粒等の細砂粒を少量含む。	良好	
54 二七	同上 SK17	口径 10.1 器高 12.1	球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に丸くつまみ上げる。底部は丸底。 口縁部内外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（6本）、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	微砂粒を少量含む。	良	完形。 煤付着。

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm) 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
55 二七	甕 (土師器) SK17	口径 14.2 器高 20.2 最大径 19.0	最大径を中位よりやや上にもつ楕円形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は突り気味の底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ（3本）後ハケナデ（7本）、下位ハケナデ、内面上位ヘラ削り後ハケナデ、下位ヘラ削り。	褐灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	完形。 煤付着。
56 SK17	同上	口径 15.2 最大径 20.0	球形の体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）後ハケナデ（7本）、下位ナデ、内面ヘラ削り。	茶褐色	5mm以下の砂粒を少量含む。	良	
57 SK17	同上	口径 13.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラナデ。	茶褐色	2.5mm以下の砂粒を少量含む。	良	
58 SK17	同上	口径 13.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部下位は欠損。 口縁部外面タタキ後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り・指頭痕。	褐灰色	石英・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
59 SK17	同上	口径 13.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ヘラ削り・指頭痕。	褐灰色	石英・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
60 SK17	同上	口径 14.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	褐灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
61 SK17	同上	口径 17.2	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	褐灰色	石英・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
62 SK17	同上	口径 16.2	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は若干上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、内面ヘラ削り。	茶褐色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良	
63 SK17	同上	口径 15.8	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（5本）後ハケナデ、内面ヘラ削り。	暗褐色	4mm以下の砂粒を少量含む。	良	
64 二七	同上 SK17	口径 15.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）後ナデ、内面ヘラ削り。	褐灰色	角閃石・長石・雲母・石英等の細砂粒を少量含む。	良好	
65 SK17	同上	口径 16.0	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（7本）、内面ヘラ削り。	乳褐色	2.5mm以下の砂粒を少量含む。	良	

遺物番号 実測番号	器種 出土地点	法量（cm）口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
66	甕 （七輪型） SK17	口径16.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）後ハケナデ（8本）、内面ヘラ削り。	褐灰色	角閃石・長石・石英等の細砂粒を少量含む。	良	
67	同上 SK17	口径16.7	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	乳灰黄色	長石・赤褐色酸化粒等の細砂粒を少量含む。	良好	
68	同上 SK17	口径17.0	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	茶褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
69	同上 SK17	口径17.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）後ナデ、内面ヘラ削り。	褐灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
70	同上 SK17	口径17.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）後ハケナデ（8本）、内面ヘラ削り。	茶褐色	3.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
71	同上 SK17	口径17.7	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ヘラ削り・指頭痕・ハケナデ（9本）。	暗褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良	
72	同上 SK17	口径18.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（5本）、内面ヘラ削り・指頭痕。	暗褐色	9㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
73	同上 SK17	口径17.1	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（5本）後ハケナデ（9本）、内面ヘラ削り。	暗褐色	9㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
74	同上 SK17	口径17.1	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ヘラ削り。	褐灰色	石英・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
75	同上 SK17	口径17.4	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	暗褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
76	同上 SK17	口径17.7	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）後ハケナデ（8本）、内面ヘラ削り。	茶褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量(cm)	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
77	甕 (土師器) SK17	口径 18.5	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)後ハケナデ(6本)、内面ヘラ削り。	茶褐色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
78 二七	鉢 (土師器) SK17	口径 12.3 器高 12.2	半球形に近い体部から屈曲し、ほぼ直上へ伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。底部は丸底。 口縁部外面ヨコナデ・指ナデ、内面ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	乳褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良	完形。
79	有孔鉢 (土師器) SK17	底径 3.3	口縁部・体部は欠損。底部は突出気味の平底。底部に方形の穿孔を有する。 底体部内外面ナデ。	乳褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
80 二七	鉢 (土師器) SK17	口径 11.9 底径 2.6	半球形の体部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出気味の窪み底。 体部外面指頭痕・ナデ、内面ナデ、底部内外面ナデ。	淡灰黄色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
81 二七	器台 (土師器) SK17	口径 9.4 器高 9.0 脚底径 11.4	受部は外上方へ水平気味に伸び、端部は外傾する面をもつ。脚部は下外方へ外反して伸び、端部は丸い。脚部中位に三方孔を有する。 受部外面ヨコナデ、内面ヘラミガキ、脚部外面ヘラミガキ、内面ナデ。	淡灰褐色	石英・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	完形。
82 二七	高杯 (土師器) SK17	口径 19.3	やや平らな杯底部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。脚部は欠損。 杯体部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヨコナデ、杯底部外面ヨコナデ、内面ナデ。	乳褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
83	製塩土器 SK17	口径 4.3	口縁部・体部は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる。脚部は外下方へ短く伸び、端部は丸い。 体部外面タタキ(4本)後ナデ、内面ナデ、脚部体部外面指ナデ、内面ナデ。	赤褐色	長石・石英雲母等の細砂粒を少量含む。	良	二次焼成。
84	同上 SK17	底径 4.1	口縁部・体部は欠損。体部は斜上方へ内湾して伸びる。脚部は下外方へ短く伸び、端部は丸い。 体部外面ナデ、脚部外面指ナデ、内面ナデ。	赤褐色	石英・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良	二次焼成。
85	同上 SK17	口径 4.2	口縁部・体部は欠損。脚部は下外方へ短く伸び、端部は丸い。 体部内面ナデ、脚部外面指ナデ、内面ナデ。	赤褐色	石英・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	二次焼成。
86	甕 (土師器) SD12	口径 10.0	球形に近い体部から屈曲し、上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。体部内面に上位・中位に接合痕4本を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外 乳赤褐色 内 乳灰褐色	7㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
87 二八	壺 (土師器) SD12	口径 13.0 器高 16.6 最大径 16.2	偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ長く伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は丸底。 口縁部内外面ヘラミガキ後暗文、体部外面上位ナデ、下位ヘラ削り、内面上位ヘラナデ、下位ハケナデ(10本)。	淡灰褐色	7㎜以下の砂粒を少量含む。	良	完形。
88 二八	甕 (土師器) SD12	口径 14.4 器高 22.9 底径 5.1	最大径を中位よりやや上にもつ体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出する平底。 口縁部内外面ヘラナデ、体部外面タタキ(3本)後ヘラナデ、内面ヘラナデ、底部外面ヘラ削り。	乳褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	完形。

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量（cm） 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
89	甕 （土師器） SD12	口 径16.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ハケナデ（7本）後ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。	乳褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
90	同上 SD12	口 径14.6	球形の体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ（4本）、下位タタキ後ハケナデ（9本）、内面ヘラ削り。	外 暗褐色 内 乳褐色	3.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
91	同上 SD12	口 径18.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外に面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	暗褐色	6㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
92 ニハ	鉢 （土師器） SD12	口 径11.7 器 高 8.5	半楕円形の体部から屈曲し、直上へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は尖り気味の底。 内外面ヘラナデ。	茶褐色	4.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	完形。
93	甕 （土師器） SD6	口 径13.7	球形と思われる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまむ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）後ハケナデ（10本）、内面ヘラ削り。	灰褐色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良	
94 ニハ	同上 SD16	口 径13.9 器 高20.0 底 径 3.2	楕円形の体部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出する平底。体部外面に接合痕7本を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）後ナデ、底部外面ナデ、内面ナデ。	乳赤灰褐色	8㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
95	同上 SD20	口 径15.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	暗褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
96	同上 SD20	口 径17.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまむ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面指頭痕。	暗褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
97	同上 SD23	口 径14.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は斜上方へ長くつまみ出す。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ヘラ削り。	暗褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
98	壺 （土師器） SD32	口 径10.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（12本）、内面ナデ。	外 乳赤褐色 内 乳灰褐色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
99	同上 SD32	口 径16.0	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部はやや上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	乳赤褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 口径 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
100	甕 (土師器) SD32	口 径 16.1	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまむ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ヘラ削り。	明褐色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良	
101	鉢 (弥生式土器) SD32	口 径 11.3	口縁部は内湾気味に直上へ伸び、端部は外に肥厚し、上に平坦な面をもつ。底部は欠損。端部上面に2本、口縁部外面に7本の波状文を施す。 内外面ナデ。	暗褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良	
102	同上 SD32	底 径 3.3	口縁部・体部は欠損。底部は突出する平底。 体部・底部外面ナデ、内面ナデ。	乳灰褐色	2.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
103	壺 (弥生式土器) 包含層	底 径 9.0	底部は突出気味の大きい平底。口縁部・体部は欠損。 体部外面ヘラミガキ、内面ハケナデ(5本) 底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	褐灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
104	壺 (土師器) 包含層	口 径 17.4	口縁部は上外方へ大きく外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	乳赤褐色	細砂粒を少量含む。	良	
105	同上 包含層	口 径 16.0	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ハケナデ(8本)。	外 灰褐色 内 黒灰褐色	6㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
106	同上 包含層	口 径 28.6	口縁部は直上へ伸びた後屈曲して水平方向に伸び、再び屈曲して直上へ外反して伸びる。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ナデ、頸部内外面ハケナデ後ヨコナデ。	灰褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
107 二八	同上 包含層	口 径 13.3 最大径 23.2	球形と思われる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方にやや肥厚する。底部は欠損。体部内面上位に接合痕4本を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(6本)、内面上位指頭痕・ハケナデ、中位以下ヘラ削り。	淡褐灰色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
108	壺 (土師器) 包含層	口 径 11.0	上内方へ内湾気味に伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 内外面摩滅の為不明。	赤褐色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	黒斑有。
109	同上 包含層	口 径 15.0	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内方にやや肥厚する。体部下位は欠損。 口縁部内外面ハケナデ(7本)後ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ、中位ナデ、内面上位ハケナデ、中位指頭痕・ナデ。	外 灰色 内 淡褐色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
110	同上 包含層	口 径 14.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	赤褐色	長石・チャート・石英等の細砂粒を少量含む。	良好	
111	同上 包含層	口 径 15.0	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ハケナデ(9本)後ヨコナデ、体部外面タタキ後ヘラナデ、内面ナデ。	黒灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量（cm） 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
112	甕 （土師器） 包含層	口 径16.4	口縁部は斜上方へ短く伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡褐灰色	長石・チャート・石英等の細砂粒を少量含む。	良好	
113	同上 包含層	口 径17.2	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	乳褐色	細砂粒を少量含む。	良好	
114	同上 包含層	口 径13.8	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	淡黄灰色	長石・チャート・石英等の細砂粒を少量含む。	良好	
115	同上 包含層	口 径14.6	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	茶褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
116	同上 包含層	口 径14.6	上内方へ内湾気味に伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	淡褐灰色	長石・石英等の細砂粒を少量含む。	良好	
117	同上 包含層	口 径16.6	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。器壁は若干垂れる。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面指頭痕・ヘラ削り。	褐灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
118	同上 包含層	口 径11.4	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は内傾して肥厚する。体部は欠損。 内外面摩滅の為不明。	乳赤褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
119	同上 包含層	口 径13.6	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は若干上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラ削り。	茶褐色	微砂粒を少量含む。	良	
120	同上 包含層	口 径15.0	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部はやや上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ（5本）後ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	茶褐色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
121	同上 包含層	口 径13.6	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部はやや上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ヘラ削り。	茶褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
122	同上 包含層	口 径14.4	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	外 暗灰褐色 内 乳灰褐色	2.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
123	同上 包含層	口 径13.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	茶褐色	4.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
124	同上 包含層	口 径15.4	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は若干つまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	暗褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
125	同上 包含層	口 径14.5	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ヘラ削り。	褐灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量(cm) 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
126	甕 (土師器) 包含層	口 径 15.4	口縁部は上外方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)、内面ヘラ削り。	茶褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
127	同上 包含層	口 径 15.0	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ヘラ削り。	茶褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
128	同上 包含層	口 径 15.6	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩滅の為不明。内面ヘラ削り。	外 茶褐色 内 暗褐色	5.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
129	同上 包含層	口 径 16.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は若干つまみ上げる。体部は欠損。 内外面摩滅の為不明。	淡赤褐色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
130	同上 包含層	口 径 17.4	口縁部は上外方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部外面タタキ後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ(6本)、内面ヘラ削り。	茶褐色	2.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
131	同上 包含層	口 径 18.1	口縁部は外上方へ伸び、端部は若干つまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)、内面ヘラ削り。	褐灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
132	同上 包含層	口 径 18.6	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)、内面ヘラ削り。	褐灰色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
133	同上 包含層	口 径 18.9	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は若干つまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ハケナデ後ヘラ削り。	褐灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
134	小型丸底壺 (土師器) 包含層	口 径 10.2 器 高 6.9	偏平な半球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。 内外面摩滅の為不明。	乳赤褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
135	鉢 (土師器) 包含層	口 径 5.1	やや深い半球形の体部から上外方へ緩やかに伸びる口縁部に至る。端部は欠損。底部は突出した上げ底。 口縁部・体部内外面ナデ、底部内外面ナデ。	赤褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
136	同上 包含層	口 径 9.6 器 高 7.0 底 径 3.3	やや深い半球形の体部から屈曲し、上外方へ緩やかに伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は突出気味の平底。 口縁部・体部外面タタキ(4本)、内面ナデ。底部内外面ナデ。	赤褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	完形。 煤付着。
137 二八	同上 包含層	口 径 11.3 器 高 6.9 底 径 2.6	半球形の体部から屈曲し、上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出気味の小さい平底。 口縁部・体部外面ハケナデ(5本)、内面ナデ、底部内外面ナデ。	淡灰黄色	長石・チャート・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	完形。
138	同上 包含層	口 径 10.0	口縁部は上外方へ短く伸び、端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	茶褐色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
139	同上 包含層	口 径 17.4	上外方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸び口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部・体部外面ヘラミガキ、内面ナデ。	茶褐色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量（cm）	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
140 二八	器台 （土師器） 包含層	口径 9.8 器高 6.8 底径 10.9	受部は外上方へ内湾気味に伸び、端部は丸い。脚部は外下方へ伸び、端部は丸い。脚部に二方の円孔を有する。 受部外面ヘラナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ、脚部外面ヘラミガキ、内面ナデ。	乳赤灰褐色	3㎜以下の砂粒を微量含む。	良	完形。
141 二八	同上 包含層	口径 9.7 器高 8.8 底径 11.5	受部は外上方へ伸び、端部はやや上につまみ鈍く尖る。脚部は下外方へ伸び、端部は丸い。脚部には四方の円孔を有し、受部と脚部の間は貫通する。 受部・脚部内外面ナデ。	褐灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
142	同上 包含層	口径 9.3	浅い半球形の体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。脚部は下外方へ伸び、下位は欠損。 受部・脚部内外面ナデ。	褐灰色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
143	高杯 （土師器） 包含層	口径 20.4	杯部は緩やかに二段に屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内傾に肥厚する。脚部は欠損。 杯部内外面ナデ。	褐黄色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
144 包含層	同上	口径 15.6	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ大きく開く裾部に至る。端部は丸い。 脚部内外面ナデ。	淡黄褐色	長石・雲母赤褐色酸化粒等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
145 包含層	同上	底径 11.5	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外方へ大きく開く裾部に至る。端部は丸い。 脚部外面ハケナデ（10本）後ナデ、内面ナデ。	赤褐色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
146 包含層	製塩土器	底径 4.8	体部は欠損。脚部は下外方へ外反気味に伸び、端部はやや平坦な面をもつ。 脚部外面ナデ、内面指頭痕。	暗赤褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
147 包含層	同上	底径 4.4	体部は欠損。脚部は下外方へ内湾気味に伸び、端部は丸い。 脚部外面指ナデ、内面指頭痕、底部内面ナデ。	暗赤褐色	9㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
148 包含層	同上	底径 3.9	体部は欠損。脚部は下外方へ外反して伸び、端部は鈍く尖る。 脚部内外面ナデ。	灰褐色	3.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
150 二九	小皿 （土師器） SE3	口径 9.6 器高 1.6	浅く平坦な底体部から外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。 口縁部外面指頭痕・ヨコナデ、内面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	乳灰褐色	精良。	良	完形。
151 二九	同上 SE3	口径 10.2 器高 1.9	浅く平らな底体部から屈曲し、外上方へ伸び、端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面指頭痕・ナデ、内面ナデ、底部内外面ナデ。	乳灰褐色	精良。	良	完形。
152	小皿 （土師器） SE3	口径 14.2	口縁部は外上方へ伸び、端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面指頭痕・ナデ、内面指頭痕・ナデ。	乳灰色	精良。	良	
153	同上 SE3	口径 15.8 器高 2.8	浅く平坦な底体部から屈曲し、上外方へ伸び、端部はやや上につまむ。 口縁部・体部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
154	同上 SE3	口径 15.0 器高 1.9	浅く平坦な底体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は尖る。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面指頭痕・ナデ、内面ナデ。	乳灰褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm)	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
156 二九	皿 (土師器) SE3	口径 15.2 器高 3.3	浅く平坦な底体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸び、端部は外へ鈍く尖らす。 口縁部内外面ヨコナデ、体部・底部外面指頭痕・ナデ、内面ナデ。	乳灰色	3.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	完形。
158 二九	合付皿 (土師器) SE3	口径 9.6 器高 3.8 底径 5.3	浅い半球形の底体部からそのまま口縁部に至る。端部は丸い。高台は下外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底部外面ヨコナデ、内面ナデ、高台部外面指頭痕・ヨコナデ、内面ヨコナデ、底部外面ナデ。	乳赤褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良	完形。
157 二九	同上 SE3	口径 9.5 器高 5.0 底径 5.9	平らな底体部からそのまま外方へ伸びて口縁部に至る。端部は丸い。高台は下外方へ外反して伸びる。端部は丸い。 内外面ナデ。	乳赤褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	完形。
158 二九	同上 SE3	底径 9.5	底部は欠損。高台部は下外方へ外反して伸び、端部は丸い。 高台部外面指頭痕・ヨコナデ、内面上位指頭痕・ナデ、下位ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
159 二九	小皿 (瓦器) SE3	口径 10.3 器高 2.2	浅く平らな底体部から斜上方へ器壁を減じて伸び、端部は鈍く尖る。 口縁部・底部内外面ヘラミガキ。	黒灰色	2.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	完形。
160 SE3	椀 (瓦器)	口径 16.8	口縁部は上外方へ器壁を減じて伸び、端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヘラミガキ、体部内外面ヘラミガキ。	黒灰色	精良。	良	
161 SE3	同上	口径 15.6	口縁部は上外方へ器壁を減じて伸び、端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヘラミガキ、体部内外面ヘラミガキ。	乳灰色	精良。	良	
163 SE6	皿 (土師器)	口径 14.5	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部・底部外面指頭痕、内面ヨコナデ。	乳赤褐色	精良。	良	
164 SE6	同上	口径 14.7	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面指頭痕・ナデ、内面ナデ。	乳褐色	長石・雲母・赤褐色酸化粒等の細砂粒を少量含む。	良好	
165 二九	小皿 (土師器) SP19	口径 10.0 器高 2.0	浅く平らな底体部から上外方へ伸びた後屈曲し、外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面指頭痕・ナデ、内面ナデ。	乳褐色	長石・雲母・赤褐色酸化粒等の細砂粒を少量含む。	良好	
166 二九	椀 (瓦器) SP19	口径 15.6 器高 5.5 底径 6.7	半球形の体部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。高台は断面台形で、端部は丸い。 体部外面ヘラ削り、内面ヘラミガキ、底部外面ナデ、高台部内外面ヨコナデ。	黒灰色	精良。	良	完形。
167 二九	同上 SP19	口径 15.0 器高 5.3 底径 7.3	半球形の体部から上外方へ内湾気味に伸びた後、器壁を若干減じて口縁部に至る。端部は丸い。高台部は断面台形で、端部は外傾する面をもつ。 体部内外面ヘラミガキ、底部外面指頭痕・ナデ、高台部内外面ヨコナデ。	黒灰色	精良。	良	

第5節　第15次調査

1　調査の概要

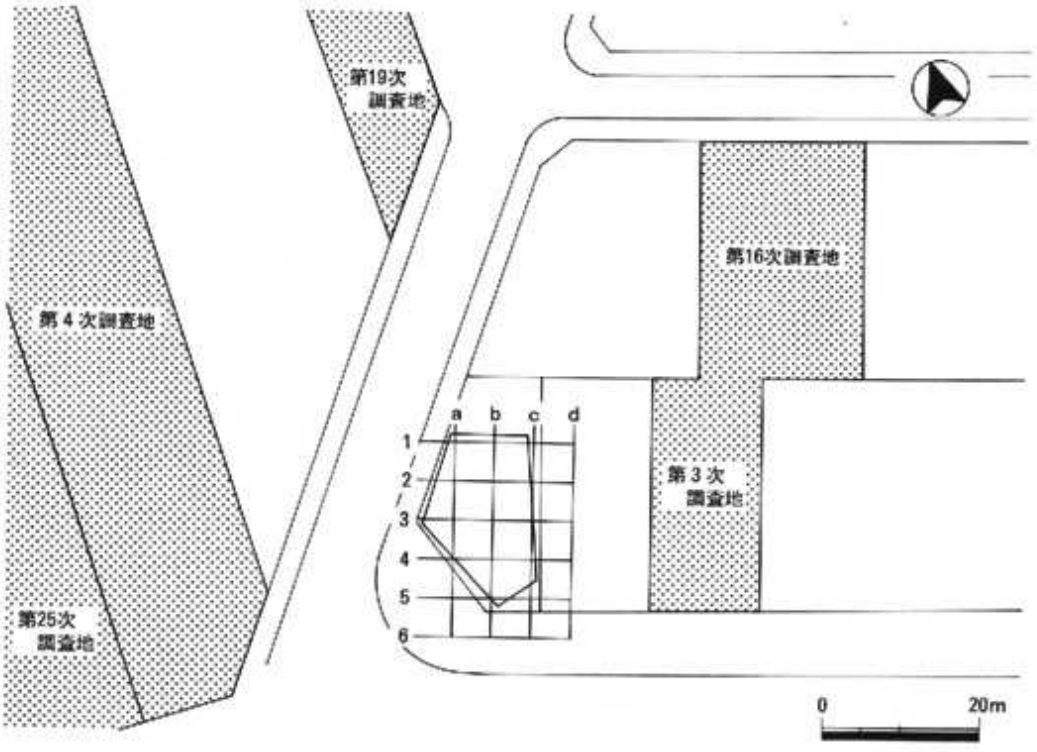
今回の調査地は八尾市北本町2丁目136－2に所在し、貸ビル建設に伴う発掘調査である。この調査は八尾市教育委員会及び当調査研究会が当遺跡内で実施した第15次調査にあたる。東方（約25m）には第12次調査地が近接している。調査面積は約300㎡を測る。

調査地は、周辺の土地や建設工事などの諸問題を考慮に入れ、調査区の周囲にH杭を1mの間隔で打込み、その間に板材を挟み込んで壁面を支える工法を実施した。また、掘削の排土処分の問題によって、調査区を2分した。南部は第1調査区、北部は第2調査区である。

掘削に当たっては、第12次調査の調査結果をもとに、現地表面から1.2mまでを機械掘削し、これより以下0.4mまでは人力に掘削を実施した。

地区割については、第1調査区の中央部に任意の基準杭を設け、調査区の方向に合わせた。東西30m、南北15mに渡って東西線・南北線を設定した。設定した一区画は5m四方で、北西隅の東西線は北から数字（1～6）、南北線は西からアルファベット（a～d）を付称した。

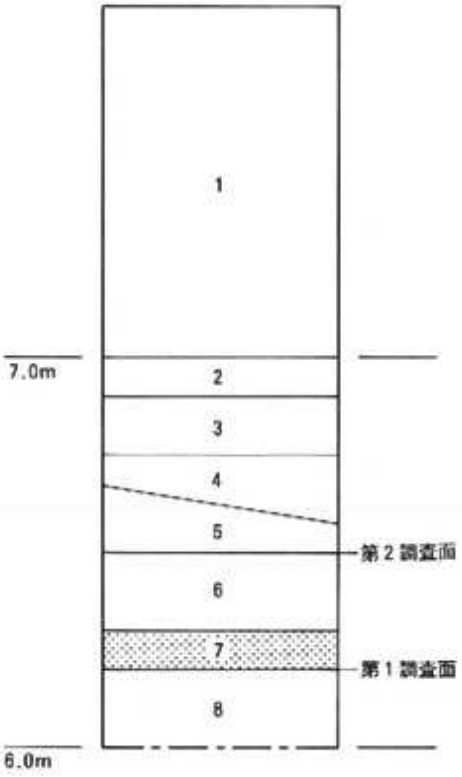
なお、本文では第1調査区・第2調査区を分けずに1つの調査区として記述した（第82図）。



第82図　調査区設定図及び地区割図

II　基本層序

当調査地において普遍的にみられる８層を基本層序とした。現地表面は標高7.9ｍを測る。以下、各層について記す（第83図）。



第83図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／20）

第１層盛土：層厚80～120cm。区画整理事業によって埋め立てられた土層である。

第２層旧耕土：層厚10～29cm。この土層は、近年（昭和55年）まで農地として利用された耕土である。

第３層暗灰褐色粘砂：層厚10～20cm。この土層は、摩耗を受けた土器の小片をごく少量含む。耕土の床土である。

第４層灰褐色粘砂：層厚10～40cm。この土層は、東側へ行くに従い厚く堆積する。

第５層灰茶色～茶灰色細砂：層厚０～30cm。この土層は、中世の時期の氾濫によって堆積したと考えられる土層で、土器片が少量出土している。また、北東部は層厚が薄くなる。

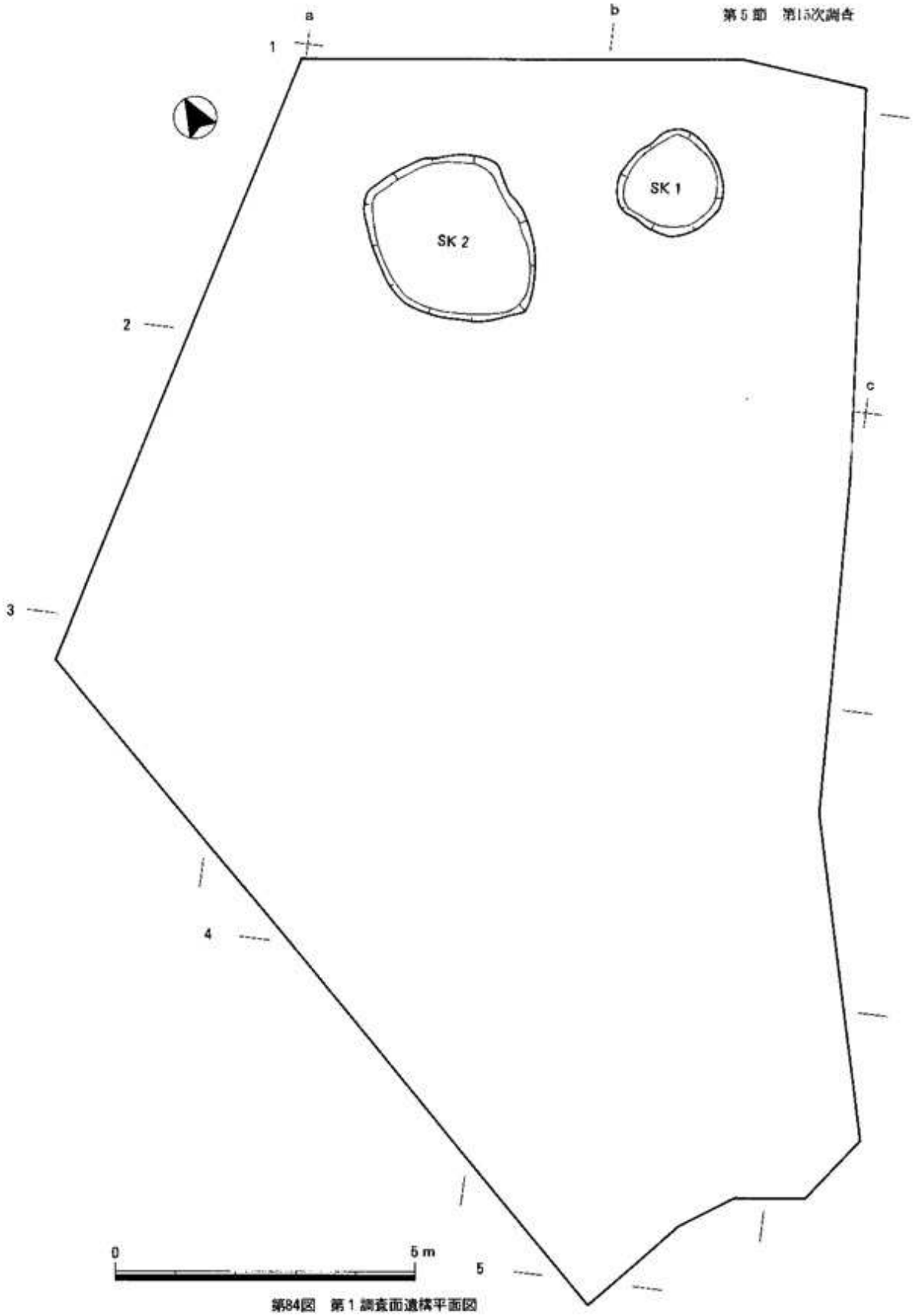
第６層暗灰褐色粘土：層厚10～20cm。この土層は、平安時代後期～鎌倉時代に埋没した水田の耕作土で、上面には畦畔・溝・足跡がみられる。標高は6.6ｍを測る。

第７層灰褐色粘土：層厚10～15cm。この土層は、古墳時代前期の土器片を含む遺物包含層である。

第８層淡灰褐色シルト粘土：層厚10～20cm。この土層の上面からは弥生時代中期に比定される土坑を検出した。標高は6.2ｍを測る。

III　検出遺構・出土遺物

第６層上面（第２調査面）と第８層上面（第１調査面）の２面を調査面とした。その結果、第１調査面では、弥生時代中期に比定される土坑２基を検出した。第２調査面では、平安時代後期から鎌倉時代初頭に比定される水田を検出した。出土遺物は、調査区内からコンテナ箱にして約２箱分を数え、ほとんどが土器の小片であった。以下、各時代の各遺構について概説する。なお、個々の遺物の法量・形態・調整などについては、「IV　出土遺物観察表」として一括したので参照されたい。



第84図　第1調査面遺構平面図

1　第1調査面（弥生時代中期～古墳時代前期）

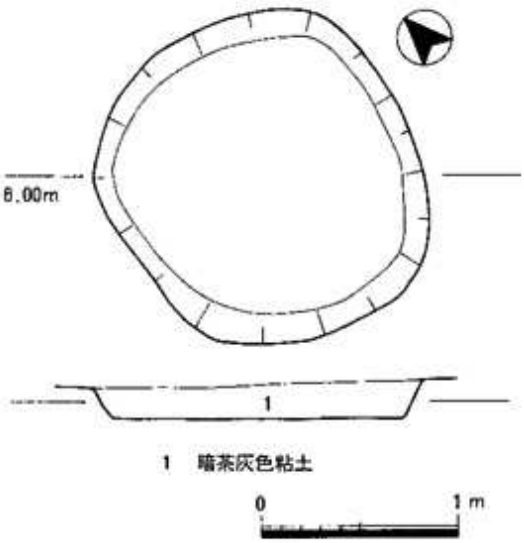
土坑（SK）

SK1

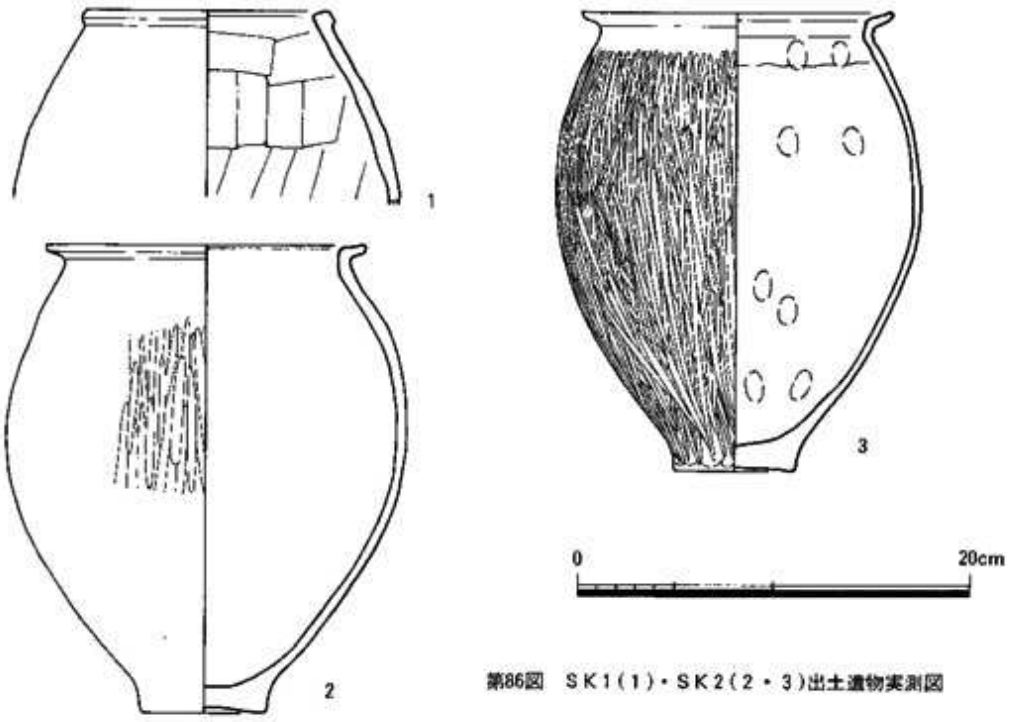
調査区の北東部で検出した土坑である。平面はほぼ円形を呈する。規模は検出部で、径1.7m、深さ20cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗茶灰色粘土である（第85図）。遺物は、堆積土内から畿内第Ⅳ様式に比定される無頸壺（1）などの小片がごく少量出土している（第86図）。

SK2

調査区の北部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈する。規模は検出部で、最大幅3.3m、最小幅2.5m、深さ20cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗茶灰色粘土である。遺物は、堆積土内から東部と西部の上部付近で畿内第Ⅳ様式に比定される甕（2・3）の小片がごく少量出土している（第86図）。



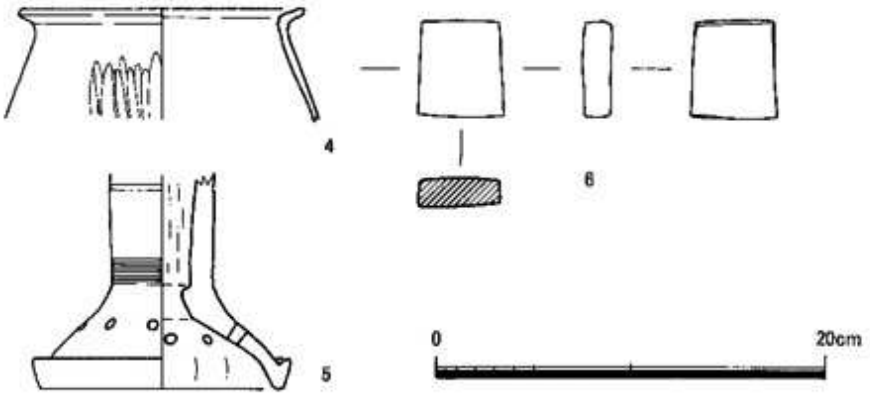
第85図　SK1平断面図



第86図　SK1(1)・SK2(2・3)出土遺物実測図

遺構に伴わない出土遺物

第7層は、弥生時代中期～古墳時代前期に比定される遺物が混入していた。遺物はほとんどが土器の小片で、図示できたのは2点である。器種には畿内第Ⅲ様式に比定される甕（4）・高杯（5）がある。その他には砥石（6）が出土している。大きさは5cm×4.4cm×1.5cmを測る（第87図）。



第87図　包含層出土遺物実測図

2　第2調査面（平安時代後期～鎌倉時代）

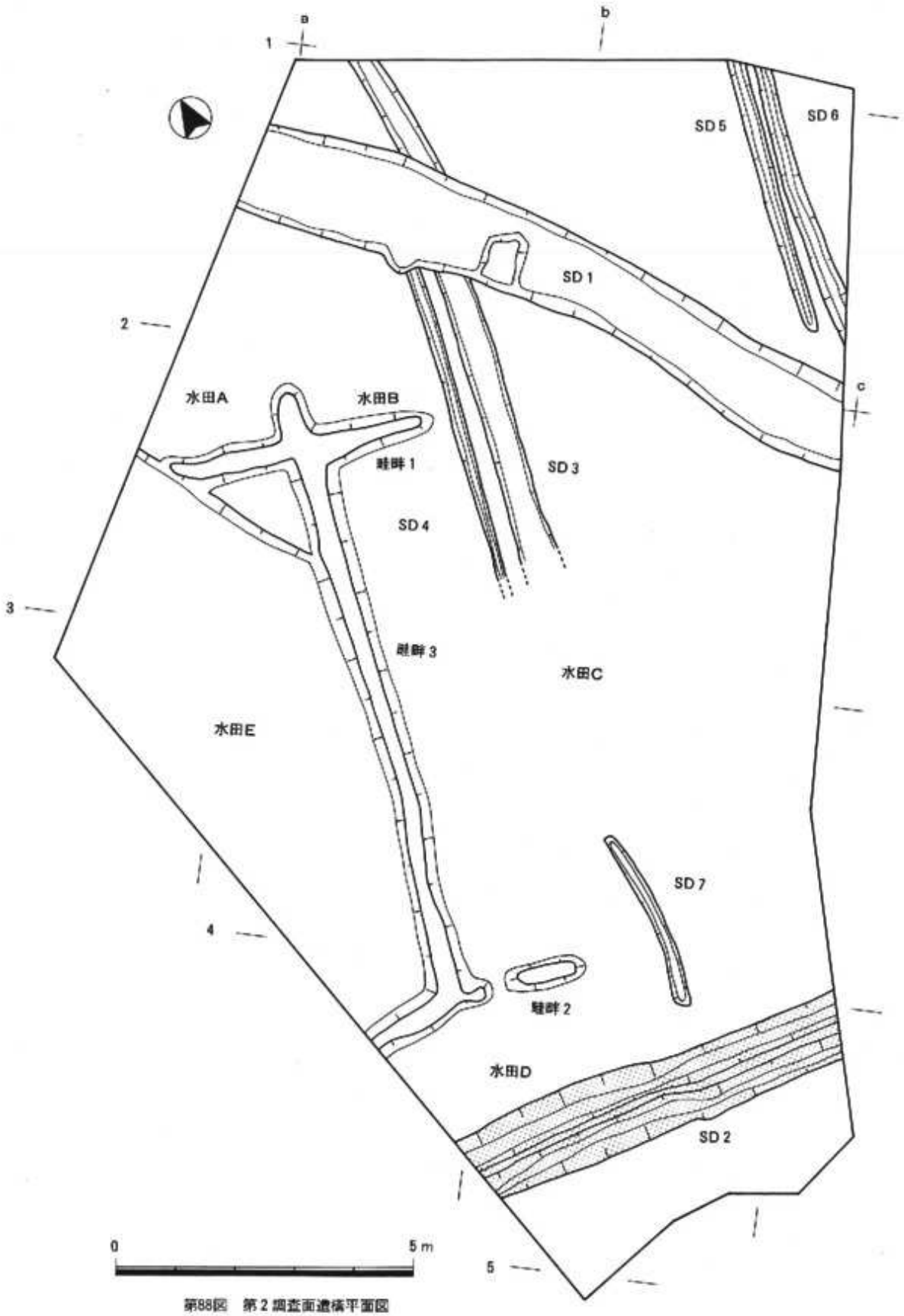
水田

水田は、第6層上面（標高6.4m）で、この上面の一面には氾濫などによって堆積したと考えられる細砂（第5層）が堆積していた。これを除去することによって水田面5筆（水田A～水田E）が検出された。田積は水田面が調査区外に至るためすべて不明である。

畦畔は、南北方向の畦畔が南部で東西方向の畦畔と交わり、これより5mを測る北方で東西方向の畦畔と交差している。畦畔の幅は上幅で20～40cm、下幅で50～75cmを測る。高さは10～15cmを測り、断面は丸みのある台形を呈する。南部と北部の東西方向の畦畔は、東側が途中で消滅し、西側が調査区外に至る。また、南部は幅約60cmを測り途切れており、水口の設備ではないかと考えられる。

これらの水田面から検出した多数の足跡状の窪みがみられる。平面は円形及び楕円形を呈するものが主流を占める。規模は径5～20cm、深さ3～10cmを測る。これらの窪みは人及び牛などの足跡と考えられるが、検出状況は明確にできなかった。

また、水田面上には溝7条を検出した。方向には東西方向のもの1条（SD2）、南北方向のもの5条（SD3～SD7）、南東―北西方向のもの1条（SD1）がある。これらの溝は水田に伴う鋤跡・水路などと考えられる。なお、SD1は水田面を切っており、水田区画の方向と一致しない。これは水田が埋没後に掘り込まれたものと考えられる。



第88図　第 2 調査面遺構平面図

第5表　水田法量一覧表　　※単位：m

	東　西	南　北	水田面（標高）
A	2.3 以上	3 以上	北6.32　南6.37
B	5 以上	3.8 以上	6.41　6.42
C	8.5 以上	9.3 以上	6.46　6.44
D	7.4 以上	2 以上	6.45　6.48
E	4.7 以上	9.5 以上	6.34　6.30

第6表　畦畔法量一覧表

	方　向	上面幅（cm）	基底面幅（cm）	高　さ	全　長	標　高（m）
1	東　西	30～35	50～65	5	4.5	東6.47　西6.40
2	東　西	20～40	55～75	6	3.9	東6.45　西6.44
3	南　北	30	50	5	10.5	南6.46　北6.45

第7表　溝（SD）法量一覧表

	方　向	幅（cm）	深さ（cm）	出土遺物
SD1	南東—北西	115～160	東12　西14	瓦器椀の小片
SD2	東　西	115～130	東15　西15	瓦器椀の小片
SD3	南　北	50～60	2～4	—　—
SD4	南　北	10～20	4	—　—
SD5	南　北	20～28	4	—　—
SD6	南　北	22～36	3	—　—
SD7	南　北	23～28	5	—　—

Ⅳ　出土遺物観察表

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm) 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 三二	無頸壺 (弥生式土器) SK1	口径 12.2	上内方へ内湾して伸びる体部から口縁部端部は内方に肥厚し、外傾する面をもつ。体部下位は欠損。 外面ナデ、内面ヘラナデ。	外 暗灰褐色 内 黒灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
2 三二	甕 (土師器) SK2	口径 16.4 底径 6.2	楕円形の体部から屈曲し、ほぼ水平方向へ短く伸びる。端部は丸い。底部は突出するやや上げ底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ヘラミガキ、下位ナデ、内面ナデ、底部外面指ナデ。	外 淡灰褐色～赤茶色 内 黒灰褐色	3.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
3 SK2	同上	口径 15.7 底径 6.0	楕円形の体部から屈曲し、上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出する平底。体部内面上位に接合痕1本を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、内面指頭痕、底部外面指頭痕。	外 黄褐色 内 暗褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
4 包含層	同上	口径 14.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ短く伸びる口縁部に至る。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、内面ナデ。	外 黄褐色 内 暗褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
5 包含層	高杯 (土師器)	脚底径 12.4	杯部は欠損。脚部は直下する中空の柱状部から屈曲し、斜下方へ内湾気味に開く裾部に至る。端部は上外方へ肥厚し、外傾する面をもつ。柱状部外面上位に1本、下位に8本の沈線をもち、裾部上位に12個の円孔を有する。 脚部外面ナデ、柱状部内面しぼり目、裾部内面指ナデ、ヘラナデ。	外 赤茶色 内 黒灰色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。

第6節　第16次調査

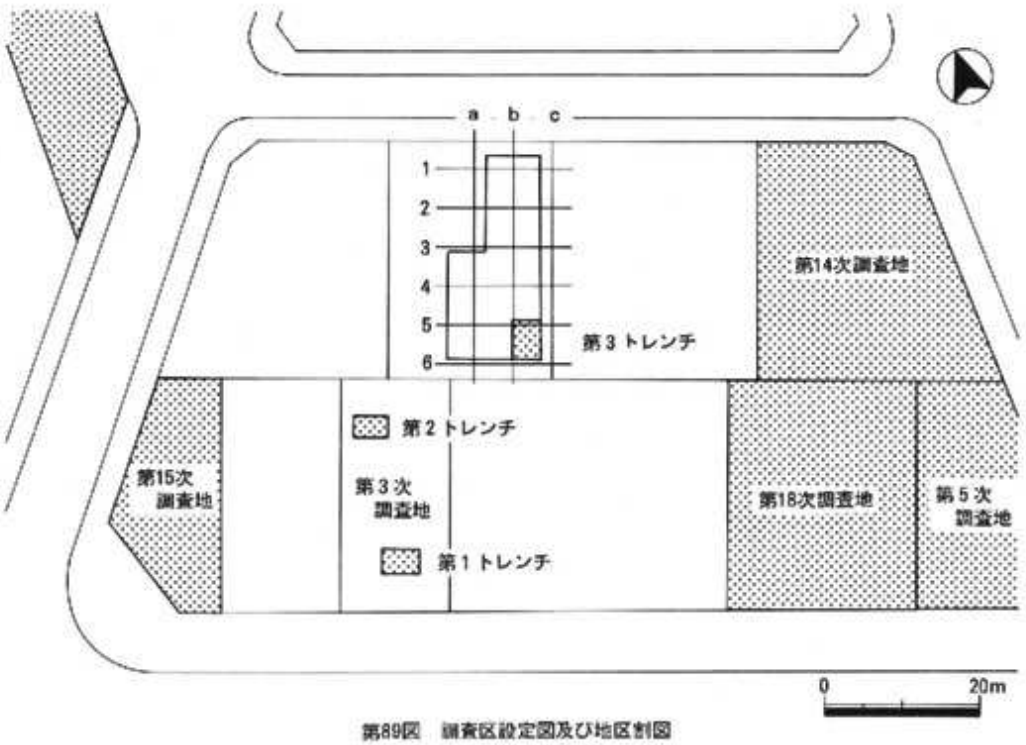
Ⅰ　調査の概要

今回の調査地は八尾市光町1丁目69－2、北本町2丁目145-12に所在し、貸しビル建設工事に伴う発掘調査である。当遺跡内で実施した調査は八尾市教育委員会及び当調査研究会が実施した第16次調査にあたる。調査面積は200㎡を測る。

この調査地は第3次調査の調査を実施した敷地内にあたり、第3次調査では3箇所のトレンチを設定して調査された。その結果、調査地の北部に位置する第3トレンチから古墳時代前期に比定される土器が多量に出土されている。

調査は、第3次調査の結果から北部に調査区を設定した。掘削は断面土層のデータをもとに、現地表から第4層上面約1.2m（盛土・旧耕土・床土）までを機械掘削し、これより以下0.4mまでは人力による掘削・精査を実施した。

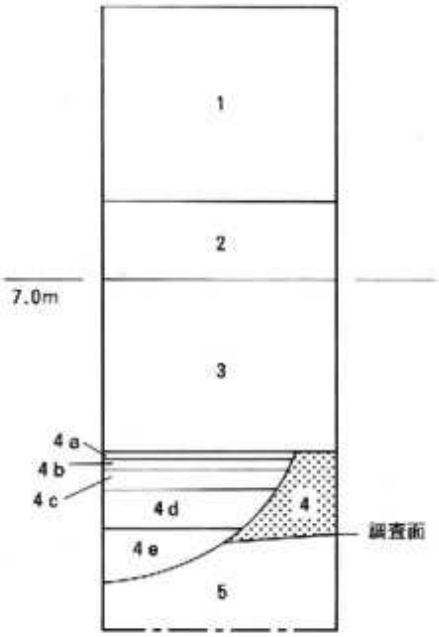
地区割は、調査区の中央部付近に任意の基準点を設け、調査区の方向に合せた。東西15m、南北20mに渡って設定した。設定した一区画の単位は5m四方で、北西隅を基準とし、東西線は数字（北から1～6）、南北線はアルファベット（西からa～c）を付称した。なお、地区名の表示は一区画の北西隅に交差する東西線・南北線を用い、1a～6cを付称した（第89図）。



第89図　調査区設定図及び地区割図

Ⅱ　基本層序

当調査地において普遍的にみられる５層を基本層序とした。調査区の南部と北部では若干の相違がみられる。現地表面は標高7.7ｍを測る。以下、各層について記す（第90図）。



第90図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／20）

第１層盛土：層厚50cm。区画整理事業によって埋立てた土層である。

第２層旧耕土：層厚20～30cm。この土層は、近年まで農地として利用されていた耕土である。

第３層淡灰茶色粘砂：層厚10～50cm。この土層は、近世の遺物を少量含む土層で、耕土の床土である。

第４層暗茶灰色粘質シルト：層厚10～20cm。この土層は、古墳時代前期に比定される土器の小片を含む包含層である。また、この土層の南部では５層に分れる。

第4a層茶色細砂：層厚５cm。酸化鉄を含む土層である

第4b層淡茶色粘土混微砂：層厚５～10cm。ブロック状に粘土が堆積している。

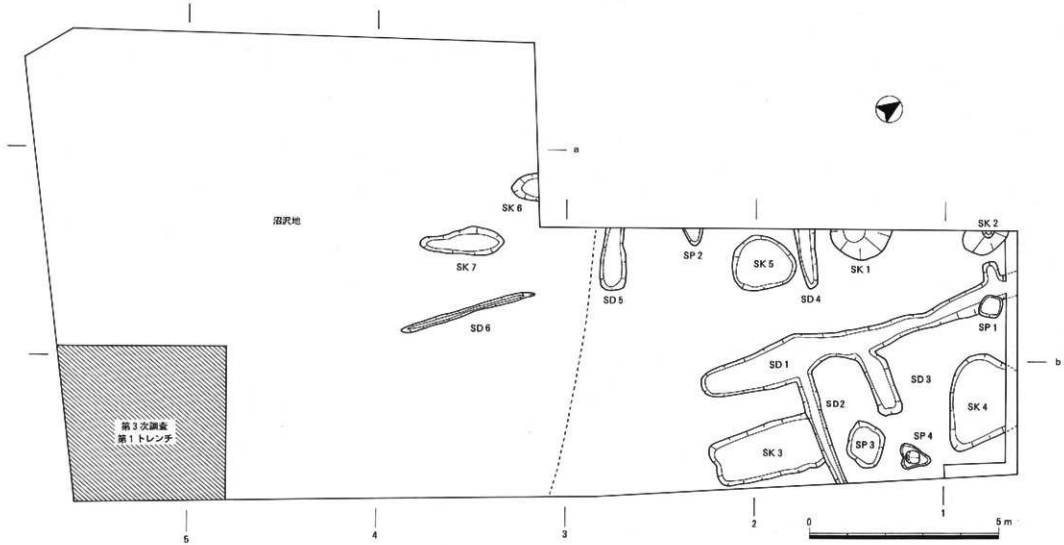
第4c層淡灰青色微砂：層厚５cm。平安時代後期～鎌倉時代初頭の水田面上に堆積している。

第4d層茶灰褐色～灰茶褐色粘土：層厚10～20cm。この土層の上面が平安時代後期～鎌倉時代初頭に比定される水田面である。標高6.6ｍを測る。

第4e層灰黒色粘土：層厚20～60cm。この土層は、粘性の強い土層で、沼沢地の堆積土と考えられる。層内には弥生時代後期～古墳時代前期に比定される土器が多量に含まれている。

第５層淡灰黄色～青灰色シルト：層厚20～30cm。この土層の上面で古墳時代前期に比定される遺構が検出された。標高6.3ｍを測る。

第4a層～第4c層は、平安時代後期～鎌倉時代初頭の時期の氾濫によって堆積した土層と考えられ、この時期の土器片がごく少量出土している。


a
b
沼沢地
SK 6
SK 7
SD 6
SD 5
SP 2
SK 5
SD 4
SK 1
SK 2
SP 1
SD 1
SD 3
SD 2
SK 4
SP 4
SP 3
SK 3
第3次調査
第1トレンチ
5
4
3
2
1
0
5 m

第91図　遺構平面図

Ⅲ　検出遺構・出土遺物

当調査区では、第5層上面を調査面とした。その結果、弥生時代後期～古墳時代前期に比定される土坑7基・溝6条・小穴4個・沼沢地を検出した。また、断面観察では、第4c上面から平安時代後期～鎌倉時代初頭に比定される水田を検出した。出土遺物は、コンテナ箱にして約20箱分を数える。このうち大半が第4e層内から出土したものである。

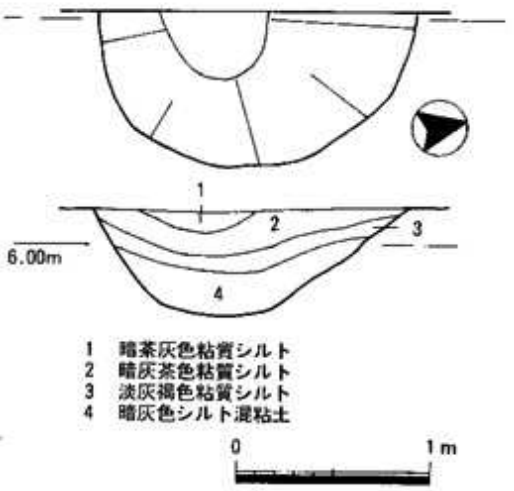
以下、各時代の各遺構について概説する。なお、個々の遺物の法量・形態・調整などについては、「Ⅳ　出土遺物観察表」として一括したので参照されたい。

1　古墳時代前期

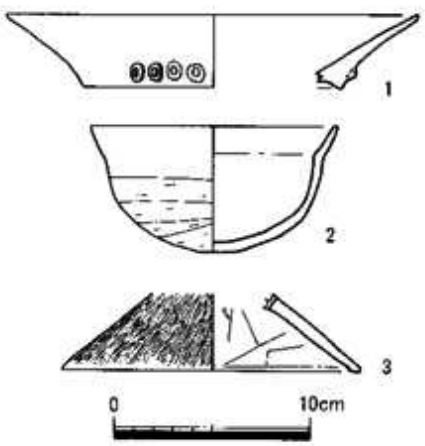
土坑（SK）

SK1

調査区北部の西壁付近で検出した土坑である。平面は検出部で半円形を呈する。西部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西80cm、南北1.65m、深さ60cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、上方から第1層暗茶灰色粘質シルト・第2層暗灰茶色粘質シルト・第3層淡灰褐色粘質シルト・第4層暗灰色シルト混粘土で構成されている（第92図）。遺物は、第4層内から土師器の小片が少量出土している。器種には壺（1）・鉢（2）・器台（3）がある（第93図）。



第92図　SK1平断面図



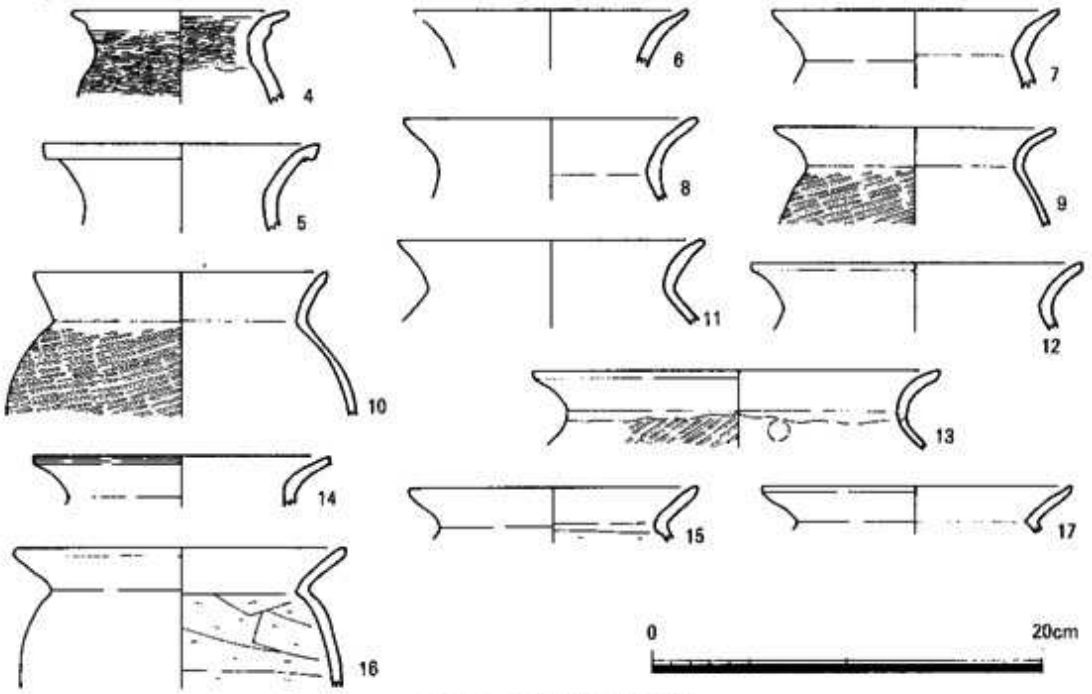
第93図　SK1出土遺物実測図

SK2

調査区北西部隅の西壁で検出した土坑である。平面は半円形を呈する。西部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西66cm、南北106cm、深さ32cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面には平面円形を呈する小穴状（径35cm）の窪みがある。堆積土は暗灰茶色シルト・暗灰色シルト混粘土に分かれる。遺物は、堆積土内から第Ⅴ様式系甕・庄内式甕などの小片がごく少量出土している。

SK3

調査区北東部で検出した土坑である。平面は長方形を呈する。北部はSD2に切られる。規模は



第94図　ＳＫ４出土遺物実測図

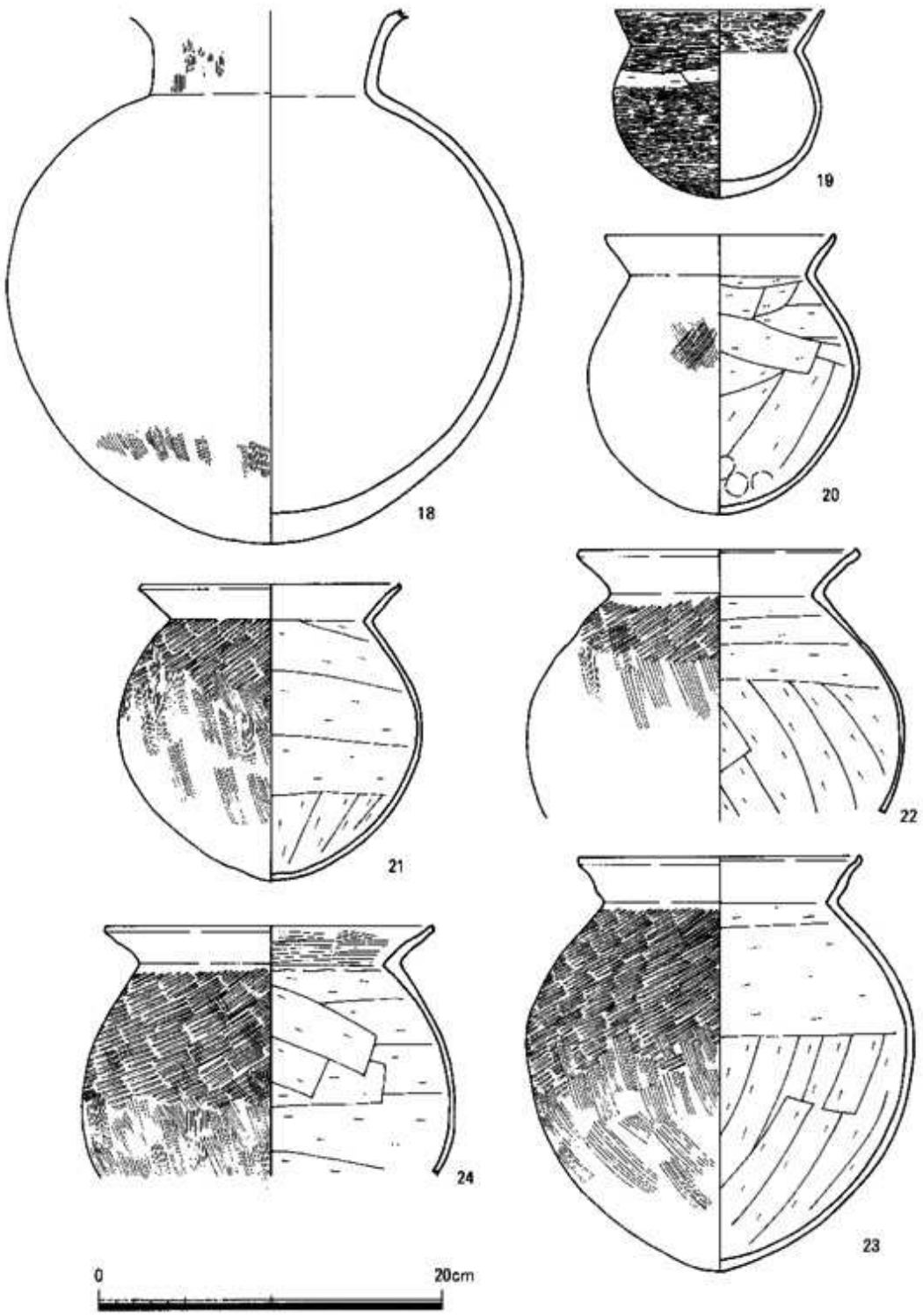
検出部で、東西1.4ｍ、南北2.8ｍ、深さ15㎝を測る。断面は浅い逆台形を呈し、底面には若干の起伏がみられる。堆積土は暗茶灰色粘質シルトの単一層である。遺物は、堆積土内から土師器の小片がごく少量出土している。

ＳＫ４

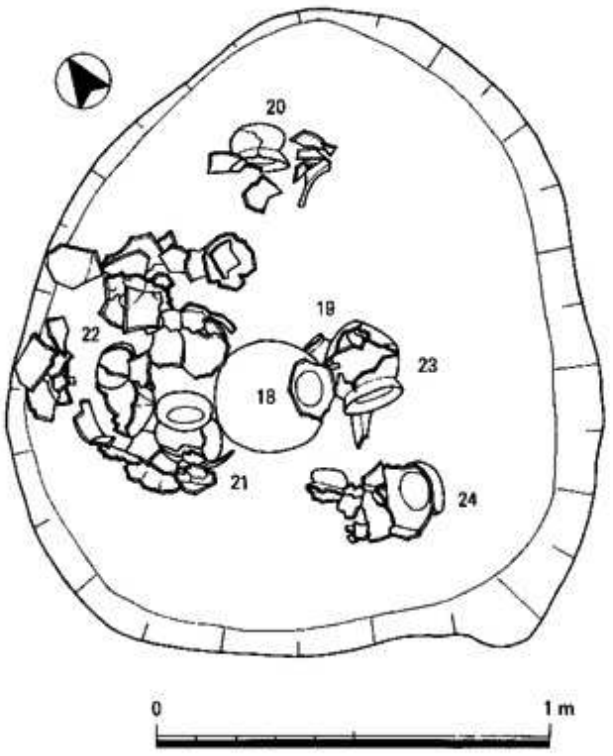
調査区北部の北壁付近で検出した土坑である。平面は不定形を呈し、北部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西2.7ｍ、南北1.88ｍ、深さ15～25㎝を測る。断面は浅い半円形を呈する。堆積土は、上方から暗茶灰色粘質シルト・暗灰茶色粘質シルト・淡灰褐色粘質シルトに分かれる。遺物は、堆積土内から土師器の小片が少量出土している。器種には壺（４・５）・第Ⅴ様式系甕（６～14）・甕（15・16）庄内式甕（17）・器台・高杯がある（第94図）。

ＳＫ５

調査区北西部付近で検出した土坑である。平面は楕円形を呈する。規模は検出部で、東西1.5ｍ、南北1.68ｍ、深さ30㎝を測る。断面は浅い逆台形を呈する。底面には若干の起伏がみられる。堆積土は暗灰茶色粘質シルトの単一層である（第96図）。遺物は、堆積土内から壺（18）を中心として壺（19）・甕（20～24）などが底面よりやや浮いた状態で出土している。甕には庄内式甕（21～24）と布留式傾向甕（20）とが共存して出土している（第95図）。



第95図　ＳＫ５出土遺物実測図



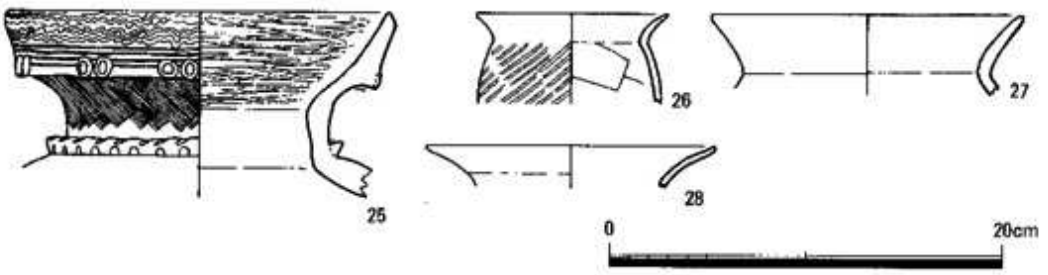
第96図　ＳＫ５平断面図

ＳＫ６

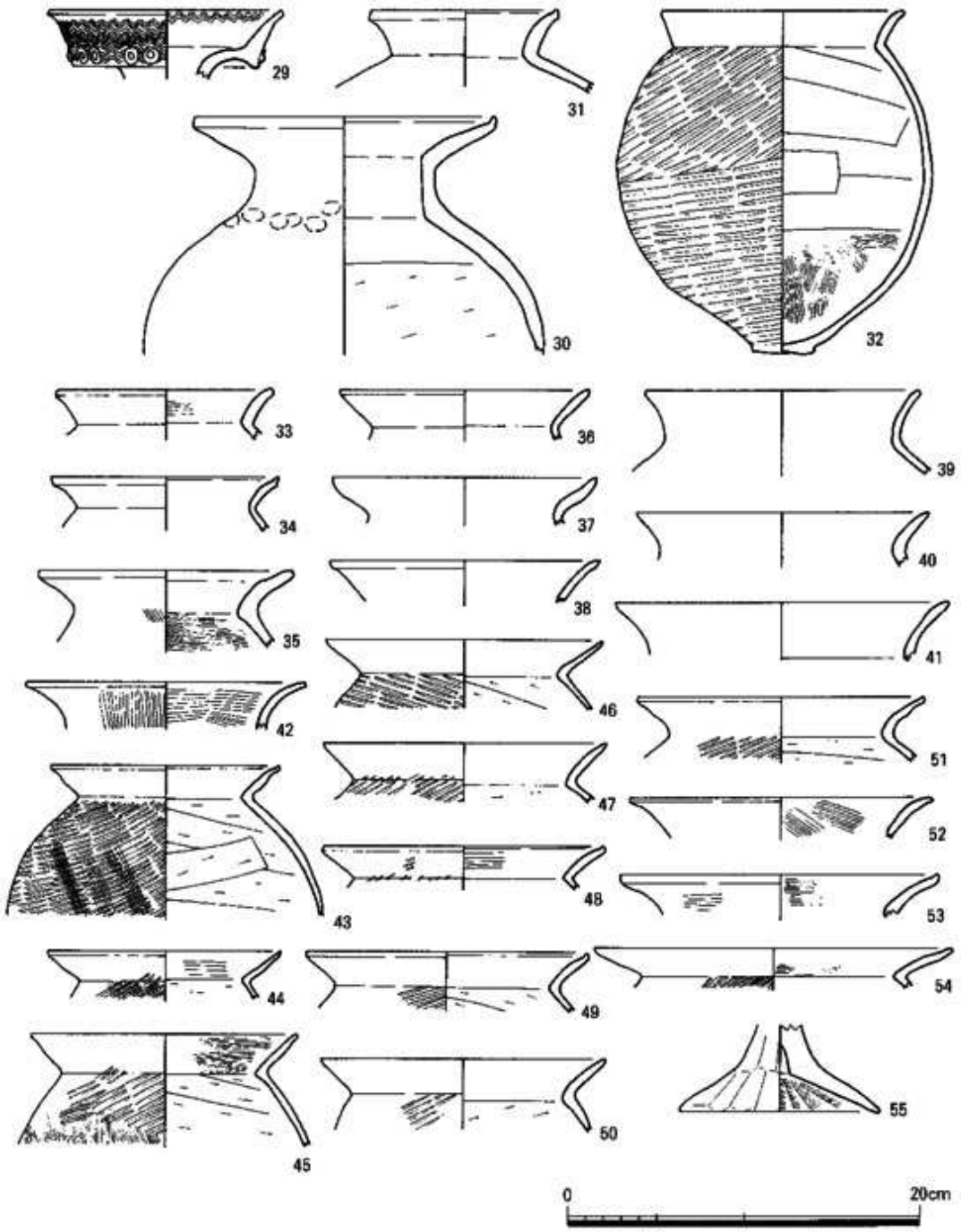
調査区の中央部付近で検出した土坑である。平面は半楕円形を呈する。北部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西78cm、南北70cm、深さ20cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰褐色粘土である。遺物は、堆積土内から土師器の小片が少量出土している。器種には壺（25）・第Ⅴ様式系甕（26・27）・庄内式甕（28）がある（第97図）。

ＳＫ７

調査区南部で検出した土坑である。平面は南北方向に長い溝状を呈する。規模は検出部で、東西70cm、南北2.3m、深さ30cmを測る。断面は緩やかな逆台形を呈する。堆積土はＳＫ５と同一土層である。遺物は、堆積土内から古墳時代前期に比定される土器の小片が多量に出土している。出土量はコンテナ箱にして約１箱分を数える。器種には壺（29～31）・第Ⅴ様式系甕（32～41）・甕（42～45）・庄内式甕（46～54）・高杯（55）などがある（第98図）。



第97図　ＳＫ６出土遺物実測図



第98図　ＳＫ７出土遺物実測図

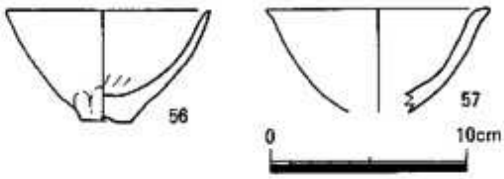
小穴（SP）

SP1～SP4

調査区北部で4個を検出した。平面の形状は隅丸方形のもの2個（SP1・SP3）、円形と思われるもの1個（SP2）、不定形のもの1個（SP4）がある。規模は検出部で、SP1が東西30cm、南北34cm、深さ25cm、SP2が東西25cm以上、南北40cm、深さ20cm、SP3が東西60cm、南北65cm、深さ24cm、SP4が最大幅50cm、最小幅30cm、深さ20cmをそれぞれ測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、暗褐灰色粘質シルトである。遺物は、小穴内から土師器の小片がごく少量出土している。これらの小穴は建物に伴うものと考えられるが、限定された調査区内であるため、配列などは不明である。

溝（SD）

SD1



第99図　SD1出土遺物実測図

調査区北部で検出した溝である。方向は南北方向を示す。東肩はSD2・SD3と交わる関係にある。北部はSP1に切られ、調査区外に至る。規模は検出部、幅46～110cm、深さ22.5cmを測る。断面は緩やかな逆台形を呈する。堆積土は暗灰茶色粘質シルトである。遺物は、堆積土内から古墳時代前期に比定される土師器の小片が少量出土している。器種には壺・第V様式系甕・庄内式甕・鉢（56・57）などがある（第99図）。

SD2

調査区北部付近で検出した溝である。方向は南北方向を示す。SD1と交わる関係にあり、東部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅25～45cm、深さ10～20cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰褐色粘質シルトの単一層である。遺物は古墳時代前期に比定される土師器の小片が少量出土している。

SD3

調査区北部の西壁付近で検出した溝である。方向はほぼ南北方向を示す。東部は途中で切れ、西部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅40cm、深さ20cmを測る。断面は緩やかな逆台形を呈する。堆積土は暗灰茶色粘質シルト・暗灰色シルト混粘土である。遺物は、堆積土内から古墳時代前期に比定される土師器の小片が少量出土している。

SD4

調査区北部のSK1とSK5の間で検出した溝である。方向は南東一北西方向を示す。東部は途中で切れ、西部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅16～48cm、深さ22cmを測る。断面

は逆台形を呈する。堆積土は暗灰茶色粘質シルトの単一層である。遺物は、堆積土内から古墳時代に前期に比定される土師器の小片が少量出土している。

SD5

調査区中央部の西壁付近で検出した溝である。方向は南東一北西方向を示す。東部は途中で切れ、西部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅45～55cm、深さ22cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰茶色粘質シルトの単一層である。遺物は、堆積土内から古墳時代前期に比定される土師器の小片が少量出土している。

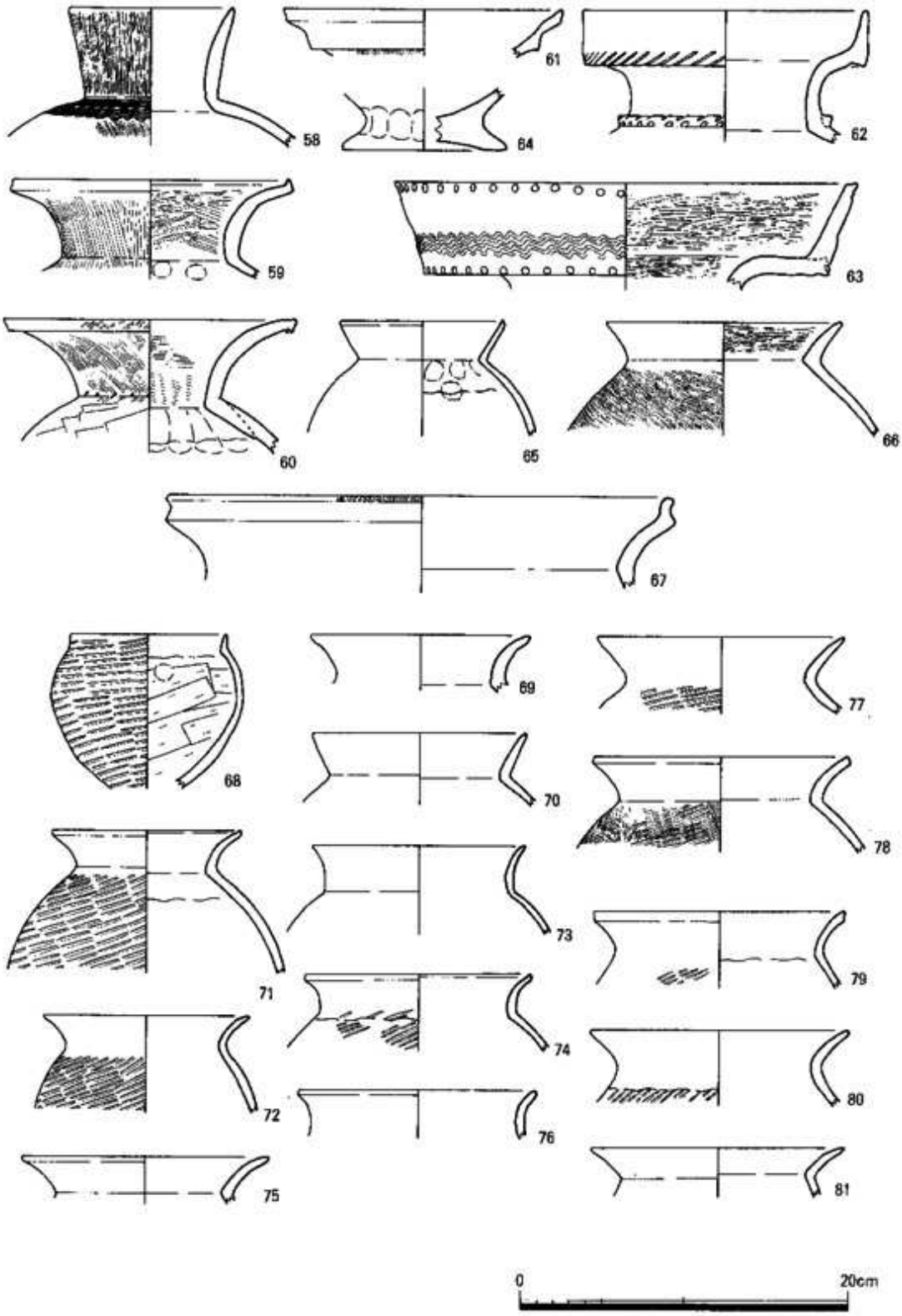
SD6

調査区南部で検出した溝である。方向はほぼ南北方向を示す。規模は検出部で長さ3.6m、幅10cm、深さ10cmを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は暗灰茶色粘質シルトの単一層である。遺物は、堆積土内から古墳時代前期に比定される土師器の小片が少量出土している。

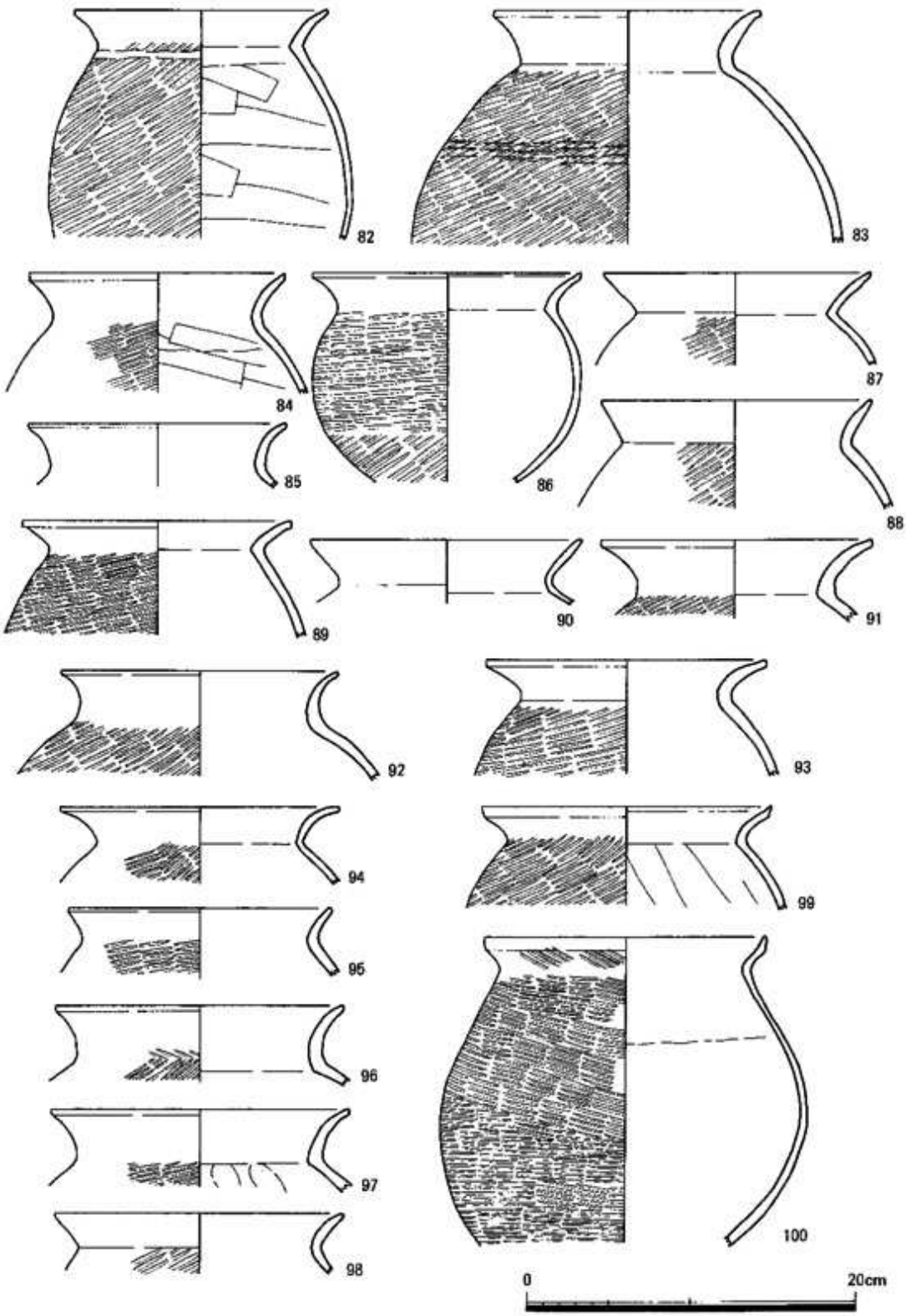
遺構に伴わない遺物

調査区南部で検出した。第5層上面で検出した古墳時代前期の遺構面が南へ緩やかに落ち込んでいる上面に堆積する第4e層内から弥生時代後期～古墳時代前期に比定される遺物が多量に出土された。この土層は第3～第5・第10・第12・第14・第15次調査で検出されている。

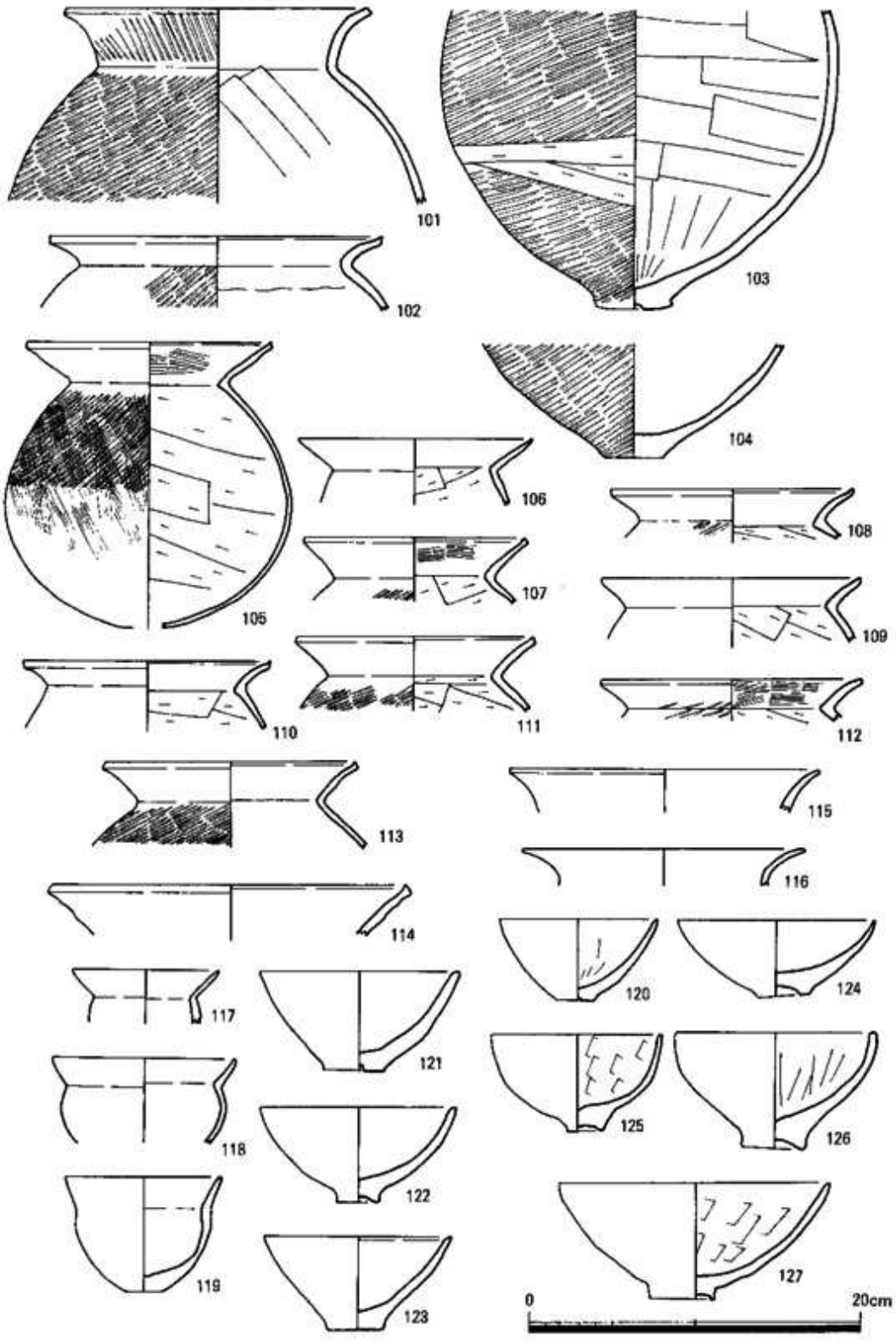
遺物は、堆積土内からコンテナ箱にして約15箱分が出土している。遺物は大半が弥生時代後期～古墳時代前期にかけての土器である。器種には壺・甕・鉢・器台・高杯・製塩土器がある。図示できたものは83点を数える。壺は10点で、体部上位の外面に櫛状工具によるヨコナデ・波状文を施した直口壺（58）、大きく外反する口縁部をもつもの（59・60）、緩やかに二段屈曲し外反する口縁部をもつもの（61）、複合口縁壺で頸部外面にヘラミガキを施し、貼付け突帯をもつもの（62）と口縁部外面に波状文・円形竹管圧文を施すもの（63）、体部より屈曲外方する口縁をもつもの（65・66）、体部より屈曲外反する口縁部より内方につまみ上げるもの（67）である。甕は49点で、第V様式か第V様式系甕（98～104）と庄内式甕（105～116）がある。小形の鉢は15点で、鉢（117～130）と大形の鉢（131）がある。鉢には杯体部から屈曲する口縁部をもつもの（117～119・130）と杯体部よりそのまま口縁部に至るもの（120～129）がある。器台は5点で、受部と脚部が貫通しないもの（132）、貫通するもの（133～136）がある。この中には受部に18個の円孔を穿孔しているもの（134）、山陰地方の形態的特徴をもつ鼓形器台（136）である。高杯は9点で、半球形の杯部をもつもの（137）、平らに近い杯底部から屈曲上外方に外反するもの（138～140）、柱状部から屈曲し大きく下外方に広がる脚部（141～145）がある。製塩土器は1点で、脚部のみの（146）である。その他には三面の使用痕がみられる砥石（147）1点が出土している。大きさは最長6cm、最短4cm、厚み4cmを測る（第100図～第103図）。



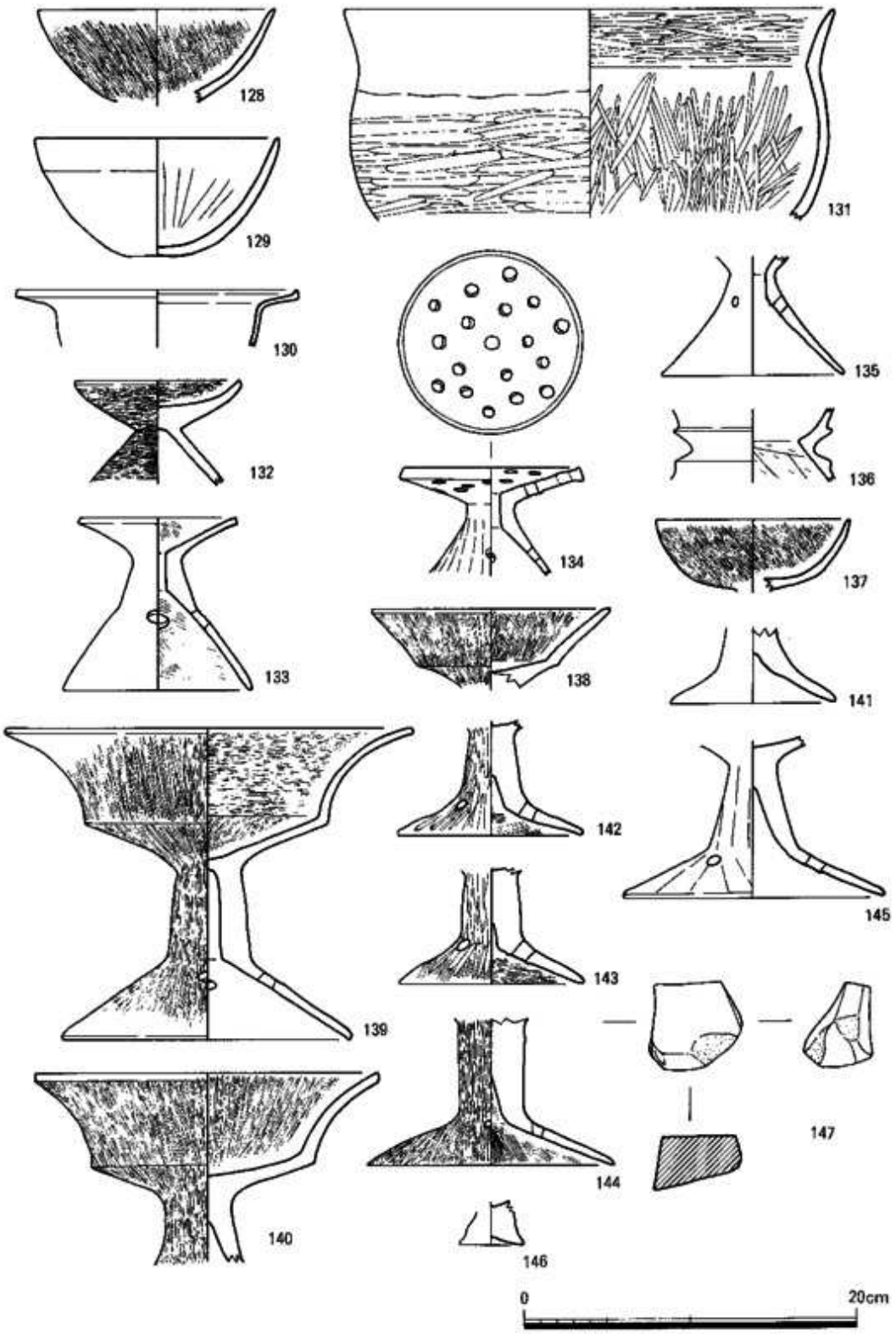
第100図　第4e期出土遺物実測図1



第101図　第4e層出土遺物実測図2



第102図　第4ｅ層出土遺物実測図3



第103図　第4e層出土遺物実測図4

Ⅳ　出土遺物観察表

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量（cm）口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1	壺 （土師器） SK1	口　径21.2	口縁部は複合口縁で、屈曲部が垂下し、円形浮文を施す。端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	外　淡黄茶色 内　暗褐色	1.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
2	鉢 （上師器） SK1	口　径12.6 器　高　6.5	半球形の底体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。 口縁部外面摩滅の為不明。内面ヨコナデ、体部外面へラ削り、内面ナデ。	外　灰茶色 内　灰褐色	細砂粒を少量含む。	良	黒斑有。 煤付着。
3	高台 （土師器） SK1	底　径15.4	体部は欠損。脚部は外下方に伸び、端部は内方に面をもつ。脚部に四方孔を有する。 脚部外面へラミガキ、内面へラナデ。	淡茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
4	壺 （土師器） SK4	口　径11.0	上内方へ内湾気味に伸びる体部から丸く屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。頸部内面に接合痕1本を有する。 口縁部内外面ヨコナデ後へラミガキ、体部外面へラミガキ、内面ナデ。	暗灰茶色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
5	同上 SK4	口　径14.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は肥厚して外に面をもつ。体部は欠損。 内外面摩滅の為不明。	乳茶灰色	4.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
6	壺 （土師器） SK4	口　径14.0	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡褐茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
7	同上 SK4	口　径14.2	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ。	淡褐灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
8	同上 SK4	口　径15.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面摩滅の為不明。体部外面ナデ。	淡茶灰色	1.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
9	同上 SK4	口　径14.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。	乳灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	黒斑有。
10	同上 SK4	口　径15.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面摩滅の為不明。	外　茶灰色 内　乳灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
11	同上 SK4	口　径15.6	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面摩滅の為不明。	茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
12	同上 SK4	口　径17.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面摩滅の為不明。	淡茶灰色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
13	同上 SK4	口　径21.4	口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部はやや上につまむ。体部は欠損。頸部内外面に接合痕1本ずつ有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面指頭痕・ナデ。	茶灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
14	同上 SK4	口　径15.2	口縁部は外上方へ伸び、端部は外に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	暗茶灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
15	同上 SK4	口　径14.8	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面へラ削り。	淡茶灰色	細砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量(cm) 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
15	甕 (土師器) SK4	口径 16.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩滅の為不明、内面ヘラ削り。	淡灰黄色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
17	同上 SK4	口径 15.8	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部はやや上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	暗茶褐色	微砂粒を少量含む。	良	
18 三六	壺 (土師器) SK5	最大径 30.5	球形に近い体部から屈曲し、ほぼ直上へ伸びた後屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は欠損。底部は丸底。 口縁部外面と体部下位ハケナデ(10本)、体部外面摩滅の為不明。内面ナデ。	淡茶灰色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
19 三六	同上 SK5	口径 12.2 器高 11.0	球形に近い体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は丸底。 口縁部内外面ヘラミガキ、体部外面上位タタキ(3本)後ヘラミガキ・一部ヘラ削り、下位ヘラミガキ、内面ナデ。	淡灰褐色	微砂粒を少量含む。	良好	完形。 黒斑有。
20 三六	壺 (土師器) SK5	口径 13.4 器高 16.4	球形に近い体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまむ。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り。底部内面指頭痕。	淡茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
21 三六	同上 SK5	口径 15.0 器高 17.3	最大径を中位にもつ球形に近い体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまむ。底部は尖り気味の丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ(9本)、下位ハケナデ(8本)・指頭痕、内面ヘラ削り。	暗茶褐色	細砂粒を多量含む。	良	完形。
22 三六	同上 SK5	口径 16.1	最大径を中位にもつ体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまむ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ(6本)後ハケナデ(7本)、中位摩滅の為不明、内面ヘラ削り。	灰褐色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
23 三六	同上 SK5	口径 16.0 器高 24.0 最大径 22.0	最大径を中位よりやや上にもつ球形の体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部はやや尖り底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)後ハケナデ(9本)、内面ヘラ削り。	暗茶褐色	5㎜以下の砂粒(石英・長石・雲母)を少量含む。	良	完形。 煤付着。
24 三六	同上 SK5	口径 19.0	最大径を中位にもつ体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまむ。体部は欠損。頸部内面に接合痕1本を有する。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(6本)、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ(9本)、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
25 三六	壺 (土師器) SK6	口径 19.4	直上へ外反して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。口縁部外面上位1条4本の波状文を2条もち、その下に4本の沈線を有する。肩典部は垂下し、対になる円形浮文を等間隔で施す。頸部下位に凸帯を巡らし、キザミ目を施す。体部は欠損。 口縁部内外面ヘラミガキ、頸部外面ハケナデ(9本)、他はナデ。	暗茶灰色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量(cm) 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
26	甕 (土師器) SK6	口 径 9.9	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ヘラ削り。	淡黄茶色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
27	同上 SK6	口 径 15.8	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡灰茶色	3.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
28	同上 SK6	口 径 14.8	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部はやや上につまむ。体部は欠損。頸部外面に接合痕1本を有する。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶灰色	3.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
29	壺 (土師器) SK7	口 径 13.0	外上方へ外反して伸びた後屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる。端部は外傾する面をもつ。内面に3本、外面に15本の波状文を有し、対になる円形浮文を等間隔に施す。体部は欠損。 口縁部外面上位ナデ、内面ナデ。	外 明灰茶色 内 茶灰色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
30 三六	同上 SK7	口 径 17.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、直上へ伸びた後屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、頸部外面指頭痕、体部外面ナデ、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	4.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
31	同上 SK7	口 径 10.6	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外に面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
32 三七	甕 (土師器) SK7	口 径 13.8 器 高 20.0 底 径 3.6	最大径を中位よりやや上にもつ楕円形の体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出する平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面上位ヘラナデ、下位ハケナデ(11本)。	淡褐色	細砂粒を少量含む。	良	煤付着。
33	同上 SK7	口 径 11.7	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部内面ナデ。	乳灰茶色	6㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
34	同上 SK7	口 径 13.0	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は上につまみ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
35	同上 SK7	口 径 14.2	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ハケナデ(8本)。	淡灰茶色	4.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
36	同上 SK7	口 径 14.2	口縁部は斜上方へ伸び、端部はやや上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 灰褐色 内 淡赤褐色	8㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
37	同上 SK7	口 径 15.0	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 暗灰褐色 内 淡茶灰色	3.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
38	同上 SK7	口 径 15.5	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡灰茶色	2.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量（cm） 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
39	甕 （土師器） SK7	口 径15.6	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面摩滅の為不明。	淡灰茶色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
40	同上 SK7	口 径16.6	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
41	同上 SK7	口 径19.0	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 淡茶灰色 内 淡灰茶色	細砂粒を少量含む。	良	煤付着。
42	同上 SK7	口 径15.8	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ハケナデ（6本）。	淡茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
43	同上 SK7	口 径13.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。口縁部中位には脹らみがある。端部はやや上につまむ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）後ハケナデ（11本）、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	2.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
44	同上 SK7	口 径13.4	口縁部は上外方へ伸び、端部はやや上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）後ハケナデ（6本）、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	1.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
45	同上 SK7	口 径15.0	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面タタキ後ハケナデ、内面ハケナデ（12本）、体部外面タタキ（3本）後ハケナデ（9本）、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	2.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
46	同上 SK7	口 径15.8	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（5本）、内面ヘラ削り。	外 暗黒灰色 内 暗灰茶色	3.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
47	同上 SK7	口 径16.0	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	暗灰茶色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
48	同上 SK7	口 径15.8	口縁部は外上方へ外反気味に伸び、端部は若干上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	暗灰茶色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
49	同上 SK7	口 径16.0	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	暗褐色	微砂粒を少量含む。	良	
50	同上 SK7	口 径16.2	口縁部は上外方へ伸び、端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	外 淡赤茶色 内 淡灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
51	同上 SK7	口 径16.2	口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は若干つまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	暗灰茶色	微砂粒を少量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
52	甕 (土師器) SK7	口	径 17.2	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ（7本）。	乳茶色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
53	同上 SK7	口	径 18.0	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は若干つまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ハケナデ（外5本・内10本）後ナデ。	灰茶色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
54	同上 SK7	口	径 20.4	口縁部は外上方へ伸び、端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部外面タタキ（5本）、内面ヘラ削り。	外 淡灰茶色 内 暗灰色	1.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
55	高杯 (土師器) SK7	底	径 11.3	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びた後屈曲して外下方へ開く。端部は丸い。 脚部外面ヘラナデ、内面上位しぼり目、下位ハケナデ。	淡茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
56 三七	鉢 (土師器) SD1	口	径 10.5	半球形の底体部からそのまま上外方へ内湾気味に伸び、端部は鈍く尖る。底部は窪みをもつ平底。 口縁部・体部外面ナデ・指ナデ、内面ヘラナデ。	淡灰褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
57 三七	同上 SD1	口	径 13.3	半球形の体部からそのまま内湾して上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外上方へつまみだし、丸い。底部は欠損。 口縁部・体部内外面ナデ。	暗灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
58	壺 (土師器) 第4c層	口	径 9.9	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、ほぼ直上へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部外面上位に9本の波状文を施す。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヘラミガキ、内面ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、内面ナデ。	淡茶灰色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
59	同上 第4c層	口	径 16.8	口縁部は上外方へ大きく外反して伸び、端部はつまみ上げ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁端部外面ヨコナデ、口縁部外面ハケナデ（4本）、内面ハケナデ後ヘラミガキ、体部内面ナデ、頸部内面指頭痕。	淡茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
60	同上 第4e層	口	径 17.8	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し上外方へ大きく外反して伸びる口縁部に至る。端部は垂下し、外に面をもつ。体部は欠損。体部内面に接合痕1本を有する。 口縁端部外面ヘラミガキ、口縁部内外面ハケナデ、体部外面ヘラナデ、内面指ナデ。	外 灰褐色 内 黒灰色	細砂粒を少量含む。	良	
61	同上 第4e層	口	径 17.0	口縁部は外上方へ伸びた後屈曲し、上外方へ伸びる。端部は上につまみ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面摩滅の為不明、体部外面ハケナデ（7本）。	淡灰褐色	細砂粒を多量含む。	良好	
62 三七	同上 第4e層	口	径 17.1	口縁部は直上へ外反して伸びた後屈曲し、直上へ伸びる。端部は丸い。屈曲部は垂下し、綾状のキザミ目を有する。頸部下位に凸帯を廻らし、二段のキザミ目を施す。体部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	外 茶灰色 内 灰茶色	7㎜以下の砂粒を多量含む。	良	
63 三七	同上 第4e層	口	径 28.0	口縁部は上外方へ伸びた後屈曲して水平向に伸び再び屈曲し、上外方へ伸びる。端部は若干内傾する凹面をもつ。外面上位と下位に竹管文が1列ずつ並び、その間に6本の波状文を施す。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヘラミガキ。	淡茶褐色	細砂粒を多量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm) 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
64	壺 (土師器) 第4e層	底径 10.0	底部は突出する上げ底。体部は欠損。 胴部外面指頭痕、内面摩滅の為不明。	灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
65 三七	同上 第4e層	口径 10.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は若干上につまむ。体部内面上位に接合痕1本を有する。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩滅の為不明。体部内面ナデ・指頭痕。	淡灰茶色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
66	同上 第4c層	口径 14.4	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヘラミガキ、体部外面ヘラミガキ、内面ナデ。	茶灰色	細砂粒を少量含む。	良	煤付着。
67 三七	同上 第4e層	口径 31.0	口縁部は上外方へ外反して伸びた後屈曲し、直上へ短く外反して伸びる。端部は丸く終わり、ネザミ目を施す。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、端部外面ヘラミガキ。	外 暗青灰色 内 暗褐灰色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
68 三七	甕 (土師器) 第4c層	口径 9.6	最大径を中位より若干上にもつ球形の体部から屈曲し、直上へ短く伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。頸部内面に接合痕1本を有する。底部は欠損。 口縁部外面タタキ、内面ヨコナデ、体部外面タタキ（2本）、内面指頭痕・ヘラ削り。	暗灰茶色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
69	同上 第4c層	口径 13.4	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
70	同上 第4e層	口径 13.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
71	同上 第4e層	口径 11.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまむ。体部中位以下は欠損。頸部内面に接合痕1本を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。	淡褐灰色	2.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
72	同上 第4e層	口径 12.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ナデ。	茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
73	同上 第4e層	口径 13.0	口縁部は直上へ外反気味に伸び、端部は鈍く尖る。体部は欠損。頸部外面に接合痕1本を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩滅の為不明。	茶灰色	4.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
74	同上 第4e層	口径 13.8	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は若干上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。	灰茶色	細砂粒を少量含む。	良好	
75	同上 第4e層	口径 15.1	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は若干上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
76	同上 第4e層	口径 14.4	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は若干上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラナデ。	淡茶色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量（cm）口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
77	甕 （土師器） 第4e層	口径 15.0	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は鋭く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（5本）、内面摩滅の為不明。	淡茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
78	同上 第4e層	口径 15.4	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）後ハケナデ（10本）、内面ナデ。	灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
79	同上 第4e層	口径 15.2	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は外傾する面をもつ。頸部内面に接合痕1本を有する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（6本）、内面ナデ。	暗灰茶色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
80	同上 第4e層	口径 15.6	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部外面上位に接合痕1本を有する。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ナデ。	淡茶灰色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
81	同上 第4e層	口径 15.5	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	灰茶色	3.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
82 三七	同上 第4e層	口径 15.4	最大径を中位にもつ思われる楕円形の体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。頸部外面に接合痕2本を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（2本）、内面ヘラナデ。	暗茶灰色	細砂粒を少量含む。	良好	
83	同上 第4e層	口径 16.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。	灰茶色	細砂粒を少量含む。	良	
84	同上 第4e層	口径 15.6	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は若干上につまむ。体部上位の内面に接合痕1本を有する。体部中位以下欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラナデ。	淡灰色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
85	同上 第4e層	口径 15.8	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は若干上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩滅の為不明、内面ナデ。	茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
86	同上 第4e層	口径 16.2	最大径を中位より若干上にもつ球形に近い体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。	外 淡茶灰色 内 淡灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
87	同上 第4e層	口径 16.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。	淡赤茶色	9㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
88	同上 第4e層	口径 16.3	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。	灰茶色	6㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。

遺物番号 図版番号	層位 出土地点	広量口径 (cm)器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
89	甕 (土師器) 第4e層	口 径16.4	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ナデ。	淡赤茶色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
90	同上 第4e層	口 径16.4	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面摩滅の為不明。	淡茶灰色	細砂粒を少量含む。	良	
91	同上 第4e層	口 径16.4	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	乳灰褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
92	同上 第4e層	口 径16.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。	淡灰茶色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
93	同上 第4e層	口 径17.2	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。	灰茶色	6.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
94	同上 第4e層	口 径17.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ナデ。	灰褐色	細砂粒を少量含む。	良	
95	同上 第4e層	口 径17.4	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。	淡灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
96	同上 第4e層	口 径17.6	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ナデ。	灰茶色	7㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
97	同上 第4e層	口 径18.2	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は若干うえにつまみ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ナデ・指頭痕。	灰褐色	細砂粒を少量含む。	良好	
98	同上 第4e層	口 径17.6	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。	暗灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
99	同上 第4e層	口 径17.8	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外に面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ヘラナデ。	淡茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
100 三八	同上 第4e層	口 径17.2	最大径を中位にもつ球形に近い体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまみだす。体部内面上位に接合痕1本を有する。底部は欠損。 口縁部外面タタキ後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面摩滅の為不明。	淡茶黄色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
101	甕 (土師器) 三七	口径 18.0		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部外面タタキ（3本）後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラナデ。	灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
102	同上 第4e層	口径 20.0		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上につまみ、外に面をもつ。体部内面上位に接合痕1本を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ナデ。	灰茶色	3.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
103	同上 第4e層	底径 4.6		口縁部・体部上位は欠損。楕円形と思われる体部で、底部は突出する張り底。 体部外面上位・下位タタキ（3本）、中位ヘラ削り、内面ヘラナデ。	外 淡灰褐色 内 暗灰褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
104	同上 第4e層	底径 3.8		口縁部・体部上位は欠損。外上方へ内湾気味に伸びる。底部は突出気味の平底。 体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。	外 淡灰褐色 内 暗灰褐色	3.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
105 三八	同上 第4e層	口径 14.6 最大径 17.2		最大径を中位にもつ球形に近い体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部上位・中位外面タタキ（6本）後ハケナデ（8本）、下位ナデ、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
106	同上 第4e層	口径 14.0		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	乳灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
107	同上 第4e層	口径 13.2		口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ（9本）、体部外面タタキ（7本）、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
108	同上 第4e層	口径 14.6		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ヘラ削り。	暗灰褐色	微砂粒を少量含む。	良	
109	同上 第4e層	口径 15.6		口縁部は上外方へ伸び、端部は若干上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
110	同上 第4e層	口径 14.8		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩滅の為不明、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
111	同上 第4e層	口径 15.8		口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は若干上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（5本）、内面ヘラ削り。	淡赤茶色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
112	同上 第4e層	口径 15.8		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ（5本）、体部外面タタキ（3本）、内面ヘラ削り。	淡赤褐色	細砂粒を多量含む。	良	
113	同上	口径 15.0		口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（8本）、内面ナデ。	淡赤褐色	細砂粒を多量含む。	良	煤付着。

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量(cm) 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
114	甕 (土師器) 第4e層	口 径21.6	口縁部は上外方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	暗灰褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
115	同上 第4e層	口 径17.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	8㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
116	同上 第4e層	口 径17.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	暗茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
117	鉢 (土師器) 第4e層	口 径 8.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡茶灰色	微砂粒を少量含む。	良	
118	同上 第4e層	口 径11.2	偏平な半球形と思われる体部から屈曲し、内湾気味に上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡茶灰色	微砂粒を少量含む。	良	
119 三八	同上 第4e層	口 径 9.2 器 高 6.9 底 径 2.0	半球形の体部からわずかに屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出しない平底。 口縁部内外面ナデ、体部内外面摩滅の為不明。	灰褐色	細砂粒を少量含む。	良	煤付着。 二次焼成。
120 三八	同上 第4e層	口 径 9.6	半球形の体部からそのまま上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は突出する窪み底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラナデ。	外 黒灰色 内 茶灰色	細砂粒を少量含む。	良	
121 三八	同上 第4e層	口 径12.0 器 高 6.0 底 径 3.7	半球形の体部からそのまま上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出気味の窪み底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡褐色	8㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
122 三八	同上 第4e層	口 径11.8 器 高 5.7	半球形の体部からそのまま上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸く、片口をもつ。底部は突出する上げ底。 口縁部・体部外面ナデ、内面ハケナデ後ナデ、底部外面ナデ・指頭痕。	淡灰褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
123 三八	同上 第4e層	口 径11.2 器 高 5.7	半球形の体部からそのまま上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は突出する平底。 口縁部・体部外面ナデ、底部外面ナデ、内面ナデ。	茶灰色	細砂粒を多量含む。	良	
124 三八	同上 第4e層	口 径12.0	半球形に近い体部からそのまま上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は尖る。底部は突出気味の上げ底。 口縁部・体部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ナデ。	淡茶灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
125 三八	同上 第4e層	口 径10.2 器 高 5.8	半球形の体部からそのまま上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出する上げ底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラナデ、底部外面ナデ・指頭痕。	淡灰色	細砂粒を少量含む。	良	
126 三八	同上 第4e層	口 径12.0 器 高 7.0 底 径 3.7	半球形の体部からそのまま上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出する上げ底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラナデ、底部外面ナデ・指頭痕。	淡灰色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量(cm) 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
127 三九	鉢 (土師器) 第4e層	口径16.4 器高7.0 底径3.9	半球形の体部からそのまま上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出する上げ底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、底部外面指頭痕、内面ヘラナデ。	暗褐色	細砂粒を多量含む。	良好	煤付着。
128 三九	同上 第4c層	口径14.2	半球形の体部からそのまま上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部・体部内外面ヘラミガキ。	淡褐色	細砂粒を少量含む。	良好	
129 三九	同上 第4e層	口径14.8 器高7.2	半球形に近い体部からそのまま上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出しない平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラナデ。	茶灰色	細砂粒を少量含む。	良	
130 三九	同上 第4e層	口径17.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、ほぼ水平方向へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡茶灰色	細砂粒を少量含む。	良	
131 三九	同上 第4e層	口径29.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。頸部外面に接合痕1本を有する。体部下位は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヘラミガキ、体部内外面ヘラミガキ。	淡褐灰色	1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
132 三九	器台 (土師器) 第4c層	口径9.7	浅く平坦な受部から緩やかに屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は若干上につまむ。脚部は外下方に開く。端部は欠損。 受部内外面ヘラミガキ、脚部外面ヘラミガキ、内面ナデ。	淡茶色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良	
133 三九	同上 第4e層	口径9.4 器高10.4 底径10.2	受部は外上方へ伸び、端部は外傾する面をもつ。脚部は外下方に開く。端部は丸い。脚部上位に四方孔を有する。受部と脚部の間は貫通している。 外面摩滅の為不明、内面ハケナデ。	赤茶灰色	4mm以下の砂粒を少量含む。	良	完形。
134 三九	同上 第4e層	口径10.6	受部は外上方へ伸び、端部は外傾する面をもつ。脚部は下外方へ伸び、端部は欠損。受部に18個(径約8mm)円孔、脚部に四方の円孔を有する。受部と脚部の間は貫通している。 口縁部内外面ヨコナデ、受部内外面ナデ、脚部外面ヘラナデ後ナデ、内面ナデ。	淡灰褐色	細砂粒を少量含む。	良好	
135	同上 第4e層	脚部径10.8	受部は欠損。脚部は外下方へ伸び、端部は鈍く尖る。脚部に三方の円孔を有する。受部と脚部の間は貫通している。 脚部外面摩滅の為不明、内面くりぬき・ナデ。	淡茶色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
136	鼓形器台 (土師器) 第4e層	基部径5.6	基部から上下に外反してそれぞれ上外方・下外方へ伸びる鼓形で、口縁部・脚部は欠損。基部上下には凸帯が一条ずつ巡る。 受部外面ヨコナデ、内面ナデ、基部・脚部外面ヨコナデ、内面へう削り。	乳灰褐色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
137	高杯 (弥生式土器) 第4c層	口径11.8	半球形の杯部からそのまま上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。脚部は欠損。 杯部内外面ヘラミガキ。	淡茶色	微砂粒を少量含む。	良好	
138	同上 第4e層	口径14.2	外上方へ伸びた後屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部内外面ヘラミガキ。	淡赤茶灰色	2.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量（cm）	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
139 三九	高杯 （弥生式土器） 第4c層	口径 24.0 器高 18.7 底径 17.2	杯底部から外上方へ伸びた後屈曲し、外上方へ大きく外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下方へ伸びる中空の柱状部から屈曲し、外下方へ大きく開く裾部に至る。端部は外に面をもつ。裾部上位に四方孔を有する。 杯部内外面ヘラミガキ、脚部外面ヘラミガキ、柱状部内面くりぬき、裾部内面ナデ。	灰褐色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
140	同上 第4c層	口径 20.8	杯底部から外上方へ伸びた後屈曲し、上外方へ大きく外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外に面をもつ。脚部は欠損。 杯部内外面ヘラミガキ、脚部外面ヘラミガキ、内面ナデ。	茶灰色	6㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
141	同上 第4c層	底径 10.0	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる柱状部から緩やかに屈曲し、外下方へ開く裾部に至る。端部は丸い。 内外面摩滅の為不明。	茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
142	同上 第4c層	底径 11.0	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる中実の柱状部から緩やかに屈曲し、外下方へ大きく開く裾部に至る。端部は丸い。裾部に三方孔を有する。 外面ヘラミガキ、内面ハケナデ・ナデ。	茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
143	同上 第4c層	底径 10.8	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる中空の柱状部から屈曲し、外下方へ大きく開く裾部に至る。端部は丸い。裾部に三方孔を有する。 脚部外面ハケナデ（10本）後ヘラミガキ、柱状部内面ナデ、裾部内面ハケナデ（12本）。	淡灰色	微砂粒を少量含む。	良	
144	同上 第4c層	底径 14.8	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる中空の柱状部から屈曲し、外下方へ大きく開く裾部に至る。端部は鈍く尖る。裾部上位に四方孔を有する。 脚部外面ヘラミガキ、柱状部内面しぼり目、裾部内面ハケナデ。	茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
145	同上 第4c層	底径 15.4	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる中空の柱状部から屈曲し、外下方へ大きく開く裾部に至る。端部は丸い。裾部上位の三方に円孔を有する。 脚部外面ヘラナデ、柱状部内面くりぬき、裾部内面摩滅の為不明。	外　灰茶色 内　茶灰色	細砂粒を少量含む。	良	
146	製塩土器 第4c層	脚部径 3.6	体部は欠損。脚部は下外方へ伸び、端部は丸い。 脚部内外面ナデ。	淡褐色	微砂粒を少量含む。	良	

第7節　第18次調査

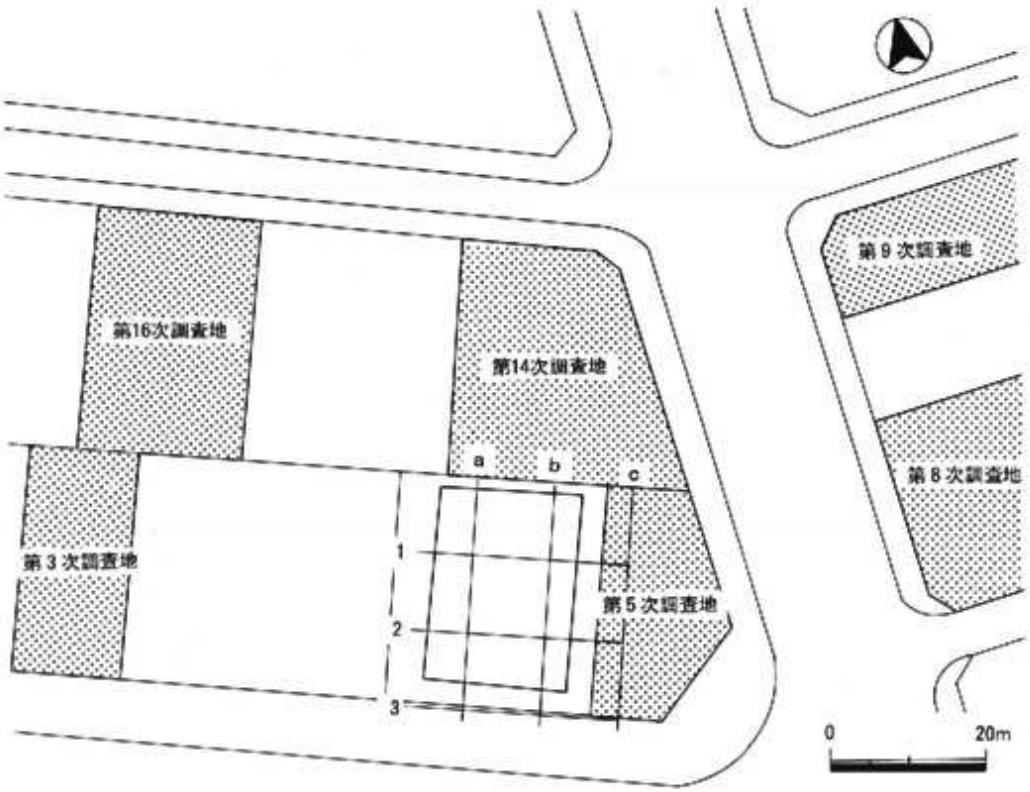
Ⅰ　調査の概要

今回の調査地は八尾市光町1丁目19－3番地に所在する店舗住宅建設の工事に伴う発掘調査である。この調査地は八尾市教育委員会及び当調査研究会が当遺跡内で実施した第18次調査にあたる。周辺には東側に第5次調査地、北東側に第14次調査地が接し、西側へ約30mには第3次・第16次調査地が近接している。調査面積は約546㎡を測る。

調査は、周囲の土地や掘削排土の処分などの諸条件を考慮に入れ、東部は第1調査区、西部は第2調査区に2分して実施した。掘削に当たっては当調査地に接する第5次・第14次調査地の調査結果をともに、現地表から約1.2m（盛土・旧耕土・床土）までを機械掘削し、これより以下0.4mまでは人力による掘削・精査を実施した。

地区割は、北西部にある土地境界杭を基準点とし、北東部にある土地境界杭の方向に合せて東西線を設けた。東西30m、南北40mに渡って設定した。設定した一区画の単位は10m四方で、北西隅を基準とし、東西線は数字（北から1～3）、南北線はアルファベット（西からa～c）を付称した。なお、地区名の表示は、一区画の北西隅に交差する東西線・南北線を用い、1a～3cと付称した（第104図）。

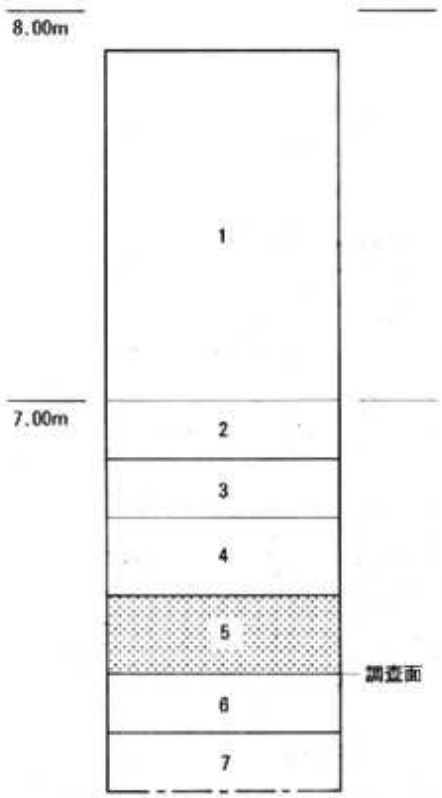
なお、報告では第1次調査区と第2調査区を分けずに1つの調査区として記述した。



第104図　調査区設定図及び地区割図

Ⅱ　基本層序

当調査地において普遍的にみられる7層を基本層序とした。現地表面は標高7.9mを測る。以下、各層について記す（第105図）。



第105図　基本層序柱状図（S＝1／20）

第1層盛土：層厚80～100cm。区画整理事業によって埋立てられた土層である。

第2層旧耕土：層厚10～20cm。この土層は近年までの耕作土である。

第3層灰色～淡茶灰色砂粘土：層厚10～40cm。耕土の床土である。層内には古墳時代～中世に至る土器の小片がごく少量含まれている。

第4層茶褐色～灰茶色細砂混粘土：層厚10～20cm この土層の上方には酸化鉄が含まれているまた、この土層は平安時代後期～鎌倉時代初頭の水田で、上部は近世の時期に削平されている。

第5層暗茶灰色～褐灰色粘土：層厚10～40cm。層内には古墳時代前期に比定される土器の小片が含まれている遺物包含層である。

第6層灰黄色～灰青色シルト：層厚20～30cm。この上面では古墳時代前期に比定される遺構が切込まれている。標高6.2mを測る。

第7層灰青色粘土：層厚20～30cm。この土層は、粘性の強い土層である。

Ⅲ　検出遺構・出土遺物

第6層上面を調査面とした。その結果、第6層上面から切込む古墳時代前期に比定される井戸1基・土坑2基・溝9条の遺構と、第5層上面より切込む平安時代後期～鎌倉時代に比定される土坑2基を検出した。調査区内で出土した遺物は、コンテナ箱にして約10箱分を数える。

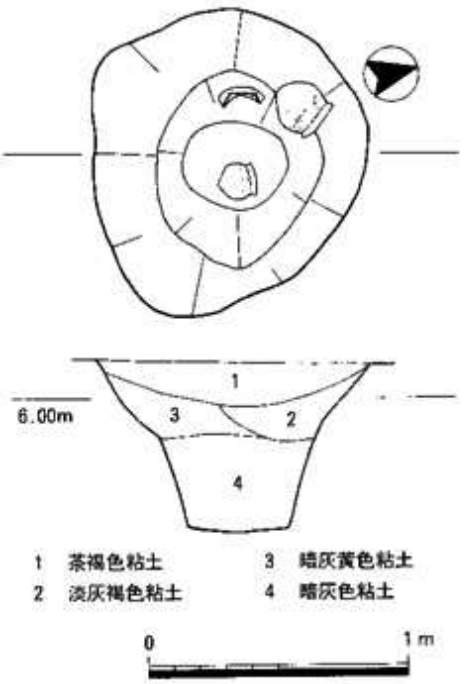
以下、各時代の遺構について概説する。なお、個々の遺物の法量・形態・調整などについては、「Ⅳ　出土遺物観察表」として一括したので参照されたい。

1　古墳時代前期

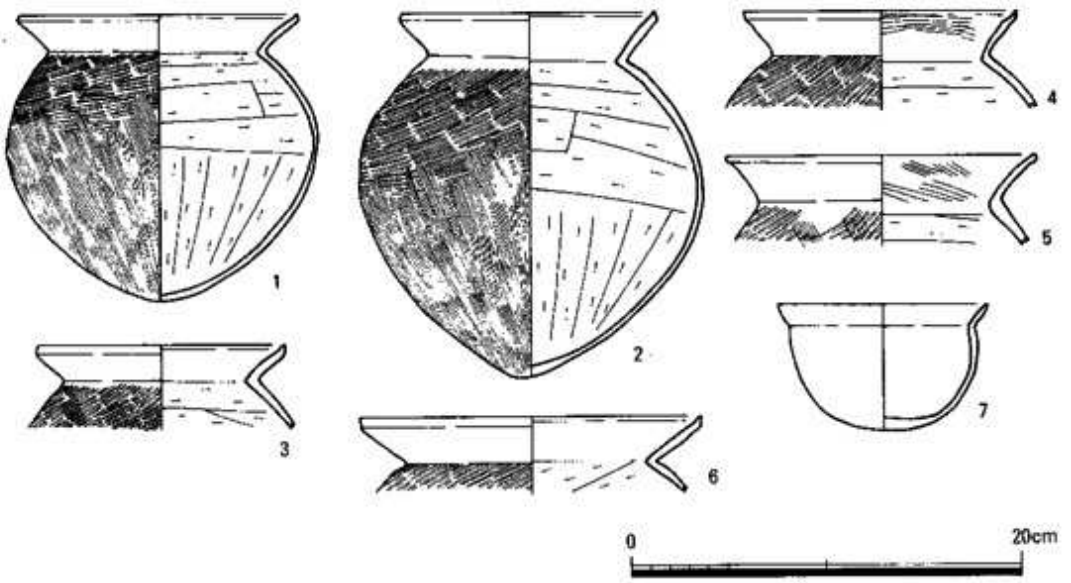
井戸（SE）

SE1

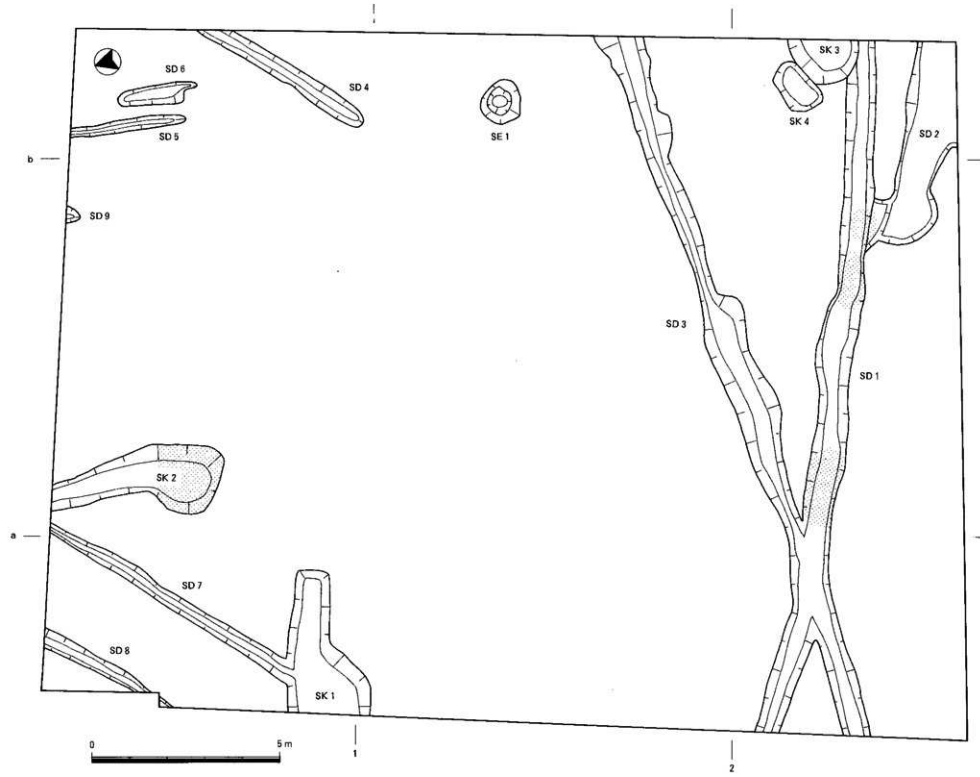
調査区東部で検出した素掘りの井戸である。平面はやや楕円形を呈する。規模は検出部で、長径1.23m、短径1m、深さ70cmを測る。断面は逆台形を呈し、中位から大きく上外方へ外反する。堆積土は、上方から第1層茶褐色粘土・第2層淡灰褐色粘土・第3層暗灰黄色粘土・第4層暗灰色粘土で構成している。底面は湧水層に達していると考えられ、調査中でも絶えず湧水が噴出していた（第106図）。遺物は、第1層～第3層内から庄内式古相に比定される庄内式甕（1～6）・鉢（7）などの小片が少量出土している（第107図）。



第106図　SE1平断面図



第107図　SE1出土遺物実測図

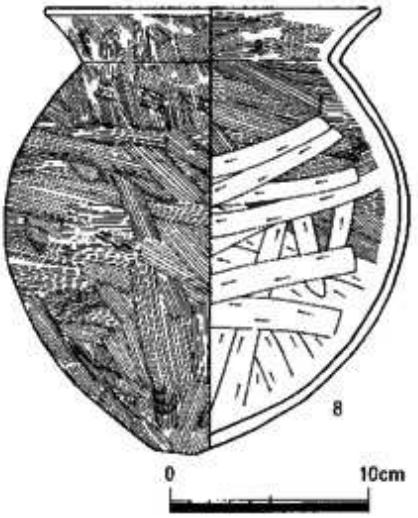


第108図　遺構平面図

土坑（SK）

SK１

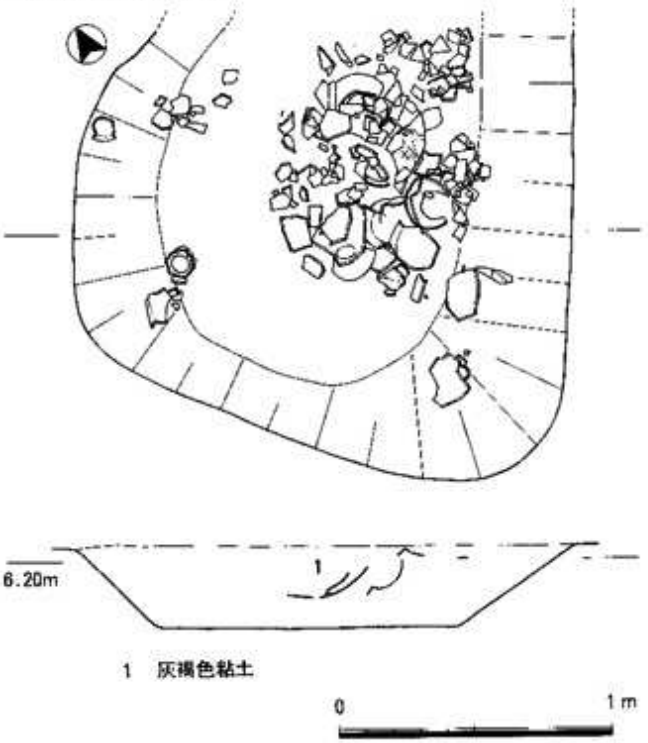
調査区北西部の西壁付近で検出した土坑である。平面は不定形を呈し、西部は調査区外に至る。北側ではSD７が合流している。規模は検出部で、東西3.8m、南北2.3m、深さ10cmを測る。断面は緩やかな逆台形を呈する。堆積土は灰褐色粘土の単一層である。遺物は、堆積土内から第Ⅴ様式甕・庄内式甕（８）・高杯などの小片がごく少量出土している（第109図）。



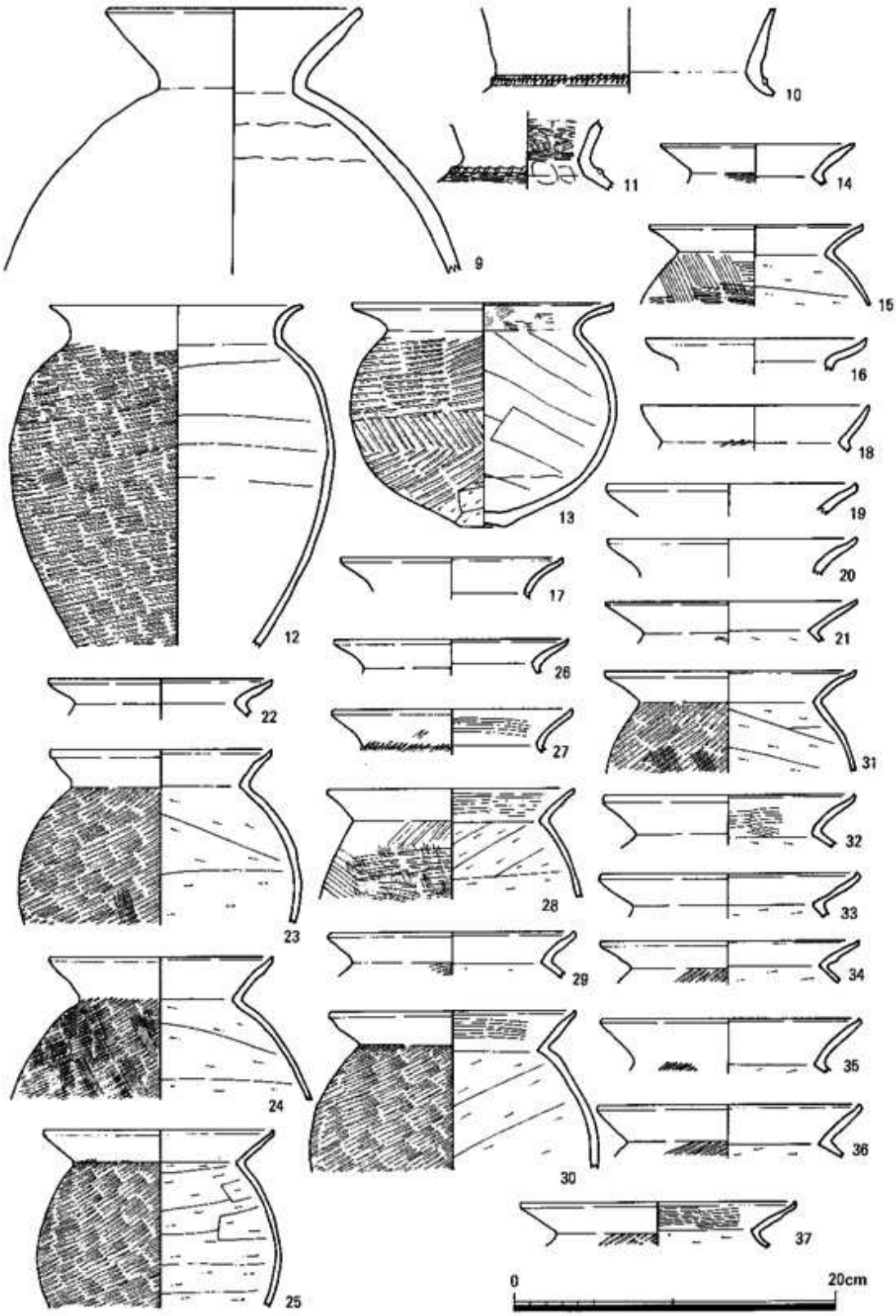
第109図　SK１出土遺物実測図

SK２

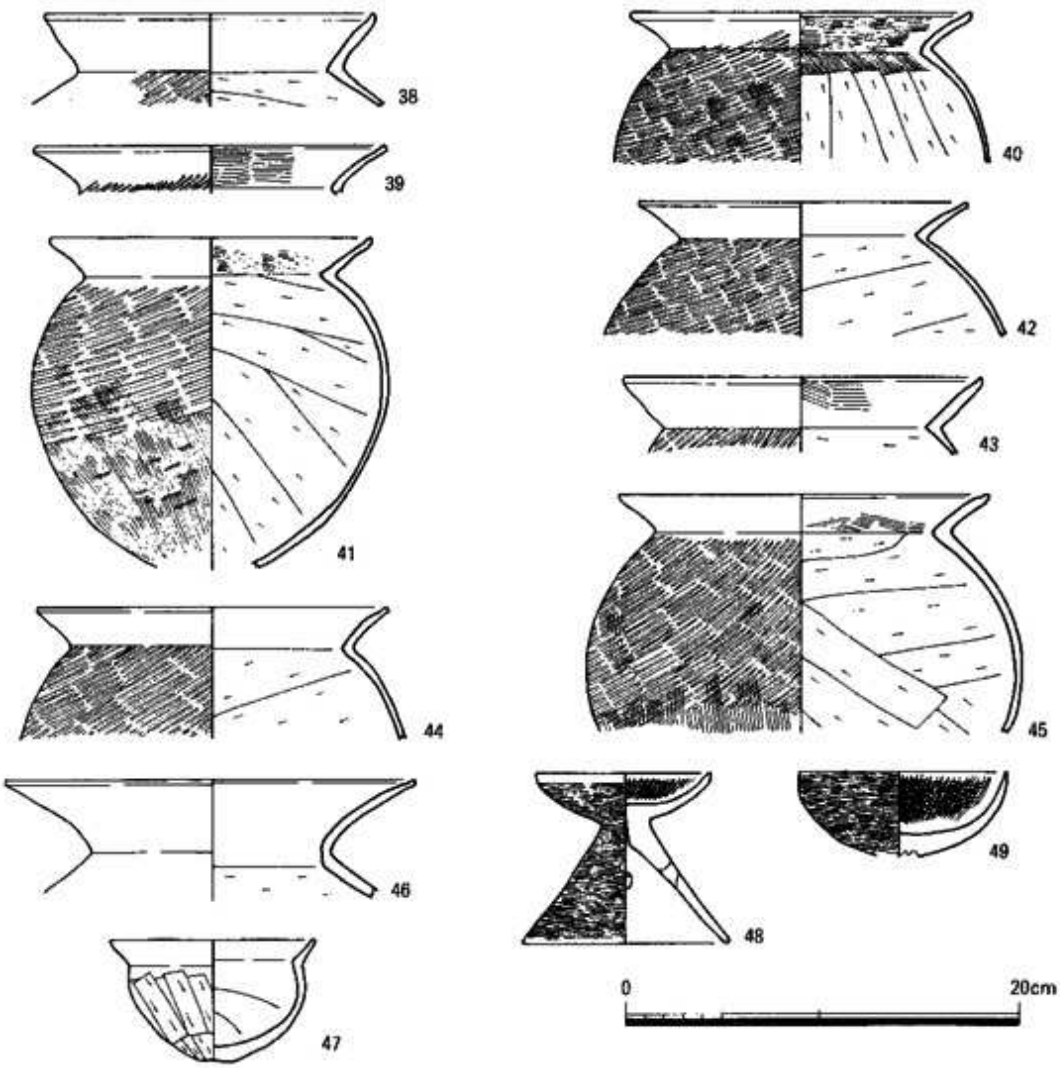
調査区北東部で検出した土坑である。平面は不定形を呈する北部は調査区外に至る。規模は最大幅4.2m、最小幅80cm、深さ10～20cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面には緩やかな凹凸がみられる。堆積土は灰褐色粘土の単一層である。遺物は、南部の堆積土内から土器片が集積した状態で出土した。出土量はコンテナ箱にして１箱分である。器種には壺（９～11）・第Ⅴ様式系甕（12～14）・庄内式甕（15～46）・鉢（47）・器台（48）・高杯（49）がある（第110～112図）。



第110図　SK２土器集積部分検出平断面図



第111図　SK 2出土遺物実測図 1

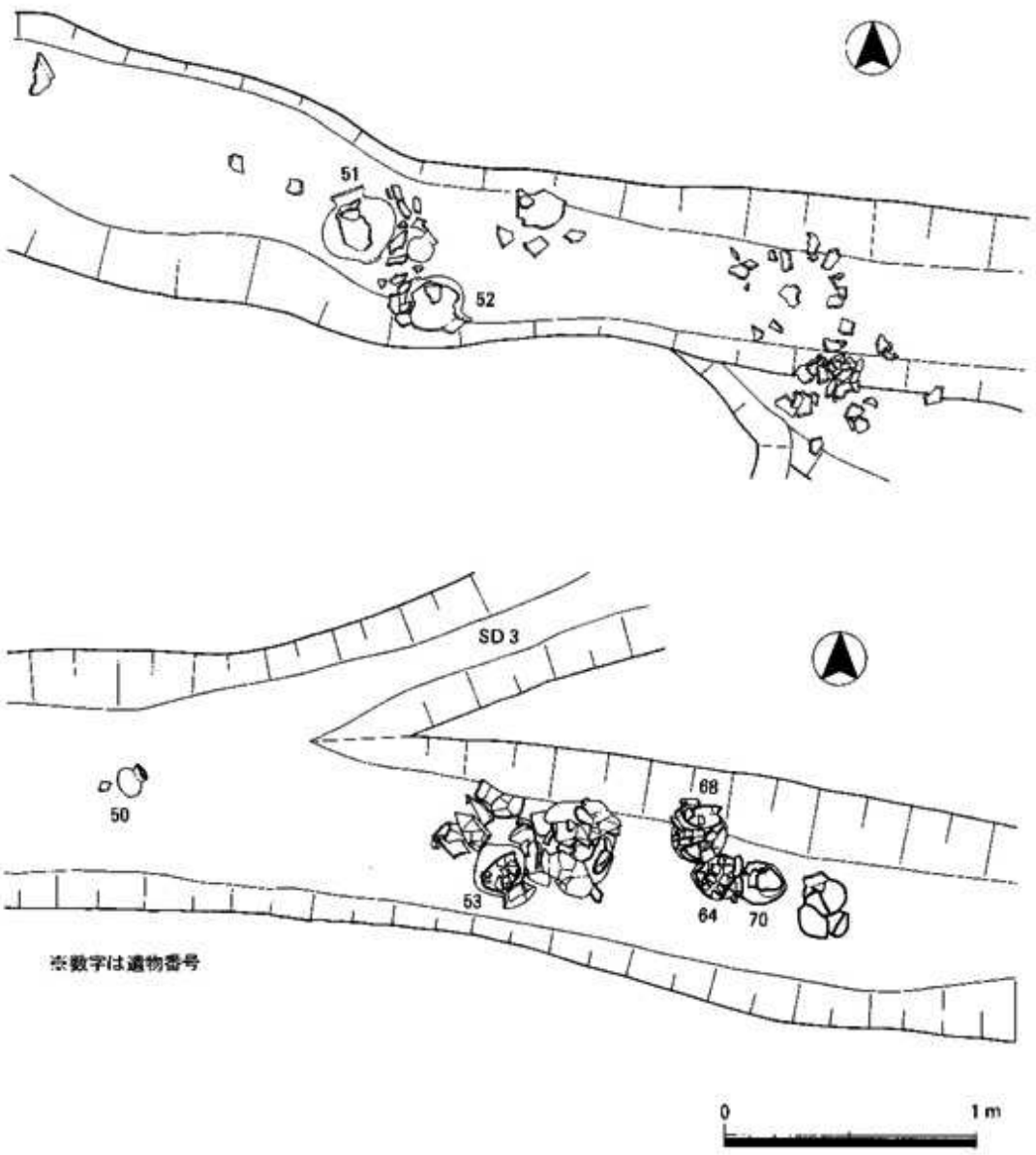


第112図　SK2出土遺物実測図2

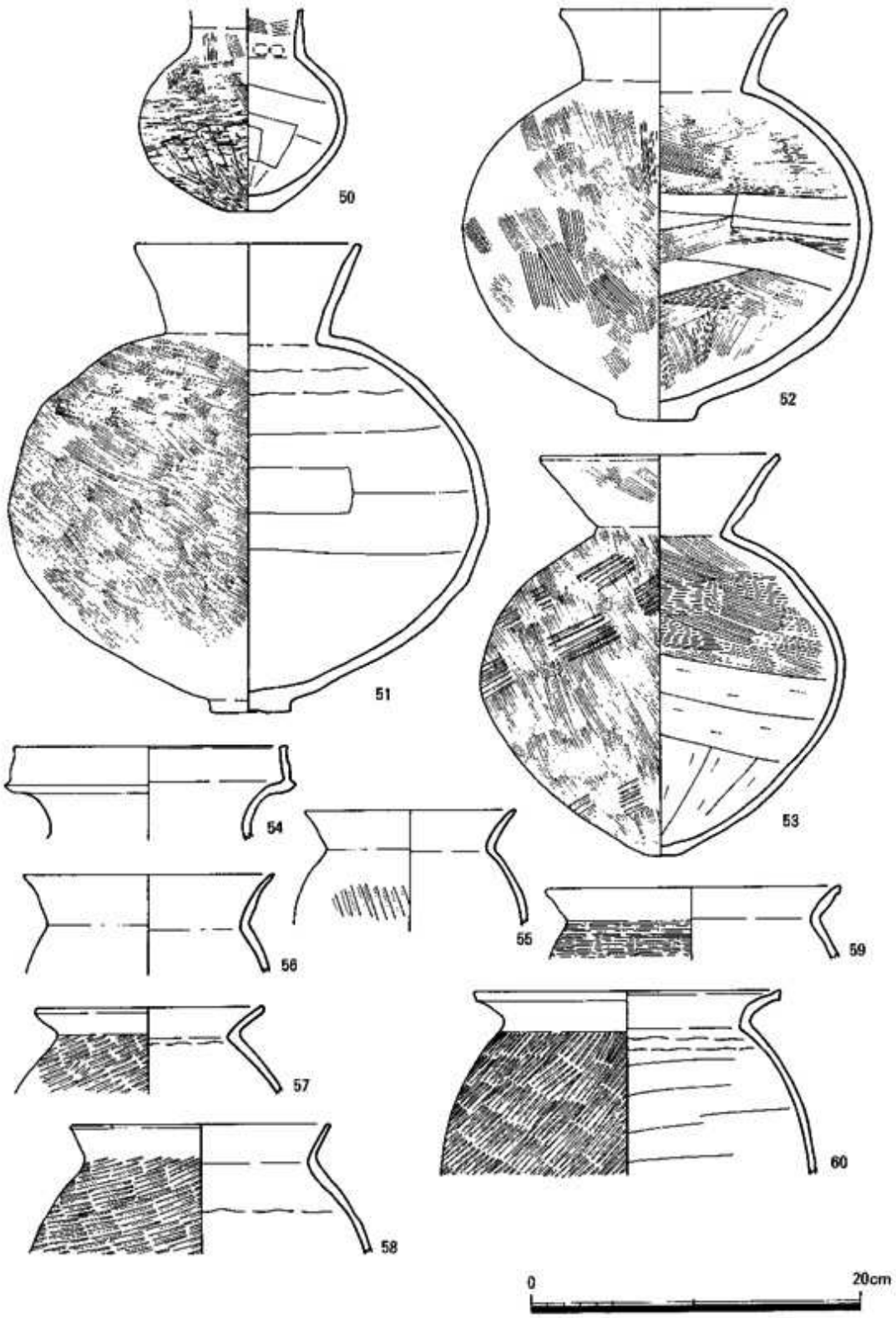
溝（SD）

SD1

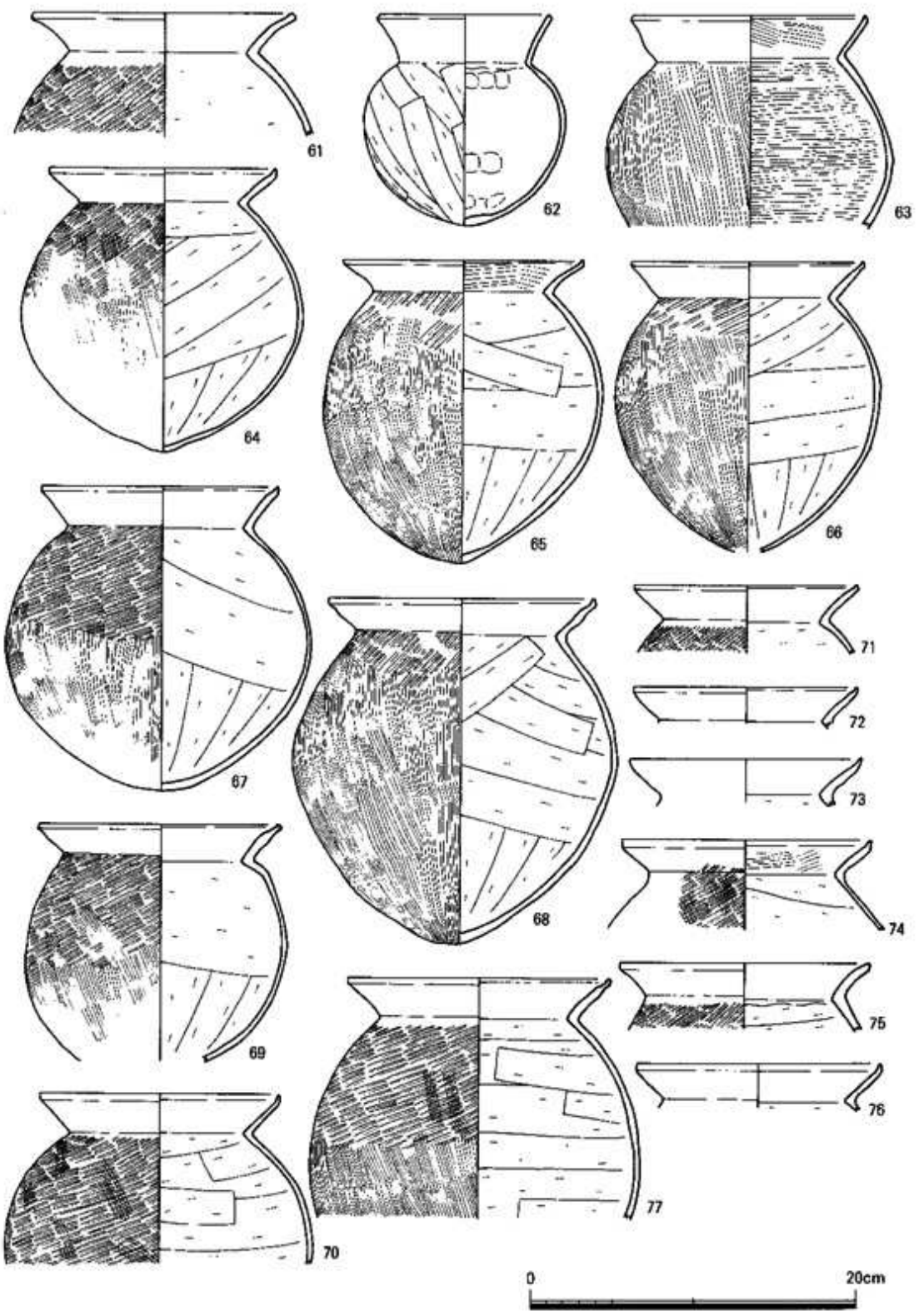
調査区南部で検出した溝である。方向は東西方向を示す。東部の南側はSD2を切り、西部はSD3と交差する関係にある。また、東壁付近では鎌倉時代の土坑（SK3）によって切られている。規模は検出部で、幅60～90cm、深さ20cmを測る。断面は緩やかな逆台形を呈し、底面には所々で深く窪んだ部分がみられる。堆積土は暗灰色～暗灰青色シルト混粘土である（第113図）。遺物は、溝内から古墳時代前期に比定される土器の破片が出土しているが、出土状況では集積した土器群が大きく3つに分かれる。また、これらの土器はほとんどが上方からの



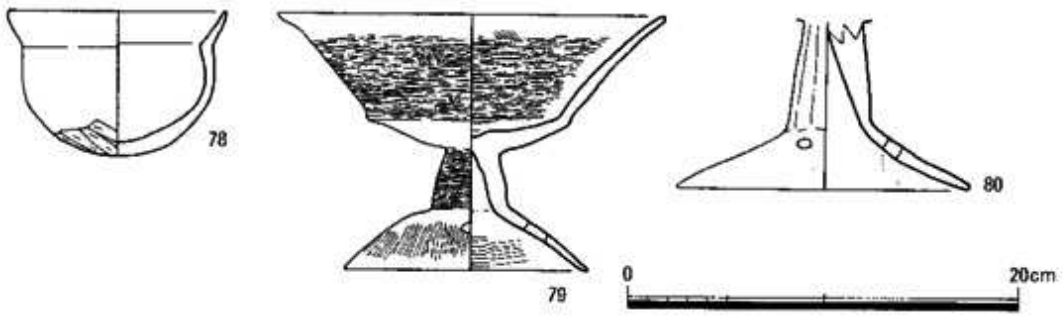
第113図　ＳＤ１土器平面図



第114図　ＳＤ１出土遺物実測図１



第115図　SD１出土遺物実測図２



第116図　ＳＤ２出土遺物出測図３

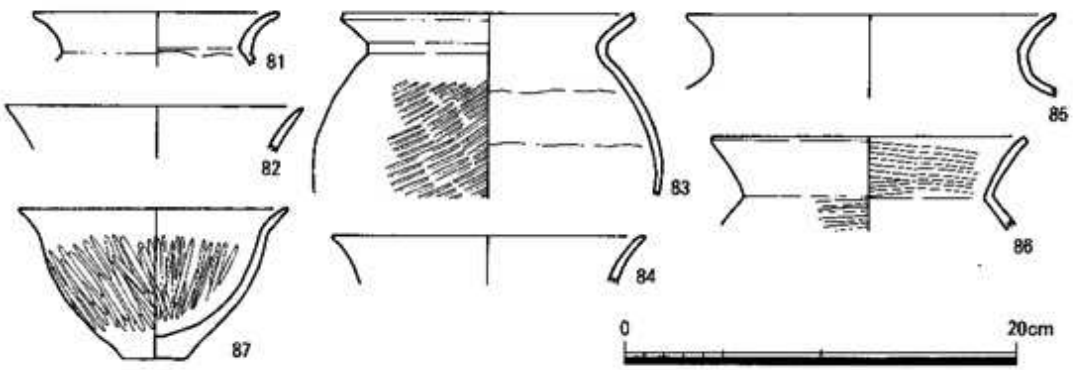
出土である。器種には壺（50～54）・第Ⅴ様式系甕（55～61）・庄内式甕（63～77）・甕（62）・鉢（78）・高杯（79・80）がある（第114～第116図）。なお、この溝は、東側に接する第５次調査地で検出された溝（ＳＤ９）に続くものと考えられる。

ＳＤ２

調査区南東部で検出した溝である。方向は南東―北西方向を示し、ＳＤ１に切られる。南東部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅95～120cm、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰色シルト混粘土である。遺物は、溝の中央部の堆積土内から集積した状態で土器の小片が少量出土している。器種には第Ⅴ様式系甕（81～85）・庄内式甕（86）・鉢（87）がある（第117図）。

ＳＤ３

調査区南部で検出した溝である。方向は北東―南西方向を示す。南西部はＳＤ１と交差する関係にある。規模は検出部で、幅40～130cm、深さ10～20cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰青色シルト混粘土の単一層である。遺物は、堆積土内から第Ⅴ様式甕・庄内式甕などの小片がごく少量出土している。



第117図　ＳＤ２出土遺物実測図

SD4

調査区北東部で検出した溝である。方向は北東一南西方向を示す。東部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅40～50cm、深さ10～15cmを測る。断面は緩やかな逆台形を呈する。堆積土は灰黄色粘土の単一層である。遺物は、堆積土内から庄内式甕などの小片が少量出土している。

SD5

調査区の北東部で検出した溝である。方向はほぼ南北方向を示す。北部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅25～34cm、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰青色シルト混粘土である。遺物は出土していない。

SD6

調査区の北東部で検出した溝である。方向はSD5とほぼ同一方向を示す。規模は検出部で、幅30～40cm、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰青色シルト粘土である。遺物は出土していない。

SD7

調査区北西部で検出した溝である。方向は南西一北東方向を示す。南西部はSK1に交り、北東部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅20～50cm、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰青色シルト混粘土の単一層である。遺物は出土していない。

SD8

調査区北西隅で検出した溝である。方向はSD7と同一方向を示す。南北部はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅30～40cm、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は灰褐色粘土の単一層である。遺物は出土していない。

SD9

調査区北東部の北壁付近で検出した溝である。方向はSD5と同一方向を示すと思われるが、南部の一部を検出しただけで確実なことはいえない。規模は検出部で、幅40cm、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰青色シルト混粘土の単一層である。遺物は、出土していない。

2　平安時代後期～鎌倉時代初頭

土坑（SK）

SK3

調査区南東部の東壁付近で検出した土坑である。西部はSK4と切合う関係にあり、東部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西1.3m、南北2m、深さ30cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は灰褐色土の単一層である。遺物は出土していない。

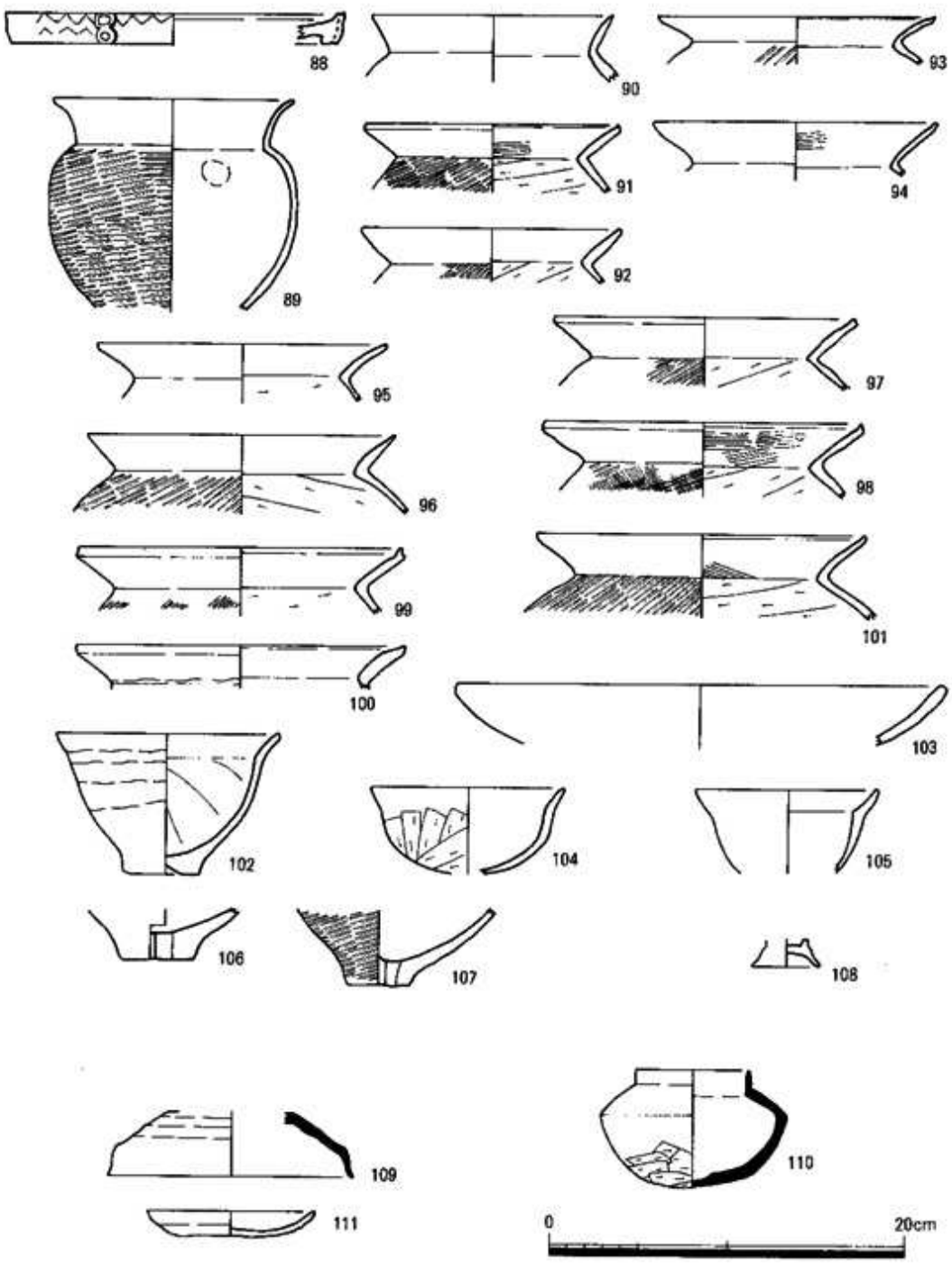
SK4

調査区南東部で検出した溝である。東部はSK3と交わる関係にある。堆積土はSK3と同一土層である。遺物は出土していない。

遺構に伴わない出土遺物

この調査地では、2層の包含層を確認した。包含層は第3層と第5層である。第3層内には古墳時代後期～鎌倉時代の時期の遺物が含み、第5層内には古墳時代前期に比定される遺物が含まれている。これらの遺物包含層から出土した遺物量はコンテナ箱にして約3箱分で、大半が第5層内からの出土である。第3層内からは古墳時代後期～鎌倉時代にかけての土器で、器種には須恵器の蓋杯・壺、土師器の小皿、瓦器椀がある。図示できたものは陶邑編年によるⅢ型式1段階に比定される杯蓋（109）・壺（110）である。

第5層内からは古墳時代前期に比定される土器が出土した。器種には壺・甕・鉢・有孔鉢・高杯・製塩土器がある。図示できたものは72点である。外反する口縁部で端部が垂下し外に面をもち波状文と縦2個で等間隔に円形浮文を施した壺（88）、第Ⅴ様式系甕（89・90）・庄内式甕（91～101）、突出した平底をもつ鉢（102）、鉢（104・105）、浅い皿形の鉢（103）である。突出する平底に突孔をもつ有孔鉢（106・107）、脚部をもつ製塩土器（108）で紀伊C類に相当するである（第118図）。



第118図　包含層出土遺物実測図

Ⅳ　出土遺物観察表

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm)	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 四三	甕 （土師器） SE1	口径 14.4 器高 14.8	最大径を上位にもつ球形の体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部は尖り気味の底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（7本）後ハケナデ（20本）、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	微砂粒を少量含む。	良	完形。 煤付着。
2 四三	同上 SE1	口径 13.0 器高 18.9	最大径をやや上位にもつ球形の体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部は尖り底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（7本）後ハケナデ、下位ハケナデ（14本）内面ヘラ削り。	暗茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	完形。 煤付着。
3 SE1	同上	口径 13.0 器高 18.9	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（7本）後ハケナデ、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
4 SE1	同上	口径 14.1	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外面タタキ（4本）後ハケナデ（6本）、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
5 四三 SE1	同上	口径 16.4	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は若干外方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外面タタキ（4本）後ハケナデ（6本）、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
6 SE1	同上	口径 17.7	口縁部は上外方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（7本）、内面ヘラ削り。	暗褐色	微砂粒を少量含む。	良	煤付着。
7 四三 SE1	鉢 （土師器）	口径 10.9 器高 6.6	半球形の杯体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸く尖る。底部は丸底。 内外面摩滅の為不明。	外 淡茶赤色 内 茶赤色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。 黒斑有。
8 四三 SK1	甕 （土師器）	口径 17.0 器高 23.0	最大径をやや上位にもつ楕円形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は小さい平底。 口縁部内外面ハケナデ（8本）、体部外面ハケナデ（10本）・一部タタキ残存、内面ハケナデ（8本）後ヘラ削り。	淡褐灰色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
9 四三 SK2	壺 （土師器）	口径 15.6	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部内面上位に接合痕2本を有する。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面摩滅の為不明。	淡茶灰色	6㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
10 SK2	同上		口縁部は上外方へ伸び、頸部に凸帯を廻らし、キザミ目を施す。口縁端部・体部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	淡茶灰色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
11 SK2	同上		口縁部は上外方へ伸び、端部は欠損。体部上位に凸帯を廻らし、キザミ目を施す。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ（7本）、体部外面ハケナデ、内面指ナデ。	乳灰褐色	8㎜以下の砂粒を少量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 口径(cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
12	壺 (上師器) SK2	口 径 15.8	最大径を上位にもつ楕円形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面上位ヘラナデ、下位ナデ。	外 茶灰色 内 暗灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
13 四三	同上 SK2	口 径 16.4 器 高 14.3 底 径 2.8	偏平な球形の体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。底部は突出しない窪み底。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部外面上位タタキ(3本)後ハケナデ(10本)、中位タタキ後ヘラナデ、下位ヘラ削り、内面ヘラナデ。	外 淡灰褐色 内 淡灰茶色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
14	同上 SK2	口 径 12.0	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	微砂粒を少量含む。	やや良	煤付着。
15	同上 SK2	口 径 13.4	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)後ハケナデ(6本)、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	2.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
16	同上 SK2	口 径 13.8	口縁部は上外方へ内湾して伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、内面ヘラ削り。	暗灰黄色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
17	同上 SK2	口 径 14.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
18	同上 SK2	口 径 14.2	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ヘラ削り。	外 暗灰褐色 内 淡灰茶色	1.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
19	同上 SK2	口 径 15.6	口縁部は上外方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
20	同上 SK2	口 径 15.6	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	暗灰褐色	2.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
21	同上 SK2	口 径 15.8	口縁部は上外方へ伸び、端部は若干上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	外 暗黒灰色 内 淡褐灰色	1.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
22	同上 SK2	口 径 14.2	口縁部は外上方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩滅の為不明、内面ヘラ削り。	淡灰白色	1.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
23	同上 SK2	口 径 14.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)後ハケナデ(13本)、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
24	同上 SK2	口 径 14.2	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)後ハケナデ(10本)、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
25 図四	甕 (土師器) SK2	口	径 14.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	外 暗茶灰色 内 黒褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
26	同上 SK2	口	径 14.8	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は若干上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	暗褐灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
27	同上 SK2	口	径 15.4	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面タタキ（6本）、後ヨコナデ、内面ハケナデ、体部内面ヘラ削り。	外 暗灰褐色 内 褐灰色	5.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
28	同上 SK2	口	径 15.4	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ（5本）、体部外面タタキ（2本）後ハケナデ（8本）、内面ヘラ削り。	暗茶褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
29	同上 SK2	口	径 15.2	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（5本）、内面ヘラ削り。	淡灰色	微砂粒を少量含む。	良	
30 四四	同上 SK2	口	径 15.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ（6本）後ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	暗茶褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
31	同上 SK2	口	径 15.8	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）後ハケナデ（8本）、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
32	同上 SK2	口	径 15.8	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ（6本）、体部外面ヨコナデ、内面ヘラ削り。	暗灰褐色	微砂粒を少量含む。	良	煤付着。
33	同上 SK2	口	径 16.0	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、内面ヘラ削り。	暗灰褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
34	同上 SK2	口	径 16.2	口縁部は外上方へ外反気味に伸び、外面に膨らみがある。端部はつまみ上げる。体部欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
35	同上 SK2	口	径 16.2	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ・指頭痕、内面ヨコナデ、体部外面タタキ（6本）、内面ヘラ削り。	暗褐灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
36	同上 SK2	口	径 17.4	口縁部は斜上方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
37	同上 SK2	口	径 17.4	口縁部は上外方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ（7本）、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量(cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
38	甕 (土師器) SK2	口径 17.0	口縁部は斜上方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ヘラ削り。	淡褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	やや良	煤付着。
39	同上 SK2	口径 18.0	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ・タタキ(4本)、内面ヨコナデ後ハケナデ(6本)、体部内面ヘラ削り。	暗灰褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
40	同上 SK2	口径 17.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は若干上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部外面タタキ後ヨコナデ、内面ハケナデ(7本)、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ(6本)、内面ハケナデ(7本)後ヘラ削り。	暗茶灰色	微砂粒を少量含む。	良	
41 四四	同上 SK2	口径 16.4	最大径を上位にもつ球形の体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部外面上位タタキ(3本)、下位タタキ後ハケナデ(8本)、内面ヘラ削り。	外 褐灰色 内 暗灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
42	同上 SK2	口径 17.0	斜内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は若干上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ヘラ削り。	外 暗黒灰色 内 暗茶灰色	3.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
43	同上 SK2	口径 18.4	口縁部は斜上方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ(8本)、体部外面タタキ(4本)、内面ヘラ削り。	暗灰褐色	微砂粒を少量含む。	良	
44	同上 SK2	口径 18.0	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は若干上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)、内面ヘラ削り。	暗茶褐色	8㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
45	同上 SK2	口径 19.0	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外方へ若干つまみだす。体部下位は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ(3本)、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
46	同上 SK2	口径 21.2	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は若干上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面調整の為不明。内面ヘラ削り。	淡茶赤色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
47 四四	鉢 (土師器) SK2	口径 10.6 器高 6.4	偏平な半球形の杯体部から屈曲し、外上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出しない小さな窪み底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ後ナデ。	外 淡茶灰色 内 淡灰茶色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	変色。
48 四四	器台 (土師器) SK2	口径 9.2 器高 9.0 底径 10.7	浅く平らな受部から緩やかに外上方へ内湾気味に伸びて口縁部に至る。端部は鈍く尖る。脚部は外下方へ開き、端部は丸い。脚部中位に四方孔を有する。 受部口縁端部内外面ヨコナデ、受部体部外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後放射状暗文、脚部外面ヘラミガキ、内面くりぬき・ナデ。	淡茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量(cm) 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
49	高杯 (土師器) SK2	口径 10.7	半球形の杯部で、端部は鈍く尖る。脚部は欠損。 杯部外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後放射暗文。	灰茶色	微砂粒を少量含む。	良	黒斑有。
50 四四	壺 (土師器) SD1	最大径 12.6	最大径を中位にもつ球形の体部から屈曲し、直上へ伸びる口縁部に至る。端部は欠損。底部は突出しない平底。 口縁部外面ナデ、内面ハケナデ・指頭痕、体部外面上位ハケナデ（10本）後ヘラミガキ、下位ヘラ削り後ヘラミガキ、内面ヘラナデ。	淡茶灰色	1.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	黒斑有。
51 四四	同上	口径 13.6 器高 29.0 最大径 29.4 底径 5.2	最大径を中位にもつ偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。頸部内面に接合痕2本を有する。底部は突出する窪み底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ（9本）、下位ナデ後ハケナデ（9本）内面上位ヘラナデ、下位ナデ。	乳灰褐色	細砂粒を少量含む。	良	完形。 黒斑有。
52 四四	同上 SD1	口径 13.6 器高 25.9 最大径 25.0 底径 4.9	最大径を中位にもつ偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出する平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（8本）、内面上位ハケナデ（10本）、中位ヘラナデ、下位ハケナデ、底部外面ナデ。	乳灰褐色	5.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	完形。 黒斑有。
53 四五	同上 SD1	口径 14.6 器高 35.1 最大径 22.2	最大径をやや上位にもつ球形の体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は若干上につまむ。底部は突出しない平底。 口縁部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）後ハケナデ（10本）、内面上位ハケナデ（7本）、下位ヘラ削り。	暗茶灰色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	完形。 煤付着。
54	同上 SD1	口径 17.0	口縁部は上外方へ外反して伸びた後屈曲し、ほぼ直上へ伸びる。端部はやや内傾する面をもつ。屈曲部は若干肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	淡茶色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
55	甕 (土師器) SD1	口径 12.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面摩滅の為不明。	茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
56	同上 SD1	口径 15.6	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面摩滅の為不明。	淡茶色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
57	同上 SD1	口径 14.0	口縁部は斜上方へ伸び、端部は外傾する面をもつ。体部内面上位に接合痕1本を有する。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。	茶褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
58	同上 SD1	口径 15.8	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は若干外に肥厚する。体部内面に接合痕を1本有する。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。	茶褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
59	同上 SD1	口径 18.0	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラナデ。	灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量（cm）口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
60 四五	甕 （土師器） SD1	口径16.0	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外傾する面をもつ。体部内面に接合痕2本を有する。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラナデ。	乳灰褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
61 四五	同上 SD1	口径18.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
62 四五	同上 SD1	口径10.4 器高13.1 最大径12.3	最大径を上位にもつ球形の体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。頸部内面上位に接合痕1本を有する。底部は尖り気味の丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラ削り、内面ナデ・指頭痕。	淡褐色	細砂粒を少量含む。	良	完形。 煤付着。
63 四五	同上 SD1	口径14.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部下位は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ、体部内外面ハケナデ（6本）。	灰褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
64 四五	同上 SD1	口径14.0 器高17.6 最大径17.3	最大径を中位よりやや下にもつ球形の体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部は小さな平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（6本）後ハケナデ（7本）、内面ヘラ削り。	暗茶褐色	微砂粒を少量含む。	良	完形。 煤付着。
65 四五	同上 SD1	口径14.8 器高19.7 最大径17.0	最大径を上位にもつ楕円形の体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は尖り気味の底。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ（5本）、体部外面タタキ（3本）後ハケナデ（10本）、中位指頭痕、下位ハケナデ（10本）、内面ヘラ削り。	暗茶褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	完形。
66 SD1	同上	口径14.4 最大径16.3	最大径を上位にもつ楕円形の体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ（3本）後ハケナデ（8本）、下位ハケナデ（9本）、内面ヘラ削り。	暗茶褐色	細砂粒を少量含む。	良	煤付着。
67 SD1	同上	口径14.8 最大径19.8	最大径を中位にもつ球形の体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は若干つまみ上げる。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ（7本）、下位タタキ後ハケナデ（9本）、内面ヘラ削り・底部の一部に指頭痕。	暗茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
68 四五	同上 SD1	口径16.4 器高21.4 最大径20.0	最大径をやや上位にもつ球形の体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部は小さな平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）後ハケナデ（9本）、内面ヘラ削り。	灰茶色	細砂粒を少量含む。	良	煤付着。
69 四五	同上 SD1	口径14.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は若干うえにつまむ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）後ハケナデ（9本）、内面ヘラ削り。	灰褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm) 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
70 四六	甕 (土師器) SD1	口径 15.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（6本）後ハケナデ（7本）、内面ヘラ削り。	暗褐灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
71	同上 SD1	口径 14.0	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は若干上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（6本）、内面ヘラ削り。	茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
72	同上 SD1	口径 14.0	口縁部は外上方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	暗茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
73	同上 SD1	口径 14.4	口縁部は外上方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	灰褐色	細砂粒を少量含む。	良	
74	同上 SD1	口径 15.6	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外面タタキ（4本）後ハケナデ（6本）、内面ヘラ削り。	暗茶褐色	細砂粒を少量含む。	良	煤付着。
75	同上 SD1	口径 15.6	口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は若干上につまむ。頸部内面に接合痕1本を有する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（5本）、内面ヘラ削り。	灰褐色	微砂粒を少量含む。	良	
76	同上 SD1	口径 15.2	口縁部は上外方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡褐灰色	3.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
77 四六	同上 SD1	口径 16.2	最大径を中位にもつ体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（5本）後ハケナデ（10本）、内面ヘラ削り。	暗灰茶色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
78 四六	鉢 (土師器) SD1	口径 11.2 器高 7.5	半球形の体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、下位ヘラ削り、内面ヘラナデ後ナデ。	淡灰褐色	6.5～5.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
79 四六	高杯 (土師器) SD1	口径 19.7 器高 13.2 底径 12.6	やや平坦な杯底部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ短く伸びる中空の柱状部から屈曲し、外下方へ内湾気味に大きく開く裾部に至る。裾部中位に四方孔を有する。 杯部外面ヨコナデ、ハケナデ後ヘラミガキ、杯底部外面ナデ、内面ヘラミガキ、柱状部ヘラ削り後ヘラミガキ、裾部外面ハケナデ、内面くりぬき・ハケナデ。	外 淡灰茶色 内 淡茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	黒斑有。
80 SD1	同上	底径 15.0	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる中空の柱状部から屈曲し、外上方へ外反気味に大きく開く裾部に至る。端部は丸い。裾部上位に三方孔を有する。 外面ヘラナデ、内面しぼり目、裾部内面摩滅の為不明。	淡赤茶色	5.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	黒斑有。
81 SD2	甕 (土師器)	口径 12.6	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は丸い。頸部内面に接合痕1本を有する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡褐色	微砂粒を少量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量(cm) 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
82	甕 (土師器) SD2	□ 径14.3	□縁部は斜上方へ伸び、端部は鈍く尖る。体部は欠損。 □縁部内外面ヨコナデ。	淡灰茶色	微砂粒を少量含む。	やや良	
83	同上 SD2	□ 径15.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる□縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部内面上位に接合痕2本を有する。体部中位以下は欠損。 □縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ナデ。	暗褐灰色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
84	同上 SD2	□ 径16.0	□縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 □縁部内外面ヨコナデ、体部内外面摩滅の為不明。	茶褐色	4mm以下の砂粒を少量含む。	良	
85	同上 SD2	□ 径19.0	□縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 □縁部内外面ヨコナデ、体部内外面摩滅の為不明。	茶褐色	4mm以下の砂粒を少量含む。	良	
86	同上 SD2	□ 径16.1	□縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 □縁部外面ナデ、内面ハケナデ(5本)、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	淡灰褐色	微砂粒を少量含む。	良	煤付着。 黒斑有。
87 四六	鉢 (土師器) SD2	□ 径13.8 器高 7.8 底径 3.4	半球形に近い体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる□縁部に至る。端部は丸い。底部は突出気味の平底。 □縁部内外面ヨコナデ、体部外面指ナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ、底部内外面ナデ。	茶灰色	4.5mm以下の砂粒を少量含む。	良	
88	壺 (土師器) 包含層	□ 径18.4	□縁部は水平方向へ伸び、端部は上下に肥厚し、外に面をもつ。外端面に二本の波状文・円形浮文(2個残存)。 □縁部内外面ヨコナデ。	淡灰茶色	0.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
89	甕 (土師器) 包含層	□ 径13.6	球形と思われる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる□縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 □縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ・一部指頭痕。	淡灰茶色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
90	同上 包含層	□ 径13.8	□縁部は上外方へ伸び、端部は鈍く尖る。体部は欠損。 □縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩滅の為不明。内面ナデ。	淡茶黄色	6mm以下の砂粒を少量含む。	良	
91	同上 包含層	□ 径14.4	□縁部は外上方へ伸び、端部は若干上につまむ。体部は欠損。 □縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(7本)後ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)、内面ヘラ削り。	暗褐色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良	
92	同上 包含層	□ 径14.8	□縁部は斜上方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 □縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)、内面ヘラ削り。	暗灰黄色	微砂粒を少量含む。	良	煤付着。
93	同上 包含層	□ 径15.8	□縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 □縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
94	同上 包含層	□ 径16.0	□縁部は外上方へ伸び、端部は若干上につまむ。体部は欠損。 □縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(7本)後ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	暗褐灰色	微砂粒を少量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量（cm） 口径 器高 底径	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
95	壺 （上師器） 包含層	口　径 16.4	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は若干上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	乳灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
96	同上 包含層	口　径 17.4	口縁部は上外方へ伸び、端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	外　灰褐色 内　暗灰褐色	細砂粒を少量含む。	良	
97	同上 包含層	口　径 17.0	口縁部は斜上方へ伸び、端部は若干上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（6本）、内面ヘラ削り。	黒褐色	微砂粒を少量含む。	良	
98	同上 包含層	口　径 17.7	口縁部は斜上方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ（5本）後ヨコナデ、体部外面タタキ後ハケナデ（9本）、内面ヘラ削り。	灰褐色	2.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
99	同上 包含層	口　径 18.4	口縁部は斜上方へ伸び、端部はつまみ上げ、外に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（6本）後ハケナデ（10本）、内面ヘラ削り。	暗褐灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
100	同上 包含層	口　径 18.6	口縁部は外上方へ外反気味に伸び、端部は上につまむ。頸部外面に接合痕1本を有する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外　淡灰褐色 内　淡茶灰色	微砂粒を少量含む。	良	
101	同上 包含層	口　径 18.6	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は若干上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
102 図六	鉢 （土師器） 包含層	口　径 12.6 器　高 8.1 底　径 4.3	半球形の杯体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部外面に接合痕4本を有する。底部は突出する高み底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラナデ。	淡茶色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良	完形。 煤付着。
103	同上 包含層	口　径 27.6	口縁部は上外方へ内湾して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	灰褐色	細砂粒を少量含む。	良	黒斑有。
104	同上 包含層	口　径 11.1	浅い半球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	外　淡灰茶色 内　淡茶灰色	微砂粒を少量含む。	良	
105	同上 包含層	口　径 10.5	半球形と思われる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外　淡灰茶色 内　淡茶灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
106	有孔鉢 （土師器） 包含層）	底　径 4.0	体部は欠損。底部は突出する平底で、穿孔を有する。 体部外面指ナデ、内面ナデ、底部外面ナデ。	淡褐色	4.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
107	同上 包含層	底　径 3.4	体部は欠損。底部は突出する平底で、穿孔を有する。 体部外面タタキ（4本）、底部内外面ナデ。	外　淡茶灰色 内　淡灰茶色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量(cm) 器高 口径	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
108	製塩土器 包含層	脚台径 4.0	体部は欠損。底部は下外方へ開く脚台をもつ。端部は鈍く尖る。 底部内外面ナデ。	茶灰色	微砂粒を少量含む。	良	
109	杯蓋 (須恵器) 包含層	口 径 14.0	平坦と思われる天井部から外下方へ伸びた後下外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。天井部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	細砂粒を少量含む。	良	ロクロ左方向。
110 四六	壺 (須恵器) 包含層	口 径 6.4 器 高 6.7	偏平なそろばん形の体部から屈曲し、直上へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 内外面回転ナデ。底部外面不定方向のヘラ削り。	淡灰青色	3.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。 煤付着。 ロクロ右方向。
111 四六	壺 (土師器) 包含層	口 径 9.6 器 高 1.5	浅い平坦な底体部から屈曲し、外上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部内外面ナデ。	乳褐色	微砂粒を少量含む。	良好	完形。

第4章　東郷遺跡の調査成果

今回の調査報告は、昭和57年度から実施した東郷遺跡に於ける第11次～第19次調査（第17次調査は報告済）である。これらの調査地は八尾市教育委員会が実施した既往調査（第1次～第10次調査）と同様に当遺跡推定範囲内の中央部（八尾市北本町2丁目・光町1丁目）と東部（同市桜ケ丘3丁目）に概ね大別され、それぞれ近接している。中央部の調査地は第11次・第12次・第15次～第19次調査の7箇所、東部の調査地は第13次調査地の1箇所である。

これらの調査成果は本文に詳しく述べているが、既往調査で検出された弥生時代中期～鎌倉時代にかけての遺構・遺物と同様に今回の調査地に於いても遺構・遺物が検出されている。特に古墳時代前期（庄内期～布留期）の集落に伴う遺構・遺物が多く検出された。また第17次調査では方形周溝墓1基の発見で、集落の北方には墓域が存在することが確認された。その後、第20次調査に於いては方形周溝墓7基・土坑墓1基の検出で、集落の南方にも墓域が存在することが確認されるなどの新たな資料が得られた。なお、この報告を作成（昭和63年度）までには八尾市教育委員会及び当調査研究会が当遺跡内で第26次調査まで実施されている。

以下、既往調査の成果を踏まえ、各調査地で得られた結果と総合して、当遺跡での各時期ごとに要約しながら述べて行きたい。

弥生時代中期

この時代の遺構は既往第10次調査地で検出された自然河川で、この河川底付近から畿内第Ⅲ様式と畿内第Ⅳ様式に比定される土器が出土されている。今回の調査地では第11次・第14次・第15次調査地で検出されている。しかし、遺構が検出されたのは第15次調査地の土坑だけである。土坑（SK1・SK2）内からは畿内第Ⅳ様式新相に比定される無頸壺・甕が出土している。これらの検出状況や当遺跡の北東部に隣接する黄振B遺跡で弥生時代中期に比定される土器棺や自然河川の堆積土内から土器が出土されていることから、当遺跡の付近に於いて弥生時代中期の集落が営まれていた可能性が考えられ、今後の調査で集落遺構が発見されるであろう。

弥生時代後期

この時代の遺構は、既往調査で畿内第Ⅴ様式の土器が古墳時代の遺構内に含まれているだけで詳細なことは不明であったが、第13次・第24次調査地で検出された。第13次調査地では土坑（SK1）内から畿内第Ⅴ様式に比定される土器が出土された。また、第24次調査地では遺物包含層内から畿内第Ⅴ様式に比定される土器が集積した状態で出土しており、この時期は、当遺跡の東部に居住域が存在するものと考えられる。

古墳時代前期（庄内式古相～布留式古相）

当遺跡内ではこの時期の遺構・遺物が最も多く検出されている。遺構は居住域と墓域が確認されている。この時期はまた、大きく二時期に分けられる。庄内式古相の時期と庄内式新相～布留式古相の時期である。以下、各時期について述べる。

＜庄内式古相＞

集落は当遺跡の中央部から西部に集中している。遺構が検出された調査地は第３次・第５次・第９次、第14次・第17次・第18次・第19次・第21次・第23次調査地である。これらの調査地から竪穴式住居３棟・掘立柱建物２棟・井戸５基・土坑などの居住域と方形周溝墓２基・土器棺墓３基の墓域が検出されている。居住域は第３次・第５次・第９次・第14次・第18次調査地で当遺跡の中央部から西部で検出されている。また、もう一つの居住域が第23次・第26次で当遺跡の南部で検出されている。墓域は第17次・第21次調査地で当遺跡の北部で検出されている。

＜庄内式新相～布留式古相＞

集落は当遺跡の西部から中央部で庄内式古相の時期とほぼ同じ位置であるが少し東側に拡大しているようである。遺構が検出された調査地は第４次・第５次・第７次・第８次・第11次・第14次・第16次調査地である。これらの調査地から竪穴式住居８棟・掘立柱建物10棟などを検出した居住域と、方形周溝墓７基・土坑墓１基の墓域が検出されている。居住域は当遺跡の西部から中央部に位置する第４次・第５次・第８次・第11次・第16次調査地である。墓域はこの居住域の南部に位置する第20次調査地で検出されている。

この時期の集落構成は、現在のところ第８次・第11次調査を中心として、東西部は第25次調査地から第７次調査地までの約580ｍ。南北部は第10次調査で検出した低地の北縁沿いから第17次調査地のまで約100ｍ弱の範囲であると思われ、東西に細長い集落構成であることが推測できる。そして、その集落の縁辺に位置する地域に、第17次調査の北部と第20次調査の南部に墓域を構成していたことが確認された。当初は当遺跡が集落地域で南部に隣接する成法寺遺跡が墓域であると考えられていたが、これらの発見により集落の近接の周囲に墓域を築造していたことが究明でき、成法寺遺跡の墓域は別の集落のものであろう。

当遺跡の集落を構成している住居は、竪穴式住居と掘立柱建物で構成されているが、ほとんどは平面方形を呈する竪穴式住居であった。第８次調査のＳＩ１が特殊な住居と考えられ、床面に砂利を敷き摘めていた。また、第11次調査のＳＩ６の住居には側壁溝が非常に大きいのが特徴である。

古墳時代前期の集落は出現から消滅までの継続期間は、各次調査地の調査で出土した遺物から判断すれば、庄内式古相～布留式古相に渡るものと推測されるが、遺構の時期では、当遺跡の中央部から西側には庄内式新相～布留式古相の時期の住居が集中し、西側には庄内式古相～

庄内式新相に比定される住居が集中しており、集落が東側へ少し移動しているようである。

古墳時代中期

この時期は当遺跡の東部で検出している。遺構が検出された調査地は、第1次・第2次・第13次・第21次・第24次調査地である。

古墳時代後期

この時期は中期どほぼ同じ当遺跡範囲内の東部で検出している。遺構が検出された調査地は第1次・第6次・第7次・第13次調査地である。遺構は土坑・小穴・溝等が検出されているが。この時期の遺構は鎌倉時代の開墾等の開発によって整地され、この時期の遺構が削平・破壊を受けている。

奈良時代

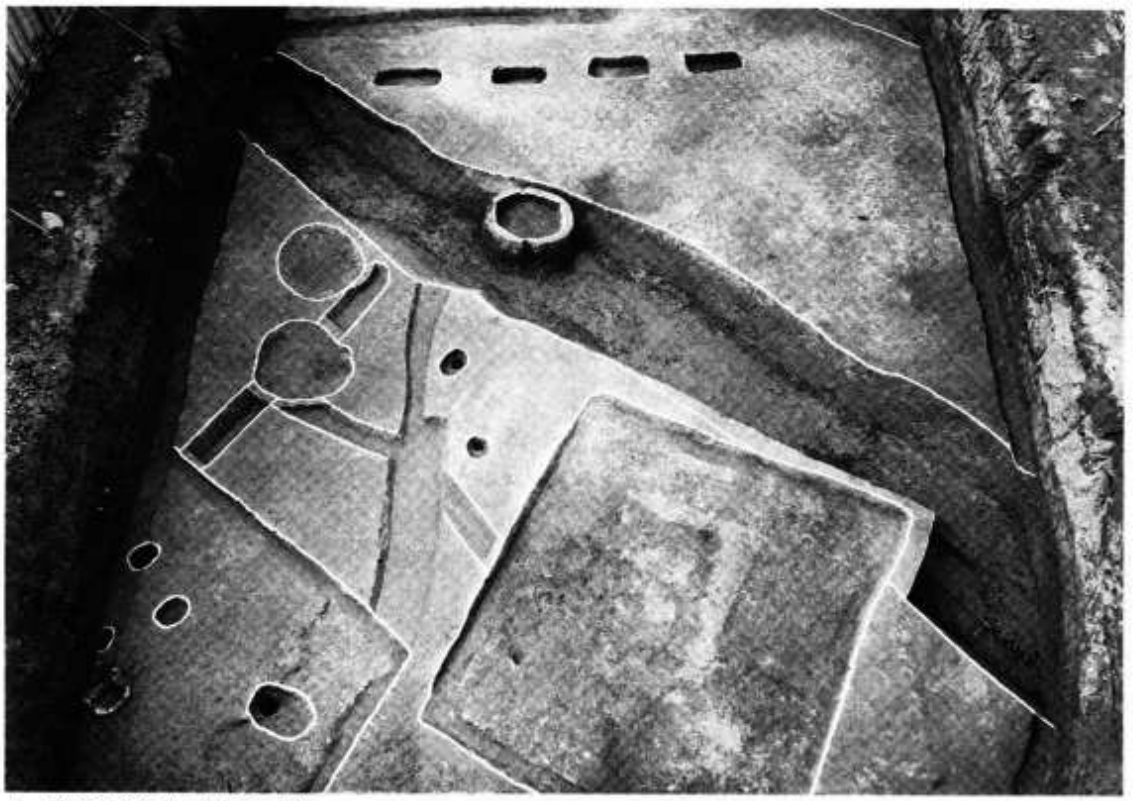
この時代は当遺跡の発見の契機で、東本町2丁目に所在する光明寺裏付近の水道管埋設工事の際に墨書人面土器を出土している。しかし、現在（昭和63年度）までの調査では鎌倉時代の土層内から若干の遺物が出土されているが、遺構が検出されていない。

平安時代～鎌倉時代

平安時代は当遺跡の東部の既往第1次調査で建物の柱穴と思われる小穴・井戸側を備えた井戸（SE1）が検出されている。また、第1次・第2次・第6次・第7次調査では整地されたと思われる土層が確認されている。当遺跡の中央部では平安時代後期～鎌倉時代初頭比定される水田が既往第3次・第4次調査と第12次・第13次・第15次調査で検出している。水田の上面には畦畔・足跡・溝等が検出されている。既往第5次・第8次・第9次・第10次調査と第11次・第14次・第16次調査で後世によって削平された水田が確認されている。また、第12次・第14次調査では素掘り井戸が検出されている。

以上東郷遺跡の調査で得られた調査成果である。

東郷遺跡周辺（空から）



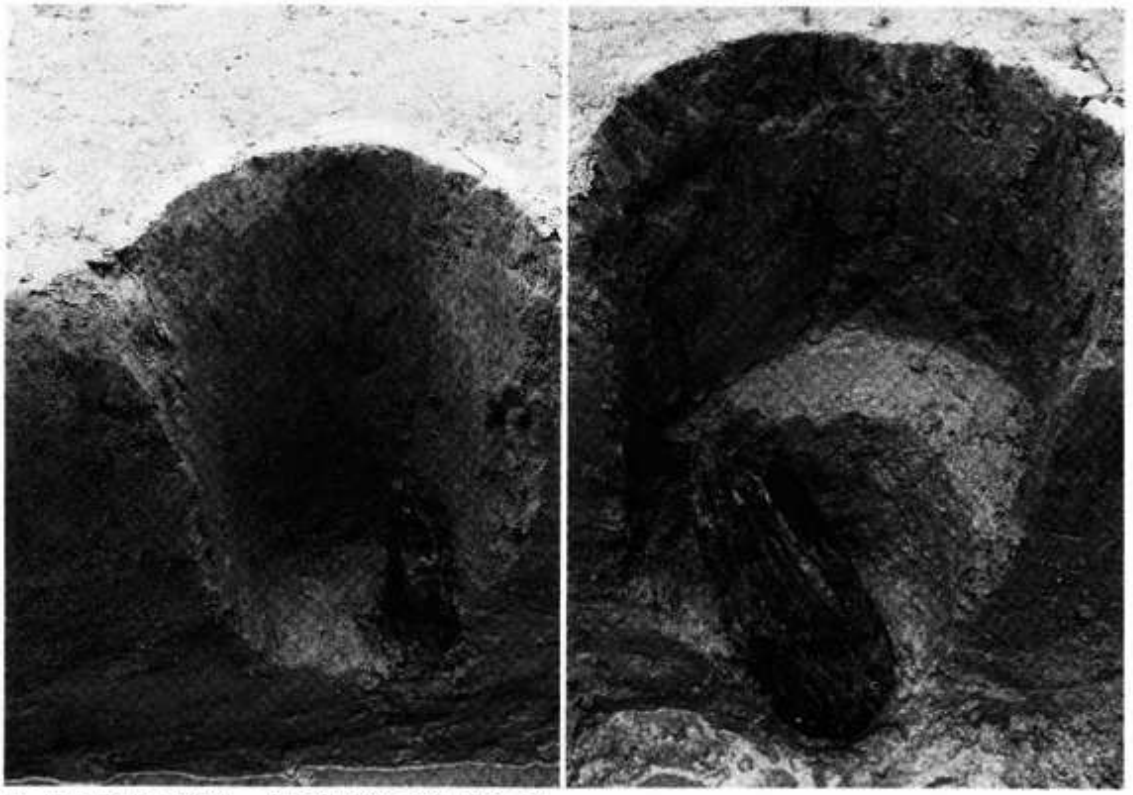
1　第1調査区全景（南から）

2　第2調査区全景（北から）

1　ＳＩ１（北から）

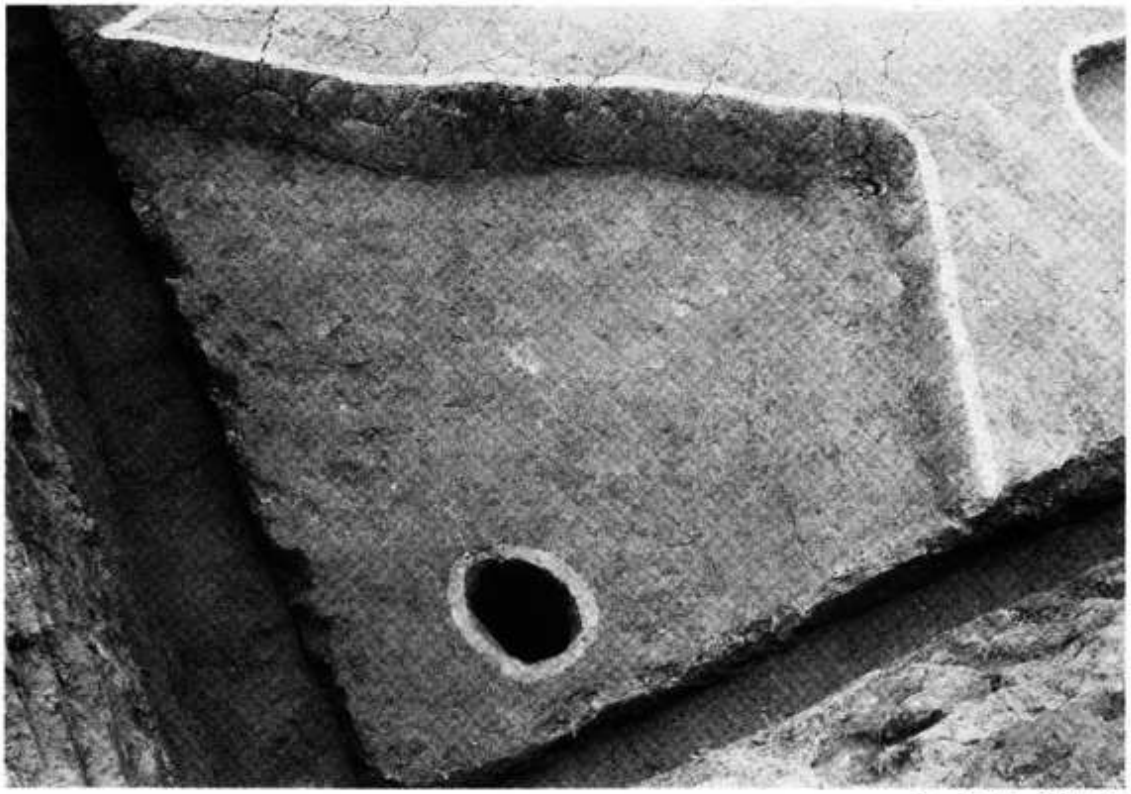
2　ＳＩ２（北から）

1　ＳＩ３（北から）



2　ＳＩ３ＳＰ19（右）・ＳＰ21（左）柱根（南から）

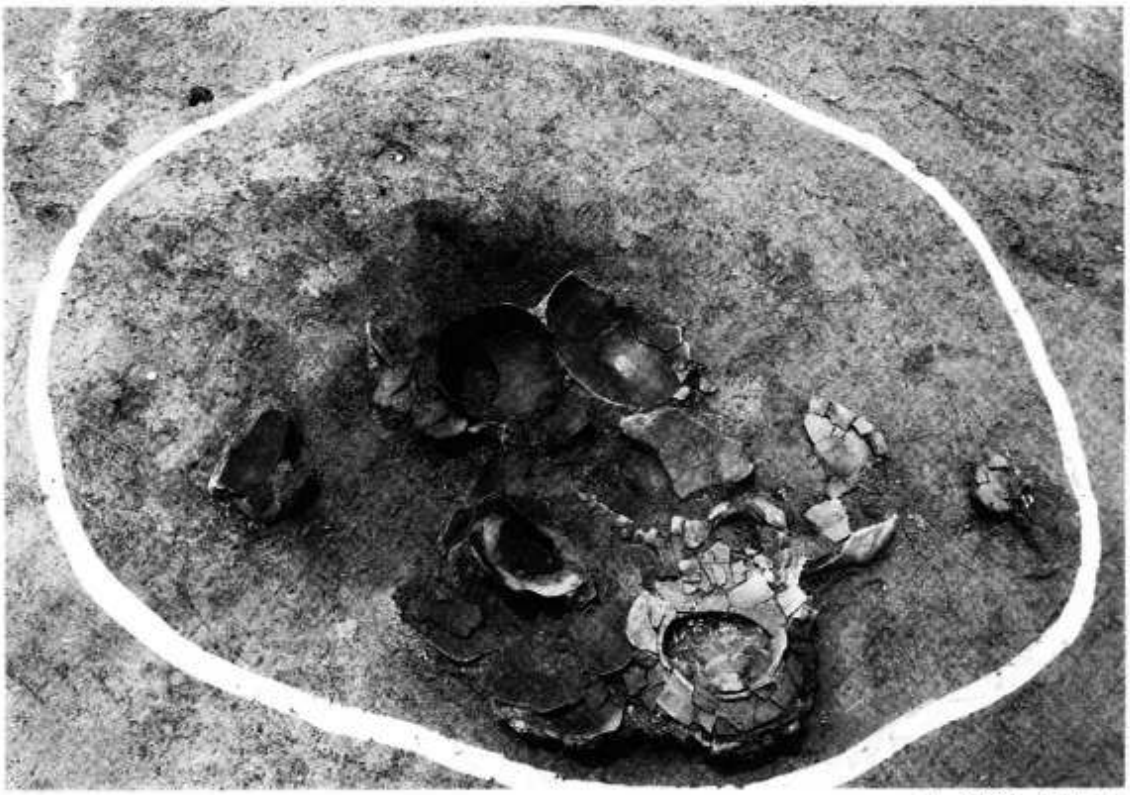
1　S I 4（北西から）



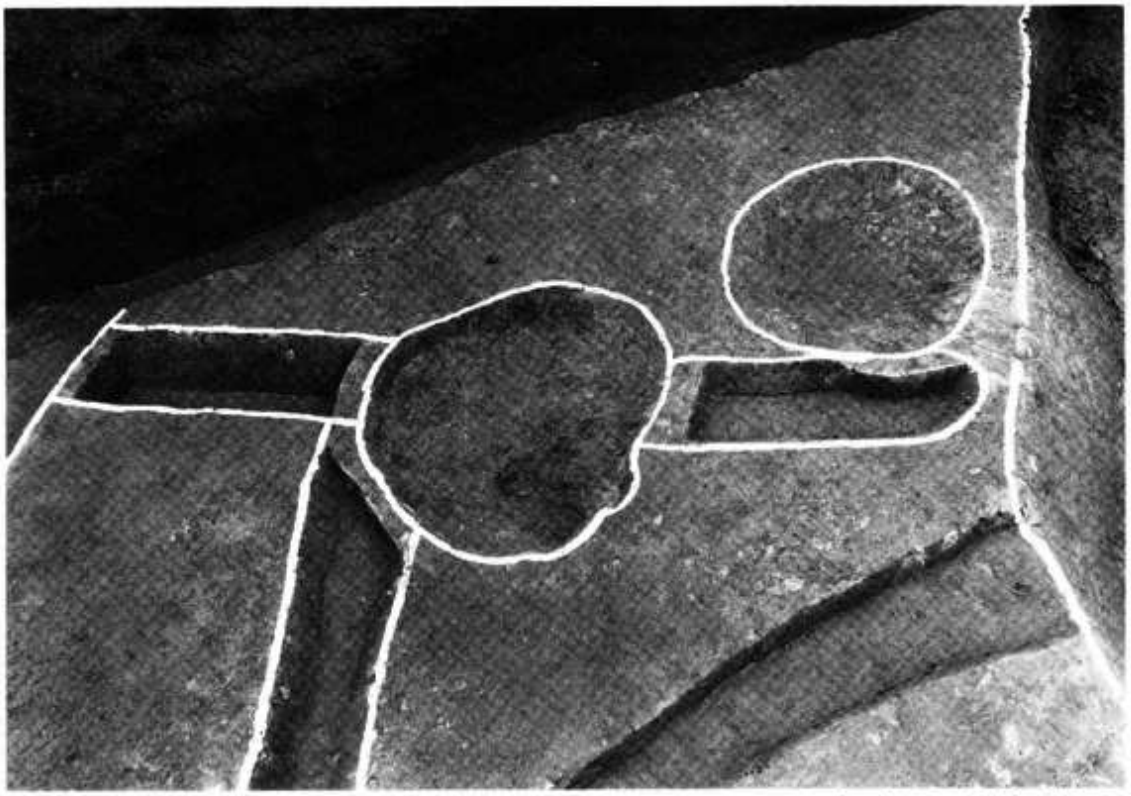
2　S I 5（南から）

1　SI6（南から）

2　SE1（東から）

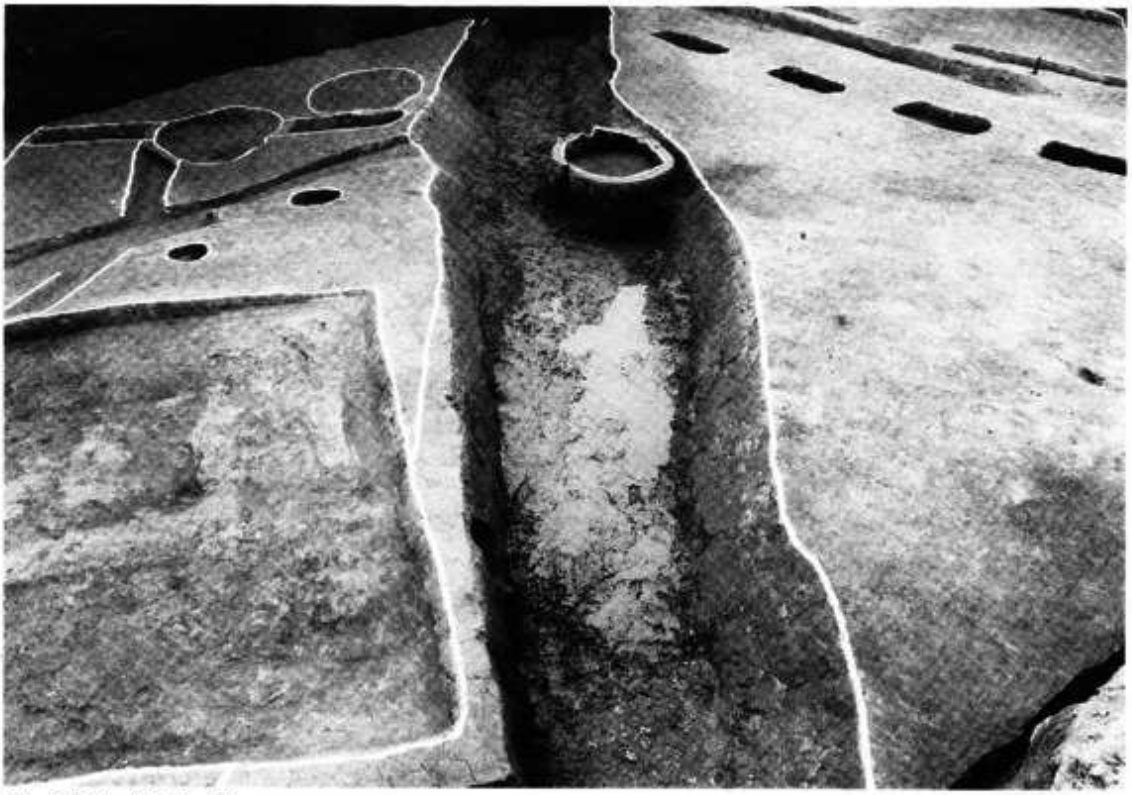


1　SK1（北から）

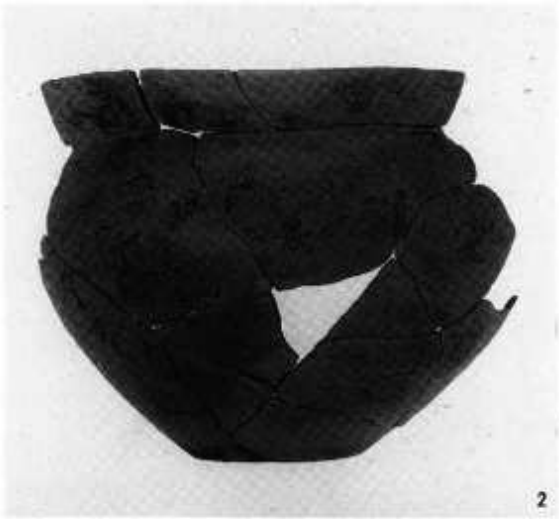


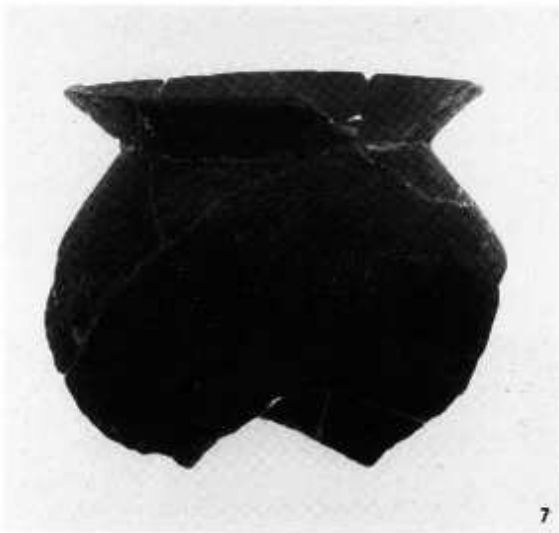
2　SK1　SK2（東から）

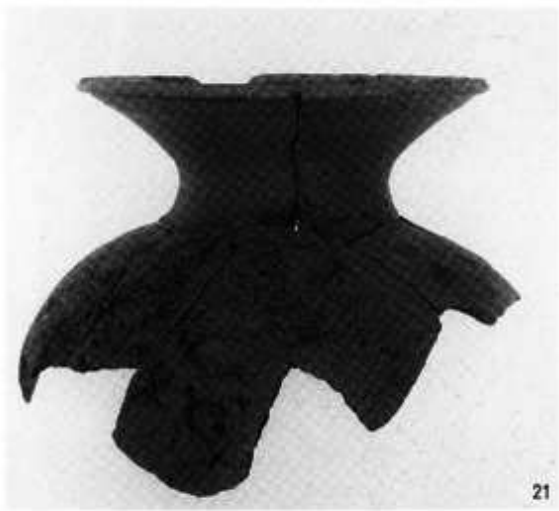
1　SD1（南東から）

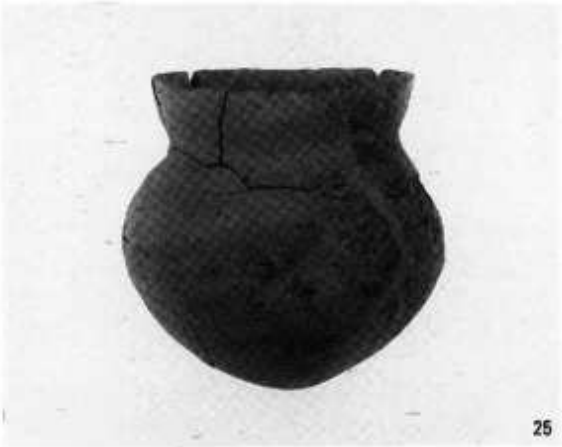


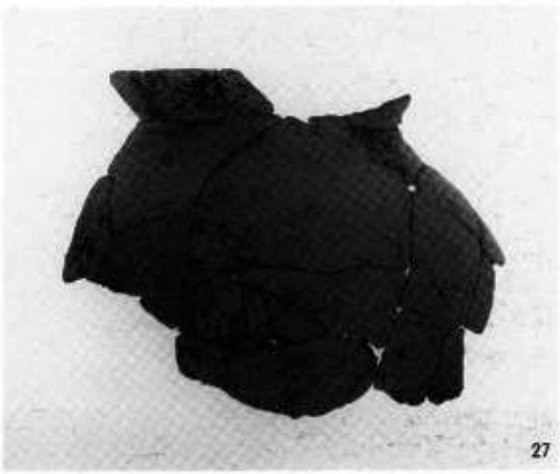
2　SD2（南東から）


2


7

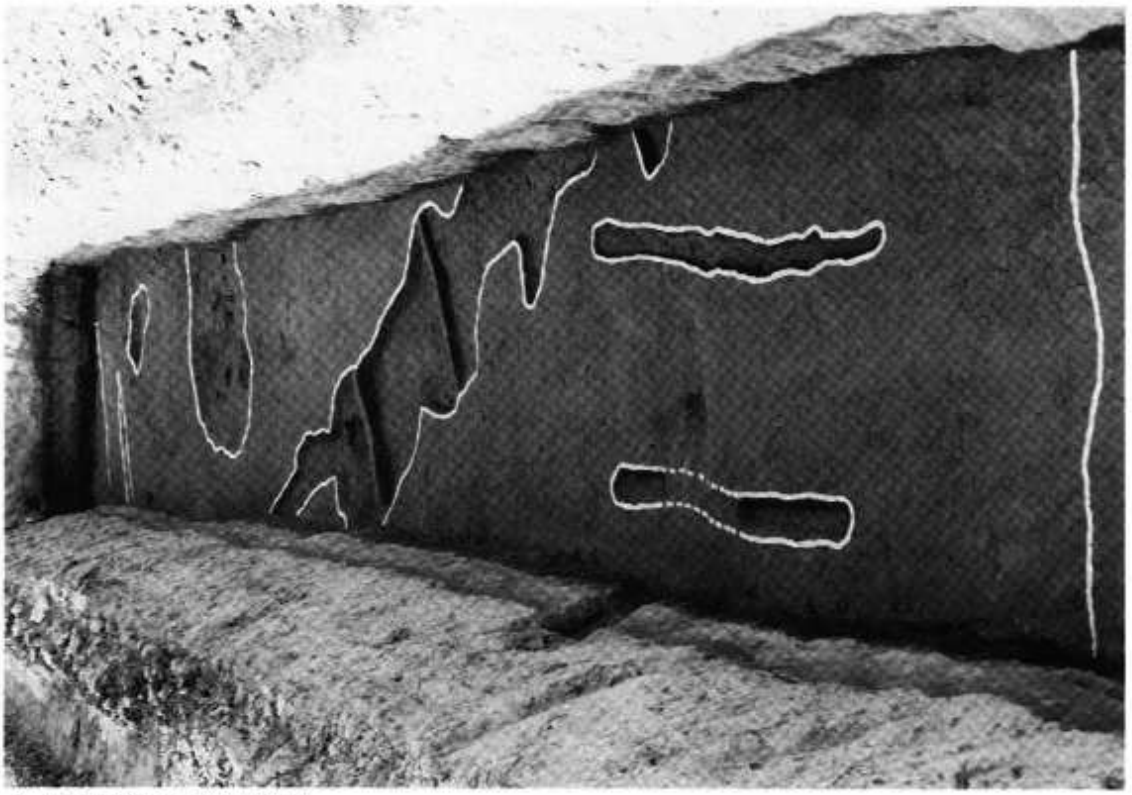

21


25

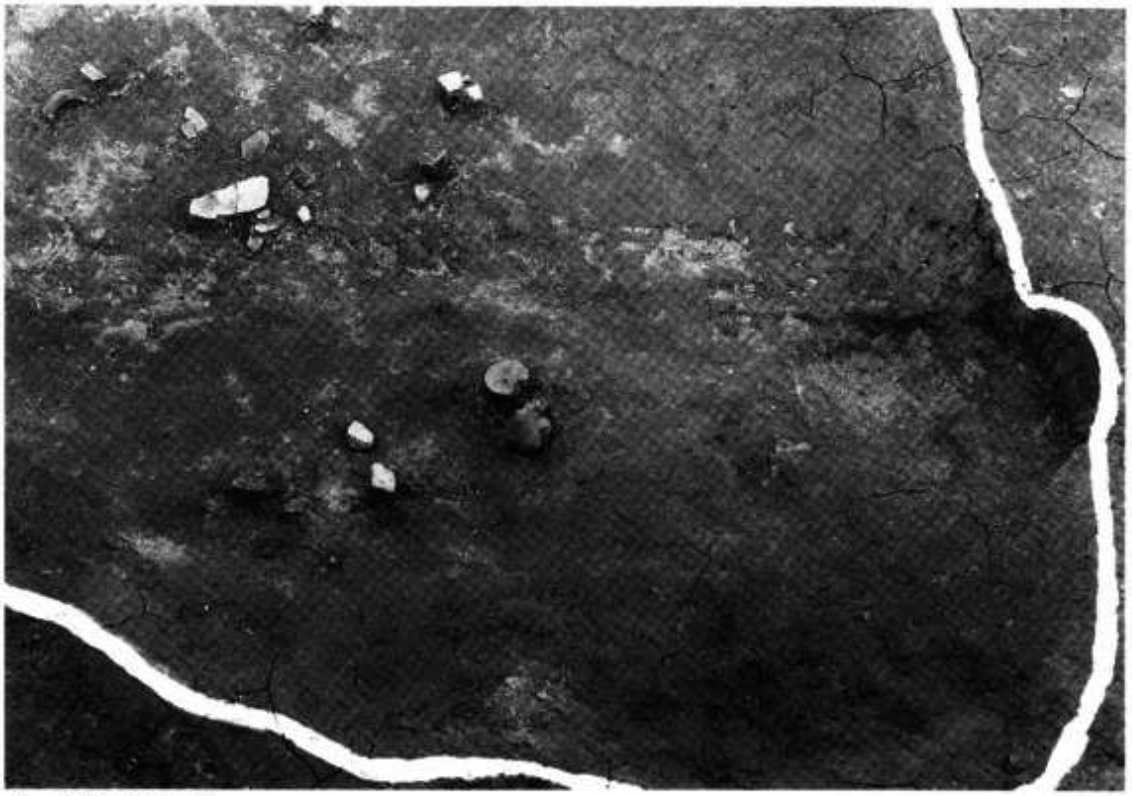

27

33

SI2　2　SK1　7　SD2　21・25・27・33



1　第1調査面全景（南から）

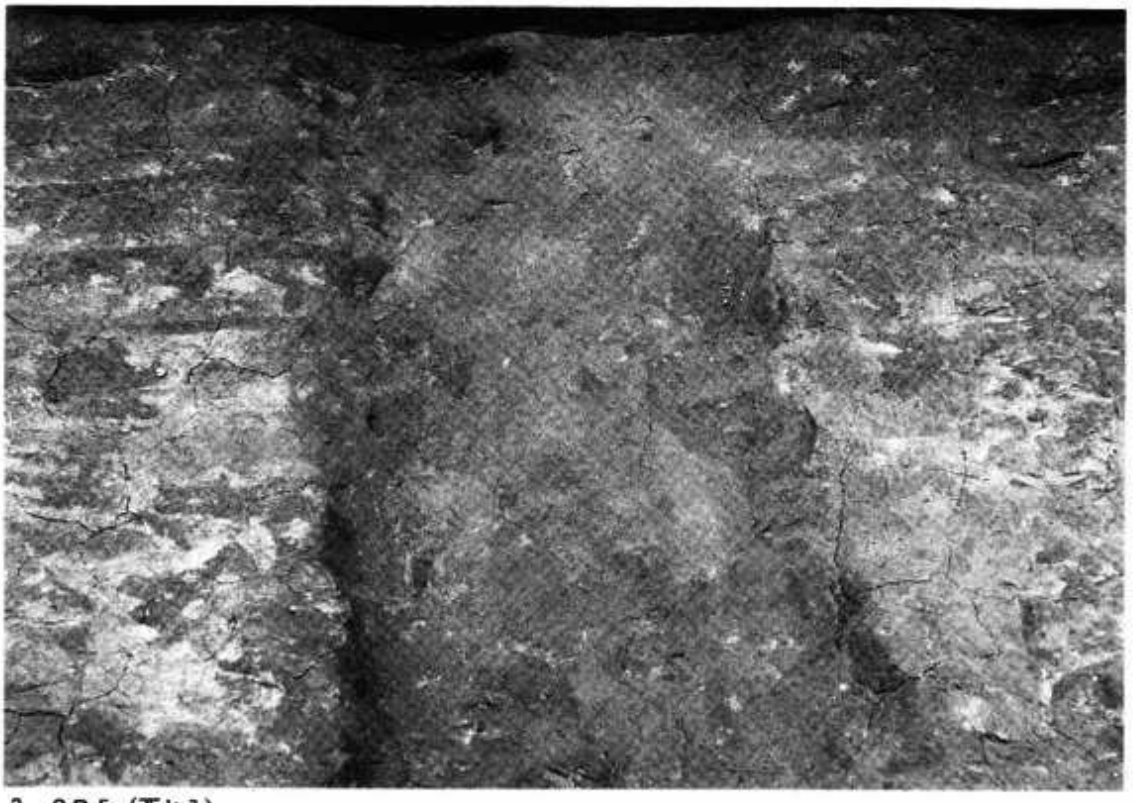


2　SK3（西から）

1　SD2（北から）

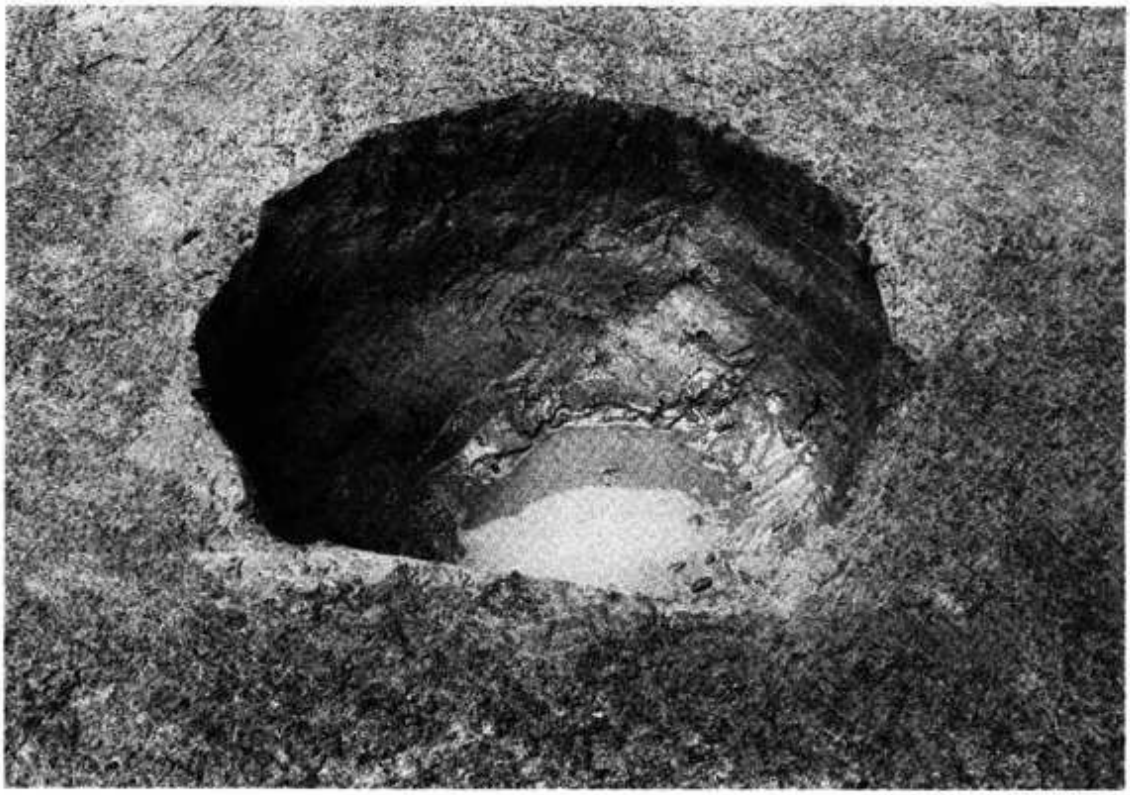
2　SD2（西から）

1　第２調査面全景（南から）



2　ＳＤ５（西から）

1　SE1（北から）



2　SE1完掘（北から）

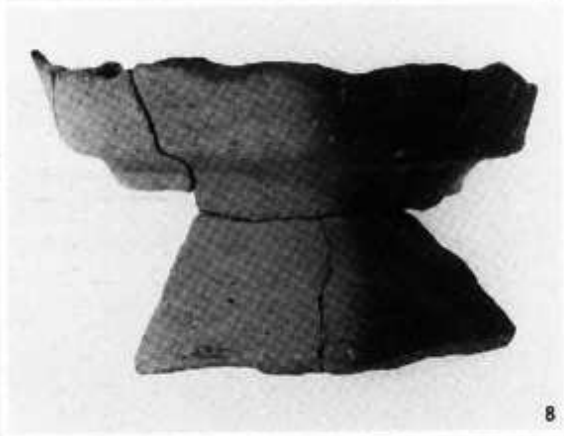
図版一四　第12次調査地

3

5

4

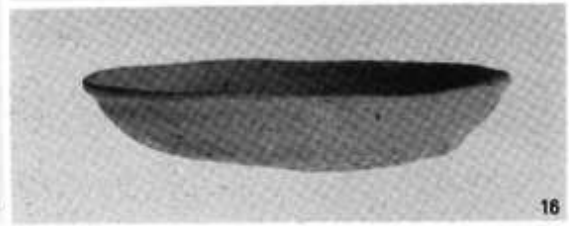
6


8

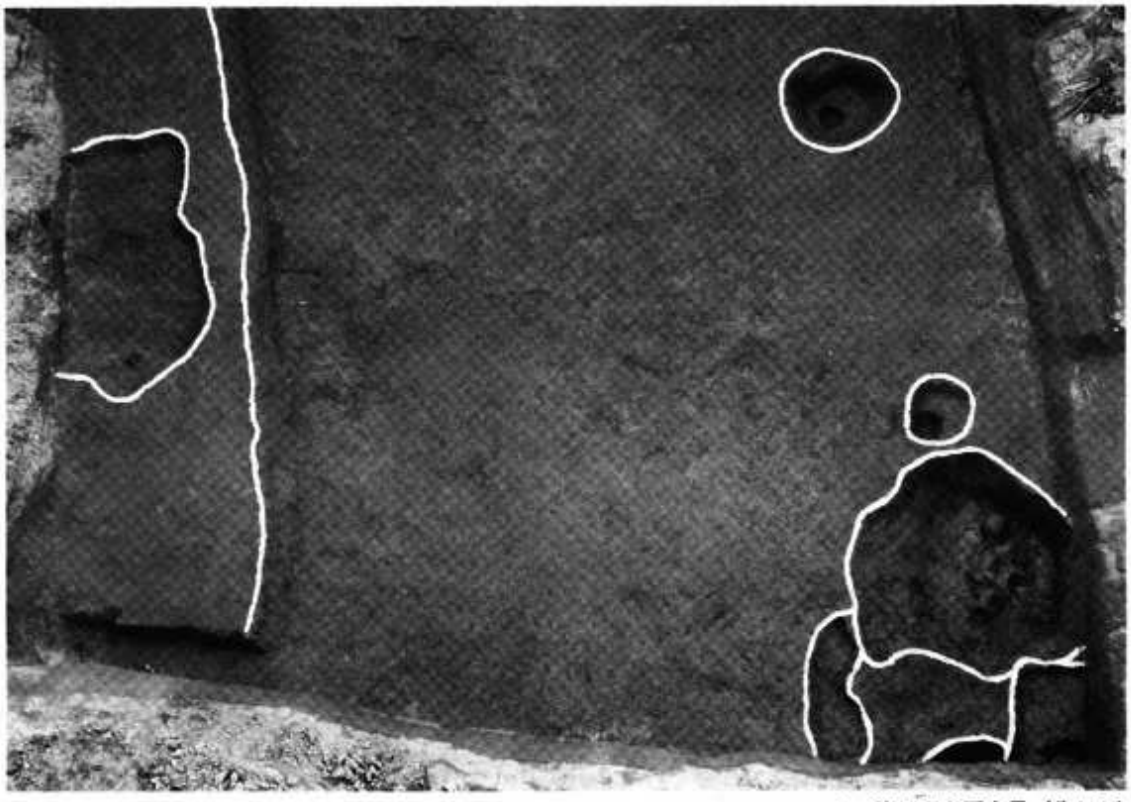
7

13

17


16

SK3　3・4　SK4　5・6
包含層7・8　SE1　13・16・17



1　第1調査区全景（北から）

2　第2調査区全景（北から）